

**第七條ノ二** 巴拿馬運河噸數證書交付規則第六條ノ二ノ規定ニ依リ噸數證書ヲ查閱シタルトキハ管海官廳ハ遲滯ナク變更ニ係ル事項ヲ遞信省ニ報告スヘシ

**第八條** 巴拿馬運河噸數證書交付規則第四條ノ規定ニ依ル改測ノ申請ヲ受ケタルトキ又ハ同規則第五條第二項ノ規定ニ依ル噸數證書ノ再交付ノ申請ヲ受ケタルトキハ管海官廳ハ當該船舶ノ測度明細書寫ノ送付ヲ遞信省ニ請求スルコトヲ得

**蘇士運河噸數證書交付規則**

(大正四年九月  
遞信省令第三十九號)  
改正 昭和七年四月  
省令第十四號

**第一條** 日本船舶ノ所有者ニシテ蘇士運河會社ノ通航規則ニ依ル船舶ノ測度及噸數證書ノ交付ヲ受ケムトスル者ハ附録書式ノ申請書ヲ管海官廳ニ差出スヘシ

**第二條** 前條ノ申請ヲ爲ス者ハ測度ヲ受クルニ必要ナル準備ヲ爲スヘシ

製シ之ヲ申請者ニ交付スヘシ

**第六條** 噸數證書カ不用トナリタルトキハ船舶所有者ハ遲滯ナク之ヲ管海官廳ニ返還スヘシ

噸數證書カ滅失シタルトキハ船舶所有者ハ遲滯ナク其ノ旨ヲ管海官廳ニ届出ツヘシ但シ前條第二項ノ場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

**第七條** 噸數證書ニ記載シタル事項カ蘇士運河會社ニ依リ變更セラレタルトキハ船舶所有者ハ當該船舶カ歸航シタル後遲滯ナク其ノ旨ヲ管海官廳ニ届出ツヘシ此ノ場合ニ於テハ届出ト同時ニ噸數證書ヲ管海官廳ニ差出スヘシ

**第八條** 船舶ノ測度又ハ改測ヲ受ケタルトキハ船舶所有者ハ當該管海官廳ノ指定スル所ニ從ヒ附録測度手数料表ニ定ムル手数料ヲ納付スヘシ

申請人ノ都合ニ依リ測度ノ申請ヲ取下ケタル場合ト雖測度著手後ナルトキハ測度手数料ヲ徴收ス改測ノ場合ニ付亦同シ

蘇士運河噸數證書交付規則

**第三條** 管海官廳ハ第一條ノ申請ヲ受ケタトキハ蘇士運河會社ノ通航規則ニ依リ船舶ノ測度ヲ行ヒ噸數證書ヲ調製シ之ヲ申請者ニ交付スヘシ

前項ノ場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ管海官廳ハ當該船舶ノ船體中心線縱截面圖及各甲板平面圖ヲ申請者ヨリ差出サシムルコトヲ得

**第四條** 噸數證書ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタル爲改測及證書ノ書換ヲ要スルモノト認ムルトキハ船舶所有者ハ附録書式ノ申請書ニ現ニ有スル證書ヲ添附シ之ヲ管海官廳ニ差出スヘシ

第二條第三條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

**第五條** 噸數證書ニ記載シタル事項中改測ニ關係ナキモノニ變更ヲ生シタルトキ又ハ噸數證書ヲ毀損シタルトキハ船舶所有者ハ其ノ事由ヲ記載シタル書換ノ申請書ニ現ニ有スル證書ヲ添附シ之ヲ管海官廳ニ差出スヘシ

噸數證書ノ滅失ニ因リ其ノ再交付ヲ申請セムトスルトキハ船舶所有者ハ其ノ事由ヲ記載シタル申請書ヲ管海官廳ニ差出スヘシ

管海官廳ハ前二項ノ申請ヲ受ケタルトキハ噸數證書ヲ調

**第九條** 噸數證書ノ交付書換又ハ再交付ヲ受ケタルトキハ船舶所有者ハ證書一通ニ付四圓ノ手数料ヲ納付スヘシ

**第十條** 前二條ノ手数料ハ其ノ金額ニ相當スル收入印紙ヲ手数料納付書ニ貼用シテ之ヲ納付スヘシ

手数料納付書ニ貼用シタル收入印紙ハ管海官廳ニ於テ消印ヲ爲スヘキモノトス但シ納付者ニ於テ自己ノ便宜上消印ヲ爲スハ妨ナシ

**第十一條** 本令ニ依ル事務ヲ行フ管海官廳及測度執行地ハ別ニ之ヲ定ム

**第十二條** 本令ハ朝鮮、臺灣又ハ關東州ニ船籍港ヲ定ムル船舶及外國船舶ニ之ヲ準用ス

附 則 本令ハ大正四年十月二十五日ヨリ之ヲ施行ス

附 則 (大正十年三月省令第八號)

本令ハ大正十年三月十五日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前測度又ハ改測ヲ申請シタル船舶ニ付テハ仍以前ノ例ニ依ル







部改測ノ區別、測度手數料及證書ノ手數料ヲ記載シ又一部改測ノ場合ニシテ測度甲板下部ノ改測ヲ受ケタルトキハ尙其ノ旨ヲ附記シタル手數料收入報告書ヲ謄本ニ添付スヘシ

**第五條** 管海官廳ニ於テ蘇士運河噸數證書交付規則第五條ノ規定ニ依リ噸數證書ヲ交付シタルトキハ遲滯ナク左ノ事項ヲ遞信省ニ報告スヘシ

- 一 船舶ノ番號及名稱
- 二 證書ノ日附
- 三 變更ニ係ル事項
- 四 證書ノ手數料

**第六條** 蘇士運河噸數證書交付規則第六條ノ規定ニ依リ噸數證書ノ返還ヲ受ケタルトキ又ハ噸數證書ノ滅失ノ届出ヲ受ケタルトキハ管海官廳ハ遲滯ナク其ノ旨ヲ遞信省ニ報告スヘシ

**第七條** 蘇士運河噸數證書交付規則第七條ノ規定ニ依リ噸數證書ヲ査閲シタルトキハ管海官廳ハ遲滯ナク變更ニ依ル事項ヲ遞信省ニ報告スヘシ

**第八條** 蘇士運河噸數證書交付規則第四條ノ規定ニ依ル改測ノ申請ヲ受ケタルトキ又ハ同規則第五條第二項ノ規定

前項ニ於テ長ト稱スルハ甲板ヲ備フル船舶ニ在リテハ上甲板梁上ニ於テ、甲板ヲ備ヘサル船舶ニ在リテハ舷側外板ノ上面ニ於テ船首材ノ前面ヨリ船尾材ノ後面ニ至ル水平距離ヲ謂フ

**第一條ノ二** 長、幅、梁、高及厚ヲ測定スルニハメートルヲ以テ單位トシ單位下ハ之ヲ二位ニ止メ第三位ハ之ヲ四捨五入スヘシ

分長點又ハ分深點ノ間隔及其ノ三分ノ一竝ニ面積、容積及積量ヲ算定スルニハ單位下ハ之ヲ三位ニ止メ第四位ハ之ヲ四捨五入スヘシ但シ總噸數及純噸數ヲ算定スルニハ單位下ハ之ヲ二位ニ止メ第三位ハ之ヲ四捨五入スヘシ

**第二條** 測度甲板ノ長ト稱スルハ左ノ各號ニ掲クルモノヲ謂フ

- 一 甲板ヲ備フル船舶ニ在リテハ中心線ニ於テ測度甲板上面ニ沿ヒ船首内張板ノ内面ヨリ船尾内張板ノ内面ニ至ル距離ヲ測リ之ヨリ船内ニ於テハ甲板ノ厚ニ從ヒ船首材ノ傾斜ニ對スル甲板ノ長ヲ減シ、船尾ニ於テハ甲板ノ厚ニ終尾船梁ノ梁矢ノ三分ノ一ヲ加ヘタルモノニ從ヒ船尾肋骨ノ傾斜ニ對スル甲板ノ長ヲ減シタルモノ

朝鮮船舶積量測度令・朝鮮船舶積量測度規程

ニ依ル噸數證書ノ再交付ノ申請ヲ受ケタルトキハ管海官廳ハ當該船舶ノ測度明細書寫ノ送付ヲ遞信省ニ請求スルコトヲ得

朝鮮船舶積量測度令

(大正三年四月 制令第十四號)

船舶ノ積量ノ測度並積量ノ改測ノ場合ニ於ケル登録稅及登記ニ關シテハ船舶積量測度法ニ依ル但シ同法中主務大臣トアルハ朝鮮總督トス

附 則  
本令ハ大正三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

朝鮮船舶積量測度規程

(大正三年九月 朝鮮總督府令第三百三十九號)

改正 昭和十一年十二月 第三百二十七號

第一章 總 則

**第一條** 長二十メートル以上ノ船舶ノ積量ノ測度ニ關シテハ本令ノ定ムル所ニ依ル

二 甲板ヲ備ヘサル船舶ニ在リテハ舷側外板ノ上面ニ於テ中心線ニテ船首内張板ノ内面ヨリ船尾内張板ノ内面ニ至ル距離

**第三條** 分長點ト稱スルハ測度甲板ノ長ヲ左表ニ依リ等分シタル點及首尾兩端ノ點ヲ謂フ

測 度 甲 板 ノ 長	等分數
三十七メートル以下	六
三十七メートル超エ	八
五十五メートル以下	十
五十五メートル超エ	十二
六十九メートル以下	
六十九メートル超ユルモノ	

**第四條** 分長點ノ深ト稱スルハ左ノ各號ニ掲クルモノヲ謂フ

- 一 甲板ヲ備フル船舶ニ在リテハ中心線ニ於テ測度甲板ノ下面ヨリ二重底内底板、肋板又ハ肋根材ノ上面迄ノ深ヲ測リ之ヨリ船底内張板ノ平均ノ厚及梁矢ノ三分ノ一ヲ減シタルモノ
- 二 前號ノ船舶ノ二重底内底板カ凸面ナルトキハ中心線ニ於テ測度甲板ノ下面ヨリ内底板迄ト緣板ノ上面迄



トノ平均ノ深ヲ測リ之ヨリ船底内張板ノ平均ノ厚及  
梁矢ノ三分ノ一ヲ減シタルモノ

三 甲板ヲ備ヘサル船舶ニ在リテハ舷側外板ノ上面ヨリ  
肋板又ハ肋根材ノ上面迄ノ深ヲ測リ之ヨリ船底内張  
板ノ平均ノ厚ヲ減シタルモノ

第五條 分深點ト稱スルハ測度甲板ノ長ノ中央ニ於ケル分  
長點ノ深ニ應シ左表ニ依リ各分長點ノ深ヲ等分シタル點  
及上下兩端ノ點ヲ謂フ

測度甲板ノ長ノ中央 ニ於ケル分長點ノ深	等分數	
	二重底内底板カ 四面ナルトキ	其ノ他ノ場合
五メートル以下	五	四
五メートルヲ 超ユルモノ	七	六

副分深點ト稱スルハ二重底内底板カ四面ナル場合ニ於テ  
最下ノ分深點間隔ヲ四等分シタル點ヲ謂フ

第六條 分深點及副分深點ノ幅ト稱スルハ各點ニ於ケル船  
側内張板ノ内面ヨリ内面ニ至ル水平距離ヲ謂フ

船側内張板ノ厚ニ差異アルトキハ其ノ平均ノ厚ノ所ヲ船  
側内張板ノ内面ト看做ス

第七條 遮浪甲板ト稱スルハ常設閉鎖裝置ヲ備ヘサル甲板

ヲ上端ヨリ數ヘ偶數ニ當ル幅ハ四倍シ上下兩端ヲ除  
キ奇數ニ當ル幅ハ二倍シ其ノ和ニ上下兩端ノ幅ヲ加  
ヘ之ニ分深點間隔ノ三分ノ一ヲ乘スヘシ

二 分長點ノ深ヲ五等分シタルトキハ分深點ヲ上端ヨリ  
數ヘ第五分深點以上ノ部分ニ付テハ前號ノ規定ヲ適  
用シ最下分深點間隔ノ部分ニ付テハ第五分深點及第  
六分深點ノ幅ノ四分ノ一ト幅分深點ヲ上端ヨリ數ヘ  
其ノ第一及第三ノ幅ト第二ノ幅ノ二分ノ一トヲ加ヘ  
之ニ分深點間隔ノ三分ノ一ヲ乘シ各部分ヲ加フヘシ

三 分長點ノ深ヲ七等分シタルトキハ分深點ヲ上端ヨリ  
數ヘ第七分深點以上ノ部分ニ付テハ第一號ノ規定ヲ  
適用シ最下分深點間隔ノ部分ニ付テハ前號ノ規定ヲ  
準用シ各部分ヲ加フヘシ

第十三條 測度甲板下ノ積量ヲ算定スルニハ特ニ規定アル  
場合ヲ除クノ外分長點ニ於ケル横截面積ヲ船首ヨリ數ヘ  
偶數ニ當ル面積ハ四倍シ首尾兩端ヲ除キ奇數ニ當ル面積  
ハ二倍シ其ノ和ニ首尾兩端ニ當ル面積ヲ加ヘ之ニ分長點  
間隔ノ三分ノ一ヲ乘スヘシ

第十四條 船首尾艙ヲ除キ二重底内底板又ハ肋板ノ高ニ階  
段アル船舶ノ測度甲板下ノ積量ヲ算定スルニハ各階段ニ

朝鮮船舶積量測度規程

口ヲ有スル全通船樓甲板ヲ謂フ

遮浪甲板ハ船舶積量測度法第二條ニ掲クル甲板ノ層數ニ  
加ヘス

第八條 船舶積量測度法第三條及第四條ニ掲クル場所ノ限  
域ハ特ニ規定アル場合ヲ除クノ外検査官吏ノ相當ト認ム  
ル所ニ依ル

第九條 形狀正整ナル場所ノ積量ヲ算定スルニハ第三章乃  
至第五章ノ規定ニ拘ラス其ノ内面ニ於ケル平均ノ長、幅  
及高又ハ深ヲ相乘スヘシ

第十條 第三章乃至第五章ノ規定ニ於テ一區分トシテ容積  
ヲ算定スヘキ場所ニシテ形狀複雜ナルモノニ在リテハ檢  
査官吏ニ於テ計算上精密ノ結果ヲ得ヘシト認ムル場合ニ  
限リ之ヲ二箇以上ニ區分シ各區分毎ニ當該規定ヲ適用シ  
其ノ容積ヲ算定スルコトヲ得

第十一條 特殊ノ構造ヲ有シ又ハ特別ノ事由アルカ爲本令  
ノ測度方法ニ依リ難キ船舶ニ付テハ朝鮮總督ノ相當ト認  
ムル測度方法ニ依ル

第二章 測度甲板下積量及舷端以下ノ積量

第十二條 分長點ニ於ケル横截面積ヲ算定スルニハ左ノ規  
定ニ依ル

一 分長點ノ深ヲ四等分又ハ六等分シタルトキハ分深點  
從ヒ船體ヲ區分シ各區分毎ニ測度甲板ノ長ヲ測リ之ヲ第  
三條ノ測度甲板ノ長ニ充テ分長點ヲ定メ第五條ノ規定ニ  
依リ定メタル分深點ノ等分數ヲ以テ各區分ノ分深點ヲ定  
メ前條ノ規定ヲ適用シ各容積ヲ算定シ之ニ加フヘシ但シ  
各區分毎ニ測リタル測度甲板ノ長カ九十メートルヲ超エ  
十五メートル以下ナルトキハ之ヲ四等分シ、九メートル  
以下ナルトキハ之ヲ二等分シテ分長點ヲ定ムヘシ

第十五條 鋤鏈溝ヲ有スル淺濶船ノ測度甲板下ノ積量ヲ算  
定スルニハ鋤鏈溝ノ末端隔壁ヲ境界トシテ船體ヲ區分シ  
各區分毎ニ前二條ニ規定スル方法ニ依リ算定シタル各容  
積ヲ加フヘシ

第十六條 舷端以下ノ積量ヲ算定スルニハ測度甲板下ノ積  
量ヲ算定スル方法ヲ準用スヘシ

第三章 測度甲板上ノ積量及舷端以上ノ積量

第十七條 測度甲板上各甲板間ノ積量ヲ算定スルニハ甲板  
間ノ高ノ中央ニ於テ中心線ニテ船首内張板ノ内面ヨリ船  
尾内張板ノ内面ニ至ル長ヲ測リ之ヲ測度甲板ノ長ノ等分  
數ニテ等分シ各分長點ノ高ノ中央ニ於テ内面ノ幅ヲ測リ  
之ヲ船首ヨリ數ヘ偶數ニ當ル幅ハ四倍シ首尾兩端ヲ除キ  
奇數ニ當ル幅ハ二倍シ其ノ和ニ首尾兩端ノ幅ヲ加ヘ之ニ



分長點ノ間隔ノ三分ノ一及甲板間ノ平均ノ高ヲ乘スヘシ  
第十八條 上甲板及舷端以上蔽圍シタル場所ノ積量ヲ算定スルニハ左ノ規定ニ依ル

- 一 測度甲板ノ長ノ二分ノ一以下ノ長ヲ有スル船樓、甲板室其ノ他蔽圍シタル場所ニ在リテハ高ノ中央ニテ前後及中央ニ於ケル内面ノ幅ヲ測リ中央ノ幅ノ四倍ニ前後ノ幅ヲ加ヘ之ニ平均ノ長ノ六分ノ一ト平均ノ高トヲ乘スヘシ
- 二 測度甲板ノ長ノ二分ノ一ヲ超ユル長ヲ有スル船樓、甲板室其ノ他蔽圍シタル場所ニ在リテハ其ノ長ヲ四等分シ前條ニ規定スル方法ヲ準用スヘシ

第十九條 船舶積量測度法第三條第二項ノ規定ニ依リ船舶所有者ヨリ申請アリタル場合ニ於テ上甲板上ノ機關室ノ積量ノ全部又ハ一部ヲ總積量ニ算入スルハ純積量ヲ減少スル結果ヲ生スル場合ニ限ル

前項ノ機關室ノ積量ニハ上甲板上ニ在ル機關室圍壁及之ニ附屬スル蔽圍シタル場所ノ積量ヲモ包含ス

第一項ノ機關室ノ積量ノ一部ト稱スルハ機關室ノ一部ニシテ甲板又ハ甲板ノ延長面及圍壁ニ依リ區劃シタル場所ノ積量ヲ謂フ

ヨリ船ノ長ノ五分ノ一ヨリ少カラサル距離ニ設クルコト

前項ノ船ノ長ト稱スルハ量噸甲板上ニ於テ船首材ノ前面ヨリ船尾材ノ後面ニ至ル水平距離ヲ謂フ

- 三 第一號ノ甲板口ヲ船尾ニ設クルトキハ其ノ直下甲板間ニ於テ該口ヨリ船首ニ在ル横通隔壁ニハ前條ノ規定ニ依ル出入口二箇以上ヲ設クルコト
- 四 第一號ノ甲板口ノ縁材ノ高ハ甲板上平均三十センチメートルヲ超エサルコト又該口ノ周圍ニハ之ヲ水密ニ閉鎖シ得サル様柵ヲ設クルコト

第二十二條 賄室ト稱スルハ廚室及麵麴燒室ヲ謂フ

第二十三條 艙口ノ積量カ總積量ニ算入スヘキ艙口以外ノ場所ノ積量ノ千分ノ五以下ナルトキハ之ヲ總積量ニ算入セス艙口ノ積量カ總積量ニ算入スヘキ艙口以外ノ場所ノ積量ノ千分ノ五ヲ超ユルトキハ其ノ超過積量ニ限り之ヲ總積量ニ算入ス

第二十四條 飲料水蒸溜機、消防消毒用瓦斯發生機「サーモタンク」、探海燈及燈塔ニ供用セラルル場所ノ積量ハ之ヲ總積量ニ算入セス

朝鮮總督ハ前項ニ掲クル場所ノ外船舶積量測度法第三條

朝鮮船舶積量測度規程

第四章 總積量ニ算入セサル上甲板上ノ場所

第二十條 船樓、甲板室其ノ他ノ場所又ハ一部ニシテ其ノ側壁又ハ端壁ニ幅九十一センチメートル以上高百二十二センチメートル以上（縁材ヲ附スルトキハ其ノ六十一センチメートル以下）ナル一箇以上ノ出入口ヲ有シ之ニ扉又ハ之ニ準スヘキ常設閉鎖裝置ヲ備ヘサルトキハ其ノ積量ヲ總積量ニ算入セス但シ旅客ニ供用セラルル場合又ハ出入口一箇ノミヲ有スル船樓ニシテ其ノ兩舷側ニ適當ノ排水口及排水孔ヲ備ヘサル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二十一條 遮浪甲板ト上甲積トノ間ノ場所ニシテ左ノ規定ニ適合スル部分ノ積量ハ之ヲ總積量ニ算入セス但シ旅客ニ供用セラルル場合ハ此ノ限ニ在ラス

一 遮浪甲板ニ長百二十二センチメートル以上幅同甲板ノ後部正艙口ノ幅ヨリ少カラサル常設閉鎖裝置ヲ備ヘサル甲板口ヲ有シ且遮浪甲板上ヨリ操作シ得ル螺旋締裝置ヲ有スル徑十三センチメートル以上ノ自動不還弁ヲ該口直下ノ兩舷側ニ備フルコト

二 前號ノ甲板口ヲ船尾ニ設クルトキハ其ノ後端ヲ船尾材ノ後面ヨリ船ノ長ノ二十分ノ一ヨリ少カラサル距離ニ、船首ニ設クルトキハ其ノ前部ヲ船首材ノ前面

第一項第四號ノ規定ニ依リ同項第一號乃至第三號ニ掲クルモノニ準スヘキモノト認ムル場所ヲ指定スルコトアルヘシ

第五章 純積量ノ算定ニ付總積量ヨリ控除スヘキ場所ノ積量

第二十五條 純積量ノ算定ニ付總積量ヨリ控除スヘキ場所ノ積量ノ算定ニ付テハ特ニ規定アル場合ヲ除クノ外第十八條ノ規定ヲ準用ス

第二十六條 船員常用室ト稱スルハ船長ノ専用スル諸室海員ノ専用スル寢室、食堂、食器室、飲食料倉庫、洗面室、浴室、病室、藥局賄室及便所竝以上各室ニ專屬スル通路及採光通風ニ要スル場所ヲ謂フ

第二十七條 海圖室ト稱スルハ海圖、信號器具其ノ他航海用器具ニ供用セラルル場所ヲ謂フ

第二十八條 荷足水艙ト稱スルハ二重底水艙ヲ除クノ外人孔ノミヲ備ヘ貨物、倉庫品及燃料ヲ積載スルニ適セル構造ヲ有スル水艙ヲ謂フ

第二十九條 荷足水艙ノ積量ヲ算定スルニハ水艙ノ頂板ノ長ヲ測リ其ノ長九メートル以下ナルトキハ之ヲ二等分シ九メートルヲ超エ五メートル以下ナルトキハ之ヲ四等



分シ十五メートルヲ超ユルトキハ之ヲ第三ノ測度甲板ノ長ニ充テ之ヲ等分シ又船ノ中央ニ近キ分長點ノ深ヲ測リ其ノ深五メートル以下ナルトキハ之ヲ二等分シ五メートルヲ超ユルトキハ之ヲ四等分シ第十二條及第十三條ノ規定ヲ準用スヘシ

**第三十條** 機關室ノ積量トハ機關室ノ冠頂下ノ場所ノ積量冠頂ト上甲板トノ間ノ場所ノ積量及車軸隧道ノ積量ヲ加ヘタルモノヲ謂フ

船舶所有者ノ申請ニ依リ上甲板上ノ機關室ノ積量ノ全部又ハ一部ヲ總積量ニ算入シタルトキハ之ヲ機關室ノ積量ニ算入ス

機關室ノ積量中船舶ノ推進ニ關係ナキ場所アルトキハ其ノ積量ハ之ヲ機關室ノ積量ヨリ除去スヘシ

**第三十一條** 機關室ノ冠頂下ノ場所、冠頂ト上甲板トノ間ノ場所、上甲板上ノ場所及車軸隧道ノ積量ヲ算定スルニハ平均ノ長、幅及高又ハ深ヲ相乘スヘシ

**第三十二條** 螺旋推進器ヲ有シ車軸隧道ヲ設ケサル船舶ニ於テ車軸ニ供用セラレル場所ノ積量ヲ算定スルニハ中間

軸ノ徑ノ三倍ヲ自乘シ之ニ機關室後端隔壁ヨリ船尾管前  
端ニ至ル長ヲ乘スヘシ

**第三十三條** 機關室内ノ船舶ノ推進ニ關係ナキ場所ノ積量ヲ算定スルニハ其ノ平均ノ長、幅及高又ハ深ヲ相乘スヘシ

**第三十四條** 船舶積量測定法第六條第一項第二號但書ノ規定ニ依リ船舶所有者ヨリ申請アリタル場合ニ於テ同項第一號ノ規定ヲ適用スルハ機關室ノ積量カ螺旋推進器ヲ備フル船舶ニ在リテハ總積量ノ百分ノ十三以下、外車ヲ備フル船舶ニ在リテハ總積量ノ百分ノ二十以下ニシテ特別ノ事由アル場合ニ限ル

**第三十五條** 水夫長倉庫ト稱スルハ甲板用諸器具、覆布、滑車類、端艇用附屬具、救命具及索類ヲ藏置スル場所ヲ謂フ

**第三十六條** 純積量ノ算出ニ付總積量ヨリ控除スヘキ水夫長倉庫ノ積量ハ總積量ニ應シ左表ニ掲クル控除積量ヲ超ユルトキハ之ヲ該積量ニ止ム但シ二百十三立方メートルヲ超ユルトコトヲ得ス

朝鮮船舶積量測定心得

(大正三年九月)  
朝鮮總督府訓令第五十五號

改正 昭和十一年十二月  
第三十六號

第一章 總則

**第一條** 本令ハ長二十メートル以上ノ船舶ノ積量測定ニ關スル心得ヲ示スモノトス

**第二條** 船舶ノ積量ハ登記登錄ノ基礎ト爲リ諸稅手續料賦課ノ標準ト爲ルカ故ニ測定ニ付テハ特ニ周密ナル注意ヲ以テ之カ精確ヲ期スヘシ

**第三條** 測定ニ當リ疑義ヲ生シタルトキハ其ノ詳細ヲ具シ必要ト認ムルトキハ圖面ヲ添へ逓信局長ノ指揮ヲ受クヘシ

**第四條** 製造中ノ検査ヲ行フ船舶ニ付テハ成ルヘク適當ナル時期ニ於テ部分測定ヲ行ヒ測定申請アリタル場合ノ參考ニ供スヘシ

**第五條** 管海官廳ニ於テハ豫メ標準距離ヲ設定シ時時測定用卷尺ヲ之ト照合シ其ノ尺差ヲ檢定シテ之ヲ使用スヘシ

總積量	控除積量
四百立方メートル未満	八立方メートル
四百立方メートル以上 千四百立方メートル未満	總積量ノ百分ノ二
千四百立方メートル以上 二千八百立方メートル未満	二十八立方メートル未満
二千八百立方メートル以上	總積量ノ百分ノ一

**第三十七條** 無線電信機具、其ノ從事員室、飲料水蒸溜機、消防消毒用瓦斯發生機「サーモタンク」及「コツプアイダム」ニ供用セラレル場所ノ積量ハ純積量ノ算定ニ付總積量ヨリ之ヲ控除スヘシ

朝鮮總督ハ前項ニ掲クル場所ノ外船舶積量測定法第四條第七號ノ規定ニ依リ同條一號乃至第六號ニ掲クルモノニ準スヘキモノト認ムル場所ヲ指定スルコトアルヘシ

附則

本令ハ朝鮮船舶積量測定令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附則 (昭和七年朝鮮總督府令第五十一號)

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前ノ申請ニ基ク船舶ノ積量ノ測定ハ仍從前ノ規定ニ依ルコトヲ得

朝鮮船舶積量測定心得



卷尺ヲ濕潤セシメタルトキハ之ヲ掃拭シ充分乾燥セシメタル後更ニ油布ヲ以テ清拭スヘシ

**第五條** 下層甲板カ貨物艙又ハ横置燃料艙ニ於テ斷切スルトキハ該甲板ハ船舶積量測定法第二條ニ掲クル甲板ノ層數ニ加ヘス

**第六條** 低船首尾樓甲板ヲ備フル船舶ニ在リテハ該船樓ノ部分ニ於テ該甲板ト平行シテ上甲板ノ延長面ヲ假定シ之ヲ船舶積量測定法第二條及第三條ニ掲クル上甲板ト看做ス

**第七條** 朝鮮船舶積量測定規程第二條ノ規定ニ依リ測定甲板ノ長ヲ測ルニハ左ノ各號ニ依ルヘシ

- 一 船首内張板及船尾内張板ト稱スルハ測定甲板ノ直下ニ於ケル内張板ヲ謂フ
- 二 甲板ヲ備フル船舶ニ在リテハ測定甲板上ニ於テ船首ヨリ船尾ニ至ル水平距離ヲ測リ得ルトキハ測定甲板上面ニ沿ヒタル距離ノ代リニ該距離ヲ探ルモ妨ナシ
- 三 船尾ニ戸建ヲ有スル木製帆船ニ在リテハ測定甲板ノ長ハ戸建ノ内面迄測ルヘシ

モノヲ採ルヘシ

前項ノ間隔カ九十センチメートルヲ超ユルトキハ内張板ナキモノト看做シ取扱フヘシ

**第十二條** 内張板ヲ備ヘサル船舶ノ深ハ二重底内底板、肋板又ハ肋根材ノ上面迄、其ノ幅ハ肋骨ノ内面迄測ルヘシ但シ肋骨ノ心距百二十二センチメートルヲ超ユル木船ノ船艙ノ深又ハ幅ハ外板ノ内面迄測ルヘシ

**第十三條** 艙内ニ内張板ヲ有シ船首尾艙又ハ機艙等ニ内張板ヲ有セサル船舶ノ船艙ノ深及幅ハ測定スヘキ箇所ノ實際ノ寸法ヲ採ルヘシ

**第十四條** 分深點カ「ボツス」ノ位置ニ在ル場合ニ於テハ分深點ノ幅ハ「ボツス」ヲ構成スル肋骨ノ内面ヨリ内面迄測ルヘシ

**第十五條** 肋骨ノ深ニ階段アル船舶ノ船艙ノ幅ハ測定スヘキ箇所ノ實際ノ寸法ヲ採ルヘシ  
肋骨一本置ニ肋骨ノ深ヲ異ニスル船舶ノ船艙ノ幅ハ深ノ大ナル肋骨迄測ルヘシ

**第十六條** 二重底ヲ備ヘサル船舶ノ船底ノ幅ハ肋板又ハ肋根材ニ水平ナル部分アルトキハ該部分ノ幅ヲ採リ、肋板又ハ肋根材カ傾斜スルトキハ内龍骨ノ幅ヲ採ルヘシ

朝鮮船舶積量測定心得

四 船首ニ於テ上甲板ニ傾斜アル木製帆船ニ在リテハ測定甲板ノ長ハ該甲板ノ下面ト船首材トノ交叉部ヲ標準トシテ測ルヘシ

**第八條** 船首尾艙ニ於ケル分長點ノ深ハ船首尾隔壁ニ接スル二重底又ハ普通肋板ノ頂面ノ延長面迄測ルヘシ

**第九條** 鐵鋼船ノ船底内張板及艙内船側内張板ノ厚カ七・五センチメートルヲ超ユルトキハ之ヲ七・五センチメートルト看做スヘシ  
鐵鋼船ノ冷藏艙ニ設クル内張板ニ付テモ前項ニ準シ取扱フヘシ、鐵鋼船ノ船底内張板下ノ横木ノ高ハ之ヲ内張板ノ厚ニ算入ス

**第十條** 木船ノ内張板ノ厚ハ實際ノ寸法ヲ採ルヘシ  
木船ノ肋根材上ニ設ケタル横木ノ高ハ内張板ノ厚ニ算入セス  
木船ノ梁受板、艙内縦通材及彎曲部縦通材ハ内張板ノ一部ト看做シ船舶ノ幅ヲ測ルヘシ

**第十一條** 朝鮮船舶積量測定規程第六條二項ニ掲クル船側内張板ノ平均ノ厚ハ内張板ハ「バツテン」ノ間隔カ三十センチメートル以下ナルトキハ其ノ厚ノ平均ヲ、三十センチメートルヲ超ユルトキハ其ノ厚ヲ全心距ニ等分シタル

**第十七條** 二重底内底板カ凸面ナル場合ニ於テハ分長點ノ

深ハ中心線ニ於ケル内底板迄ノ深ニ山形ナルトキハ縁板上ヨリ測リタル山形ノ高ノ二分ノ一ヲ加ヘタルモノ、蒲鉾形ナルトキハ縁板上ヨリ測リタル蒲鉾形ノ高ノ三分ノ一ヲ加ヘタルモノヲ採ルヘシ

前項ノ場合ニ於テ最下分深點ノ幅ハ縁板ヨリ縁板ニ至ル水平距離ヲ測ルヘシ  
二重底内底板カ船側ニ達スル場合ニ於テハ船側肋骨ヲ内底板ニ固著スル肘板ノ内縁ヲ前二項ノ縁板ノ位置ト看做ス

**第十八條** 朝鮮船舶積量測定規程第五條ノ規定ノ適用ニ當リ中心線内底板ト縁板トノ高ノ差カ十五センチメートル未滿ナルトキ又ハ内底板カ凹面ナルモ彎曲セサルトキハ幅分深點ヲ設ケスシテ前條ニ準シ測定スルモ妨ナシ

**第十九條** 上甲板上蔽圍シタル場所及純積量ノ算定ニ付總積量ヨリ控除スヘキ場所ニシテ其ノ形狀複雑ナルモノニ在リテハ検査官吏ハ計算上便宜ニシテ且精密ノ結果ヲ得ヘシト認ムル場合ニ限り先ツ全容積ヲ測リ之ヨリ算入スヘカラサル部分ノ容積ヲ減シ其ノ場所ノ容積ヲ算定スルモ妨ナシ



第二十條 船舶積量測定法第三條及第四條ニ掲クル副汽機ト稱スルハ蒸氣唧筒及唧筒ト連結シタル汽機ヲ謂フ

第二十一條 朝鮮船舶積量測定規程第二十條及第二十一條ニ掲クル場所ニシテ旅客ニ供用セサルカ爲總積量ニ算入セサル場所及船員常用室トシテ純積量ヲ算定スル爲總積量ヨリ控除シタル場所ヲ旅客ニ供用スルトキハ改測ノ申請ヲ爲サシムヘシ

第二十一條ノ二 修繕又ハ模様替ノ爲積量ニ變更ヲ生スヘキモノト雖モ短期間ノ後復舊スベキコト明ナル場合ニ於テハ之ヲ積量ニ變更ナキモノト看做スコトヲ得

第二章 測定甲板下ノ積量及舷端以下ノ積量  
第二十二條 朝鮮船舶積量測定規程第十四條ノ規定ヲ適用スルニハ左ノ規定ニ依ルヘシ

- 一 全通二重底ヲ備フル船舶ニ在リテハ機關室ノ下部ニ於ケル二重底ニ三センチメートル以下、機關室ノ下部以外ノ二重底ニ五センチメートル以下ノ階段アルモ區分測定ヲ爲スニ及ハス
- 二 車軸隧道端室ニ於テ二重底又ハ普通肋板ニ階段アルモ區分測定ヲ爲スニ及ハス
- 三 二重底ヲ備フル船舶ニシテ汽機室ノ下部ノミニニ重

第二十五條

上甲板及舷端以上蔽圍シタル場所ニシテ二箇以上ノ室ヨリ成ルモノト雖相連續スル圍壁ヲ有スルトキハ一區畫室トシテ取扱ヒ其ノ長及幅ハ圍壁ノ内面ヨリ内面迄測ルヘシ

第二十六條

朝鮮船舶積量測定規程第十八條ノ規定ニ依リ後端圓形ナル船尾樓又ハ低船尾樓ノ積量ヲ算定スル場合ニ於テハ平均ノ長ハ高ノ中央ニ於テ中心線ニテ船樓ノ前内面ヨリ船尾ノ内面迄測リタルモノヲ後端ノ幅ハ船尾端ノ幅ノ代リニ高ノ中央ニ於テ船尾材ノ前面ニテ測リタルモノヲ採ルヘシ

朝鮮船舶積量測定規程第十七條ノ規定ニ依リ後端圓形ナル甲板間ノ積量ヲ算定スル場合ニ於テモ亦前項ニ準シ取扱フヘシ

第二十七條

船樓端ニ於テ舷側ニ外板ヲ有スル突出部アルトキハ其ノ容積ハ之ヲ船樓ノ積量ニ加ヘ其ノ他ノ突出部ハ小ナルモノニ在リテハ其ノ容積ハ之ヲ船樓ノ積量ニ加ヘ大ナルモノニ在リテハ之ヲ甲板室ノ一部トシテ取扱フヘシ

第二十三條

漁船ノ生洲及淺濩船ノ泥艙ノ積量ハ之ヲ總積量ニ算入ス

前項ノ生洲及泥艙ニ付テハ區分測定ヲ爲サスシテ其ノ部分ノ分長點ノ深ハ其ノ前後ニ於ケル二重底内底板肋板又ハ肋根材ノ頂面ノ延長面迄測ルヘシ

第三章 測定甲板上ノ積量及舷端以上ノ積量

第二十四條 朝鮮船舶積量測定規程第十七條ニ掲クル甲板間ノ平均ノ高トハ各分長點ニ於テ中心線ヨリ船ノ幅ノ約四分ノ一ノ所ニテ測リタル上層甲板ノ下面ヨリ下層甲板ノ上面ニ至ル平均ノ高ノ平均ヲ謂フ

第四章 總積量ニ算入セサル上甲板上ノ場所

第二十八條 操舵機具、繫船機具、揚錨機具及副汽機機ニ供用セラルル場所トハ此等ノ機具機關ニ供用スル爲特ニ設ケタル室又ハ區畫アルトキハ該室又ハ該區畫ヲ、室又ハ區畫ナキトキハ其ノ實際占有スル場所及検査官吏ニ於テ其ノ取扱ニ必要ナリト認ムル場所ヲ加ヘタルモノヲ謂フ

第二十九條

朝鮮船舶積量測定規程第二十條ニ掲クル扉ニ準スヘキ常設閉鎖裝置トハ引戸及振止釘又ハ鈎形止釘ヲ以テ閉鎖シ得ル板戸ヲ謂フ

出入口ノ兩側ニ設ケタル緊溝形材ニ挿板ヲ爲セル裝置ハ之ヲ前項ノ常設閉鎖裝置ト看做サス

船樓、甲板室其ノ他ノ場所又ハ其ノ一部ニシテ出入口一箇ヲ有スルモノト雖該出入口ノ面積カ特ニ大ニシテ出入口二箇以上有スルモノト同一ノ効力ヲ有スト認メ得ヘキ場合ノ取扱ニ付テハ圖面ヲ添ヘ意見ヲ具シ遞信局長ノ指揮ヲ受クヘシ

第三十條

朝鮮船舶積量測定規程第二十條ニ掲クル適當ノ排水口トハ高約五十一センチメートル幅約三十八センチメートルノモノトシ甲板間ニ設クル排水孔ノ間隔ハ約十



メートルニ付各舷一箇ノ割合トス但シ部分隔壁ヲ以テ區分セラルル場合ニ於テハ該區分毎ニ各舷一箇以上ノ排水孔ヲ設クヘキモノトス

**第三十一條** 廚室ト稱スルハ「ガレ」  
「スカレリ」及流シ場ヲ謂フ

**第三十二條** 上甲板以上ニ在ル出入口ノミニ供用セラルル場所ハ之ヲ出入口室ノ一部ト看做シ其ノ積量ヲ總積量ニ算入セス

**第三十三條** 朝鮮船舶積量測定規程第二十三條ニ掲クル艙口ノ積量トハ暴露甲板ニ在ル艙口及載炭口ノ積量ヲ加ヘタルモノヲ謂フ

圍壁艙口ニ非サル艙口又ハ載炭口ノ徑、長又ハ幅一メートル未滿ナルトキハ其ノ積量ハ之ヲ前項ノ艙口ノ積量ニ算入セス

圍壁艙口ノ積量ハ暴露甲板以上ニ在ルモノハ之ヲ艙口ノ積量ニ算入ス

遮浪甲板下又ハ常設閉鎖裝置ヲ備ヘサル船樓下ノ上甲板ハ前二項ニ掲クル暴露甲板ト看做ス

艙口ノ一部ニ出入口室ヲ假設スルトキハ該出入口室ナキモノト看做シ艙口ノ積量ヲ算定ス

**第三十四條** 上甲板上ニ在ル採光通風ニ要スル場所ノ積量ト稱スルハ天窗、其ノ圍壁内及通風圍壁内ノ積量ヲ謂フ

「カウル」「マツシユルム」「グースネツク」其ノ他專賣式ノ頭部ヲ有スル通風管ニシテ蔽圍シタル場所ニ在ル部分ノ積量ハ之ヲ該場所ノ積量ニ算入ス

**第三十五條** 大型旅客船ニ在リテハ上甲板上ニ於テ食堂上ノ「ドーム」ト食堂直上ノ甲板トノ間ニ中間ノ場所アルトキハ圍壁ナキモノト雖圍壁アルモノト看做シテ其ノ積量ヲ算定シ之ヲ採光通風ヲ要スル場所ノ積量ニ算入スヘシ

**第三十六條** 浴室ト便所トヲ同室内ニ設ケタルトキハ便所トシテ要スル場所ノ積量ノミヲ便所ノ積量トシテ算定スヘシ

**第三十七條** 操舵室ト海圖室トヲ同室内ニ設ケタルトキハ操舵ノ爲要スル場所ノ積量ノミヲ操舵室ノ積量トシテ算定スヘシ

**第三十八條** 船員常用室ノ積量ハ各室毎ニ内法寸法ヲ測リ算定スヘシ

**第三十九條** 海員ノ事務室並水先人、郵便官吏、税關官吏、

第五章 純積量ノ算定ニ付總積量ヨリ控除スヘキ場所ノ積量

**第四十四條** 主機關ト連結シタル副汽罐ニ供用セラルル場所ノ積量ハ之ヲ機關室ノ積量トシテ取扱フヘシ

**第四十五條** 朝鮮船舶積量測定規程第三十條ニ掲クル機關室内ニ於ケル船舶ノ推進ニ關係ナキ場所トハ該室内ニ於テ主機關ト連結セサル副汽罐、發電機、製氷機、倉庫、工作場、操舵機、消防消毒用瓦斯發生機、飲料水蒸溜機

艙内送風機ニ供用セラルル場所又ハ特ニ構成シタル豫備螺旋軸置場ニシテ區畫アルトキハ該區畫ヲ、區畫ナキトキハ其ノ實際占有スル場所及検査官吏ニ於テ其ノ取扱ニ必要ナリト認ムル場所ニ加ヘタルモノヲ謂フ

淺深船其ノ他特殊ノ船舶ニ於テ特殊ノ目的ニ供用セラルル機械ヲ据付ケタル場合亦同シ

**第四十六條** 石炭庫及燃料油庫ノ積量ハ機關室ノ積量ニ算入スヘカラス

**第四十七條** 朝鮮船舶積量測定規程第三十四條ノ場合ニ於テ船舶所有者ヨリ申請アリタルトキハ検査官吏ハ意見ヲ具シ通信局長ノ指揮ヲ受クヘシ

**第四十二條** 機關室カ二室以上アル場合ニ於ケル各室間ノ通路機關室又ハ車軸隧道ヨリ上甲板ニ至ル通路ノ積量ハ之ヲ機關室ノ積量ニ算入ス

**第四十三條** 船舶積量測定法第四條ニ掲クル主唧筒トハ滄水排出ニ供用セラルル蒸氣唧筒ヲ謂フ

朝鮮船舶積量測定心得

検査官吏、買辦、漁船ニ於テ漁獵ノミニニ從事スル者、理髮人及海員ニ非スシテ船中ニ於テ職務ヲ行フ者ニ供用セラルル諸室ノ積量ハ之ヲ船員常用室ノ積量ニ算入セス

船員及旅客ニ併用スル場所ノ積量ハ之ヲ船員常用室ノ積量ニ算入セス但シ旅客船ニ非サル船舶又ハ臨時旅客ヲ搭載シタル爲旅客船ト爲リタル船舶ニ於テ船員及旅客ニ併用スル場所ノ積量並旅客船ニ臨時旅客ヲ搭載シタル場合ニ於テ船員及臨時旅客ニ併用スル場所ノ積量ハ之ヲ船員常用室ノ積量ニ算入ス

**第四十條** 船首尾水艙ハ淡水艙ノミニ用キラルル場合ト雖之ヲ荷足水艙ト看做ス

**第四十一條** 朝鮮船舶積量測定規程第二十九條ノ規定ニ依リ船首尾水艙ノ積量ヲ算定スル場合ニ於テ各分長點ノ深ハ船首尾隔壁ニ接スル二重底又ハ普通肋板ノ頂面ノ延長面迄測ルヘシ



### 朝鮮簡易船舶積量測度規程

(昭和七年六月)  
朝鮮總督府令第五十二號

**第一條** 長二十メートル未満ノ船舶ノ積量ノ測度ニ關シテハ本令ノ定ムル所ニ依ル

**第二條** 船ノ長トハ上甲板梁上ニ於テ船首材ノ前面ヨリ船尾材ノ後面ニ至ル水平距離ヲ謂フ

船ノ幅トハ船體最廣部ニ於テ肋骨ノ外面ヨリ内面ニ至ル水平距離ヲ謂フ

船ノ深トハ船ノ長ノ中央ニ於テ龍骨ノ上面ヨリ上甲板梁ノ舷側ニ於ケル上面ニ至ル垂直距離ヲ謂フ

**第三條** 甲板ヲ備ヘサル船舶ニ在リテハ舷側外板ノ上面ヲ上甲板梁ノ上面ト看做スヘシ

低船首樓甲板、低船尾樓甲板又ハ之ニ準スヘキ甲板ヲ備フル船舶ニ在リテハ該甲板ノ部分ニ於テ之ト平行シテ上甲板ノ延長面ヲ假定シ之ヲ上甲板ト看做スヘシ一部分ノ

ミニ上甲板ヲ備フル船舶ニ在リテハ甲板ナキ部分ニ於テ舷端ト平行シテ上甲板ノ延長面ヲ假定シ之ヲ上甲板ト看做スヘシ

上甲板梁ノ上面ト看做スヘシ

上甲板又ハ舷端以上蔽圍シタル場所ノ積量ヲ算定スルニハ各場所ノ内法ノ平均ノ長、幅及高ヲ相乘シテ得タル容積ヲ加フヘシ

**第六條** 船樓、甲板室、其ノ他上甲板ノ場所ニシテ其ノ側壁又ハ端壁ニ幅九十一センチメートル以上、高百二十二センチメートル以上ノ常設閉鎖裝置ヲ備ヘサル開口ヲ有スルモノハ之ヲ前條ノ蔽圍シタル場所ト看做サス但シ旅客ニ供用セラルル場合ハ此ノ限ニ在ラス

**第七條** 上甲板下又ハ舷端以下ノ積量ハ船ノ長、幅及深ノ相乘積ニ船質ニ應シ左ノ係數ヲ乘シタルモノトス

鋼 船 ○・六二  
木 船 ○・五五

上甲板又ハ舷端以上蔽圍シタル場所ノ積量ヲ算定スルニハ各場所ノ内法ノ平均ノ長、幅及高ヲ相乘シテ得タル容積ヲ加フヘシ

**第八條** 總積量ヨリ推進機關ヲ有セサル船舶ニ在リテハ總積量ノ百分ノ二十ヲ控除シタルモノ、推進機關ヲ有スル船舶ニ在リテハ總積量ノ百分ノ二十ヲ控除シ且機關室ノ積量ノ一倍四分ノ三及總積量ノ百分ノ四十四ノ内小ナルモノヲ控除シタルモノヲ純積量トス

機關室ノ積量ヲ算定スルニハ車軸室ノ部分ヲ除キ上甲板下又ハ舷端以下ニ於ケル機關室ノ内法ノ平均ノ長、幅及

容積ヲ加フヘシ

巴拿馬及蘇士運河噸數證書交付規則(朝鮮)

前各項ニ規定スルモノノ外特殊ノ構造ヲ有スル船舶ニ在リテハ船ノ長、幅及梁ハ其ノ構造ニ應シ前條ノ規定ヲ準用シテ之ヲ定ムヘシ

**第四條** 長、幅、深及高ヲ測定スルニハメートルヲ以テ單位トシ單位下ハ之ヲ二位ニ止メ第三位ハ之ヲ四捨五入スヘシ

容積及積量ヲ算定スルニハ單位下ハ之ヲ三位ニ止メ第四位ハ之ヲ四捨五入スヘシ但シ總噸數及純噸數ヲ算定スルニハ單位下ハ之ヲ二位ニ止メ第三位ハ之ヲ四捨五入スヘシ

**第五條** 甲板ヲ備フル船舶ニ在リテハ上甲板下ノ積量ニ上甲板上蔽圍シタル場所ノ積量ヲ加ヘタルモノヲ總積量トス但シ左ニ掲ケル場所ニシテ上甲板上ニ在ルモノノ積量ハ之ヲ總積量ニ算入セス

一 機關室、操舵室、賄室及出入口室  
二 採光通風ニ要スル場所及便所  
三 長又ハ幅カ一メートル未満ナル暴露シタル艙口  
四 朝鮮總督ニ於テ船舶ノ安全、衛生又ハ利用上前各號ニ掲ケルモノニ準スヘキモノト認ムル場所

甲板ヲ備ヘサル船舶ニ在リテハ舷端以下ノ積量ニ舷端以

深ヲ相乘スヘシ

**第九條** 形狀複雜ナル場所ノ積量ハ其ノ場所ヲ二箇以上ニ區分シ各區分毎ニ算定シタル容積ヲ加ヘ又ハ之ニ準スル方法ニ依リ之ヲ算定スルコトヲ得

### 巴拿馬及蘇士運河噸數證書交付規則

(大正五年七月)  
朝鮮總督府令第五十七號  
改正 昭和十三年三月  
第二十三號

**第一條** 朝鮮ニ船籍港ヲ有スル日本船舶ノ所有者ニシテ亞米利加合衆國政府ニ於テ千九百三十七年八月二十五日發布シタル巴拿馬運河船舶測度規則又ハ蘇士運河會社ノ通航規則ニ依ル船舶ノ測度及噸數證書ノ交付ヲ受ケムトスル者ハ附錄書式ノ申請書ヲ管海官廳ニ提出スヘシ

**第二條** 前條ノ申請ヲ爲ス者ハ測度ヲ受クルニ必要ナル準

巴拿馬及蘇士運河噸數證書交付規則(朝鮮)



備ヲ爲スヘシ

**第三條** 管海官廳ニ於テ第一條ノ申請ヲ受ケタルトキハ巴拿馬運河噸數證書ニ在リテハ検査官吏ヲシテ巴拿馬運河船舶噸數規則ニ依リ船舶ノ測度ヲ行ヒ噸數證書ヲ調製セシメ、蘇士運河噸數證書ニ在リテハ管海官廳ニ於テ蘇士運河會社ノ通航規則ニ依リ船舶ノ測度ヲ行ヒ噸數證書ヲ調製シ之ヲ申請者ニ交付スヘシ

前項ノ場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ検査官吏又ハ管海官廳ハ當該船舶ノ船體中心線縱截面圖及各甲板平面圖ヲ申請者ヨリ提出セシムルコトヲ得

**第四條** 噸數證書ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタル爲改測及證書ノ書換ヲ要スルモノト認ムルトキハ船舶所有者ハ附録書式ノ申請書ニ現ニ有スル證書ヲ添附シ之ヲ管海官廳ニ提出スヘシ

第二條及第三條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

**第五條** 噸數證書ニ記載シタル事項中改測ニ關係ナキモノニ變更ヲ生シタルトキ又ハ噸數證書ヲ毀損シタルトキハ船舶所有者ハ其ノ事由ヲ記載シタル書換ノ申請書ニ現ニ有スル證書ヲ添附シ之ヲ管海官廳ニ提出スヘシ

噸數證書ノ滅失ニ因リ其ノ再交付ヲ申請セムトスルトキ

**第八條** 船舶ノ測度又ハ改測ヲ受ケタルトキハ船舶所有者ハ當該管海官廳ノ指定スル所ニ從ヒ附録測度手数料表ニ定ムル測度手数料ヲ納付スヘシ

申請人ノ都合ニ依リ測度ノ申請ヲ取下ケタル場合ト雖測度著手後ナルトキハ測度手数料ヲ徴收ス改測ノ場合ニ付亦同シ

**第九條** 噸數證書ノ交付、書換又ハ再交付ヲ受ケタルトキハ船舶所有者ハ證書一通ニ付四圓ノ手数料ヲ納付スヘシ

**第十條** 前二條ノ手数料ハ其ノ金額ニ相當スル收入印紙ヲ手数料納付書ニ貼附シテ之ヲ納付スヘシ

**第十一條** 本令ニ依ル事務ヲ行フ管海官廳及測度執行地ハ之ヲ公示ス

附錄

測度手数料表

測度種類	船舶種類		總噸數
	汽船及機關船	帆船	
新規測度又ハ全部測改	汽船及機關船	帆船	二十噸以上五十噸未
			五十噸以上一百噸未
			一百噸以上二百噸未
			二百噸以上三百噸未
			三百噸以上五百噸未
	汽船及機關船	帆船	五百噸以上一千噸未
			一千噸以上二千噸未
			二千噸以上三千噸未
			三千噸以上四千噸未
			四千噸以上六千噸未
汽船及機關船	帆船	六千噸以上八千噸未	
		八千噸以上一萬噸未	
		一萬噸以上一萬五千噸未	
		一萬五千噸以上二萬噸未	
		二萬噸以上	
汽船及機關船	帆船	五圓七圓十圓十五圓二十圓二十五圓三十圓四十圓五十圓六十圓七十圓八十圓百圓	

巴拿馬及蘇士運河噸數證書交付規則(朝鮮)

ハ船舶所有者ハ其ノ事由ヲ記載シタル申請書ヲ管海官廳ニ提出スヘシ

管海官廳ニ於テ前二項ノ申請ヲ受ケタルトキハ巴拿馬運河噸數證書ニ在リテハ検査官吏ヲシテ之ヲ調製セシメ蘇士運河噸數證書ニ在リテハ管海官廳之ヲ調製シ申請者ニ交付スヘシ

**第六條** 噸數證書カ不用ト爲リタルトキハ船舶所有者ハ遲滞ナク之ヲ管海官廳ニ返還スヘシ

噸數證書カ滅失シタルトキハ船舶所有者ハ遲滞ナク其ノ旨ヲ管海官廳ニ届出ツヘシ但シ前條第二項ノ場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

**第七條** 噸數證書ニ記載シタル事項カ巴拿馬運河官憲又ハ蘇士運河會社ニ依リ變更セラレタルトキハ船舶所有者ハ當該船舶カ朝鮮ニ歸航シタル後遲滞ナク其ノ旨ヲ管海官廳ニ届出ツヘシ此ノ場合ニ於テハ届出ト同時ニ噸數證書又ハ其ノ寫ヲ管海官廳ニ提出スヘシ管海官廳ニ於テ前項ノ届出ヲ受ケタルトキハ巴拿馬運河噸數證書又ハ其ノ寫ニ在リテハ検査官吏ヲシテ之ヲ査閲セシメ、蘇士運河噸數證書又ハ其ノ寫ニ在リテハ管海官廳之ヲ査閲シ、噸數證書ニ付テハ査閲後遲滞ナク船舶所有者ニ返還スヘシ

特別ノ事由アルトキハ船舶所有者ハ其ノ事由ヲ疏明シ測度執行地外ニ於テ船舶ノ測度又ハ改測ヲ受クルコトヲ得

**第十二條** 測度執行地外ニ於テ測度又ハ改測ヲ受ケムトスルトキハ船舶所有者ハ検査官吏ノ出張ニ要スル成規ノ旅費ニ相當スル金額ヲ納付スヘシ

朝鮮船舶令施行規則第五十四條又ハ朝鮮船舶安全令施行規則ニ於テ依ルコトヲ定メタル船舶安全法施行規則第百八十四條第一項ノ場合ニ於テ出張シタル検査官吏ノ測度又ハ改測ヲ受ケタルトキハ前項ノ金額ハ相互ニ之ヲ通算ス

附則

本令ハ大正五年八月一日ヨリ之ヲ施行ス



一部改測	汽船及機關有	三圓	五圓	七圓	二千噸以上十圓
	スル帆船	二圓	三圓	五百噸以上五圓	
	機關有セザル船				

備考

- 一 測度甲板下全部ノ改測ヲ受ケタルトキハ之ヲ全部改測ト看做シ本表ニ規定セル手数料ヲ納付スヘシ
- 二 第八條第二項ノ場合ニ於テ總噸數ヲ定ムルコト能ハサルトキハ計畫總噸數ニ依リ測度手数料ヲ納付スヘシ

書式

巴拿馬(蘇士)運河噸數證書交付(書換)申請書

汽(帆)船何丸

右巴拿馬及蘇士運河噸數證書交付規則ニ依リ大正

年

月

日某所ニ於テ測度(改測)執行ノ上噸數證書

交付(書換)相成度此段及申請候也

年 月 日

住所

所有者 何

某印

管海官廳宛

備考 第十一條第二項ノ場合ニ於テハ測度執行地ニ於テ検査ヲ受クルコト能ハサル事由ヲ附記スヘシ

丁抹國船舶朝鮮諸港ニ於ケル積量測度ニ關スル件

(大正十一年十月) 朝鮮總督府令第三百三十七號

丁抹國相當官憲ニ於テ千八百九十五年四月一日以後交付シタル船舶積量測度ニ關スル證書ヲ有スル丁抹國船舶ハ朝鮮諸港ニ於テ積量ヲ測度スルコトナク其ノ證書ニ記載スル噸數ハ日本船舶ノ噸數ト同一ナリト看做ス

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

日英間船舶積量測度互認ニ關スル件

(大正十二年六月) 朝鮮總督府令第八十七號

英國相當官憲ニ於テ千八百九十五年一月一日以後交付シタル船舶積量測度ニ關スル證書ヲ有スル英國船舶ハ朝鮮諸港ニ於テ其ノ積量ヲ測度スルコトナク其ノ證書ニ記載スル噸數ハ日本船舶ノ噸數ト同一ナリト看做ス

附則

丁抹國船舶朝鮮諸港ニ於ケル積量測度ニ關スル件(朝鮮)・日獨間船舶積量測度證書互認ニ關スル件(朝鮮)・日本國「ソヴイェト」社會主義共和國聯邦間船舶積量測度證書互認ニ關スル件(朝鮮)

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

日獨間船舶積量測度證書互認ニ關スル件

(昭和四年六月) 朝鮮總督府令第六十五號

獨逸國相當官憲ニ於テ千八百九十五年七月一日以後交付シタル船舶積量測度ニ關スル證書ヲ有スル獨逸國船舶ハ朝鮮諸港ニ於テ其ノ積量ヲ測度スルコトナク其ノ證書ニ記載スル噸數ハ日本船舶ノ噸數ト同一ナリト看做ス

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

日本國「ソヴイェト」社會主義共和國聯邦間船舶積量測度證書互認ニ關スル件

(昭和四年九月) 朝鮮總督府令第七十五號

「ソヴイェト」社會主義共和國聯邦相當官憲ニ於テ千九百二



十三年十月十日以後交付シタル船舶積量測定ニ關スル證書ヲ有スル「ソグイエト」社會主義共和國聯邦船舶ハ朝鮮諸港ニ於テ其ノ積量ヲ測定スルコトナク其ノ證書ニ記載スル噸數ハ日本船舶ノ噸數ト同一ナリト看做ス

附 則  
本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

### 日蘭間船舶積量互認

(明治四十五年七月)  
朝鮮總督府令第五百二十五號

和蘭國政府ニ於テ千八百七十五年八月二十一日及千八百九十九年九月十八日付勅令海船積量測定規定ニ依リ測定シタル和蘭國船舶並千九百二年一月三日以後交付シタル公正積量證書ヲ有スル積量證書ヲ有スル西洋形蘭領印度船舶ハ朝鮮諸港ニ於テ其ノ積量ヲ測定スルコトナク其ノ證書ニ記載スル登簿噸數ハ日本船舶ノ登簿噸數ト同一ナリト看做ス

### (臺灣)

### 船舶積量測定ニ關スル件

(附則省略ス)

(大正十二年一月)  
臺灣總督府令第五號  
改正 昭和七年十二月  
府令第七十四號

第一條 船舶ノ積量測定方法ハ本令ニ規定スルモノノ外大正三年遞信省令第十六號船舶積量測定規定ニ依ル

第二條 削除

第三條 削除

### 簡易船舶積量測定ニ關スル件

(附則省略ス)

(昭和七年十二月)  
臺灣總督府令第七十五號

第一條 長二十メートル未満ノ船舶ノ積量測定ニ關シテハ特ニ規定スルモノヲ除ク外昭和七年遞信省令第十二號簡易船舶積量測定規程ニ依ル但シ同規程中遞信大臣トアルハ臺灣總督トス

第二條 上甲板下又ハ舷端以下ノ積量ハ船ノ長、幅及深ノ相乘積ニ船質ニ應シ左ノ係數ヲ乘シタルモノトス

鋼	船	〇・六二
木	船〔支那形船〕	〇・六一
	〔其他ノモノ〕	〇・五五

### 日丁間船舶積量互認

(大正十一年九月)  
臺灣總督府令第五百十七號

船舶積量互認ノ件ニ關シ帝國政府トノ間ニ取極ヲ爲シタルニ依リ左ノ條規ヲ定メ大正十一年十月一日ヨリ之ヲ施行ス  
丁抹國相當官憲ニ於テ千八百九十五年四月一日以後交付シタル船舶積量測定ニ關スル證書ヲ有スル丁抹國船舶ハ臺灣諸港ニ於テ積量ヲ測定スルコトナク其證書ニ記載スル噸數ハ日本船舶ノ噸數ト同一ナリト看做ス

### 日英間船舶積量互認

(大正十二年六月)  
臺灣總督府令第五十四號

船舶積量互認ノ件ニ關シ帝國政府ト英國政府トノ間ニ取極ヲ爲シタルニ依リ左ノ條規ヲ定メ大正十二年六月二十日ヨリ之ヲ施行ス  
英國相當官憲ニ於テ千八百九十五年一月一日以後交付シタル船舶積量測定ニ關スル證書ヲ有スル英國船舶ハ臺灣諸港ニ於テ其ノ積量ヲ測定スルコトナク其ノ證書ニ記載スル噸數ハ日本船舶ノ噸數ト同一ナリト看做ス

日蘭間船舶積量互認(朝鮮)・船舶積量測定ニ關スル件(臺灣)・簡易船舶積量測定ニ關スル件(臺灣)・日丁間船舶積量互認(臺灣)・日英間船舶積量互認(臺灣)・日獨間船舶積量測定證書互認ニ關スル件(臺灣)・日露間船舶積量互認(臺灣)・日蘭間船舶積量互認(臺灣)

### 日獨間船舶積量測定證書互認ニ關スル件

(昭和四年六月)  
臺灣總督府令第四十四號

日獨間船舶積量測定證書ニ關シテハ昭和四年遞信省令第十七號及同年遞信省告示第十六百五十八號ヲ準用ス

附 則  
本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

### 日露間船舶積量互認

(昭和四年五月)  
臺灣總督府令第五十五號

日本國「ソグイエト」社會主義共和國聯邦間船舶積量測定證書互認ニ關シテハ昭和四年遞信省令第三十三號及同年遞信省告示第二千四百十八號ヲ準用ス

附 則  
本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

### 日蘭間船舶積量互認

(明治四十五年六月)  
臺灣總督府令第六十五號



船舶積量互認ノ件ニ關シ帝國政府ト和蘭國政府トノ間ニ取極メヲ爲シタルニ依リ其ノ條規ヲ左ノ通り相定メ明治四十五年七月和蘭國政府ニ於テ千八百七十五年八月二十一日及千八百九十九年九月十八日付勅令海船積量測定規則ニ依リ測定シ千八百九十九年十月二十日以後交付シタル公正積量證書ヲ有スル和蘭國船舶並千九百二年一月三日以後交付シタル公正積量證書ヲ有スル西洋形蘭領印度船舶ハ臺灣諸港ニ於テ其積量ヲ測定スルコトナク其ノ證書ニ記載スル登簿噸數ハ日本船舶ノ登簿噸數ト同一ナリト看做ス

### 日瑞、諾間船舶積量互認

(明治三十五年四月)  
(台灣總督府令第二十三號)

船舶積量互認ノ件ニ關シ帝國政府ト瑞典及諾威兩國政府トノ間ニ取極メヲ爲シタルニ依リ左ノ條規ヲ定ム  
本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

第一條 千八百七十五年三月三十一日以後瑞典國政府ニ於テ交付シタル船舶積量測定證書ヲ受有スル瑞典國ノ帆船ハ臺灣諸港ニ於テ其ノ積量ヲ測定スルコトナク其ノ證書ニ記載スル登簿噸數ニ瑞典國ノ法令ニ依リ控除シタル部

分ニシテ帝國ノ船舶積量測定規則ニ依レハ控除ヲ許ササルモノノ噸數ヲ合セタルモノヲ帝國船舶ノ登簿噸數ト同一ナリト看做ス

第二條 千八百八十一年三月三十一日以後瑞典國政府ニ於テ交付シタル船舶積量測定證書ヲ受有スル瑞典國ノ汽船ハ臺灣諸港ニ於テ其ノ積量ヲ測定スルコトナク其ノ證書ニ記載スル登簿噸數ニ帝國ノ船舶積量測定規則ニ依レハ控除ヲ許ササル部分ニシテ該證書ニ其ノ控除ヲ明示シタル場所ノ噸數ヲ合セタルモノヲ帝國船舶ノ登簿噸數ト同一ナリト看做ス但シ瑞典國汽船ノ船長ヨリ申請アルトキハ特ニ帝國ノ船舶積量測定規則ニ定ムル割合ニ從ヒ機關室ニ對スル噸數ヲ控除シテ其登簿噸數ヲ算定ス

船舶積量測定證書ニ英吉利式ニ依リ測定シタル登簿噸數ノ記載アル場合ニ於テハ前項ノ規定ニ拘ラス該噸數ハ帝國船舶ノ登簿噸數ト同一ナリト看做ス

第三條 千八百九十三年十月一日以後諾威國政府ニ於テ交付シタル船舶ノ積量測定證書ヲ受有スル諾威國ノ汽船又ハ帆船ハ臺灣諸港ニ於テ其積量ヲ測定スルコトナク其ノ證書ニ記載スル登簿噸數ヲ帝國船舶ノ登簿噸數ト同一ナリト看做ス

### 南洋群島船舶積量測定規程

(昭和十四年六月)  
(南洋廳令第三十三號)

第一條 南洋群島船札規則ニ依リ船札ヲ受有スヘキ船舶ノ積量及其ノ測定ニ關シテハ本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條 船舶ノ積量ハ船舶ノ內法容積ヲ測定シ之ヲ定メ容積ノ單位ハ立方メートルトス

第三條 總積量又ハ純積量ヲ噸(三百五十三分ノ千立方メートル)ヲ以テ表シタルモノヲ夫々總噸數又ハ純噸數トス

第四條 船ノ長サトハ上甲板梁上ニ於テ船首材ノ前面ヨリ船尾材ノ後面ニ至ル水平距離ヲ謂フ

船ノ幅トハ船體最廣部ニ於テ肋骨ノ外面ヨリ外面ニ至ル水平距離ヲ謂フ

船ノ深サトハ船ノ長サノ中央ニ於テ龍骨ノ上面ヨリ上甲板梁ノ舷側ニ於ケル上面ニ至ル垂直距離ヲ謂フ

第五條 甲板ヲ備ヘサル船舶ニ在リテハ舷側外板ノ上面ヲ上甲板梁ノ上面ト看做スヘシ

低船首樓甲板、低船尾樓甲板又ハ之ニ準スヘキ甲板ヲ備フル船舶ニ在リテハ該甲板ノ部分ニ於テ之ト平行シテ上

日瑞、諾間船舶積量互認(台灣)・南洋群島船舶積量測定規程

甲板ノ延長面ヲ假定シ之ヲ上甲板ト看做スヘシ  
一部分ノミニ上甲板ヲ備フル船舶ニ在リテハ甲板無キ部分ニ於テ舷端ト平行シテ上甲板ノ延長面ヲ假定シ之ヲ上甲板ト看做スヘシ

前各項ノ外特殊ノ構造ヲ有スル船舶ニ在リテハ船ノ長サ幅及深サハ其ノ構造ニ應シ前條ノ規定ヲ準用シテ之ヲ定ムヘシ

第六條 長サ、幅、深サ及高サヲ測定スルニハメートルヲ以テ單位トシ單位下ハ二位ニ止メ第三位ハ四捨五入スヘシ容積及積量ヲ算定スルニハ單位下ハ三位ニ止メ第四位ハ四捨五入スヘシ但シ總噸數及純噸數ヲ算定スルニハ單位下ハ二位ニ止メ第三位ハ四捨五入スヘシ

第七條 甲板上備フル船舶ニ在リテハ上甲板下ノ積量ニ上甲板上蔽圍シタル場所ノ積量ヲ加ヘタルモノヲ總積量トス但シ左ニ掲ケル場所ニシテ上甲板上ニ在ルモノノ積量ハ之ヲ總積量ニ算入セス

- 一 機關室、操舵室、賄室及出入口室
- 二 採光通風ニ要スル場所及便所
- 三 長サ又ハ幅カ一米ートル未滿ナル暴露シタル艙口
- 四 南洋廳長官ニ於テ船舶ノ安全、衛生又ハ利用上前各



號ニ掲クルモノニ準スヘキモノト認ムル場所

甲板ヲ備ヘサル船舶ニ在リテハ舷端以下ノ積量ニ舷端以上蔽圍シタル場所ノ積量ヲ加ヘタルモノヲ總積量トス

第八條 船樓、甲板室其他上甲板上ノ場所ニシテ其ノ側壁又ハ端壁ニ幅九十一センチメートル以上高サ百二十二センチメートル以上ノ常設閉鎖裝置ヲ備ヘサル開口ヲ有スルモノハ前條ノ蔽圍シタル場所ト看做サス但シ旅客ニ供用セラルル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第九條 上甲板下又ハ舷端以下ノ積量ハ船ノ長サ幅及深サノ相乘積ニ船質ニ應シ左ノ係數ヲ乘シタルモノトス

鋼 船 ○・六二  
木 船 ○・五五

上甲板上又ハ舷端以上蔽圍シタル場所ノ積量ヲ算定スルニハ各場所ノ内法ノ平均ノ長サ、幅及高サヲ相乘シテ得タル容積ヲ加フヘシ

第十條 總積量ヨリ推進機關ヲ有セサル船舶ニ在リテハ總積量ノ百分ノ二十ヲ控除シタルモノ、推進機關ヲ有スル船舶ニ在リテハ總積量ノ百分ノ二十ヲ控除シ且ツ機關室ノ積量ノ一倍四分ノ三及總積量ノ百分ノ四十四ノ内少ナルモノヲ控除シタルモノヲ純噸數トス

機關室ノ積量ヲ算定スルニハ車軸室ノ部分ヲ除キ上甲板下又ハ舷端以下ニ於ケル機關室ノ内法ノ平均ノ長サ幅及深サヲ相乘スヘシ

第十一條 形狀複雑ナル場所ノ積量ハ其ノ場所ヲ二箇以上ニ區分シ各區分毎ニ算定シタル容積ヲ加ヘ又ハ之ニ準スル方法ニ依リ算定スルコトヲ得

附 則

本令ハ南洋群島船札規則施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

### 關東州巴拿馬運河噸數證書交付規則

(大正四年九月) 關東都督府令第二十九號

第一條 關東州ニ船籍港ヲ定ムル日本船舶ニ對シ巴拿馬運河噸數證書交付方ニ關シテハ本令ヲ以テ定ムルモノヲ除クノ外大正四年遞信省令第十號巴拿馬運河噸數證書交付規則ニ依ル

第二條 船舶ノ測度又ハ改測ヲ受ケタルトキハ船舶所有者ハ船舶手數料規則附錄船舶積量測度表手數料ニ定ムル測

### 英國船舶積量ニ關スル件

(大正十二年六月) 關東廳令第二十九號

船舶積量互認ノ件ニ關シ帝國政府ト英國政府トノ間ニ取極ヲ爲シタルニ依リ其ノ條規左ノ通定ム

英國相當官憲ニ於テ千八百九十五年一月一日以後交付シタル船舶積量測度ニ關スル證書ヲ有スル英國船舶ハ關東州諸港ニ於テ其ノ積量ヲ測度スルコトナク其ノ證書ニ記載スル噸數ハ關東州在籍船舶ノ噸數ト同一ナリト看做ス

附 則

本令ハ大正十二年六月二十日ヨリ之ヲ施行ス

### 獨逸國船舶積量ニ關スル件

(昭和四年六月) 關東廳令第十七號

獨逸國相當官憲ニ於テ千八百九十五年七月一日以後交付シタル船舶積量測度ニ關スル證書ヲ有スル獨逸國船舶ハ昭和四年六月一日以後關東州諸港ニ於テ其ノ積量ヲ測度スルコトナク其ノ證書ニ記載スル噸數ハ日本船舶ノ噸數ト同一ナリト看做ス

二〇九

度手數料ヲ納ムヘシ

第三條 噸數證書ノ交付、書換又ハ再交付ヲ受ケタルトキハ船舶所有者ハ證書一通ニ付手數料トシテ金四圓ヲ納ムヘシ

第四條 本令ニ依ル測度執行地ハ大連及旅順トシ噸數證書ハ「關東都督府」海務局長署名シテ之ヲ申請者ニ交付ス

第五條 本令ハ日本内地、朝鮮及臺灣ニ船籍港ヲ定ムル船舶及外國船舶ニ之ヲ準用ス

附 則

本令ハ大正四年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

### 日丁間船舶積量互認

(大正十一年九月) 關東廳令第六十七號

丁抹國相當官憲ニ於テ千八百九十五年四月一日以後交付シタル船舶積量測度ニ關スル證書ヲ有スル日丁抹國船舶ハ關東州諸港ニ於テ積量ヲ測度スルコトナク其ノ證書ニ記載スル噸數ハ關東州在籍船舶ノ噸數ト同一ナリト看做ス

附 則

本令ハ大正十一年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

關東州巴拿馬運河噸數證書交付規則・日丁間船舶積量互認(關東州)・英國船舶積量ニ關スル件(關東州)・獨逸國船舶積量ニ關スル件(關東州)



### 和蘭國船舶積載量ニ關ス

ル件 (明治四十五年六月) (關東都督府令第十七號)

和蘭國政府ニ於テ千八百七十五年八月二十一日及千八百九十九年九月十八日附勅令海船積載量測度規則ニ依リ測度シ千八百九十九年十月二十日以後交付シタル公正積載證書ヲ有

スル和蘭國船舶竝千九百二年一月三日以後交付シタル公正積載證書ヲ有スル西洋形蘭領印度船舶ハ關東州ニ於テ其ノ積載量ヲ測度スルコトナク其ノ證書ニ記載スル登簿噸數ハ日本船舶ノ登簿噸數ト同一ナリト看做ス

附 則

本令ハ明治四十五年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

### 第三章 船舶安全

#### 船舶安全法 (昭和八年三月) (法律第十一號)

- 第一條 日本船舶ハ本法ニ依リ其ノ堪航性ヲ保持シ且人命ノ安全ヲ保持スルニ必要ナル施設ヲ爲スニ非ザレバ之ヲ航行ノ用ニ供スルコトヲ得ズ
- 第二條 船舶ハ左ニ掲グル事項ニ付命令ノ定ムル所ニ依リ施設スルコトヲ要ス
  - 一 船體
  - 二 機關
  - 三 帆裝
  - 四 排水設備
  - 五 操舵、繫船及揚錨ノ設備
  - 六 救命及消防ノ設備
  - 七 居住設備
  - 八 衛生設備
  - 九 航海用具
  - 十 危險物其ノ他ノ特殊貨物ノ積附設備
  - 十一 荷役其ノ他ノ作業ノ設備
  - 十二 電氣設備
  - 十三 前各號ノ外主務大臣ニ於テ特ニ定ムル事項

前項ノ規定ハ左ニ掲グル船舶ニハ之ヲ適用セズ

- 一 總噸數五噸未満ノ船舶
- 二 櫓權ヲ以テ運轉スル舟其ノ他主務大臣ニ於テ特ニ定ムル船舶

第三條 遠洋區域ヲ航行スル船舶又ハ近海區域ヲ航行スル總噸數百五十噸以上ノ船舶ハ命令ノ定ムル所ニ依リ滿載吃水線ヲ標示スルコトヲ要ス但シ漁獵、曳船、海難救助、浚渫又ハ測量ニノミ使用スル船舶其ノ他主務大臣ニ於テ特ニ滿載吃水線ヲ標示スル必要ナシト認ムル船舶ハ此ノ限ニ在ラズ

第四條 左ニ掲グル船舶ハ無線電信法ニ依ル無線電信ヲ施設スルコトヲ要ス

- 一 遠洋區域又ハ近海區域ヲ航行スル總噸數千六百噸以上ノ船舶
- 二 遠洋區域又ハ近海區域ヲ航行スル旅客船 (十二人ヲ超ユル旅客定員ヲ有スル船舶)
- 三 總噸數百噸以上ノ漁船

前項ノ規定ニ依リ無線電信ノ施設ヲ要スル船舶ト雖モ航海ノ目的其ノ他ノ事情ニ依リ主務大臣ニ於テ已ムコトヲ得ズ又ハ必要ナシト認ムルトキハ之ヲ施設スルコトヲ要

和蘭國船舶積載量ニ關スル件 (關東州)・船舶安全法

セズ

第五條 船舶所有者ハ第二條第一項ノ規定ノ適用アル船舶ニ付同條第一項各號ニ掲グル事項、第三條ノ船舶ニ付滿載吃水線、第四條ノ船舶ニ付無線電信ニ關シ命令ノ定ムル所ニ依リ左ノ區別ニ依ル検査ヲ受クベシ

- 一 初メテ航行ノ用ニ供スルトキ又ハ第十條ニ規定スル有効期間滿了シタルトキ行フ精密ナル検査 (定期検査)
- 二 定期検査ト定期検査トノ中間ニ於テ命令ノ定ムル時期ニ行フ簡易ナル検査 (中間検査)
- 三 臨時ニ特殊ノ用途ニ使用スルトキ行フ検査 (特殊船検査)
- 四 前各號ノ外主務大臣ニ於テ特ニ必要アリト認メタルトキ行フ検査 (臨時検査)

第六條 本法施行地ニ於テ製造スル長サ三十メートル以上ノ船舶ノ製造者ハ第二條第一項ノ規定ノ適用アル船舶ニ付同條第一項第一號、第二號及第四號ニ掲グル事項、第三條ノ船舶ニ付滿載吃水線ニ關シ船舶ノ製造ニ著手シタル時ヨリ検査 (製造検査) ヲ受クベシ但シ主務大臣ニ於



テ已ムコトヲ得ズ又ハ必要ナシト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラズ

本法施行地ニ於テ製造スル長サ三十メートル未満ノ船舶ノ製造者ハ其ノ船舶ニ付命令ノ定ムル所ニ依リ前項ノ製造検査ヲ受クルコトヲ得

本法施行地ニ於テ製造スル船舶用機關ノ製造者ハ備付クベキ船舶ノ特定前ト雖モ其ノ機關ニ付命令ノ定ムル所ニ依リ検査ヲ受クルコトヲ得

前三項ノ規定ニ依ル検査ニ合格シタル事項ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ前條ノ検査ヲ省略ス

**第七條** 第五條又ハ前條第一項若ハ第二項ノ規定ニ依ル検査ハ主務大臣ノ特ニ定ムル場合ヲ除クノ外船舶ノ所在地ヲ管轄スル管海官廳之ヲ行フ

前條第三項ノ規定ニ依ル検査ハ船舶用機關ノ所在地ヲ管轄スル官廳之ヲ行フ

**第八條** 主務大臣ノ認定シタル日本ノ船級協會（以下單ニ船級協會ト稱ス）ノ検査ヲ受ケ船舶ノ登録ヲ爲シタル船舶ニシテ旅客船ニ非ザルモノハ其ノ船級ヲ有スル間第二條第一項第一號乃至第五號、第十號乃至第十二號ニ掲グル事項及滿載吃水線ニ關シ管海官廳ノ検査ヲ受ケ之ニ合

ノ有効期間満了ス

**第十一條** 船舶ニ付管海官廳ノ検査ヲ受ケタル者検査ニ對シ不服アルトキハ其ノ事由ヲ具シ主務大臣ニ再検査ヲ申請スルコトヲ得

再検査ヲ申請シタル者ハ主務大臣ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ關係部分ノ原狀ヲ變更スルコトヲ得ズ

**第十二條** 管海官廳ハ必要アリト認ムルトキハ何時ニテモ當該官吏ヲシテ船舶ニ臨檢セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ當該官吏ハ其ノ身分ヲ證明スベキ證票ヲ携帯スベシ

管海官廳ハ本法ニ違反シタル事實アリト認ムルトキハ船舶ノ航行停止其ノ他ノ處分ヲ爲スコトヲ得

**第十三條** 船舶乗組員二十人未満ノ船舶ニ在リテハ其ノ二分ノ一以上、其ノ他ノ船舶ニ在リテハ乗組員十人以上ガ命令ノ定ムル所ニ依リ當該船舶ノ堪航性又ハ居住設備衛生設備其ノ他ノ人命ノ安全ニ關スル設備ニ付重大ナル缺陷アルヲ旨ヲ申立テタル場合ニ於テハ管海官廳ハ其ノ事實ヲ調査シ必要アリト認ムルトキハ前條第二項ノ處分ヲ爲スコトヲ要ス

**第十四條** 日本船舶ニ非ザル船舶ニシテ左ニ掲グルモノニ

船舶安全法

格シタルモノト看做ス

**第九條** 管海官廳ハ定期検査ニ合格シタル船舶ニ對シテハ其ノ航行區域（漁船ニ付テハ從業制限）、最大搭載人員、制限汽壓及滿載吃水線ノ位置ヲ定メ船舶検査證書ヲ交付ス

管海官廳ハ特殊船舶検査ニ合格シタル船舶ニ對シテハ特殊船舶検査證書ヲ交付ス

管海官廳ハ第六條ノ規定ニ依ル検査ニ合格シタル船舶又ハ船舶用機關ニ對シテハ合格證明書ヲ交付ス

前條ノ船舶ニ付船級協會ノ定メタル制限汽壓及滿載吃水線ノ位置ハ管海官廳ニ於テ之ヲ定メタルモノト看做ス

**第十條** 船舶検査證書ノ有効期間ハ四年トス但シ命令ヲ以テ定ムル小形船ニ付テハ四年以内ニ於テ管海官廳ノ定メタル期間トス

船舶検査證書ハ主務大臣ノ特ニ定ムル場合ニ於テハ其ノ有効期間満了後五月迄ハ仍其ノ效力ヲ有ス

船舶検査證書ハ中間検査又ハ臨時検査ニ合格セザル船舶ニ付テハ之ニ合格スル迄其ノ效力ヲ停止ス

第八條ノ船舶ノ受有スル船舶検査證書ハ其ノ船舶ガ當該船舶ノ登録ヲ抹消セラレ又ハ旅客船舶ト爲リタルトキハ其

ハ勅令ヲ以テ本法ノ全部又ハ一部ヲ準用ス

一 本法施行地ノ各港間又ハ湖川港灣ノミヲ航行スル船舶

二 日本船舶ヲ所有シ得ル者ノ借入レタル船舶ニシテ本法施行地ト其ノ他ノ地トノ間ノ航行ニ從事スルモノ

三 前各號ノ外本法施行地ニ在ル船舶

**第十五條** 主務大臣ニ於テ前條第三號ニ掲グル船舶ノ所屬地ノ本法ニ該當スル法令ヲ相當ト認メタルトキハ之ニ基キタル船舶ノ堪航性又ハ人命ノ安全ニ關スル證書ハ本法ニ依リ交付シタル證書ト同一ノ效力ヲ有ス

前項ノ規定ハ本法ニ依リ交付シタル證書ノ效力ヲ認メザル國ニ屬スル船舶ニ付テハ之ヲ適用セズ

**第十六條** 船舶ノ堪航性及人命ノ安全ニ關シ條約ニ別段ノ規定アルトキハ其ノ規定ニ從フ

**第十七條** 滿載吃水線ノ標示ヲ隱蔽、變更又ハ抹消シタル者ハ百圓以上二千圓以下ノ罰金ニ處ス

**第十八條** 船舶所有者又ハ船長左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ船舶所有者及船長ヲ百圓以上二千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 船舶検査證書ヲ受有セズシテ船舶ヲ航行ノ用ニ供シ



又ハ特殊船舶検査證書ヲ受有セズシテ船舶ヲ特殊ノ用途ニ使用シタルトキ

二 航行區域ヲ超エ又ハ從業制限ニ違反シテ船舶ヲ航行ノ用ニ供シタルトキ

三 制限汽壓ヲ超エテ汽鐘ヲ使用シタルトキ

四 最大搭載人員ヲ超エテ旅客其ノ他ノ者ヲ搭載シタルトキ

五 満載吃水線ヲ超エテ載荷シタルトキ

六 無線電信ノ施設ヲ要スル船舶ヲ其ノ施設ナクシテ航行ノ用ニ供シタルトキ

七 中間検査ヲ受クベキ場合ニ於テ之ヲ受ケズシテ船舶ヲ航行ノ用ニ供シタルトキ

八 前各號ノ外船舶検査證書ニ記載シタル條件ニ違反シテ船舶ヲ航行ノ用ニ供シ又ハ特殊船舶検査證書ニ記載シタル條件ニ違反シテ船舶ヲ特殊ノ用途ニ使用シタルトキ

九 管海官廳ノ許可ヲ受ケズシテ検査ヲ受ケタル事項ニ變更ヲ爲シ又ハ其ノ事項ニ變更アリタルニ拘ラズ適當ノ措置ヲ爲サズシテ船舶ヲ航行ノ用ニ供シタルトキ

第十九條 詐僞其ノ他不正ノ行爲ヲ以テ第九條ニ掲グル證

書ヲ受ケタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十條 船舶所有者又ハ船長第十二條又ハ第十三條ノ規定ニ依ル處分ニ違反シタルトキハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十一條 正當ノ事由ナクシテ當該官吏ノ臨檢ヲ拒ミ妨ゲ若ハ忌避シ又ハ其ノ尋問ニ對シテ答辯ヲ爲サズ若ハ虛偽ノ陳述ヲ爲シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十二條 船舶乗組員虚偽ノ申立ヲ爲シ管海官廳ヲシテ第十三條ノ規定ニ依ル調査ヲ爲サシメタルトキハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十三條 船級協會ノ職員第八條ニ掲グル船舶ニ付第二條第一項第一號乃至第五號、第十號乃至第十二號ニ掲グル事項又ハ満載吃水線ノ検査ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求若ハ約束シタルトキハ三年以下ノ懲役ニ處ス因テ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ相當ノ行爲ヲ爲サザルトキハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ場合ニ於テ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒收ス若シ其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハザルトキハ其ノ價格ヲ追徴ス

第二十四條 船級協會ノ職員ニ前條ニ掲グル検査ニ關シ賄

賂ヲ交付、提供又ハ約束シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第二十五條 本法及本法ニ基ク命令ニ依リ船舶所有者ニ適用スベキ罰則ハ其ノ者ガ法人ナルトキハ理事、取締役其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ之ヲ適用シ國又ハ道府縣市町村其ノ他ノ公共團體ガ船舶所有者ナルトキハ之ヲ適用セズ

第二十六條 本法及本法ニ基ク命令中船舶所有者ニ關スル規定ハ船舶共有ノ場合ニ在リテ船舶管理人ヲ置キタルトキハ之ヲ船舶管理人ニ、船舶貸借ノ場合ニ在リテハ之ヲ船舶借入人ニ適用シ又船長ニ關スル規定ハ船長ニ代リテ其ノ職務ヲ行フ者ニ之ヲ適用ス

第二十七條 船舶ノ衝突豫防ニ關シ船舶ノ遵守スベキ船燈ノ表示、航法、信號其ノ他必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

前項ノ船舶ニハ海軍艦船ヲモ包含ス

船舶安全法

他船舶航行上ノ危険防止ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十九條 前二條ニ規定スル事項ヲ除クノ外地方長官ハ第二條第一項ノ規定ヲ適用セザル船舶ノ堪航性及人命ノ安全ニ關シ主務大臣ノ認可ヲ受ケ必要ナル規則ヲ設クルコトヲ得

附則

第三十條 本法施行ノ期日ハ第二條第一項第十一號ニ關スル規定、同條同項第十二號ニ關スル規定、第二十七條ノ規程竝ニ他ノ一般規定ニ付各別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十一條 船舶検査法、船舶満載吃水線法、船舶無線電信施設法及明治六年第二百九十二號布告ハ前項ノ一般規定施行ノ日ヨリ、海上衝突豫防法ハ第二十七條ノ規定ノ施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第三十二條 第二條第一項ノ規定ハ左ニ掲グル船舶ニハ當分ノ内之ヲ適用セズ

- 一 總噸數二十噸未満ノ帆船
  - 二 總噸數二十噸未満ノ漁船
  - 三 平水區域ノミヲ航行スル帆船
- 第三十三條 船舶満載吃水線法ニ依リ満載吃水線ノ標示ヲ



要セザリシ船舶ニシテ本法ニ依リ其ノ標示ヲ要スルモノニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ滿載吃水線ニ關スル検査ヲ受クル迄之ヲ標示セザルコトヲ得

**第三十四條** 本法施行前ニ生ジタル事項ニ付テハ仍舊法ニ依ル但シ船級協會ノ認定其ノ他命令ヲ以テ定ムル事項ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

**第三十五條** 船舶検査法ニ依リ船舶検査證書若ハ假證書ヲ受有スル船舶又ハ之ヲ受有セズシテ航行ノ用ニ供スル船舶ニハ左ノ各號ノ一ニ該當スルニ至ル迄船舶検査、滿載吃水線及無線電信施設ニ關シ仍舊法ニ依ル

- 一 航行期間満了ノ爲船舶検査法ニ依リ検査ヲ受クベキトキ
- 二 船舶検査法ニ依リ船舶検査證書又ハ假證書ヲ受有セズシテ航行ノ用ニ供シ得ザルニ至リタルトキ
- 三 船舶滿載吃水線法ニ依リ滿載吃水線ノ指定ヲ受クベキトキ

**第三十六條** 前條ノ船舶同條各號ノ一ニ該當スルニ至リタルトキ

### 船舶安全法施行令

(昭和九年一月 勅令第十三號)

**第一條** 船舶安全法第一條乃至第五條、第七條第一項、第八條、第九條第一項第二項第四項、第十條乃至第十二條第十六條乃至第二十一條、第二十三條乃至第二十六條及第二十九條ノ規定ハ日本船舶ニ非ザル船舶ニシテ同法第十四條各號ノ一ニ掲グルモノニ之ヲ準用ス

**第二條** 船舶安全法第十三條及第二十二條ノ規定ハ日本船舶ニ非ザル船舶ニシテ同法第十四條第一號又ハ第二號ニ掲グルモノニ之ヲ準用ス

**第三條** 遞信大臣漁船ニ關シ左ニ掲グル事項ニ付法律勅令ノ制定改廢案ヲ閣議ニ提出シ若ハ省令ノ制定改廢ヲ爲サントスルトキ又ハ漁船ニ關シ船舶安全法第二十九條ノ認可ヲ爲サントスルトキハ濠洲農林大臣ニ議スベシ

- 一 船舶ノ構造設備及之ニ關スル法ノ適用範圍
- 二 滿載吃水線ノ標示及無線電信施設ニ關スル法ノ適用範圍

船舶安全法・船舶安全法第二條第一項第十二號ニ關スル規定及同法第三十條ノ一般規定施行期日ノ件・船舶安全法施行令・船舶安全法施行規則

ルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ検査ヲ受クベシ

前項ノ検査ニ合格シタル船舶ニハ船舶検査證書ヲ交付ス但シ其ノ有効期間ハ四年以内ニ於テ管海官廳ノ定メタル期間トス

前項ノ有効期間ノ満了ハ第五條第一項ノ規定ノ適用ニ付テハ之ヲ第十條ニ規定スル有効期間ノ満了ト看做ス

**第三十七條** 他ノ法令中航路定限、遠洋航路、近海航路、沿海航路又ハ平水航路トアルハ各之ヲ航行區域、遠洋區域、近海區域、沿海區域又ハ平水區域トス

### 船舶安全法第二條第一項 第十二號ニ關スル規定及 同法第三十條ノ一般規定 施行期日ノ件 (昭和九年一月 勅令第十二號)

船舶安全法第二條第一項第十二號ニ關スル規定及同法第三十條ノ一般規定ハ昭和九年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

- 三 船舶ノ從業制限
- 四 船舶検査ノ種類、時期及機關

#### 附 則

本令ハ昭和九年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

外國船舶検査規則ハ之ヲ廢止ス

船舶安全法第三十二條乃至第三十六條ノ規定ハ日本船舶ニ非ザル船舶ニシテ同法第十四條第一號又ハ第二號ニ掲グルモノニ、同法第三十二條及第三十三條ノ規定ハ日本船舶ニ非ザル船舶ニシテ同法第十四條第三號ニ掲グルモノニ之ヲ準用ス

日本船舶ニ非ザル船舶ニシテ船舶安全法第十四條第三號ニ掲グルモノニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ本令施行後一年ヲ限リ本令ニ依ラザルコトヲ得

### 船舶安全法施行規則

(昭和九年二月 遞信省令第四號)

改正 昭和十五年四月 遞信省令第二十二號

#### 第一章 總則



- 第二章 構造及設備
- 第三章 滿載吃水線
- 第四章 無線電信
- 第五章 航行區域
- 第六章 最大搭載人員
- 第七章 制限汽壓
- 第八章 検査ヲ行フ場合
- 第九章 検査申請ノ手續
- 第十章 検査ノ執行
- 第十一章 検査ノ方法
- 第一節 製造検査
- 第二節 定期検査
- 第三節 中間検査
- 第四節 特種船検査及臨時検査
- 第五節 雜則
- 第十二章 検査ノ準備
- 第十三章 證書
- 第十四章 再検査

- 第十五章 船舶乗組員ノ不服申立
- 第十六章 船級協會
- 第十七章 航海上ノ危險防止
- 第十八章 雜則
- 第十九章 罰則
- 附則

船舶安全法施行規則

第一章 總則

- 第一條 本令ニ於テ國際航海ト稱スルハ別ニ告示スル區域内ノ航海ヲ除クノ外一國ト他ノ國トノ間ノ航海ヲ謂フ
- 各殖民地、海外領土、保護領又ハ宗主權若ハ委任統治ノ下ニ在ル地域ハ前項ノ規定ノ適用ニ付テハ之ヲ一國ト看做ス
- 第二條 本令ニ於テ短國際航海ト稱スルハ航海中海岸ヨリ二百海里ヲ超エザル國際航海ヲ謂ヒ長國際航海ト稱スルハ短國際航海以外ノ國際航海ヲ謂フ
- 第三條 本令ニ於テ漁船ト稱スルハ左ノ各號ノ一ニ該當スル船舶ヲ謂フ

- 一 専ラ漁獵ニ從事スル船舶
  - 二 漁獵ニ從事スル船舶ニシテ漁獲物ノ保藏又ハ製造設備ヲ有スルモノ
  - 三 専ラ漁獵場ヨリ漁獲物又ハ其ノ化製品ヲ運搬スル船舶
  - 四 専ラ漁業ニ關スル試験、調査、指導若ハ練習ニ從事スル船舶又ハ漁業ノ取締ニ從事スル船舶ニシテ漁獵設備ヲ有スルモノ
- 前項第一號ノ船舶ニハ其ノ附屬漁船ヲ以テ漁獵ニ從事スル船舶ヲ、前項第二號ノ船舶ニハ其ノ附屬漁船ヲ以テ漁獵ニ從事シ且其ノ漁獲物ノ保藏又ハ製造ニ從事スル船舶ヲモ包含ス
- 第四條 本令ニ於テ移民船ト稱スルハ船舶安全法施行地内ノ港ニ於テ移民若ハ三等旅客五十人以上又ハ移民及三等旅客ヲ併セ五十人以上ヲ搭載シ近海區域外ノ港又ハ別ニ告示スル地方ニ到ル船舶ヲ謂フ
- 前項ノ移民トハ移民保護法第一條ニ該當スル者ヲ謂ヒ三等旅客トハ一室ニ八人以上雜居スル者ヲ謂フ
- 第五條 本令ニ於テ臨時旅客ト稱スルハ臨時ニ搭載シ得ル者ニシテ近海區域又ハ別ニ告示スル區域ニ於テハ漁夫、

船舶安全法施行規則

- 木材積取人夫、移住民其ノ他之ニ準ズル者又ハ軍隊、沿海區域ニ於テハ遊覽其ノ他ノ團體旅客ヲ謂フ
- 第六條 本令ニ於テ甲板旅客ト稱スルハ近海又ハ遠洋ノ航行區域ヲ有スル船舶ガ船舶安全法施行地ヲ除クノ外東ハ東經百八十度、西ハ同四十度、南ハ南緯十一度、北ハ北緯三十五度ノ線ニ依リ限ラレタル區域、紅海、黃海又ハ渤海灣ニ於テ船舶ノ暴露甲板上ニ搭載スル旅客ヲ謂フ
- 第七條 本令ニ於テ船舶ノ長サト稱スルハ船舶ノ上甲板梁上ニ於テ船首材ノ前面ヨリ船尾材ノ後面ニ至ル長サヲ謂フ
- 第八條 本令ノ規定ニ依ル申請、届出又ハ證書若ハ證明書ノ返還ハ特ニ定ムル場合ヲ除クノ外船舶所有者又ハ船長之ヲ爲スベシ

第二章 構造及設備

- 第九條 船舶安全法第二條第一項ノ規定ハ倉庫船、繫留船、被曳船其他之ニ準ズル船舶ニハ之ヲ適用セズ
- 第十條 船舶安全法第二條第一項ノ規定ニ依リ船舶ニ施設スベキ事項及其ノ標準ハ鋼船ノ船體ニ付テハ鋼船構造規程、木船ノ船體ニ付テハ木船構造規程、機關ニ付テハ船



船舶機關規程、設備及屬具ニ付テハ船舶設備規程ノ定ムル所ニ依ル

**第十一條** 船舶安全法第三條ノ規定ニ依リ滿載吃水線ヲ標示スベキ船舶ハ前條ノ規定ニ依ルノ外其ノ船體及設備ニ付國際航海ニ從事スル旅客船ニ在リテハ船舶滿載吃水線規程及船舶區畫規程、其ノ他ノ船舶ニ在リテハ船舶滿載吃水線規程ノ定ムル所ニ依ル

**第十二條** 船舶安全法第二條第一項ノ規定ニ依リ漁船ニ付特ニ施設スベキ事項及其ノ標準ハ漁船特殊規程ノ定ムル所ニ依ル

第三章 滿載吃水線

**第十三條** 水先船、專ラ漁業ニ關スル試驗、調査、指導若ハ練習ニ從事スル船舶、漁業ノ取締ニ從事スル船舶又ハ肋骨ヲ有セズ且推進機關ヲ有セザル木船、「ジアンク」其ノ他ノ原始的構造ノ木船ハ滿載吃水線ヲ標示スルコトヲ要セズ

**第十四條** 汽船ノ滿載吃水線ハ季節及區域ニ應ジ左ノ種類ニ分ツ

- 一 夏期滿載吃水線
- 二 冬期滿載吃水線

**第十七條** 甲板積木材貨物ヲ運送スル汽船ハ船舶滿載吃水線規程ノ定ムル所ニ依リ木材滿載吃水線ヲ標示スルコトヲ得

- 一 夏期木材滿載吃水線
- 二 冬期木材滿載吃水線
- 三 冬期北大西洋木材滿載吃水線
- 四 熱帶木材滿載吃水線
- 五 前各號ニ掲グル滿載吃水線ニ對應スル各淡水木材滿載吃水線

**第十八條** 船舶ハ平水區域又ハ瀬戸内（和歌山縣海草郡田倉崎ヨリ兵庫縣津名郡生石鼻ニ至ル線、兵庫縣三原郡門崎ヨリ德島縣板野郡孫崎ニ至ル線、愛媛縣西宇和郡佐田岬ヨリ大分縣北海部郡關崎ニ至ル線及福岡縣企救郡門司崎ヨリ山口縣豐浦郡甲山ニ至ル線内ノ區域）ニ於テハ滿載吃水線ヲ超ユル吃水ヲ以テ航行スルコトヲ得但シ平水區域又ハ瀬戸内ニ出航セントスル船舶ニ付テハ其ノ區域内ニ於ケル最後ノ港ヲ發航スルトキノ超過吃水ハ該港ヨリ其ノ區域外ニ達スル迄ニ推進ノ爲消費スベキモノノ重量ニ相當スルモノヨリ大ナルコトヲ得ズ

船舶安全法施行規則

- 三 冬期北大西洋滿載吃水線
  - 四 熱帶滿載吃水線
  - 五 前各號ニ掲グル滿載吃水線ニ對應スル各淡水滿載吃水線帆船ノ滿載吃水線ハ季節及區域ニ應ジ左ノ種類ニ分ツ
    - 一 海水滿載吃水線
    - 二 冬期北大西洋滿載吃水線
    - 三 前各號ニ掲グル滿載吃水線ニ對應スル各淡水滿載吃水線
- 滿載吃水線ノ位置ノ決定竝ニ船舶ニ標示スベキ滿載吃水線ノ種類及標示ノ方法ハ船舶滿載吃水線規程ノ定ムル所ニ依ル
- 第十五條** 國際航海ニ從事スル旅客船ハ前條ノ規定ニ依リ滿載吃水線ノ外區畫滿載吃水線ヲ標示スルコトヲ要ス區畫滿載吃水線ノ位置ノ決定及標示ノ方法ハ船舶區畫規程ノ定ムル所ニ依ル
- 第十六條** 國際航海ニ從事スル旅客線ニシテ特ニ旅客室ヲ貨物搭載場所トシテ使用スルコトアルベキモノハ當該場所ノ使用狀態ニ對應スル二箇以上ノ區畫滿載吃水線ヲ標示スルコトヲ得

前項ノ規定ハ區畫滿載吃水線ニ付テハ之ヲ適用セズ

**第十九條** 船舶ガ船積港ヲ發航シタル後不可抗力ニ因リ豫定ノ航路ヲ變更シ又ハ航海ヲ遲延シタル爲其ノ吃水ガ當該季節及區域ニ付定メラレタル滿載吃水線ヲ超ユルニ至リタルトキト雖モ其ノ儘其ノ目的港迄航行スルコトヲ得

**第二十條** 滿載吃水線ヲ標示シタル船舶ガ其ノ標示ヲ要セザルモノト爲リタルトキ又ハ木材滿載吃水線ヲ標示シ得ザルニ至リタルトキハ船舶所有者又ハ船長ハ當該標示ヲ抹消スベシ但シ臨時ニ標示ヲ要セザルモノト爲リタル場合ニ於テハ之ヲ存續スルコトヲ得

**第二十一條** 前條ノ規定ニ依リ滿載吃水線ノ標示ノ全部ヲ抹消スベキ場合ニ於テハ乾舷甲板ヲ標示スル水平線及圓標ノ中心ヲ通過スル水平線ニ限り之ヲ存置スルモ妨ナシ

第四章 無線電信

**第二十二條** 左ノ各號ノ一ニ該當スル船舶ハ無線電信ヲ設置セザルコトヲ得但シ漁船ニ付テハ漁船特殊規則ノ定ムル所ニ依ル

- 一 旅客船ニシテ海岸ヨリ二十海里ヲ超エザル區域内又ハ相次グ二港間ノ外海ニ於ケル距離二百海里ヲ超エザル航路ノミヲ航行スルモノ



二 旅客船ニシテ別表第一號ニ定ムル区域内ノミテ航行スルモノ

三 旅客船ニ非ザル船舶ニシテ海岸ヨリ百五十海里ヲ超

エザル区域内ノミテ航行スルモノ

四 無線電信ヲ施設スルコト實際上不可能ナル原始的構

造ノ船舶ニシテ管海官廳ノ認可ヲ受ケタルモノ

第二十三條 船舶安全法第四條第一項ノ規定ニ依リ無線電

信ヲ施設スベキ船舶ト雖モ左ノ各號ノ場合ニ該當スルト

キハ管海官廳ノ認可ヲ受ケ一定期間ヲ限り無線電信ヲ施

設セザルコトヲ得

一 無線電信ノ施設ナクシテ航行スルコトヲ得ル航路ニ

就航スル爲他ヨリ回航スルトキ

二 無線電信ノ施設ヲ要セザル船舶ガ航路、噸數又ハ旅

客定員ノ變更ノ爲其ノ施設ヲ要スルモノト爲リタルモ、

直ニ之ヲ爲スコト能ハザル事由アルトキ

三 無線電信ノ施設ヲ要セザル船舶ガ臨時ニ旅客定員ヲ

變更シタル爲其ノ施設ヲ要スルモノト爲リタルトキ

前項第二號又ハ第三號ノ場合ニ於テ當該船舶ガ國際航海

ニ從事スルモノナルトキハ臨時ニ之ニ從事スル場合ヲ除

クノ外前項ノ規定ハ之ヲ適用セズ

第二十四條 第二十二條第四號ノ認可ヲ受ケントスルトキ

ハ其ノ事由ヲ具シタル申請書ヲ前條ノ認可ヲ受ケントス

ルトキハ其ノ事由及期間ヲ記載シタル申請書ヲ最寄管海

官廳ニ提出スベシ

第五章 航行區域

第二十五條 航行區域ヲ分チテ左ノ四種トス

一 平水區域

二 沿海區域

三 近海區域

四 遠洋區域

第二十六條 平水區域ハ湖川港内及左ニ掲グル各區域トス

第一區 神奈川縣三浦郡千駄崎ヨリ同郡笠島ヲ經テ千葉

縣君津郡富崎ヨリ至ル線内

第二區 静岡縣清水市三保崎ヨリ同縣田方郡御濱崎ニ至

ル線内

第三區 愛知縣渥美郡伊良湖崎ヨリ三重縣志摩郡菅島ヲ

經テ同郡松ヶ鼻ニ至ル線内

第四區 和歌山縣東牟婁郡駒崎ヨリ同郡太地崎ニ至ル線

内

第五區 和歌山縣有田郡宮崎ヨリ同縣海草郡田倉崎ヲ經

テ兵庫縣津名郡生石鼻ニ至ル線及同郡江崎燈臺ヨリ眞

方位三百三十度ニ引キタル線内

第六區 兵庫縣加古郡加古川ヨリ同縣飾磨郡男鹿島及

香川縣小豆郡大角鼻ヲ經テ同縣大川郡馬ノ鼻ニ至ル

線、愛媛縣温泉郡響山ヨリ山口縣大島郡平群島ヲ經テ

同縣熊毛郡長島東端ニ至ル線並ニ同島小山ノ鼻ヨリ同

郡揖取崎ニ至ル線内

第七區 山口縣熊毛郡島田川ヨリ同縣都濃郡笠戸島火

振崎ヲ經テ同縣佐波郡向島翁崎ニ至ル線及同島牛ヶ頸

ヨリ同縣吉敷郡丸尾崎ニ至ル線内

第八區 愛媛縣西宇和郡女岬崎ヨリ同縣東宇和郡大崎ヲ

經テ同縣北宇和郡赤塔鼻ニ至ル線内

第九區 大分縣東國東郡美濃崎ヨリ同縣北海部郡關崎、

同郡沖無指島、同郡保戸島及同縣南海部郡大島ヲ經テ

同郡鶴見崎ニ至ル線内

第十區 山口縣厚狹郡宇部岬ヨリ福岡縣企救郡尾上川口

ニ至ル線並ニ福岡縣遠賀郡沖田崎ヨリ同縣企救郡馬島

及山口縣豊浦郡六連島ヲ經テ同郡村崎鼻ニ至ル線内

第十一區 山口縣大津郡今岬ヨリ同郡青海島西北端ニ至

ル線及同島東端ヨリ同郡阿武郡虎ヶ崎ニ至ル線内

第十二區 福岡縣糸島郡西浦三崎ヨリ同縣糟屋郡志賀島

大崎ニ至ル線内

第十三區 福岡縣糸島郡串崎ヨリ佐賀縣東松浦郡神集島

及同郡加部島ヲ經テ同郡波戸崎ニ至ル線内

第十四區 佐賀縣東松浦郡值賀崎ヨリ同郡向島、長崎縣

北松浦郡黒島及同郡青島ヲ經テ同郡津崎ニ至ル線内

第十五區 長崎縣上縣郡唐洲崎ヨリ同縣下縣郡郷崎ニ至

ル線及同郡折瀬鼻ヨリ眞方位零度ニ引キタル線内

第十六區 長崎縣北松浦郡大瀬崎ヨリ同郡平戸島魚見崎

ニ至ル線及同島坊山崎ヨリ同郡黒島ヲ經テ同郡七郎崎

ニ至ル線内

第十七區 長崎縣北松浦郡向後崎ヨリ同縣西彼杵郡番所

崎ニ至ル線内

第十八區 長崎縣西彼杵郡三重崎ヨリ同郡野母崎ニ至ル

線内

第十九區 長崎縣南高來郡瀬詰崎ヨリ熊本縣天草郡天草

下島大島崎ニ至ル線、同島鶴崎ヨリ同郡下須島「ビシ

ヤゴ」瀬ノ鼻ニ至ル線、同島尾崎ヨリ鹿兒島縣出水郡

長島大崎ニ至ル線及同島南端ヨリ眞方位九十度ニ引キ

タル線内



- 第二十區 鹿兒島縣指宿郡金比羅ノ鼻ヨリ同縣肝屬郡小根占埼ニ至ル線内
- 第二十一區 鹿兒島縣大島郡奄美大島神ノ鼻ヨリ同郡加計呂麻島「カネンテ」埼ニ至ル線及同島西端ヨリ同郡江仁屋離、同郡奄美大島曾津高埼及同郡技手久島戸倉埼ヲ經テ同郡奄美大島倉木埼ニ至ル線内
- 第二十二區 島根縣知夫郡知夫島帶ケ埼ヨリ同郡西ノ島漕廻鼻ニ至ル線、同島東端ヨリ同縣海士郡中ノ島北端ニ至ル線及同島本櫓ケ埼ヨリ同縣知夫郡知夫島東端ニ至ル線内
- 第二十三區 島根縣八束郡地藏埼ヨリ鳥取縣西伯郡日野川口ニ至ル線内
- 第二十四區 京都府與謝郡鷺埼ヨリ同府加佐郡博奕埼ニ至ル線内
- 第二十五區 福井縣敦賀郡立石埼ヨリ同郡「ヲカ」埼ニ至ル線内
- 第二十六區 石川縣鳳至郡沖波鼻ヨリ同縣鹿島郡觀音埼ニ至ル線内
- 第二十七區 青森縣東津輕郡明神埼ヨリ同縣下北郡貝埼ニ至ル線内

- 第二十八區 宮城縣宮城郡花淵埼ヨリ同縣桃生郡宮戸島萱ノ埼ニ至ル線内
- 第二十九區 北海道上磯郡葛登支埼ヨリ同龜田郡函館山大鼻岬ニ至ル線内
- 第三十區 北海道壽都郡辨慶岬ヨリ同磯谷郡尻別川口ニ至ル線内
- 第三十一區 北海道高島郡高島岬ヨリ同小樽郡神威古潭ニ至ル線内
- 第三十二區 北海道釧路郡尻羽岬ヨリ同厚岸郡大黒島ヲ經テ同郡「ルムセシマ」岬ニ至ル線内
- 第三十三區 臺北州野柳半島龜頭鼻ヨリ同州基隆島ヲ經テ同州鼻頭角ニ至ル線内
- 第三十五區 澎湖廳馬公要港區域内
- 第三十五區 高雄州猫鼻頭ヨリ同州鷺鑾鼻ニ至ル線内
- 第二十七條 沿海區域ハ左ニ掲グル各區域トス
  - 一 北海道本島、北海道國後島、同擇捉島、同色丹島、同志勃島、同禮文島、同利尻島、同奧尻島、本州、青森縣久六島、島根縣隱岐列島、山口縣見島、四國、九州、長崎縣五島列島、熊本縣天草島、鹿兒島縣甌列島、同縣大隅群島、臺灣本島、澎湖列島、臺北州彭佳嶼、

- 臺灣廳火燒島及同廳紅頭嶼ノ各海岸ヨリ二十海里以内ノ區域
- 二 千葉縣安房郡野島埼ヨリ東京府神津島ヲ經テ靜岡縣加茂郡石室埼ニ至ル線内ノ區域
- 三 秋田縣由利郡鹽越鼻ヨリ石川縣船倉島ヲ經テ石川縣鳳至郡猿山埼ニ至ル線内ノ區域
- 四 山口縣豐浦郡觀音埼ヨリ慶尙南道蔚埼ニ至ル線及長崎縣北松浦郡生月島北端ヨリ全羅南道古突山半島南東端ニ至ル線内ノ區域
- 五 北海道宗谷郡野寒岬ヨリ樺太西能登呂岬ニ至ル線及北海道宗谷郡宗谷岬ヨリ樺太中知床岬ニ至ル線内ノ區域
- 六 東京府鰐島、父島及母島ノ各海岸ヨリ二十海里以内ノ區域
- 七 鹿兒島縣奄美群島ノ各海岸ヨリ二十海里以内ノ區域
- 八 沖繩縣沖繩島及同縣島尻郡ノ各島ノ海岸ヨリ二十海里以内ノ區域
- 第二十八條 近海區域ハ東ハ東經百七十五度、西ハ同九十四度、南ハ南緯十一度、北ハ北緯六十三度ノ線ニ依リ限ラレタル區域トス

- 近海區域ハ之ヲ左ノ三區ニ分ツ
- 第一區 東ハ東經百七十五度、西ハ同百十三度、南ハ北緯二十一度、北ハ同六十三度ノ線ニ依リ限ラレタル區域
- 第二區 東ハ東經百三十度、西ハ同百二度、南ハ北緯四度、北ハ同二十七度ノ線ニ限ラレタル區域及暹羅海灣
- 第三區 東ハ東經百七十五度、西ハ同九十四度、南ハ南緯十一度、北ハ北緯二十一度ノ線ニ依リ限ラレタル區域ヨリ第二區ノ區域ヲ除キタル區域
- 第二十九條 遠洋區域ハ總テノ海面ヲ包含スル區域トス
- 第三十條 管海官廳船舶ノ航行區域ヲ定ムルニ當リ船舶ノ種類、構造、設備、大小若ハ用途又ハ季節ニ依リ必要アリト認ムルトキハ區域ヲ制限シ又ハ之ニ期間ヲ附スルトヲ得
- 第三十一條 管海官廳ハ第二級船ニ付テハ遠洋ノ航行區域ヲ、第三級船ニ付テハ近海以上ノ航行區域ヲ、第四級船ニ付テハ沿海以上ノ航行區域ヲ定ムルコトヲ得ズ
- 第三十二條 管海官廳總噸數二百噸未滿ノ旅客船ニ付沿海ノ航行區域ヲ定ムル場合ニハ左ニ掲グル區間ヲ包含センムルコトヲ得ズ



- 一 北海道宗谷郡宗谷岬ヨリ同斜里郡知床岬ニ至ル區間
  - 二 擇捉島沿岸
  - 三 北海道十勝郡大津川口ヨリ同幌泉郡襟裳岬ニ至ル區間
  - 四 青森縣下北郡尻矢崎ヨリ同縣三戸郡馬淵川口ニ至ル區間
  - 五 宮城縣宮城郡花淵崎ヨリ福島縣雙葉郡請戸川口ニ至ル區間
  - 六 茨城縣東茨城郡大洗岬ヨリ千葉縣長生郡大東崎ニ至ル區間
  - 七 靜岡縣榛原郡御前崎ヨリ愛知縣渥美郡伊良湖崎ニ至ル區間
- 第三十三條** 船舶安全法施行地外ノ各港間又ハ湖川港内ノミヲ航行スル船舶ノ航行區域ハ管海官廳ニ於テ第二十六條乃至第二十八條ノ規定ニ準ジ之ヲ定ムルコトヲ得
- 第三十四條** 平水ノ航行區域ヲ有スル船舶ハ管海官廳ノ認可ヲ受ケ當該區域ヨリ其ノ船舶ノ最快速力ヲ以テ二時間以内ニ又平穩ナル季節ニ限リ四時間以内ニ往復シ得ベキ平水區域外ニ航行スルコトヲ得
- 第三十五條** 特殊ノ用途ニ使用スル船舶已ムコトヲ得ザル

事由アルトキハ管海官廳ノ認可ヲ受ケ其ノ航行區域外ニ航行スルコトヲ得

**第三十六條** 前二條ノ規定ニ依ル認可ヲ受ケントスルトキハ事由ヲ具シタル申請書ヲ最寄管海官廳ニ提出スベシ前條ノ場合ニ於テ旅客又ハ貨物ヲ搭載セントスルトキハ申請書ニ其ノ旨ヲ附記スベシ

**第三十七條** 船舶左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ管海官廳ノ認可ヲ受ケ其ノ航行區域ヲ超エテ之ヲ回航スルコトヲ得

- 一 日本船舶ヲ所有スルコトヲ得ザル者ニ船舶ヲ讓渡スル目的ヲ以テ之ヲ船舶安全法施行地外ニ回航スルトキ
  - 二 船舶ヲ修繕シ又ハ検査ヲ受クル爲之ヲ工場所在地又ハ検査ヲ受クル場所ニ回航スルトキ
  - 三 航行區域外ニ在ル船舶ヲ航行區域内ニ回航スルトキ
  - 四 航行區域變更ノ爲船舶ヲ航行區域外ニ回航スルトキ
- 前項ノ規定ニ依ル認可ヲ受ケントスルトキハ事由ヲ具シタル申請書ヲ最寄管海官廳ニ提出スベシ
- 第一項各號ノ場合ニ於テ旅客又ハ貨物ヲ搭載セントスルトキハ申請書ニ其ノ旨ヲ附記スベシ
- 第三十八條** 船舶検査證書ノ有効期間内ニ於テ航行區域ヲ

變更セントスルトキハ申請書ニ新舊航行區域ヲ列記シ船舶検査手帖ヲ添ヘ之ヲ最寄管海官廳ニ提出シ其ノ認可ヲ受クベシ

**第三十九條** 漁船ノ從業制限ハ漁船特殊規則ノ定ムル所ニ依ル

依ル

第六章 最大搭載人員

**第四十條** 最大搭載人員ハ管海官廳ニ於テ船舶ノ航行區域、設備等ニ應ジ旅客、船員及其ノ他ノ者ニ付各別ニ之ヲ定ム

旅客、船員及其ノ他ノ者ハ各其ノ最大搭載人員ヲ超エ又ハ其ノ搭載場所ニ對スル定員ヲ超エテ之ヲ搭載スルコトヲ得ズ但シ傷病船員ノ補充、海難救助其ノ他已ムコトヲ得ザル事由ニ因リ臨時ニ搭載シタル人員ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

**第四十一條** 最大搭載人員算定ノ標準ハ船舶設備規程ノ定ムル所ニ依ル但シ漁船ニ付テハ漁船特殊規程ノ定ムル所ニ依ル

**第四十二條** 船舶ニ搭載スル人員ハ十二年未滿ノ者二人ヲ以テ一人ニ換算シ一年以下ノ者ハ之ヲ算入セズ

**第四十三條** 左ニ掲グル者ハ旅客ト看做サズ

船舶安全法施行規則

- 一 船舶所有者、船舶管理人、船舶借入人及船荷上乗人
  - 二 税關吏員、檢疫吏員、通信吏員、水先人其ノ他船員
- ニ非ズシテ船内ニ於テ業務ニ従事スル者

**第四十四條** 第五十七條第一項第二號第三號又ハ第二項ノ規定ニ依リ特殊船舶検査ヲ受ケ之ニ合格シタル船舶ハ船舶検査證書ニ記載スル最大搭載人員ノ外特殊船舶検査證書ニ記載スル人員ヲ搭載スルコトヲ得但シ臨時ノ遊覽其ノ他ノ團體旅客ヲ搭載スル船舶ニ付テハ其ノ運送區域ガ平水區域ニ非ザルトキハ當該船舶ノ總噸數二百噸以上、航行豫定時間六時間未滿ニシテ且管海官廳ニ於テ離島其ノ他交通不便ナル地方ノ旅客運送上已ムコトヲ得ズト認メタル場合ニ限ル

**第四十五條** 船舶検査證書ノ有効期間内ニ於テ最大搭載人員ヲ變更セントスルトキハ事由ヲ具シタル申請書ニ船舶検査手帖ヲ添ヘ之ヲ最寄管海官廳ニ提出シ其ノ認可ヲ受クベシ

**第四十六條** 旅客室ニハ其ノ見易キ場所ニ左ノ各號ノ規定ニ依ル表示ヲ爲スベシ

- 一 一等室及二等室ニハ各室ニ其ノ等級及定員ヲ表示スベシ但シ總出入口其ノ他適當ノ場所ニ等級ノ表示ヲ爲



ストキハ各室ニ之ヲ表示セザルモ妨ナク又其ノ定員ガ寢臺數ト同一ナル室ニハ之ヲ表示セザルモ妨ナシ

二 三等室ニハ各室ニ其ノ等級及定員ヲ表示シ且雜居客棚ヲ設ケタル室ニ在リテハ各客棚ノ定員ヲ記入シタル客棚配置圖ヲ掲グベシ

三 臨時旅客ヲ搭載スル室ニハ其ノ旅客ノ種類及定員ヲ表示スベシ

旅客若ハ船員ニ非ザル者ヲ搭載スル室及雜居船員室ニハ其ノ室名及定員ヲ、其ノ他ノ船員室ニハ其ノ室名ヲ表示スベシ

**第四十七條** 旅客室ト船員室トハ常ニ區別シ置クベシ

旅客及船員ハ第四十三條各號ニ掲グル者ノ室ニ之ヲ搭載スルコトヲ得ズ

旅客室又ハ船員室ニ第四十三條各號ニ掲グル者ヲ搭載シタルトキハ最大搭載人員ニ關シテハ之ヲ旅客又ハ船員ト看做ス

**第四十八條** 旅客、船員又ハ其ノ他ノ者ノ室ニ貨物ヲ搭載シタルトキハ該室ノ定員ヨリ貨物ノ占有スル場所ニ相當スル人員ヲ減少シタルモノヲ以テ其ノ定員ト看做ス

第七章 制限汽壓

**第四十九條** 制限汽壓ハ機關ノ構造及現狀ニ應ジ船舶機關規定ニ依リ之ヲ定ム

**第五十條** 制限汽壓ヲ定メタルトキハ管海官廳ハ逃汽試驗ヲ執行シテ安全瓣ヲ封鎖ス其ノ封鎖ヲ解放シタルトキ亦同シ

**第五十一條** 船長ハ安全瓣ノ鍵ヲ船内ニ保管シ已ムコトヲ得ザル事由アル場合ヲ除クノ外安全瓣ノ封鎖ヲ解放スルコトヲ得ズ

已ムコトヲ得ザル事由ニ因リ安全瓣ノ封鎖ヲ解放シタルトキハ船長ハ遲滞ナク最寄管海官廳ニ其ノ事由ヲ具シ更ニ安全瓣ノ封鎖ヲ申請スベシ

第八章 検査ヲ行フ場合

**第五十二條** 船舶安全法第二條第一項ノ規定ノ適用ヲ受ケザル船舶ガ其ノ適用ヲ受クルモノト爲リタルトキハ定期検査ヲ受クベシ

**第五十三條** 定期検査ハ船舶検査證書ノ有効期間内ト雖モ申請ニ依リ管海官廳ニ於テ其ノ時期ヲ繰上ゲ之ヲ行フコトヲ得

**第五十四條** 中間検査ハ船舶検査證書ノ有効期間内ニ於テ汽船及蒸汽機關ヲ有スル帆船ニ在リテハ其ノ定期検査又

ハ中間検査ヲ受ケタル時ヨリ十二月毎ニ、其ノ他ノ帆船ニ在リテハ其ノ定期検査ヲ受ケタル時ヨリ二十四月毎ニ之ヲ行フ

前項ノ規定ニ依リ中間検査ヲ受クベキ時期ニ該當スルモノ之ヲ受ケズシテ引續キ航海ヲ爲スコトヲ必要トスル事情アル船舶ニ付テハ第二百二十二條ノ規定ヲ準用ス

**第五十五條** 第一百八條各號ノ一ニ該當スル船舶ハ中間検査ヲ受クルコトヲ要セズ

前項ノ船舶ガ第一百八條各號ニ該當セザル船舶ト爲リタルトキハ管海官廳ニ於テ當該船舶ノ現狀ニ應ジ次回中間検査ヲ受クベキ時期ヲ指定ス

**第五十六條** 中間検査ハ之ヲ受クベキ時期ニ該當セザル場合ト雖モ申請ニ依リ管海官廳ニ於テ其ノ時期ヲ繰上ゲ之ヲ行フコトヲ得

**第五十七條** 特殊船舶検査ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ之ヲ行フ

- 一 移民船ガ船舶安全法施行地ニ於ケル最後ノ港ヲ發航セントスルトキ
- 二 船舶ガ臨時旅客ヲ運送セントスルトキ
- 三 船舶ガ甲板旅客ヲ運送セントスルトキ

船舶安全法施行規則

漁船ニ付テハ漁船特殊規則ノ定ムル場合ニ於テ特殊船舶検査ヲ行フ

**第五十八條** 臨時検査ハ船舶ガ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ之ヲ行フ

- 一 第三十六條第一項、第三十七條第二項、第三十八條、第四十五條、第五十一條第二項、第二百二十二條第三項若ハ第三百三十五條第二項ノ規定ニ依リ申請又ハ第一百七十七條ノ規定ニ依リ届出アリタル場合ニ於テ管海官廳検査ヲ行フノ必要アリト認メタルトキ
- 二 修繕、自然衰耗其ノ他ノ事由ニ因リ満載吃水線ヲ變更スベキ必要アルトキ
- 三 満載吃水線ヲ標示シ又ハ無線電信ヲ施設スルコトヲ要セザル船舶ガ満載吃水線ヲ標示シ又ハ無線電信ヲ施設スルコトヲ要スルモノト爲リタルトキ
- 四 第十六條ノ規定ニ依リ區畫満載吃水線ヲ標示シ又ハ第十七條第一項ノ規定ニ依リ木材満載吃水線ヲ標示セントスルトキ
- 五 管海官廳ノ指定スル所ニ依リ船舶ノ特定部分ニ付検査ヲ受クベキ時期ニ該當シタルトキ
- 六 前各號ニ掲グル場合ノ外船舶検査書ニ記載シタル事



項ニ變更ヲ生ジタル場合ニ於テ管海官廳検査ヲ行フノ必要アリト認メタルトキ  
 七 其ノ他管海官廳ニ於テ検査ヲ行フノ必要アリト認メタルトキ

**第五十九條** 船舶検査證書ノ有効期間内ニ繋船ヲ再ビ航行ノ用ニ供セントスル場合ニ於テ繋船期間中ニ中間検査ヲ受クベキ時期ヲ經過シタルトキハ中間検査ヲ、未ダ中間検査ヲ受クベキ時期ニ該當セザルトキハ臨時検査ヲ受クベシ

**第六十條** 中間検査ヲ受クベキ場合ニ於テ定期検査ヲ受ケタルトキハ中間検査ヲ、臨時検査ヲ受クベキ場合ニ於テ定期検査又ハ中間検査ヲ受ケタルトキハ臨時検査ヲ行ハズ

**第六十一條** 朝鮮若ハ關東州ノ船籍又ハ外國ノ國籍ヲ取得スル目的ヲ以テ船舶安全法施行地ニ於テ製造セララルル船舶ニ付テハ製造検査ヲ行ハズ

**第六十二條** 管海官廳ハ船舶検査執行地外ニ於テ製造セラ

ル船舶ニ付テハ船舶安全法第六條第一項ノ規定ニ依ル製造検査ヲ行ハザルコトヲ得

船舶検査執行地外ニ於テ製造セララルル船舶ニ付テハ船舶安全法第六條第二項ノ規定ニ依ル製造検査ヲ行ハズ

**第六十三條** 船舶用機關ニシテ其ノ備附クベキ船舶ノ特定セザルモノハ左ノ各號ニ掲グルモノニ限り船舶安全法第六條第三項ノ規定ニ依ル検査ヲ受クルコトヲ得

一 往復動汽機 汽筒ノ徑ノ和ガ五百ミリメートル以上ノモノ

二 タービン汽機 三百軸馬力以上ノモノ

三 發動機 汽筒ノ徑ノ和ガ五百ミリメートル以上ノモノ

四 汽罐受熱面積ガ二十平方メートル以上ノモノ

第九章 検査申請ノ手續

**第六十四條** 定期検査、中間検査、特殊船舶検査又ハ臨時検査ヲ受ケントスルトキハ船舶検査申請書(第一號書式)ヲ管海官廳ニ提出スベシ

船舶検査申請者ハ船舶ガ初メテ検査ヲ受クル場合ヲ除クノ外船舶検査申請書ニ船舶検査手帖ヲ添付スベシ

**第六十五條** 初メテ滿載吃水線ニ關スル検査ヲ受ケントスルトキハ船舶検査申請書ニ左ニ掲グル圖面ヲ添付スベシ

水面ノ中心(浮泛中心)ニ至ル距離ヲ示ス曲線圖

四 可許長曲線圖

五 可許長計算表

**第六十七條** 製造検査ヲ受ケタル船舶ニ付初メテ定期検査ヲ受ケントスルトキハ船舶検査申請書ニ其ノ合格證明書ヲ添付スベシ但シ製造検査ニ引續キ定期検査ヲ受ケントスル船舶ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

船舶安全法第六條第三項ノ規定ニ依ル検査ヲ受ケタル船舶用機關ヲ船舶ニ備附クル場合ニ於テ検査ヲ受ケントスルトキ亦前項ニ同ジ

**第六十八條** 船舶安全法第八條ニ掲グル船舶ニ付管海官廳ノ検査ヲ受ケントスルトキハ船舶検査申請書ニ當該船級協會ノ検査ニ關スル證明書ヲ添付スベシ

**第六十九條** 製造検査ヲ受ケントスルトキハ船舶ノ製造者ハ製造者手前製造検査申請書(第二號書式)ヲ管海官廳ニ提出スベシ

前項ノ申請書ニハ製造仕様書並ニ船體及機關ノ各部ノ構造及配置ヲ示ス圖面ヲ添付スベシ

**第七十條** 船舶安全法第六條第三項ノ規定ニ依ル検査ヲ受ケントスルトキハ船舶用機關ノ製造者ハ機關検査申請書

但シ管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムルトキノ其ノ一部ヲ省略スルコトヲ得

一 船體中央橫截面圖(縦通板各條ノ幅ヲモ記載スベシ)

二 船體中心線縱截面ノ諸材構造配置圖

三 甲板及船内平面ノ諸材構造配置圖

四 甲板平面圖

五 船體線圖

六 排水量曲線圖(最上層全通甲板迄ノ各吃水ニ對スル全排水量及每一センチメートル排水量ヲ示スモノ)

前項第五號及第六號ノ圖面ハ鋼船ニ在リテハ肋骨ノ外面ニ、木船ニ在リテハ外板ノ外面ニ對スルモノナルコトヲ要ス

**第六十六條** 前條第一項ニ掲グル圖面ノ外木材滿載吃水線ノ指定ヲ受ケントスルトキハ甲板積木材貨物ノ積附及定著ニ要スル裝置並ニ其ノ配置ヲ示ス圖面ヲ、區畫滿載吃水線ノ指定ヲ受ケントスルトキハ左ノ書類ヲ船舶検査申請書ニ添付スベシ

一 限界線迄ノ各吃水ニ對スル浮力ノ中心ヨリ縱ノ「メタセンター」ニ至ル高サヲ示ス曲線圖

二 限界線迄ノ各吃水ニ對スル船舶ノ長サノ中央ヨリ吃



(第三號書式)ヲ管海官廳ニ提出スベシ

船舶用機關ノ製造中ヨリ前項ノ検査ヲ受ケントスルトキハ機關検査申請書ニ製造仕様書及機關ノ構造ヲ示ス圖面ヲ添附シ製造著手前之ヲ管海官廳ニ提出スベシ

第七十一條 第十六條ノ規定ニ依リ二箇以上ノ區畫滿載吃

水線ヲ標示セントスル船舶ニ付テハ船舶検査申請書ニ貨物ヲ搭載スルコトアルベキ旅客室ノ詳細ナル關係事項ヲ記載シタル書類ヲ添附スベシ

第七十二條 第七十五條ノ規定ニ依リ休暇日ニ検査ヲ受ケ

ントスルトキハ成ルベク二日前迄ニ其ノ旨ヲ管海官廳ニ申出ヅベシ

第十章 検査ノ執行

第七十三條 検査ハ船舶検査執行地ニ於テ之ヲ行フ

船舶検査執行地ハ別ニ之ヲ告示ス

第七十四條 検査ハ申請ニ依リ船舶検査執行地外ニ於テ之

ヲ行フコトアルベシ但シ船舶安全法第六條第三項ノ規定ニ依ル検査ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ規定ニ依リ検査ヲ受ケントスルトキハ検査申請者ハ其ノ事由ヲ申請書ニ附記スベシ

第七十五條 逕信大臣ノ特ニ指定シタル船舶検査執行地ニ

於テハ急速ノ検査ヲ必要トスル場合ニ限り休暇日ト雖モ

検査ヲ行フ、管海官廳ハ事務ノ都合ニ依リ前項ノ船舶検査

執行地外ニ於テモ臨時ニ休暇日検査ヲ行フコトアルベシ

第七十六條 船舶ノ検査ヲ行フトキハ検査事項ニ應ジ船長

又ハ機關長、若シ船長又ハ機關長差支アルトキハ之ニ代

リテ其ノ職務ヲ行フ船舶職員之ニ立會フベシ

前項ニ掲グル者ノ乗組マザル船舶ノ検査、製造検査又ハ

船舶用機關ノ検査ヲ行フトキハ検査申請者ハ適當ノ者ヲ

指定シテ之ニ立會ハシムベシ

第七十七條 前條ニ依リ検査ニ立會ヒタル者ハ検査ニ必要

ナル援助ヲ爲シ又ハ書類ヲ査閲ニ供スベシ

第七十八條 検査ニ立會フ者ナキトキ又ハ検査ニ立會ヒタ

ル者前條ノ規定ニ違反シタルトキハ管海官廳ハ検査ノ執

行ヲ停止スルコトヲ得

第七十九條 管海官廳ハ検査ノ爲必要アリト認ムルトキハ

第六十四條乃至第七十一條ニ掲グル書類ノ外必要ナル書

類ノ提出ヲ命ズルコトヲ得

第八十條 検査申請者已ムコトヲ得ザル事由アルトキハ事

由ヲ具シタル書面ヲ管海官廳ニ提出シ其ノ検査ヲ他ノ管

海官廳ニ引繼又ハ囑託センコトヲ申請スルコトヲ得

前項ノ申請アリタル場合ニ於テ管海官廳差支ナシト認ム

ルトキハ其ノ検査ヲ他ノ管海官廳ニ引繼又ハ囑託スルコ

トヲ得

第八十一條 管海官廳滿載吃水線ヲ定メタルトキハ船舶滿

載吃水線指定書(第四號書式)ヲ検査申請者ニ交付ス

検査申請者船舶滿載吃水線指定書ノ交付ヲ受ケタルトキ

ハ船舶ニ滿載吃水線ヲ標示シ書面又ハ口頭ヲ以テ管海官

廳ニ標示ノ検査ヲ受ケントスル期日及場所ヲ申出ヅベシ

第八十二條 管海官廳定期検査、中間検査、特殊船検査又

ハ臨時検査ヲ結了シタルトキハ船舶検査手帖ヲ封緘シ之

ヲ船長ニ交付ス船長ハ船舶検査手帖ヲ船内ニ保管スベシ

船舶検査手帖ハ管海官廳又ハ帝國領事官ニ於テ檢閲スル

場合ヲ除クノ外何人ト雖モ之ヲ開封スルコトヲ得ズ

第八十三條 船舶検査手帖ヲ滅失又ハ毀損シタルトキハ船

長ハ遲滞ナク其ノ事由ヲ具シ最寄管海官廳ニ再交付ヲ申

請スベシ

船舶検査手帖ノ毀損ニ因リ其ノ再交付ヲ受ケタルトキハ

船長ハ之ト引換ニ舊手帖ヲ當該管海官廳ニ返還スベシ

船舶検査手帖ノ封緘ヲ毀損シタルトキハ船長ハ遲滞ナク

其ノ事由ヲ具シ最寄管海官廳ヨリ更ニ其ノ封緘ヲ受クベ

船舶安全法施行規則

シ

第十一章 検査ノ方法

第一節 製造検査

第八十四條 製造検査ニ於テハ船體、機關及設備ノ設計、

材料並ニ工事ニ付検査ヲ行フ

第八十五條 製造検査申請者ハ工事著手前製造仕様書及圖

面ニ依リ設計ニ付検査ヲ受ケ且左ノ各號ノ時期ニ於テ工

事ニ付検査ヲ受クベシ

一 船體

(一) 龍骨ヲ据附クルトキ並ニ船首材及船尾材ヲ建立セ

ントスルトキ

(二) 肋骨組成中及組成後建立セントスルトキ

内龍骨、縦通材及梁ヲ取附ケントスルトキ

甲板及外板ヲ數枚張りタルトキ

(三) 水壓試験ヲ執行スルトキ

(四) 外板ヲ張り了リ未ダ船底包板又ハ塗料ヲ施サザル

トキ

(五) 船體完成シタルトキ

(六) 其ノ他海海官廳ニ於テ指定シタルトキ

二 機關



海事法令集

- (一) 諸軸、諸桿又ハ「タービン」汽機ノ「ローター」ノ粗削ヲ爲シタルトキ
  - (二) 發動機ノ氣槽又ハ汽罐ニ使用スル鋼板ノ「マーキング」ヲ行ヒタルトキ
  - (三) 發動機ノ氣槽若ハ汽罐ノ各部ヲ曲線、鍛接又ハ熔接シタルトキ
  - (四) 發動機ノ氣槽又ハ汽罐ノ各部ノ組立ヲ爲シ銕孔ヲ仕上ゲタルトキ
  - (五) 汽機、發動機、空氣壓縮機若ハ「ポンプ」ノ要部船尾管、推進器又ハ復水器ノ仕上ヲ了リタルトキ
  - (六) 汽機、發動機、空氣壓縮機、氣槽、汽罐、過熱器復水器、「ポンプ」又ハ減速装置ノ組立ヲ了リタルトキ
  - (七) 水壓試驗ヲ執行スルトキ
  - (八) 其ノ他管海官廳ニ於テ指定シタルトキ
- 前項第二號ノ發動機ニハ船舶ノ推進ニ關係アル補發動機ヲ、汽罐ニハ補汽罐ヲ、諸軸ニハ船舶ノ推進ニ關係アル補發動機ノ「クランク」軸ヲモ包含ス

第二節 定期検査

第八十六條 定期検査ニ於テハ左ノ各號ニ掲グル事項ニ付精密ナル検査ヲ行フ

- 一 船體及ビ機關
- 二 設備及屬具
- 三 滿載吃水線
- 四 無線電信施設

第八十七條 船體ニ關スル定期検査ニ於テハ二重底、水槽、油槽及活魚艙ノ水壓試驗、外板、水密隔壁、軸路及水密戸ノ水密試驗並ニ水密戸ノ開閉裝置、載貨門、載炭門舷窓及上甲板諸開口ノ閉鎖裝置ノ效力試驗ヲ行フ但シ管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムルモノニ付テハ水密試驗ヲ省略スルコトヲ得

第八十八條 機關ニ關スル定期検査ニ於テハ新ニ使用スル機關又ハ其ノ部分ニ於テハ船舶機關規程ニ依リ、既ニ使用シタル機關又ハ其ノ部分ニ付テハ左表ニ依リ水壓試驗ヲ行フ但シ左表第一欄及第三欄ニ掲グルモノヲ除クノ外管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムルモノニ於テハ水壓試驗ヲ省略スルコトヲ得

欄	種	別	試	驗	壓	力
一	新ニ重大ナル修繕ヲ施シタル汽罐	汽罐ノ制限汽壓ガ每平方七冠以上ナルトキハ其ノ二冠以上ナルトキハ其ノ五冠ニ付テハ左表ニ依リ水壓試驗ヲ行フ但シ左表第一欄及第三欄ニ掲グルモノヲ除クノ外管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムルモノニ於テハ水壓試驗ヲ省略スルコトヲ得	汽罐ノ制限汽壓ニ每平方	七冠以上ナルトキハ其ノ	二冠以上ナルトキハ其ノ	五冠ニ付テハ左表ニ依リ水
二	重大ナル修繕ヲ施サザル汽罐	汽罐ノ制限汽壓ニ每平方	五冠以上ナルトキハ其ノ	二冠以上ナルトキハ其ノ	五冠ニ付テハ左表ニ依リ水	壓
三	主汽管	汽罐ノ制限汽壓ノ二倍	汽罐ノ制限汽壓ノ二倍			
四	正給水管及副給水管	汽罐ノ制限汽壓ノ二倍	汽罐ノ制限汽壓ノ二倍			
五	復水器ノ管取附部	復水器ノ頂部上ニ二米ノ水	復水器ノ頂部上ニ二米ノ水			
六	噴油「ポンプ」ノ送油弁ヨリ噴油器ニ至ル管並ニ燃料油加熱器及其ノ附屬具	常用最大壓力ノ二倍及毎平方冠二冠ノ中大ナル	常用最大壓力ノ二倍及毎平方冠二冠ノ中大ナル			
七	前欄ニ掲グルモノヲ除キ機關室ニ在ル油管	每平方冠二冠	每平方冠二冠			
八	燃料油ト接觸スル加熱用蒸氣管	常用最大汽壓ノ二倍	常用最大汽壓ノ二倍			
九	蒸氣過熱器	汽罐ノ制限汽壓ノ二倍	汽罐ノ制限汽壓ノ二倍			
十	潤滑油裝置	常用最大壓力ノ二倍	常用最大壓力ノ二倍			

船舶安全法施行規則

十一	壓縮空氣管	常用最大壓力ノ一・五倍
十二	冷却裝置	常用最大壓力ノ二倍
十三	銕接合又ハ無接合ノ氣槽	制限壓力ノ一・五倍
十四	銕接合又ハ熔接合ノ氣槽	制限壓力ノ二倍
十五	油槽	頂板上ニ二・五米ノ水高壓

力ニ相當スル壓力但シ強壓油槽ニ付テハ其ノ常用壓力ノ二倍

第八十九條 定期検査ニ於テハ左ノ設備及屬具ニ付效力試驗ヲ行フ但シ已ムコトヲ得ザル事由アル場合ニ於テハ其ノ全部又ハ一部ヲ省略スルコトヲ得

- 一 排水裝置
- 二 消防裝置
- 三 操舵、繫船、揚錨及揚貨ノ裝置
- 四 羅針儀、測量器其ノ他ノ航海用具
- 五 端艇揚卸裝置
- 六 汽笛又ハ汽角
- 七 信號器



八 端艇、救命筏、救命浮器其ノ他ノ救命器具  
九 照明装置

第九十條 定期検査ハ船舶ヲ入渠又ハ上架セシメテ之ヲ行フ但シ検査申請者ヨリ特ニ申請アリタル場合ニ於テ管海官廳之ヲ正當ト認メタルトキハ其ノ指定スル時期迄入渠又ハ上架ヲ猶豫スルコトヲ得

前項ノ規定ニ拘ラズ總噸數五十噸未滿ノ木船ニ於テハ据船ノ儘又湖川ノミヲ航行スル船舶ニ付テハ管海官廳ノ適當ト認ムル状態ニ於テ定期検査ヲ行フコトヲ得

第九十一條 汽船ノ第一回定期検査ニ於テハ速力試験ヲ執行ス

汽船ノ第二回以後ノ定期検査ニ於テハ前回速力試験執行後速力ニ直接關係アル事項ニ變更ヲ加ヘタル場合ニ在リテハ速力試験ヲ、其ノ他ノ場合ニ在リテハ試運轉ヲ執行ス但シ旅客船ニ非ザル船舶ニ付テハ管海官廳ノ見込ニ依リ試運轉ヲ省略スルコトヲ得

第九十二條 管海官廳船舶ノ定期検査ヲ執行シタルトキハ其ノ構造、材料、工事及現状ニ應ジ且左表ニ掲グル長サ及速力ヲ標準トシ船舶ノ資格ヲ定ム但シ海難救助船、漁業ノ取締ニ從事スル船舶其ノ他特殊ノ用途ニ使用スル船

船ニ付テハ左表ニ依ラザルコトヲ得

資 格	第一級 船		第二級 船		第三級 船		第四級 船	
	汽 船	帆 船	汽 船	帆 船	汽 船	帆 船	汽 船	帆 船
船 種	汽 船	帆 船	汽 船	帆 船	汽 船	帆 船	汽 船	帆 船
長サ(米)	六〇以上	二五以上	三〇以上	二〇以上	二〇以上	無制限	無制限	無制限
最速力(時間ニ付)	一〇海里以上		八海里以上		六海里以上			

甲板有セザル船舶、頂部ヲ水密ニ爲シ得ザル船舶又ハ進水後二十年以上ノ推進機關ヲ有スル木船ハ之ヲ第一級船又ハ第二級船ト爲スコトヲ得ズ

船舶ノ資格ハ管海官廳ニ於テ其ノ現状ニ應ジ必要アリト認ムルトキハ何時ニテモ之ヲ變更スルコトヲ得

第三節 中間検査

第九十三條 中間検査ニ於テハ第八十六條各號ニ掲グル事項ニ付簡易ナル検査ヲ行フ

管海官廳特ニ必要アリト認ムルトキハ特定ノ事項ニ付定期検査ニ準ジ中間検査ヲ行フコトヲ得検査申請者ヨリ特ニ申請アリタル場合ニ於テ管海官廳之ヲ正當ト認メタルトキ亦同ジ

第九十四條 左ノ各號ニ掲グル船舶ヲ除キ鋼船ノ中間検査ニ於テハ船舶ヲ入渠又ハ上架セシメテ其ノ船底、舵及推進器ヲ検査ス

- 一 湖川ノミヲ航行スル船舶
- 二 旅客船ニ非ザル船舶ニシテ長サ十五メートル未滿ノモノ

第九十條第一項但書ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス  
第一項各號ニ掲グル船舶ノ中間検査ニ於テ管海官廳必要アリト認ムルトキハ之ヲ入渠又ハ上架セシムルコトヲ得

第四節 特殊船舶検査及臨時検査

第九十五條 特殊船舶検査ニ於テハ第五十七條ニ掲グル各場合ニ應ジ必要ナル居住、衛生、救命及消防ノ設備其ノ他人命ノ安全ニ關スル設備ヲ検査ス

第九十六條 臨時検査ニ於テハ第五十八條各號ノ場合ニ應

船舶安全法施行規則

管海官廳ニ於テ必要ト認ムル事項ニ付検査ヲ行フ  
第五節 雜 則

第九十七條 船舶安全法第六條第三項ノ規定ニ依ル船舶用機關ノ検査ニ付テハ製造中検査ナルカ又ハ出來上リ検査ナルカノ區別ニ從ヒ船舶ノ製造検査又ハ定期検査ニ關スル規定ヲ準用ス

第九十八條 定期検査ニ於テハ前回ノ中間検査又ハ其ノ後ノ検査ニ於テ定期検査ニ準ジ検査ヲ行ヒタル事項ニ關シテハ管海官廳ノ見込ニ依リ精密ナル検査ヲ省略スルコトヲ得

中間検査ニ於テハ其ノ以前六月以内ニ中間検査ニ準ジ検査ヲ執行シタル事項ニ付テハ管海官廳ノ見込ニ依リ其ノ検査ヲ省略スルコトヲ得

第九十九條 同型ノ汽機又ハ發動機ニ依ル推進軸系二箇以上ヲ有スル船舶ノ機關ニ關スル定期検査ニ於テハ機關ノ年齢、現状、製造検査又ハ船舶安全法第六條第三項ノ規定ニ依ル製造中検査ヲ受ケタルモノナリヤ否ヤ等ヲ考慮シ管海官廳ニ於テ特ニ差支ナシト認ムル場合ニ限り其ノ検査ノ方法ヲ斟酌スルコトヲ得  
十二月毎ニ中間検査ヲ受クベキ船舶ノ機關ノ部分ニシテ



製造検査又ハ船舶安全法第六條第三項ノ規定ニ依ル製造中検査ヲ受ケタルモノニ付テハ當該部分ノ年齢、現狀等ヲ考慮シ管海官廳ニ於テ特ニ差支ナシト認ムル場合ニ限リ其ノ検査ノ方法ヲ斟酌スルコトヲ得

**第百條** 製造検査ヲ受ケタル船舶ノ第一回定期検査又ハ船舶安全法第六條第三項ノ規定ニ依ル検査ヲ受ケタル機關ヲ船舶ニ備附クル場合ノ検査ニ於テハ管海官廳ニ於テ特ニ必要アリト認ムル場合ノ外既ニ検査ヲ受ケタル事項ノ検査ヲ省略ス

**第百一條** 定期検査又ハ中間検査ニ於テハ左ノ各號ノ一ニ該當スル船舶ニ付テハ其ノ螺旋軸ヲ拔取り検査ヲ行フ但シ湖川ノミヲ航行スル船舶又ハ旅客船ニ非ザル長サ十五メートル未満ノ船舶ニ付テハ管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムル場合ニ限リ之ヲ省略スルコトヲ得

- 一 螺旋軸ガ船舶機關規程ニ定ムル第一種螺旋軸ニシテ前回拔取りテ検査シタル後三年ヲ經タルトキ又ハ次回中間検査若ハ定期検査ノ期日迄ニ三年ニ達スベキトキ
- 二 螺旋軸ガ船舶機關規程ニ定ムル第二種螺旋軸ニシテ前回拔取りテ検査シタル後二年ヲ經タルトキ又ハ次回中間検査若ハ定期検査ノ期日迄ニ二年ニ達スベキトキ

備ヲ爲シテ定期検査ヲ受ケタル船舶ノ次回定期検査ニ於テハ第一種準備、第一種準備ヲ爲シテ定期検査ヲ受ケタル船舶ノ次回定期検査ニ於テハ第二種準備、第二種準備ヲ爲シテ定期検査ヲ受ケタル船舶ノ次回定期検査ニ於テハ第三種準備ヲ爲スベシ

進水後二十五年ヲ經過シタル船舶ノ定期検査ニ於テハ管海官廳ハ前項ノ規定ニ拘ラズ第三種準備ヲ爲サシムルコトヲ得

**第百六條** 第一種準備ハ左ノ各號ニ依ルベシ

- 一 船體ノ内外部適當ノ場所ニ足場ヲ設クルコト
- 二 石炭及脚荷ヲ取出シ船體ニ固著セザル物品ハ成ルベク取片附ケ又滲水道覆板及通風路覆板ハ悉ク取除ケ泥芥箱ヲ開キ滲水吸水管ノ芥除ヲ露出シ船體ノ内外部ヲ總テ掃除スルコト
- 三 主トシテ日本ト外國トノ間ヲ航行スル汽船ニ於テハ食料品其ノ他ノ雜品置場、庖廚、船艙等鼠ノ棲息スル場所ハ硫黃燻蒸其ノ他適當ノ方法ヲ以テ鼠ノ驅除ヲ行ヒ滲水道ハ海水ヲ以テ洗滌シ便所其ノ他不潔ナル場所ハ消毒藥液ヲ以テ消毒ヲ行ヒ飲料水槽ハ石灰乳ヲ以テ洗滌シ又ハ蒸汽ヲ通ジテ掃除スルコト

船舶安全法施行規則

前項ニ依リ螺旋軸ヲ拔取り検査スベキ場合ト雖モ検査申請者ヨリ特ニ申請アリタル場合ニ於テ管海官廳之ヲ正當ト認メタルトキハ其ノ検査ヲ行フ爲臨時検査ヲ受クベキ時期ヲ指定シ該時期迄螺旋軸ノ拔取りヲ猶豫スルコトヲ得

**第百二條** 管海官廳検査ヲ行フニ當リ必要アリト認ムルトキハ第九十一條ニ該當セザル場合ト雖モ船舶ノ速力試験若ハ試運轉又ハ機關ノ試運轉ヲ執行スルコトヲ得

**第百三條** 検査申請者ハ本章ノ規定ニ從ヒ検査ノ準備ヲ爲スベシ

**第百四條** 船體ニ關スル定期検査ノ準備ヲ分チテ左ノ三種トス

- 一 第一種準備
- 二 第二種準備
- 三 第三種準備

**第百五條** 第一回定期検査ニ於テハ當該船舶ガ進水後四年未満ナルトキハ第二種準備、四年以上ナルトキハ第三種準備ヲ爲スベシ但シ製造検査ヲ受ケタル船舶ニ付テハ管海官廳ニ於テ準備ヲ輕減セシムルコトヲ得

製造検査ヲ受ケタル船舶ノ第二回定期検査又ハ第三種準備

- 四 水槽及水槽ニ使用スル二重底ハ其ノ出入口ヲ開キテ水ヲ排出シ内部ヲ掃除シ検査ニ支障ナカラシムルコト
- 五 入渠又ハ上架シタル船舶ノ舵ヲ扛舉又ハ取外シ舵針及壺金等ヲ検査スルニ支障ナカラシメ且鋼船ニ在リテハ船底外部ニ附著セル海藻、介殼等ヲ落シ又木船ニ在リテハ船底包板及毛紙ノ幾分ヲ取去リ外板ノ現狀、填隙及固著釘ヲ検査スルニ支障ナカラシムルコト
- 六 鋼船ニ於テハ首尾ヲ通ジテ中心線ノ兩側ニ於テ兩舷トモ船底内張板ヲ一條宛取離スコト

- 木船ニ於テハ首尾ニ於テ兩舷トモ船舶ノ長サノ五分ノ一間内龍骨ト最下層梁トノ間ニ於テ内張板一條宛取離シ且艙内ニ防熱裝置ヲ施セル部分アルトキハ管海官廳ノ指示スル部分ニ於テ内張板ヲ取離シ防熱部ノ一部ヲ露出スルコト
- 七 木船ニ於テ鐵敲釘又ハ鐵螺釘ヲ用ウルトキハ最下層梁ノ位置ニ於テ兩舷トモ鐵敲釘又ハ鐵螺釘ヲ六本以上宛拔取ルコト但シ該釘ガ外板ヲ貫通セザルトキハ兩舷トモ該部ノ外板ヲ一枚宛取離スコト

- 木船ニ於テ龍骨、船首材及船尾材ノ固著釘ガ鐵敲釘又ハ鐵螺釘ナルトキハ管海官廳ノ指示スル部分ニ於テ鐵



- 八 敲釘又ハ鐵螺釘ヲ拔取ルコト
  - 九 汽罐ノ下部ヲ検査シ得ル準備ヲ爲スコト
  - 十 船首尾又ハ燃料油ノ積載ニ使用スルモノト雖モ其ノ出入口ヲ開キ油ヲ排出シテ内部ヲ掃除シ危險性瓦斯ヲ排除シ検査ニ支障ナカラシムルコト
  - 十一 二重底、水槽、油槽及活魚艙ノ水壓試験ノ準備ヲ爲スコト
  - 十二 第八十七條ニ掲グル水密試験ノ準備ヲ爲スコト
  - 十三 満載吃水線ノ標示ヲ検査スルニ必要ナル足場及型板ヲ準備スルコト
- 第一百七條** 第二種準備ハ前條ノ外左ノ各號ニ依ルベシ
- 一 鋼船ニ於テハ船ノ首尾ヲ通ジ彎曲部ニ於テ内張板ヲ一條宛取離シ且二重底、深水槽及深油槽ノ部分ニ於ケル内張板ヲ全部取離スコト
  - 二 木船ニ於テハ首尾ヲ通ジテ底部肋材ヲ検査スルニ最モ適當ナル位置ニ於テ兩舷トモ内張板又ハ外板ヲ一條宛

- 取離シ且首尾ヲ通ジテ兩舷トモ甲板間ノ内張板又ハ外板ヲ一條宛取離スコト
  - 二 木船ニ於テハ水線部外板中管海官廳ノ指示スル部分ニ於テ木釘ヲ拔取ルコト但シ木釘ナキ部分ニ於テハ錐揉スルカ又ハ内張板若ハ外板ヲ取離スコト
  - 三 二重底ハ燃料油ヲ積載スルモノト雖モ其ノ出入口ヲ開キ油ヲ排出シテ内部ヲ掃除シ危險性瓦斯ヲ排除シ検査ニ支障ナカラシムルコト
- 第一百八條** 第三種準備ハ前二條ノ外左ノ各號ニ依ルベシ
- 一 鋼船ニ於テハ艙内内張板ノ大部分ヲ取離シ且艙内ニ防熱裝置ヲ施セル部分アルトキハ管海官廳ノ指示スル部分ニ於テ内張板ヲ取離シ防熱部ノ一部ヲ露出スルコト
  - 二 木船ニ於テハ首尾ニ於テ兩舷トモ船舶ノ長サノ五分ノ一間内張板ノ半數ヲ取離スコト
  - 三 石炭庫内ノ内張板ヲ全部取離スコト
  - 四 鋼船ニ於テハ船體内外ノ要部ヲ錆落スルコト
  - 五 鋼船ニ於テハ梁上側板ヲ検査スル爲其ノ上面ノ木甲

- 板ヲ管海官廳ノ指示スル部分ニ於テ取離スコト
  - 木船ニ於テハ梁端ヲ検査スル爲梁壓材ニ接スル甲板ヲ管海官廳ノ指示スル部分ニ於テ取離スコト
  - 六 鋼船ニ於テハ外板、肋板、隔壁、鋼甲板、二重底諸板其ノ他ノ要部ニ於ケル鋼板ハ其ノ厚サヲ検査スル爲之ニ試孔ヲ穿ツコト
  - 七 深油槽ハ其ノ出入口ヲ開キ内部ヲ掃除シ危險性瓦斯ヲ排除シ検査ニ支障ナカラシムルコト
  - 八 木船ニ於テハ船底包板及毛紙ヲ全部取去ルコト
  - 九 檣及斜檣ノ楔ヲ拔取ルコト但シ檣又ハ斜檣ガ鋼製ニシテ二重張板ヲ有スルモノナルトキハ此ノ限ニ在ラズ
- 第一百九條** 機關ニ關スル定期検査ニ於テハ左ノ各號ノ準備ヲ爲スベシ但シ製造検査又ハ船舶安全法第六條第三項ノ規定ニ依ル検査ヲ受ケタル機關ヲ船舶ニ初メテ備附ケタル場合ノ定期検査ニ於テハ管海官廳ノ指示スル所ニ依ルベシ
- 一 往復動汽機
    - (一) 「ピストン」及滑弁ヲ取出スコト
    - (二) 「クランク」軸ノ受金ノ上半竝ニ十字頭栓及「クランク」栓ノ受金ヲ解放シ且「クランク」軸ヲ回轉

- セシメ得ル様爲シ置クコト
- 二 「タービン」汽機
  - (一) 「タービン」筒上半及「ローター」ヲ托舉スルコト
  - (二) 氣筒蓋附屬ノ諸弁ヲ取外シ蓋ノ冷却部ヲ検査シ得ル様爲シ置クコト
  - (三) 「クランク」軸ノ受金ノ上半竝ニ十字頭栓及「クランク」栓ノ受金ヲ解放シ且「クランク」軸ヲ回轉セシメ得ル様爲シ置クコト
  - (四) 消音器ヲ掃除スルコト
- 四 推進器及推進軸系
  - (一) 各軸受ノ上半又ハ覆金及推力受ヲ取外スコト
  - (二) 船尾管後端軸受部内面上部ト螺旋軸トノ間隙ヲ測定シ得ル様爲シ置クコト
- 五 減速裝置
  - (一) 各軸受金ノ上半ヲ取外シ且各軸ヲ回轉シ得ル様爲シ置クコト
  - (二) 齒車箱ノ上半ヲ解放スルコト



- (三) 液體ニ依ル動力傳導裝置ノ翼車ヲ検査シ得ル様爲シ置クコト
- 六 汽罐
  - (一) 罐内ノ水ヲ排出シ人孔蓋、泥孔蓋及覗孔蓋ヲ取外シ且火側及水側ヲ十分掃除スルコト
  - (二) 火床棧ヲ取出スコト
  - (三) 煙室扉ヲ開キ置クコト
  - (四) 安全弁、塞汽弁、給水制限弁及放水弁ノ弁匣ヲ開キ置クコト
- 七 給水裝置
  - (一) 給水「ポンプ」ノ「フランヂヤ」又ハ「ピストン」ヲ取出シ且弁匣ヲ開キ置クコト
  - (二) 給水漉器及給水加熱器ヲ開キ置クコト
- 八 復水裝置
  - (一) 復水器蓋ヲ開キ置クコト
  - (二) 抽氣「ポンプ」及循環「ポンプ」ノ「バケツト」又ハ扇車ヲ取出スコト
- 九 吸水、排水及冷却ノ裝置
  - (一) 最大吃水線以下ニ於テ船外ニ通ズル弁及「コック」ヲ開キ置クコト

- (二) 塗水「ポンプ」及冷却「ポンプ」ノ「フランヂヤ」又ハ「ピストン」ヲ取出シ且弁匣ヲ開キ扇車「ポンプ」ナルトキハ扇車ヲ取出スコト
- (三) 芥除箱及泥芥箱ヲ掃除スルコト
- (四) 油、清水又ハ空氣ノ冷却器ヲ開キ置クコト
- 十 潤滑油裝置
  - (一) 空氣壓縮機、汽槽及掃除空氣「ポンプ」
  - (二) 空氣壓縮機ノ「ピストン」ヲ取出シ且弁匣及冷却器蓋ヲ開キ置クコト
  - (三) 氣槽ノ検査孔ヲ開キ内部ヲ掃除スルコト
  - (四) 掃除空氣「ポンプ」ノ「ピストン」ヲ取出シ弁匣ヲ開キ置クコト
- 十一 油槽
  - (一) 油ヲ排出シ人孔又ハ検査孔ヲ開キ内部ヲ掃除スルコト
- 十二 船舶ノ推進ニ關係アル補發動機及救命艇用發動機主發動機ニ準ジ準備ヲ爲スコト
- 十三 水壓試驗
  - (一) 第八十八條ニ掲グル水壓試驗ノ準備ヲ爲スコト

十五 機關備品

適當ノ場所ニ陳列スルカ又ハ近寄り易キ場所ニ整備シ置クコト

第一百十條 設備及屬具ニ關スル定期検査ノ準備ハ左ノ各號ニ依ルベシ

- 一 屬具中取離サザレバ検査シ得ザルモノハ之ヲ取離シ消防、操舵、繫船、揚錨及揚貨ノ機具、手用塗水「ポンプ」竝ニ艙口、載炭口、通風器、載貨門、載炭門、船樓端ノ開口其ノ他ノ開口ノ閉鎖裝置ハ所屬具ヲ取捕ヘ置キ錨鎖、索、船燈、信號器、救命器具其ノ他ノ航海用具ハ總テ之ヲ適當ノ場所ニ陳列シ置クコト
- 二 端艇ハ所屬具ヲ備ヘ水上ニ浮ベ置クコト
- 三 帆船ノ帆類ハ所定ノ位置ニ取附ケ展開シ得ベキ準備ヲ爲スコト
- 四 第八十九條ニ掲グル效力試験ノ準備ヲ爲スコト
- 五 操舵機、揚錨機其ノ他ノ甲板補機ノ氣筒又ハ汽筒及軸受ヲ開キ置クコト
- 六 應急用動力設備、點燈設備、水密戸閉閉裝置及荷役設備ノ原動機ノ要部ヲ管海官廳ノ指示スル所ニ依リ解放スルコト

第一百十一條

初メテ滿載吃水線ニ關スル検査ヲ受ケントスルトキハ管海官廳ノ指示スル所ニ依リ船體ノ構造及現狀ノ検査ニ必要ナル準備ヲ爲スベシ

第一百十二條 中間検査ニ於テハ第六條第五號及第一百十條第一號乃至第四號ニ掲グル準備ヲ爲スベシ

- 一 往復動汽機
  - (一) 「クランク」軸ノ受金ノ上半、汽筒蓋、滑弁匣蓋及「クランク」栓ノ受金ヲ解放シ且「クランク」軸ヲ回轉セシメ得ル様爲シ置クコト
  - (二) 「タービン」汽機
    - (一) 「タービン」筒ノ上半ヲ扛舉シ「ローター」軸ノ受金ノ上半ヲ取外シ且「ローター」ヲ回轉セシメ得ル様爲シ置クコト
  - (三) 發動機
    - (一) 「クランク」軸ノ受金ノ上半、氣筒蓋及「クランク」栓ノ受金ヲ解放シ且「クランク」軸ヲ回轉セシメ得ル様爲シ置クコト
- 四 推進器及推進軸系



船舶安全法施行規則

- 定期検査ニ準ジ準備ヲ爲スコト
- 五 減速装置
  - 各軸受金ノ上半ヲ取外シ且減速齒車ノ齒ヲ全般ニ互リ検査シ得ル様爲シ置クコト
- 六 汽罐
  - 定期検査ニ準ジ準備ヲ爲スコト但シ管海官廳ニ於テ必要アリト認ムル場合ノ外火床棧ハ取外サザルモ妨ナシ
- 七 吸水及排水ノ装置
  - 最大吃水線以下ニ於テ船外ニ通ズル弁及「コック」竝ニ塗水「ポンプ」ノ蓋及弁匣又ハ扇車匣ノ上半ヲ開キ置キ且芥除箱及泥芥箱ヲ掃除スルコト
- 八 潤滑油装置
  - 定期検査ニ準ジ準備ヲ爲スコト但シ二重装置ナルトキハ其ノ一方ニ付準備ヲ爲スニ止ムルモ妨ナシ
- 九 空氣壓縮機及掃除空氣「ポンプ」
  - 空氣壓縮機及掃除空氣「ポンプ」ノ蓋竝ニ弁匣ヲ開キ置クコト但シ二箇以上ヲ備フルトキハ一箇ニ付準備ヲ爲スニ止ムルモ妨ナシ
- 十 船舶ノ推進ニ關係アル補發發動機及救命艇用發動機
  - 主發動機ニ準ジ準備ヲ爲スコト

十一 機關備品

- 定期検査ニ準ジ準備ヲ爲スコト
- 第百十三條 特殊船舶検査及臨時検査ニ於テハ管海官廳ノ指示スル所ニ依リ必要ナル準備ヲ爲スベシ
- 第百十四條 船舶用機關ノ出來上リ検査ニ於テハ第百九條ニ準ジ當該機關ノ検査ニ必要ナル準備ヲ爲スベシ
- 第百十五條 管海官廳ハ前十條ニ規定スル検査ノ準備ニ付船舶ノ大小、用途、年齢、構造、前検査ノ成績又ハ現狀ニ依リ適當ニ増減セシムルコトヲ得
- 第百十六條 検査申請者検査ニ必要ナル準備ヲ爲サザルトキハ第七十八條ノ規定ヲ準用ス
- 第十三章 證書
- 第百十七條 船舶検査證書ヲ分チテ甲種船舶検査證書（第五號書式）、乙種船舶検査證書（第六號書式）及漁船検査證書（第七號書式）ノ三種トス
- 甲種船舶検査證書ハ滿載吃水線ノ標示ヲ要スル船舶ニ、乙種船舶検査證書ハ滿載吃水線ノ標示ヲ要セザル船舶ニ漁船検査證書ハ漁船ニ之ヲ交付ス
- 第百十八條 左ニ掲グル船舶ニ付テハ船舶検査證書ノ有効期間ハ三年以内ニ於テ管海官廳之ヲ定ム但シ漁船ニ付テ

ハ漁船特殊規則ノ定ムル所ニ依ル

- 一 推進機關ヲ有セザル長サ二十メートル未満ノ帆船
- 二 旅客船ニ非ザル長サ二十メートル未満ノ船舶ニシテ平水ノ航行區域ヲ有シ且汽罐ヲ有セザルモノ

第百十九條 前條ノ規定ノ適用ヲ受ケザル船舶ガ其ノ適用ヲ受クル船舶ト爲リタルトキハ船舶検査證書ノ有効期間ハ當該船舶ノ現狀ニ應ジ三年以内ニ於テ管海官廳之ヲ定ム

第百二十條 特殊船舶検査證書ヲ分チテ甲種特殊船舶検査證書（第八號書式）、乙種特殊船舶検査證書（第九號書式）、丙種特殊船舶検査證書（第十號書式）及漁船特殊検査證書（第十一號書式）ノ四種トス

甲種特殊船舶検査證書ハ移民船ニ、乙種特殊船舶検査證書ハ臨時旅客ヲ搭載スル船舶ニ、丙種特殊船舶検査證書ハ甲板旅客ヲ搭載スル船舶ニ、漁船特殊検査證書ハ第五十七條第二項ノ規定ニ依リ特殊船舶検査ヲ受ケタル漁船ニ之ヲ交付ス

特殊船舶検査證書ノ有効期間ハ當該航海ニ必要ナル期間ヲ標準トシ管海官廳之ヲ定ム

臨時旅客又ハ甲板旅客ヲ搭載スル船舶ニシテ管海官廳ニ

船舶安全法施行規則

於テ其ノ設備、航路、季節等ノ狀況ニ依リ差支ナシト認ムルモノニ付テハ其ノ運送區域及旅客ノ種類ガ同一ナル場合ニ限り前項ノ有効期間ハ二航海以上ニ互リ之ヲ定ムルコトヲ得

第百二十一條 合格證明書（第十二號書式）ハ製造検査ヲ受ケタル船舶又ハ船舶安全法第六條第三項ノ規定ニ依ル検査ヲ受ケタル船舶用機關ニ之ヲ交付ス

第百二十二條 左ニ掲グル場合ニ於テハ船舶検査證書ハ其ノ有効期間滿了後五月迄ハ仍其ノ效力ヲ有ス

- 一 船舶安全法施行地外ニ於テ船舶検査證書ノ有効期間滿了シタル場合ニ於テ當該船舶ヲ同法施行地内ノ目的港迄回航スルトキ
- 二 船舶安全法施行地ニ在ル船舶ガ船舶検査證書ノ有効期間滿了シ又ハ航海中其ノ有効期間滿了スベキ場合ニ於テ管海官廳ノ認可ヲ受ケ検査ヲ受ケズシテ引續キ短期ノ航海ヲ爲ストキ

前項第一號ノ場合ニ於テハ船長ハ船舶安全法施行地内ノ最初ニ到達シタル港ニ在ル管海官廳ニ遲滞ナク其ノ事實ヲ届出ヅベシ

第一項第二號ノ認可ヲ受ケントスルトキハ船長ハ事由ヲ



具シタル申請書ニ船舶ノ運航豫定表並ニ次回定期検査ヲ受ケントスル場所及期日ヲ記載シタル書面ヲ添附シ之ヲ最寄管海官廳ニ提出スベシ  
前項ノ申請アリタルトキハ管海官廳ハ船舶ガ當該航海ニ適スルヤ否ヤヲ調査シ差支ナシト認ムルトキハ期間ヲ附シテ之ヲ認可ス

第一項第一號ノ航海ヲ終了シ同項第二號ノ認可ヲ受ケザルトキ又ハ同項第二號ノ航海ヲ終了シタルトキハ船舶検査證書ハ其ノ效力ヲ失フ

**第二百二十三條** 第五十三條ノ規定ニ依リ定期検査ヲ行ヒタルトキハ船舶検査證書ノ有効期間ハ滿了シタルモノト看做ス

**第二百二十四條** 左ニ掲グル場合ニ於テハ船舶所有者又ハ船長ハ船舶検査證書及特殊船舶検査證書ヲ管海官廳ニ提出スベシ  
一 船舶ニ付検査ヲ受ケタルトキ  
二 繫船シタルトキ

前項ノ場合ニ於テハ當該船舶ガ管海官廳ヨリ前項ノ規定ニ依リ提出シタル證書ノ返付ヲ受クルニ非ザレバ船舶検査證書ノ有効期間内ト雖モ之ヲ航行ノ用ニ供スルコトヲ

三 船舶検査證書ノ有効期間滿了シタルトキ

**第二百二十八條** 左ニ掲グル場合ニ於テハ遲滞ナク特殊船舶検査證書ヲ最寄管海官廳ニ返還スベシ  
一 前條ノ規定ニ依リ船舶検査證書ヲ返還シタルトキ  
二 船舶ガ其ノ特殊ノ用途ニ使用セラレザルニ至リタルトキ  
三 特殊船舶検査證書ノ有効期間滿了シタルトキ

**第二百二十九條** 船舶用機關ヲ船舶ニ備附ケタルトキハ其ノ合格證明書ノ受有者ハ遲滞ナク之ヲ最寄管海官廳ニ返還スベシ  
**第二百三十條** 左ニ掲グル場合ニ於テ船舶所有者若ハ船長又ハ合格證明書ノ受有者ハ舊船舶検査證書、舊特殊船舶検査證書又ハ舊合格證明書ヲ新證書又ハ新證明書ト引換ニ當該管海官廳ニ返還スベシ  
一 船舶検査證書又ハ特殊船舶検査證書ノ書換ヲ受ケタルトキ  
二 船舶検査證書、特殊検査證書又ハ合格證明書ノ毀損ニ因リ其ノ再交付ヲ受ケタルトキ

**第三十一條** 船舶検査證書、特殊船舶検査證書又ハ合格證明書ヲ返還スル義務アル者其ノ所在分明ナラザルトキ又ハ

船舶安全法施行規則

得ズ

**第二百二十五條** 船舶検査證書又ハ特殊船舶検査證書ヲ滅失又ハ毀損シタルトキハ當該證書ノ受有者ハ遲滞ナク其ノ事由ヲ具シ船舶検査手帖ヲ添へ最寄管海官廳ニ其ノ再交付ヲ申請スベシ

合格證明書ヲ滅失又ハ毀損シタルトキハ當該證明書ノ受有者ハ其ノ事由ヲ具シ原證明書ヲ交付シタル管海官廳ニ其ノ再交付ヲ申請スルコトヲ得

**第二百二十六條** 船舶検査證書又ハ特殊船舶検査證書ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生ジタルトキハ船長ハ船舶検査手帖ヲ添へ遲滞ナク最寄管海官廳ニ其ノ書換ヲ申請スベシ  
前項ノ場合ニ於テ變更ヲ生ジタル事項ガ船舶國籍證書又ハ假船舶國籍證書ニ記載スベキモノナルトキハ船長ハ船舶國籍證書又ハ假船舶國籍證書ヲ當該管海官廳ノ檢閲ニ供スベシ

**第二百二十七條** 左ニ掲グル場合ニ於テハ遲滞ナク船舶検査證書ヲ最寄管海官廳ニ返還スベシ  
一 船舶ガ滅失若ハ沈没シ又ハ解散セラレタルトキ  
二 船舶ガ検査ヲ受クルコトヲ要セザルモノト爲リタルトキ

死亡シタルトキハ現ニ之ヲ保管スル者ニ於テ前四條ノ規定ニ依リ手續ヲ爲スベシ

**第二百三十二條** 船長ハ船舶検査證書、特殊船舶検査證書及回航認可證書ヲ船内ノ見易キ場所ニ掲ゲ置クベシ

**第二百三十三條** 船舶検査證書又ハ特殊船舶検査證書ノ英譯書ノ交付ヲ受ケントスルトキハ最寄管海官廳ニ申請スベシ

**第二百三十四條** 前條ノ英譯書ハ原證書ヲ返還スルトキ之ヲ當該管海官廳ニ返還スベシ但シ第三百三十條第二號ノ規定ニ依リ原證書ヲ返還スル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラズ

**第二百三十五條** 左ニ掲グル場合ニ於テハ船舶検査證書ヲ受有セザル船舶ト雖モ之ヲ航行ノ用ニ供スルコトヲ得  
一 日本船舶ヲ所有スルコトヲ得ザル者ニ船舶ヲ讓渡スル目的ヲ以テ之ヲ船舶安全法施行地外ニ回航スルトキ  
二 船舶ヲ修繕シ又ハ検査ヲ受クル爲之ヲ工場所在地又ハ検査ヲ受クル場所ニ回航スルトキ  
三 船舶法施行細則第四條第一項各號ニ該當スルトキ  
四 繫船ノ繫留地ヲ變更スル爲之ヲ回航スルトキ

前項第一號又ハ第四號ノ場合ニ於テハ事由ヲ具シタル申請書ヲ管海官廳ニ提出シ其ノ認可ヲ受クベシ但シ船舶安全法施行地外ニ於テ製造セラレ又ハ國籍ヲ取得シ其ノ他

二四七



同法ノ規定ニ依リ検査ヲ受クベキモノト爲リタル日本船舶ヲ前項第二號ノ規定ニ依リ回航スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

**第三百三十六條** 前條第一項各號ノ場合ニ於テハ旅客又ハ貨物ヲ搭載スルコトヲ得ズ但シ同條第二項但書ノ場合ニ於テ帝國領事館又ハ當該官廳ノ發給シタル堪航性ヲ證スル書面ヲ受有スルトキハ此ノ限ニ在ラズ

**第三百三十七條** 第三十七條第二項又ハ第三百三十五條第二項ノ規定ニ依リ申請書ノ提出アリタルトキハ管海官廳ハ當該船舶ニ付其ノ回航ノ適否又ハ旅客若ハ貨物搭載ノ適否ヲ調査シ之ヲ適當ト認ムルトキハ回航認可證書(第十三號書式)ヲ交付ス

**第三百三十八條** 回航認可證書ノ有効期間ハ回航ニ必要ナル期間ヲ標準トシ管海官廳之ヲ定ム

船舶ガ目的地ニ到達シタルトキハ回航認可證書ハ其ノ效力ヲ失フ

第二百二十五條第一項、第二百二十七條及第三百三十條第二號ノ規定ハ回航認可證書ニ之ヲ準用ス

**第三百二十九條** 船舶検査證書又ハ特殊船舶検査證書滅失シタルトキ又ハ之ヲ返還セザルトキハ其ノ無効ナルコトヲ官

請書ヲ提出シ其ノ許可ヲ受クベシ

第十五章 船舶乗組員ノ不服申立

**第四百十四條** 船舶乗組員船舶安全法第十三條ノ規定ニ依リ申立ヲ爲サントスルトキハ左ノ事項ヲ記載シタル管海官廳宛ノ申立書ニ職務及氏名ヲ連記シ之ヲ當該船長ニ提出スベシ

- 一 重大ナル缺陷アリトスル事項及其ノ現狀
- 二 申立ヲ爲スニ至ル迄ノ顛末

**第四百十五條** 船舶ガ管海官廳所在地ニ在ル場合ニ於テ前條ノ規定ニ依ル申立書ノ提出アリタルトキハ船長ハ之ニ對スル意見書及船舶検査手帖ヲ添附シ遲滞ナク之ヲ當該管海官廳ニ提出スベシ

船舶ガ管海官廳所在地ニ在ラザル場合ニ於テ前條ノ規定ニ依ル申立書ノ提出アリタルトキハ船長ハ遲滞ナク前項ノ書類ヲ其ノ後最初ニ到達スベキ港ニ在ル管海官廳ニ郵便其ノ他適當ノ方法ニ依リ提出スベシ

**第四百十六條** 船舶ノ發航直前ニ於テ第四百十四條ノ規定ニ依ル申立書ノ提出アリタルトキハ申立ノ事項ガ貨物ノ過載、積附其ノ他船舶ノ發航直前ニ非ザレバ分明シ難キモノナル場合ヲ除クノ外船舶ガ管海官廳所在地ニ在ル場

船舶安全法施行規則

報ニ公告ス但シ其ノ有効期間滿了後ハ此ノ限ニ在ラズ

第十四章 再検査

**第四百十條** 船舶検査證書、特殊船舶検査證書、其ノ英譯書又ハ回航認可證書ハ急速ヲ必要トスル場合ニ限リ申請ニ依リ休暇日ト雖モ其ノ交付又ハ書換ヲ爲スコトアルベシ

**第四百十一條** 船舶安全法第十一條ノ規定ニ依リ再検査ヲ申請セントスルトキハ申請書ニ前検査ニ對スル不服ノ事項及其ノ事由ヲ記載シタル書類ヲ添附シ前検査ヲ行ヒタル管海官廳ヲ經由シ之ヲ遞信大臣ニ提出スベシ

**第四百十二條** 遞信大臣ニ於テ前條ノ申請ヲ理由ナシト認メタルトキ又ハ申請者ガ關係部分ノ原狀ヲ變更シタルトキハ申請ヲ却下ス

遞信大臣ニ於テ前條ノ申請ヲ理由アリト認メタルトキハ特ニ指令シタル者ヲシテ再検査ヲ行ハシメ前検査ヲ適當ナラズト認ムルトキハ更ニ當該管海官廳ヲシテ検査ノ種類ニ應ジ必要ナル證書又ハ證明書ヲ申請者ニ交付セシム

**第四百十三條** 前條第二項ノ規定ニ依リ遞信大臣ノ指令シタル者ガ再検査ヲ結了シタル場合ニ於テ遞信大臣ノ決定前關係部分ノ原狀ヲ變更セントスルトキハ再検査ノ申請者ハ前検査ヲ行ヒタル管海官廳ヲ經由シテ遞信大臣ニ申

合ト雖モ船長ハ前條第一項ノ規定ニ拘ラズ同條第二項ノ規定ニ依ルコトヲ得

**第四百十七條** 管海官廳申立書ヲ審査シ船舶ガ當該管海官廳所在地ニ在ル場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ當該管海官廳申立書又ハ船舶ニ臨檢シテ其ノ事實ヲ調査ス

第十六章 船級協會

**第四百十八條** 船舶安全法第八條ノ規定ニ依ル検査ノ業務ニ從事スル爲メ遞信大臣ノ認可ヲ受ケントスル船級協會ハ營利ヲ目的トセザル法人ナルコトヲ要ス

**第四百十九條** 船級協會前條ノ認可ヲ受ケントスルトキハ申請書ニ左ニ掲グル事項ヲ記載シタル書類ヲ添附シ之ヲ遞信大臣ニ提出スベシ

- 一 主タル事務所並ニ出張所ノ名稱及所在地
- 二 役員ノ氏名
- 三 検査員ノ氏名及履歷
- 四 定款又ハ寄附行爲
- 五 船級登録及検査ニ關スル規定
- 六 手数料及旅費ニ關スル規定



第五百十條 遞信大臣ノ認可ヲ受ケタル船級協會(以下單ニ船級協會ト稱ス)検査員ヲ選任セントスルトキ又ハ前條第五號若ハ第六號ニ掲グル規定ヲ變更セントスルトキハ遞信大臣ノ認可ヲ受クベシ

前條第一號又ハ第二號ニ掲グル事項ニ變更アリタルトキハ船級協會ハ遞信大臣ニ其ノ旨ヲ届出ヅベシ

第五百十一條 船級協會船舶安全法第八條ノ規定ニ依ル船舶検査ヲ行ヒタルトキハ遲滞ナク當該検査報告書、乾舷計算表及該検査ニ基キ發行シタル證書ノ謄本竝ニ検査依頼者ヨリ差出シタル圖面ヲ遞信大臣ニ提出スベシ

第五百十二條 遞信大臣前條ノ書類ヲ審査シ船級協會ノ行ヒタル検査ヲ適當ナラズト認ムルトキハ之ガ改訂ヲ命ジ其ノ他必要ナル命令ヲ爲スコトアルベシ

第五百十三條 船級協會ハ一月毎ニ船舶安全法第八條ノ規定ニ依ル検査ノ業務ニ關スル報告書ヲ遞信大臣ニ提出スベシ

第五百十四條 遞信大臣ニ於テ船級協會ヲ認定シタルトキ又ハ其ノ認定ヲ取消シタルトキハ之ヲ告示ス

第十七章 航海上ノ危険防止  
第五百十五條 本章中第五百十六條乃至第六十九條ノ規

船長ハ前項ノ指揮者ヲシテ其ノ指揮スル救命艇又ハ救命筏ノ乗組員ノ名簿ヲ所持セシムベシ

船長ハ發動機ヲ有スル救命艇ニハ發動機ヲ運轉シ得ル者ヲ無線電信又ハ探照燈ノ設備ヲ有スル救命艇ニハ其ノ設備ヲ操作シ得ル者ヲ配置スベシ

船長ハ救命艇、救命筏、救命浮器其ノ他ノ救命設備ガ何時ニテモ使用シ得ルコトヲ確ムル爲メ甲板部職員ヲ指定シ置クベシ

救命艇手適任證書ノ交付、書換又ハ返還ニ關シテハ別ニ之ヲ定ム

第五百十七條 船長ハ非常ノ出來事ニ對スル船員ノ特別任務ニ付左ノ事項ニ關スル船員ノ擔當ヲ定メ發航前之ヲ記載シタル召集表ヲ作成シ船員室其ノ他適當ノ場所ニ掲ゲ置クベシ

- 一 水密戸、弁等ノ閉鎖
- 二 救命艇、救命筏及救命浮器ノ艤裝
- 三 端艇鈎ニ取附ケタル救命艇ノ卸方
- 四 前號以外ノ救命艇、救命筏及救命浮器ノ一般準備
- 五 旅客ノ召集
- 六 火災ノ消防

船舶安全法施行規則

定ハ國際航海ニ從事スル旅客船ニシテ近海區域又ハ遠洋區域ヲ航行スルモノニ其ノ他ノ規定ハ特ニ定ムル場合ヲ除クノ外總テノ船舶ニ之ヲ適用ス

第五百十六條 船舶ハ其ノ搭載シタル救命艇又ハ救命筏ニ左ノ員數ヲ割當ツルニ足ル救命艇手適任證書ヲ有スル船員ヲ乗組マシムベシ但シ臨時旅客又ハ甲板旅客搭載ノ爲メ特ニ之ヲ乗組マシムル必要ヲ生ジタルトキハ管海官廳又ハ帝國領事官ノ認可ヲ受ケ當該所要員數ノ一部又ハ全部ヲ減ジ相當ノ技能ヲ有スル船員ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

- 一 定員四十人以下ノ救命艇又ハ救命筏ニ付テハ二人
- 二 定員四十一人以上六十一人以下ノ救命艇又ハ救命筏ニ付テハ三人
- 三 定員六十二人以上八十五人以下ノ救命艇又ハ救命筏ニ付テハ四人
- 四 定員八十六人以上ノ救命艇又ハ救命筏ニ付テハ五人

前項ノ船員ノ割當員數ニ付テハ事情ニ應ジ船長之ヲ定ム船長ハ救命艇又ハ救命筏ニ其ノ指揮者トシテ甲板部職員又ハ第一項ニ規定スル船員ヲ配置シ且右指揮者ガ故障アル場合ニ於テ之ニ代リテ指揮スル者ヲ定メ置クベシ

召集表ニ於テハ事務部員ニ對シ左ノ事項ニ關スル擔當ヲ指定スベシ

- 一 旅客ニ警報スルコト
- 二 旅客ガ著衣シ救命胴衣ヲ適當ニ着用セルコトヲ確ムルコト
- 三 旅客ヲ集合所ニ集合セシムルコト
- 四 通路及階段ニ於ケル秩序ヲ維持シ旅客ノ行動ヲ統制スルコト

召集表ニハ全船員ヲ各員割當ノ救命艇及消防持場ニ呼出ス爲メ一定ノ信號ヲ記載スベシ

第五百十八條 船長ハ發航前甲板間ニ於ケル貨物艙ヲ區畫スル水密隔壁ニ取付クル水密蝶番戸ヲ閉ヅルコトヲ要シ航行中ハ之ヲ開放スベカラズ

第五百十九條 機關室内ノ水密隔壁ニ取外シ得ル板戸ヲ設クル船舶ニ在リテハ船長ハ發航前該板戸ヲ其ノ位置ニ取附クルコトヲ要シ航行中ハ緊急ノ必要アル場合ヲ除クノ外之ヲ取外スベカラズ

前項ノ板戸ハ其ノ接合部ガ水密ヲ保ツ様之ヲ取附ケベシ  
第六十條 船長ハ作業上必要アル場合ヲ除クノ外航行中水密隔壁ニ取附クル一切ノ水密戸ヲ閉ヂ置キ之ヲ開キタ



ルトキハ迅速ニ閉ヂ得ル様常ニ準備シ置クベシ

**第六十一條** 船舶區畫規程ニ依リ錠前附ナルコトヲ要スル何レカノ舷窓ノ下縁ガ發航ノ際ノ吃水線ノ上方ニ於テ同吃水線ヨリ船ノ幅ノ千分ノ二十五ニ一・三七メートルヲ加ヘタル距離ニ最低點ヲ有シ且船側ニ於ケル隔壁甲板ニ平行ニ引キタル線ノ下方ニ在ルトキハ船長ハ發航前該舷窓ノ在ル甲板間ノ總テノ舷窓ヲ水密ニ閉ヂ且錠ヲ下スコトヲ要シ航行中ハ之ヲ開放スベカラズ

船舶ガ船舶滿載吃水線規程ニ定ムル熱帶ニ在ル場合又ハ熱帶季節ニ季節熱帶ニ在ル場合ニ於テハ前項ノ規定ノ適用ニ付テハ一・三七メートルトアルハ之ヲ一・〇六五メートルト爲スコトヲ得

船舶所有者又ハ船長ハ第一項ノ規定ヲ適用スベキ極限ノ平均吃水ノ指定ヲ管海官廳ニ申請スルコトヲ得  
船舶區畫規程ニ依リ錠前附ナルコトヲ要スル舷窓ハ第一項ニ規定スルモノ以外ノモノト雖モ船長ニ於テ差支ナシト認ムル場合ニ非ザレバ航行中ニ之ヲ開放スベカラズ

**第六十二條** 前條第一項ノ場合ニ於テハ船長ハ舷窓ノ錠ヲ保管シ其ノ他必要ナル處置ヲ爲スベシ  
前條第四項ノ舷窓ニ錠ヲ下シタルトキハ船長ハ其ノ錠ヲ

ルモノハ毎日之ヲ操作スベシ  
水密戸、之ニ附屬スル機構及表示器竝ニ區畫室ノ水密ヲ保ツニ必要ナル弁ハ航海中少クトモ毎週一回定期ニ之ヲ點檢スベシ

**第六十七條** 前二條ニ定ムル操練及點檢ハ船員ガ其ノ任務ヲ完全ニ了解習熟スル様且救命設備及其ノ附屬具ガ常ニ即時ノ使用ノ爲準備セララル様之ヲ行フベシ

**第六十八條** 船長ハ航海ガ一週間ヲ超ユルトキハ其ノ初期ニ於テ旅客ノ召集ヲ行フベシ  
旅客召集ノ危急信號ハ汽笛又ハ汽角ニ依リ短聲六發以上ノ連發ト之ニ續ク長聲一發トス

前項ノ信號ハ短國際航海ニ從事スル船舶ヲ除クノ外船橋ニ於テ操作セラレ電氣裝置ニ依リ船内ニ普及スル他ノ信號ヲ以テ之ヲ補足スルコトヲ要ス  
旅客召集ノ危急信號其ノ他旅客ニ關係アル信號ハ種種ノ國語ヲ以テ其ノ意味ヲ明記シ旅客室其ノ他適當ノ場所ニ掲ゲ置クベシ

**第六十九條** 船長ハ火災ヲ速ニ發見スル爲有效ナル巡視制度ヲ設クベシ

**第七十條** 操舵命令ハ船舶ノ前進中其ノ船首ヲ轉ズル方

船舶安全法施行規則

保管スル等其ノ同意ヲ得ルニ非ザレバ之ヲ開キ得ザル様必要ナル處置ヲ爲スベシ

**第六十三條** 船長ハ發航前航行中近寄り難キ場所ニ在ル舷窓及其ノ蓋ヲ水密ニ閉ツベシ

船長ハ發航前境界線下ニ設クル舷門、載貨門及載炭門ヲ水密ニ閉ヅルコトヲ要シ航行中ハ之ヲ開放スベカラズ

**第六十四條** 灰棄筒、芥棄筒其ノ他之ニ類似ノモノニシテ其ノ船内開口ガ境界線下ニ在ルモノニ付テハ之ヲ使用セザルトキハ船長ハ筒ニ取設ケタル自働不還弁及開口ノ蓋ヲ締附ケ置クベシ

**第六十五條** 船長ハ端艇操練ノ爲實行可能ナルトキハ毎週一回船員ノ召集ヲ行フベシ又航海ガ一週間ヲ超ユルトキハ發航前之ヲ行フベシ

端艇操練ヲ行フニ當リテハ異リタル場所ニ備附ケタル救命艇及救命筏ヲ順次ニ使用スベシ

**第六十六條** 船長ハ水密戸、舷窓、弁竝ニ排水孔、灰棄筒及芥棄筒ノ閉鎖裝置ノ操作ノ操練ヲ毎週一回行フベシ又航海ガ一週間ヲ超ユルトキハ發航前之ヲ行ヒ爾後航海中少クトモ毎週一回之ヲ行フベシ但シ主橫置隔壁ニ於ケル水密ナル動力戸及蝶番戸ニシテ航海中開閉スルコトヲ

向テ直接ニ示ス語ヲ使用スベシ  
**第七十一條** 流水、委棄物、熱帶暴風雨（ハリケーン）、「タイフーン」、「サイクローン」及之ト同様ノ性質ヲ有スルモノ其ノ他航海ニ直接ノ危険ヲ及ボスモノニ遭遇シタルトキハ船長ハ適當ト認ムル通信方法ニ依リ之ヲ附近ノ船舶及最モ速ニ通信シ得ベキ海岸局ニ通報スベシ

前項ノ通報ハ別ニ告示スル様式ニ依ルベシ  
**第七十二條** 無線電信ヲ施設シタル船舶全強風以上ノ風力ヲ感知シタルトキハ之ヲ附近ノ船舶ニ通報スベシ

**第七十三條** 船舶ハ重大且急迫ノ危険ニ陥リ即時ノ救助ヲ要スルトキニ限り緊急信號及遭難信號ヲ使用スルコトヲ得

前項ノ場合ヲ除クノ外船舶ガ救助ヲ要スルトキ又ハ後ニ緊急信號若ハ遭難信號ヲ發スルノ必要アルニ至ルベキコトノ警告ヲ發セントスルトキハ緊急信號ヲ使用スベシ  
緊急信號又ハ遭難信號ヲ發シタル後救助ヲ要セザルコトヲ認メタルトキハ該船舶ハ直ニ其ノ旨ヲ一切ノ關係局ニ通報スベシ

**第七十四條** 船長無線電信ニ依ル遭難信號ヲ接受シタルトキハ能フ限りノ速力ヲ以テ遭難者ノ救助ニ赴クベシ但



シ遭難者ノ所在ニ到達シタル船舶ヨリ救助ノ必要ナキ旨ノ通報ヲ接受シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ  
遭難船舶ノ船長ハ遭難信號ニ應答シタル船舶ノ船長ト能フ眼リ協議シタル上適當ト認ムル船舶ヲ選定シ救助ヲ要請スルコトヲ得

前項ニ依リ救助ヲ要請セラレタル船舶ノ全部ガ其ノ要請ニ應ジ救助ニ赴ク旨ノ通報ヲ接受シタルトキハ他ノ船舶ハ救助ニ赴クコトヲ要セズ

無線電信ニ依ル遭難信號ヲ接受シタル船舶ノ船長ハ已ムコトヲ得ザル事由ニ因リ救助ニ赴クコト能ハザルカ又ハ特殊ノ事情ニ依リ救助ニ赴クヲ不合理若ハ不必要ト認メ救助ニ赴カザルトキハ直ニ其ノ旨遭難船舶ノ船長ニ通報スベシ

**第七十五條** 北大西洋横斷ノ航海ニ定期ニ船舶ヲ就航セシムル船舶所有者ハ其ノ協定シタル航路中船舶ヲシテ探ラシムベキ常用ノ航路及其ノ變更ニ付廣告ヲ爲スベシ

第十八章 雜則

**第七十六條** 國際航海ニ從事スル船舶ノ船長ハ旅客船ニ在リテハ左ノ各號、總噸數千六百噸以上ノ船舶ニシテ旅客船ニ非ザルモノニ在リテハ第六號ニ掲グル事項ヲ航海

ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ旨管海官廳ニ届出ヅベシ

一 入渠又ハ上架セントスルトキ(漁船上架ヲ除ク)  
二 船體若ハ機械ノ要部又ハ重要ナル設備若ハ屬具ニ損傷ヲ生ジタルトキ又ハ之ヲ修繕若ハ變更セントスルトキ

キ

**第七十八條** 國際航海ニ從事スル旅客船ニシテ昭和六年七月一日以後ニ龍骨ヲ据附ケタルモノ又ハ同日以後旅客

船ニ變更シタルモノニ付テハ船舶所有者ハ之ヲ本令施行後初メテ國際航海ニ使用スルニ先チ傾斜試験ヲ行ヒ復原性ニ關スル要項ヲ決定スベシ但シ復原性ニ關スル十分ノ資料ヲ有シ管海官廳ニ於テ更ニ傾斜試験ヲ行フノ必要ナシト認メタル船舶ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ傾斜試験ハ船舶ノ空艙狀態ニ於ケル重心ノ位置ヲ算定シ得ル狀態ニ於テ之ヲ行フベシ傾斜試験ヲ行ハントスルトキハ之ヲ管海官廳ニ届出ヅベシ

**第七十九條** 前條ノ船舶ニハ其ノ復原性ニ關スル要項ヲ記載シタル書類ヲ備フベシ

前項ノ書類ハ少クトモ左ノ事項ヲ記載シタルモノナルコトヲ要ス

船舶安全法施行規則

日誌ニ記載スベシ

一 百七十四條ニ定ムル遭難者ノ救助ニ赴カザリシトキハ其ノ事由

二 第一百五十八條、第五十九條、第六十一條又ハ第六十三條ノ規定ニ依リ航行中開放スルコトヲ禁ゼラレタル水密艙番戸、取外シ得ル板戸、舷窓、舷門、載貨門又ハ載炭門ヲ碇泊中開閉シタルトキハ其ノ日時

三 甲板間ニ於ケル石炭庫ヲ區畫スル水密隔壁ニ設クル水密戸ヲ開閉シタルトキ及第五十九條若ハ第六十條ノ規定ニ依リ航行中開放スルコトヲ禁ゼラレタル取外シ得ル板戸又ハ水密戸ヲ航行中緊急ノ必要上又ハ船舶ノ作業上開閉シタルトキハ其ノ日時

四 第六十六條ニ定ムル水密戸等ノ操作ノ操練及之ガ點檢ヲ行ヒタルトキハ其ノ日時及點檢ニ當リテ發見シタル缺陷

五 第六十五條ニ定ムル端艇操練ヲ行ヒタルトキハ其ノ日時又之ヲ行フコトヲ得ザリシトキ其ノ事由

六 航行中無線電信ノ補助電源ノ全能力ヲ維持シタルコト及緊急自動受信機ヲ試験シタルコト

**第七十七條** 船舶検査證書ノ有効期間内ニ於テ船舶ガ左

一 傾斜試験ノ成績

二 空艙狀態ニ於ケル船舶ノ重心ノ位置

三 横「メタセンター」ノ位置ヲ示ス曲線圖(最高區畫滿載吃水線迄ノ各吃水ニ對シ龍骨ノ上面ヨリ横「メタセンター」ニ至ル垂直距離ヲ示スモノ)

**第八十條** 船舶安全法第十二條第一項ノ證書(第十四號書式)ハ船舶所有者又ハ船長ノ請求アルトキハ之ヲ示スベシ

**第八十一條** 船舶ノ検査ヲ受クルトキハ検査申請者ハ當該管海官廳ノ指定スル所ニ從ヒ別表第二號ニ定ムル検査手数料ヲ納付スベシ

検査申請者ノ都合ニ依リ検査ノ申請ヲ取下ゲ又ハ船舶ガ検査ヲ要セザルモノト爲リタル場合ト雖モ検査著手後ナルトキハ検査手数料ヲ徴收ス

**第八十二條** 船舶検査證書、特殊船舶検査證書又ハ其ノ英譯書ノ交付、再交付若ハ書換ヲ受ケントスルトキ、合格證明書又ハ回航認可證書ノ交付若ハ再交付ヲ受ケントスルトキ又ハ船舶検査手帖ノ再交付ヲ受ケントスルトキハ別表第三號ニ定ムル手数料ヲ納付スベシ

**第八十三條** 前二條ノ手数料ハ其ノ金額ニ相當スル收入



印紙ヲ手數料納付書ニ貼附シテ之ヲ納付スベシ  
検査手數料納付書ニハ船舶ノ名稱、總噸數、検査ノ種類、  
旅客船ト旅客船ニ非ザルモノトノ區別及手數料額ヲ記載  
スベシ

前項ニ掲グル事項ノ外臨時検査ヲ受ケタル場合又ハ休暇  
日ニ於テ検査ヲ受ケタル場合ニハ臨檢回数ヲ、船體ノ製  
造検査ヲ受ケタル場合ニハ船舶ノ長サヲ、機關ノ製造檢  
査ヲ受ケタル場合又ハ船舶安全法第六條第三項ノ規定ニ  
依ル検査ヲ受ケタル場合ニハ往復動汽機ニ付テハ汽筒ノ  
徑ノ和ヲ、發動機ニ付テハ汽筒ノ徑ノ和及單働式又ハ複  
働式ノ別ヲ、「タービン」汽機ニ付テハ軸馬力ヲ、汽罐ニ  
付テハ受熱面積ヲ記載スベシ但シ船舶安全法第六條第三  
項ノ規定ニ依リ船舶ノ機關ノ部分品ノ検査ヲ受ケタル場  
合ニハ臨檢回数ノミヲ記載スベシ

**第八十四條** 船舶検査執行地外ニ於テ管海官廳ノ検査ヲ  
受クルトキハ検査申請者ハ當該管海官廳ノ指定スル所ニ  
從ヒ検査官吏ノ出張ニ要スル成規ノ旅費ヲ納付スベシ  
船舶法施行細則第五十三條第一項ノ場合ニ於テ出張シタ  
ル検査官吏ノ検査ヲ受ケタルトキハ其ノ旅費ハ相互ニ通  
算ス

木船検査規程、漁船検査規程及船舶滿載吃水線規程ハ之  
ヲ廢止ス

**第九十條** 船舶安全法第三十三條ニ掲グル船舶ハ同法第  
三十六條第一項ノ検査ヲ受クル迄滿載吃水線ヲ標示セザ  
ルコトヲ得

**第九十一條** 船舶安全法第二條第一項ノ規定ノ適用ヲ受  
ケザル船舶ニシテ本令施行ノ際現ニ船舶検査法ニ依リ檢  
査申請中ノモノニ付テハ検査ヲ行ハズ

**第九十二條** 昭和六年七月一日以後龍骨ヲ据附ケ本令施  
行ノ際現ニ製造中ノ旅客船ニシテ國際航海ニ從事スベキ  
モノ又ハ昭和七年七月一日以後ニ龍骨ヲ据附ケ本令施行  
ノ際現ニ製造中ノ船舶ニシテ國際航海ニ從事スベキモノ  
ニ付テハ其ノ構造、設備及滿載吃水線ニ關シ本令ニ依リ  
検査ヲ行フ

昭和六年七月一日以後ニ龍骨ヲ据附ケ本令施行ノ際現ニ  
製造中ノ船舶ニシテ國際航海ニ從事スベキモノニ付テハ  
其ノ無線電信施設ニ關シ本令ニ依リ検査ヲ行フ

**第九十三條** 船舶安全法第三十六條第一項ノ規定ニ依ル  
検査ハ左ノ各號ニ依ル  
一 船舶検査法ニ依リ定メタル特別検査ノ有効期間ガ

船舶安全法施行規則

**第八十五條** 本章ノ規定ニ依ル手數料及旅費ハ官廳又ハ  
公共團體ニ對シテ之ヲ徵收セズ

第十九章 罰 則

**第八十六條** 船舶所有者又ハ船長第四十六條、第七十二  
四條、第三十六條、第五十六條第一項又ハ第七十  
七條ノ規定ニ違反シタルトキハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

**第八十七條** 船長左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ百圓以  
下ノ罰金ニ處ス  
一 第四十七條第一項第二項、第五十一條、第八十二條

第二項、第八十三條第三項、第二百二十二條第二項、第  
百三十二條、第四百五十五條又ハ第五百五十七條第一項ノ  
規定ニ違反シタルトキ

二 第四百四十四條ノ規定ニ依リ申立書ノ提出アリタル場  
合ニ於テ申立ノ事項ガ船舶ノ發航直前ニ非ザレバ分明  
シ難キモノナルニ拘ラズ第四百四十五條第一項ノ規定ニ  
依ル措置ヲ執ラザリシトキ

附 則

**第八十八條** 本令ハ昭和九年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

**第八十九條** 船舶検査法施行細則、船舶滿載吃水線法施  
行規則、船舶無線電信施設法施行規則、船舶検査規程、

滿了シタル船舶及同法ニ依リ特別検査ヲ行ハザル船舶  
ノ受クベキ検査ニ付テハ定期検査ニ關スル規定ヲ準用  
ス

二 前號ノ有効期間ガ滿了セザル船舶ト雖モ申請ニ依リ  
管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムルモノニ付行フ検査ニ  
付テハ定期検査ニ關スル規定ヲ準用ス

三 前二號ニ該當セザル船舶ノ受クベキ検査ニ付テハ中  
間検査ニ關スル規定ヲ準用ス但シ管海官廳ニ於テ必要  
アリト認メタルトキハ検査ノ方法及準備ニ付第一號ニ  
依ルコトヲ得

船舶安全法第三十三條ニ掲グル船舶前項ノ検査ヲ受ケ滿  
載吃水線ヲ標示スベキ場合ニ於テ特ニ急速ノ發航ヲ必要  
トスル事情アルトキハ當該管海官廳ノ認可ヲ受ケ其ノ指  
定スル時期迄滿載吃水線ヲ標示セザルコトヲ得

**第九十四條** 國際航海ニ從事スル旅客船ニシテ船舶安全  
法第三十五條ニ掲グルモノハ同法ニ依リ検査ヲ受クル迄  
第二百五十六條ノ規定ニ拘ラズ救命艇手適任證書ヲ受有ス  
ル船員ヲ乗組マシメザルコトヲ得

**第九十五條** 船舶検査法ニ依リ定メタル船舶ノ資格ガ第  
九十二條ノ表ニ掲グル船舶ノ長サ又ハ速度ニ依リ變更ヲ



要スル場合ト雖モ當該船舶ノ用途其ノ他ノ事情ニ依リ管  
海官廳ニ於テ已ムコトヲ得ズト認メタルトキハ當該船舶  
ノ現狀ニ變更ナキ限リ仍從前ノ資格ヲ存續セシムルコト

ヲ得  
第九十六條 (削除)

別表第一號

無線電信施設免除區域表

- 一 北海道各港間及樺太各港間ノ區域竝ニ北海道ト樺太トノ間ノ航路ニ當ル韃靼海灣及「オホツク」海
- 二 山口縣大津郡川尻岬ヨリ慶尙南道釜山ニ至ル線及長崎縣長崎ヨリ全羅南道馬羅島ヲ經テ同島珍島ニ至ル線内ノ區域
- 三 北緯三十七度以北ノ黃海
- 四 臺北州富貴角ヨリ中華民國福建省福州ニ至ル線及高雄州鷺鑾鼻ヨリ香港ニ至ル線内ノ區域
- 五 東經九十四度ノ「アジア」ノ沿岸ヨリ西貢ニ至ル沿岸線、西貢ヨリ北緯四度三十分東經百十度ノ地點、「パラワン」島ノ南端、「バルマス」島(「ミアンガス」)、緯度零度東經百四十度ノ地點、緯度零度東經百四十八度ノ地點及南緯十度東經百四十八度ノ地點ヲ經テ「ヨーク」岬ニ引キタル線、「ヨーク」岬ヨリ「ポートダーウイン」(「チアールズ」岬)ニ至ル「オーストラリア」ノ北沿岸線、竝ニ「チアールズ」岬ヨリ「アシユモア、リーフ」(「イースト」島)、南緯十度東經百九度ノ地點、「クリスマス」島、北緯二度東經九十四度ノ地點及北緯十度東經九十四度ノ地點ヲ經テ東經九十四度ノ「アジア」ノ沿岸迄引キタル各線内ニ在リテ「オーストラリア」聯邦及亞米利加合衆國ノ領域ヲ除キタル區域
- 六 香港ヨリ北緯十七度東經百十度ノ地點ニ至ル線、同地點ヨリ正南へ北緯十度ニ至ル線及同地點ヨリ西貢ニ至ル線ノ西方ノ支那海及東京灣

- 七 赤道、西經百三十度ノ線、南緯三十四度ノ線及「オーストラリア」ノ沿岸線ニ依リ圍マレタル南太平洋ヨリ「オーストラリア」ノ領域ヲ除キタル區域
- 八 「マダカスカル」島、「レユニオン」島及「モーリシアス」島ノ各港間ノ航路ニ當ル印度洋
- 九 「モロツコ」國「カサブランカ」、「アルジェリア」ノ「オラン」及其ノ中間ノ各港間ノ航路ニ當ル北大西洋及地中海一部
- 十 諾威國「ウトシレ」ヨリ和蘭國「テキセル」ニ至ル線ノ東方ニシテ「ソヴイエト」社會主義共和國聯邦ノ領域ヲ除キタル「バルチック」海及其ノ接續海
- 十一 亞米利加合衆國ノ領域ヲ除キタル「カリビアン」海

備考

第十一ノ區域ニ付テハ帆船ノ航海ニ限ル  
別表第二號

検査手數料表

船體		一隻ニ付		七圓		一〇圓		二〇圓		一五圓		二〇圓		三〇圓		四五圓		六〇圓		
船體ノ長サ(米)	二〇未満	二〇以上三〇未満	三〇以上四〇未満	四〇以上五〇未満	五〇以上六〇未満	六〇以上七〇未満	七〇以上八〇未満	八〇以上九〇未満	九〇以上一〇〇未満	一〇〇以上一五〇未満	一五〇以上二〇〇未満	二〇〇以上二五〇未満	二五〇以上三〇〇未満	三〇〇以上三五〇未満	三五〇以上四〇〇未満	四〇〇以上四五〇未満	四五〇以上五〇〇未満	五〇〇以上		
汽筒ノ徑ノ和(米)	一・〇未満	一・〇以上一・五未満	一・五以上二・〇未満	二・〇以上二・五未満	二・五以上三・〇未満	三・〇以上三・五未満	三・五以上四・〇未満	四・〇以上四・五未満	四・五以上五・〇未満	五・〇以上五・五未満	五・五以上六・〇未満	六・〇以上六・五未満	六・五以上七・〇未満	七・〇以上七・五未満	七・五以上八・〇未満	八・〇以上八・五未満	八・五以上九・〇未満	九・〇以上		
汽機一箇ニ付	一〇圓	一五圓	二〇圓	二五圓	三〇圓	三五圓	四〇圓	四五圓	五〇圓	五五圓	六〇圓	六五圓	七〇圓	七五圓	八〇圓	八五圓	九〇圓	九五圓	一〇〇圓	

船舶安全法施行規則



汽機	軸馬力	汽機一箇ニ付	受熱面積(平方米)	汽罐一箇ニ付	汽筒ノ徑ノ和米	發動機一箇ニ付	復動機一箇ニ付	總噸數	定期検査		中間検査		臨時検査	
									旅客船	非旅客船	旅客船	非旅客船	旅客船	非旅客船
三〇〇未滿	三〇〇以上	一〇圓	五〇未滿	五圓	〇・五未滿	五圓	〇・五未滿	二噸未滿	一五圓	二〇圓	六圓	四圓	二圓	二圓
五〇〇未滿	五〇〇以上	一五圓	一〇〇未滿	一〇圓	一・五以上	一〇圓	一・五未滿	二噸以上	二〇圓	三〇圓	九圓	六圓	二圓	二圓
一、〇〇〇未滿	一、〇〇〇以上	二〇圓	一五〇未滿	一五圓	二・五以上	一五圓	二・五未滿	三噸以上	三〇圓	四〇圓	一五圓	一〇圓	三圓	三圓
一、五〇〇未滿	一、五〇〇以上	二五圓	二〇〇未滿	二〇圓	三・五以上	二〇圓	三・五未滿	四噸以上	四〇圓	五〇圓	二〇圓	一五圓	四圓	四圓
二、〇〇〇未滿	二、〇〇〇以上	三〇圓	二五〇未滿	二五圓	四・五以上	二五圓	四・五未滿	五噸以上	五〇圓	六〇圓	二五圓	二〇圓	五圓	五圓
二、五〇〇未滿	二、五〇〇以上	三五圓	三〇〇未滿	三〇圓	五・五以上	三五圓	五・五未滿	六噸以上	六〇圓	七〇圓	三五圓	二五圓	六圓	六圓
三、〇〇〇未滿	三、〇〇〇以上	四〇圓	三五〇未滿	三五圓	六・五以上	四〇圓	六・五未滿	七噸以上	七〇圓	八〇圓	四〇圓	三五圓	七圓	七圓
三、五〇〇未滿	三、五〇〇以上	四五圓	四〇〇未滿	四五圓	七・五以上	四五圓	七・五未滿	八噸以上	八〇圓	九〇圓	五〇圓	四五圓	八圓	八圓
四、〇〇〇未滿	四、〇〇〇以上	五〇圓	四五〇未滿	五〇圓	八・五以上	五〇圓	八・五未滿	九噸以上	九〇圓	一〇〇圓	六〇圓	六〇圓	九圓	九圓
四、五〇〇未滿	四、五〇〇以上	五五圓	五〇〇未滿	五五圓	九・五以上	五五圓	九・五未滿	十噸以上	一〇〇圓	一一〇圓	七〇圓	七〇圓	一〇圓	一〇圓
五、〇〇〇未滿	五、〇〇〇以上	六〇圓	五五〇未滿	六〇圓	一〇・五以上	六〇圓	一〇・五未滿	十一噸以上	一一〇圓	一二〇圓	八〇圓	八〇圓	一一圓	一一圓
五、五〇〇未滿	五、五〇〇以上	六五圓	六〇〇未滿	六五圓	一〇・五以上	六五圓	一〇・五未滿	十二噸以上	一二〇圓	一三〇圓	九〇圓	九〇圓	一二圓	一二圓
六、〇〇〇未滿	六、〇〇〇以上	七〇圓	六五〇未滿	七〇圓	一〇・五以上	七〇圓	一〇・五未滿	十三噸以上	一三〇圓	一四〇圓	一〇〇圓	一〇〇圓	一三圓	一三圓
六、五〇〇未滿	六、五〇〇以上	七五圓	七〇〇未滿	七五圓	一〇・五以上	七五圓	一〇・五未滿	十四噸以上	一四〇圓	一五〇圓	一一〇圓	一一〇圓	一四圓	一四圓
七、〇〇〇未滿	七、〇〇〇以上	八〇圓	七五〇未滿	八〇圓	一〇・五以上	八〇圓	一〇・五未滿	十五噸以上	一五〇圓	一六〇圓	一二〇圓	一二〇圓	一五圓	一五圓
七、五〇〇未滿	七、五〇〇以上	八五圓	八〇〇未滿	八五圓	一〇・五以上	八五圓	一〇・五未滿	十六噸以上	一六〇圓	一七〇圓	一三〇圓	一三〇圓	一六圓	一六圓
八、〇〇〇未滿	八、〇〇〇以上	九〇圓	八五〇未滿	九〇圓	一〇・五以上	九〇圓	一〇・五未滿	十七噸以上	一七〇圓	一八〇圓	一四〇圓	一四〇圓	一七圓	一七圓
八、五〇〇未滿	八、五〇〇以上	九五圓	九〇〇未滿	九五圓	一〇・五以上	九五圓	一〇・五未滿	十八噸以上	一八〇圓	一九〇圓	一五〇圓	一五〇圓	一八圓	一八圓
九、〇〇〇未滿	九、〇〇〇以上	一〇〇圓	九五〇未滿	一〇〇圓	一〇・五以上	一〇〇圓	一〇・五未滿	十九噸以上	一九〇圓	二〇〇圓	一六〇圓	一六〇圓	一九圓	一九圓
九、五〇〇未滿	九、五〇〇以上	一〇五圓	一〇〇〇未滿	一〇五圓	一〇・五以上	一〇五圓	一〇・五未滿	二十噸以上	二〇〇圓	二一〇圓	一七〇圓	一七〇圓	二〇圓	二〇圓

推進機關ヲ有スル船舶ノ検査

推進機關ヲ有セザル船舶ノ検査

船舶安全法第六條第三項ノ規定ニ依ル検査

汽機	軸馬力	汽筒ノ徑ノ和米	製造中検査	出來上リ検査	復動機	製造中検査	汽筒ノ徑ノ和米	製造中検査	出來上リ検査	定期検査	中間検査	臨時検査	總噸數	特殊船舶検査	臨時検査
三〇〇未滿	三〇〇以上	一・〇未滿	一〇圓	三圓	一・〇未滿	一〇圓	一・〇未滿	三圓	二圓	五圓	二圓	二噸未滿	三五圓	二圓	
五〇〇未滿	五〇〇以上	一・五未滿	一五圓	五圓	一・五未滿	一五圓	一・五未滿	五圓	三圓	七圓	三圓	二噸以上	三五圓	二圓	
一、〇〇〇未滿	一、〇〇〇以上	二・〇未滿	二〇圓	七圓	二・〇未滿	二〇圓	二・〇未滿	七圓	四圓	一〇圓	四圓	三噸以上	三五圓	二圓	
一、五〇〇未滿	一、五〇〇以上	二・五未滿	二五圓	九圓	二・五未滿	二五圓	二・五未滿	九圓	五圓	一五圓	五圓	四噸以上	三五圓	二圓	
二、〇〇〇未滿	二、〇〇〇以上	三・〇未滿	三〇圓	一一圓	三・〇未滿	三〇圓	三・〇未滿	一一圓	六圓	二〇圓	六圓	五噸以上	三五圓	二圓	
二、五〇〇未滿	二、五〇〇以上	三・五未滿	三五圓	一三圓	三・五未滿	三五圓	三・五未滿	一三圓	七圓	二五圓	七圓	六噸以上	三五圓	二圓	
三、〇〇〇未滿	三、〇〇〇以上	四・〇未滿	四〇圓	一五圓	四・〇未滿	四〇圓	四・〇未滿	一五圓	八圓	三〇圓	八圓	七噸以上	三五圓	二圓	
三、五〇〇未滿	三、五〇〇以上	四・五未滿	四五圓	一七圓	四・五未滿	四五圓	四・五未滿	一七圓	九圓	三五圓	九圓	八噸以上	三五圓	二圓	
四、〇〇〇未滿	四、〇〇〇以上	五・〇未滿	五〇圓	一九圓	五・〇未滿	五〇圓	五・〇未滿	一九圓	一〇圓	四〇圓	一〇圓	九噸以上	三五圓	二圓	
四、五〇〇未滿	四、五〇〇以上	五・五未滿	五五圓	二一圓	五・五未滿	五五圓	五・五未滿	二一圓	一一圓	四五圓	一一圓	十噸以上	三五圓	二圓	
五、〇〇〇未滿	五、〇〇〇以上	六・〇未滿	六〇圓	二三圓	六・〇未滿	六〇圓	六・〇未滿	二三圓	一二圓	五〇圓	一二圓	十一噸以上	三五圓	二圓	
五、五〇〇未滿	五、五〇〇以上	六・五未滿	六五圓	二五圓	六・五未滿	六五圓	六・五未滿	二五圓	一三圓	五五圓	一三圓	十二噸以上	三五圓	二圓	
六、〇〇〇未滿	六、〇〇〇以上	七・〇未滿	七〇圓	二七圓	七・〇未滿	七〇圓	七・〇未滿	二七圓	一四圓	六〇圓	一四圓	十三噸以上	三五圓	二圓	
六、五〇〇未滿	六、五〇〇以上	七・五未滿	七五圓	二九圓	七・五未滿	七五圓	七・五未滿	二九圓	一五圓	六五圓	一五圓	十四噸以上	三五圓	二圓	
七、〇〇〇未滿	七、〇〇〇以上	八・〇未滿	八〇圓	三一圓	八・〇未滿	八〇圓	八・〇未滿	三一圓	一六圓	七〇圓	一六圓	十五噸以上	三五圓	二圓	
七、五〇〇未滿	七、五〇〇以上	八・五未滿	八五圓	三三圓	八・五未滿	八五圓	八・五未滿	三三圓	一七圓	七五圓	一七圓	十六噸以上	三五圓	二圓	
八、〇〇〇未滿	八、〇〇〇以上	九・〇未滿	九〇圓	三五圓	九・〇未滿	九〇圓	九・〇未滿	三五圓	一八圓	八〇圓	一八圓	十七噸以上	三五圓	二圓	
八、五〇〇未滿	八、五〇〇以上	九・五未滿	九五圓	三七圓	九・五未滿	九五圓	九・五未滿	三七圓	一九圓	八五圓	一九圓	十八噸以上	三五圓	二圓	
九、〇〇〇未滿	九、〇〇〇以上	一〇・〇未滿	一〇〇圓	三九圓	一〇・〇未滿	一〇〇圓	一〇・〇未滿	三九圓	二〇圓	九〇圓	二〇圓	十九噸以上	三五圓	二圓	
九、五〇〇未滿	九、五〇〇以上	一〇・五未滿	一〇五圓	四一圓	一〇・五未滿	一〇五圓	一〇・五未滿	四一圓	二一圓	九五圓	二一圓	二十噸以上	三五圓	二圓	

船舶安全法施行規則



汽一 受熱面積(平方米)	汽一 罐付 = 筒		機動發働單一 機付 = 筒		機動發働複一 機付 = 筒		船舶ノ總噸數	臨檢一回ニ付
	製造中検査	出來上リ検査	製造中検査	出來上リ検査	製造中検査	出來上リ検査		
五〇未満	五圓	二圓	一〇圓	三圓	一〇圓	三圓	一〇〇噸未満	二圓
一〇〇以上 一〇〇未満	一〇圓	三圓	二〇圓	五圓	二〇圓	七圓	一〇〇噸以上 五〇〇噸未満	三圓
一五〇以上 一五〇未満	一五圓	五圓	三〇圓	七圓	三〇圓	一〇圓	五〇〇噸以上 一、〇〇〇噸未満	五圓
二〇〇以上 二〇〇未満	二〇圓	七圓	四〇圓	一〇圓	四〇圓	二〇圓	一、〇〇〇噸以上 二、〇〇〇噸未満	七圓
二五〇以上 二五〇未満	二五圓	九圓	五〇圓	一五圓	五〇圓	三〇圓	二、〇〇〇噸以上 三、〇〇〇噸未満	九圓
三〇〇以上 三〇〇未満	三〇圓	一一圓	六〇圓	二〇圓	六〇圓	四〇圓	三、〇〇〇噸以上 四、〇〇〇噸未満	一一圓
三五〇以上 三五〇未満	三五圓	一三圓	七〇圓	二五圓	七〇圓	五〇圓	四、〇〇〇噸以上 五、〇〇〇噸未満	一三圓
四〇〇以上 四〇〇未満	四〇圓	一五圓	八〇圓	三〇圓	八〇圓	六〇圓	五、〇〇〇噸以上 六、〇〇〇噸未満	一五圓
四五〇以上 四五〇未満	四五圓	一七圓	九〇圓	三五圓	九〇圓	七〇圓	六、〇〇〇噸以上 七、〇〇〇噸未満	一七圓
五〇〇以上 五〇〇未満	五〇圓	一九圓	一〇〇圓	四〇圓	一〇〇圓	八〇圓	七、〇〇〇噸以上 八、〇〇〇噸未満	一九圓
五五〇以上 五五〇未満	五五圓	二一圓	一一〇圓	四五圓	一一〇圓	九〇圓	八、〇〇〇噸以上 九、〇〇〇噸未満	二一圓
六〇〇以上 六〇〇未満	六〇圓	二三圓	一二〇圓	五〇圓	一二〇圓	一〇〇圓	九、〇〇〇噸以上 一〇、〇〇〇噸未満	二三圓
六五〇以上 六五〇未満	六五圓	二五圓	一三〇圓	五五圓	一三〇圓	一一〇圓	一〇、〇〇〇噸以上 一一、〇〇〇噸未満	二五圓
七〇〇以上 七〇〇未満	七〇圓	二七圓	一四〇圓	六〇圓	一四〇圓	一二〇圓	一一、〇〇〇噸以上 一二、〇〇〇噸未満	二七圓
七五〇以上 七五〇未満	七五圓	二九圓	一五〇圓	六五圓	一五〇圓	一三〇圓	一二、〇〇〇噸以上 一三、〇〇〇噸未満	二九圓
八〇〇以上 八〇〇未満	八〇圓	三一圓	一六〇圓	七〇圓	一六〇圓	一四〇圓	一三、〇〇〇噸以上 一四、〇〇〇噸未満	三一圓
八五〇以上 八五〇未満	八五圓	三三圓	一七〇圓	七五圓	一七〇圓	一五〇圓	一四、〇〇〇噸以上 一五、〇〇〇噸未満	三三圓
九〇〇以上 九〇〇未満	九〇圓	三五圓	一八〇圓	八〇圓	一八〇圓	一六〇圓	一五、〇〇〇噸以上 一六、〇〇〇噸未満	三五圓
九五〇以上 九五〇未満	九五圓	三七圓	一九〇圓	八五圓	一九〇圓	一七〇圓	一六、〇〇〇噸以上 一七、〇〇〇噸未満	三七圓
一〇〇〇以上 一〇〇〇未満	一〇〇圓	三九圓	二〇〇圓	九〇圓	二〇〇圓	一八〇圓	一七、〇〇〇噸以上 一八、〇〇〇噸未満	三九圓
一〇五〇以上 一〇五〇未満	一〇五圓	四一圓	二一〇圓	九五圓	二一〇圓	一九〇圓	一八、〇〇〇噸以上 一九、〇〇〇噸未満	四一圓
一一〇〇以上 一一〇〇未満	一一〇圓	四三圓	二二〇圓	一〇〇圓	二二〇圓	二〇〇圓	一九、〇〇〇噸以上 二〇、〇〇〇噸未満	四三圓
一一五〇以上 一一五〇未満	一一五圓	四五圓	二三〇圓	一〇五圓	二三〇圓	二一〇圓	二〇、〇〇〇噸以上 二一、〇〇〇噸未満	四五圓
一二〇〇以上 一二〇〇未満	一二〇圓	四七圓	二四〇圓	一一〇圓	二四〇圓	二二〇圓	二一、〇〇〇噸以上 二二、〇〇〇噸未満	四七圓
一二五〇以上 一二五〇未満	一二五圓	四九圓	二五〇圓	一一五圓	二五〇圓	二三〇圓	二二、〇〇〇噸以上 二三、〇〇〇噸未満	四九圓
一三〇〇以上 一三〇〇未満	一三〇圓	五一圓	二六〇圓	一二〇圓	二六〇圓	二四〇圓	二三、〇〇〇噸以上 二四、〇〇〇噸未満	五一圓
一三五〇以上 一三五〇未満	一三五圓	五三圓	二七〇圓	一二五圓	二七〇圓	二五〇圓	二四、〇〇〇噸以上 二五、〇〇〇噸未満	五三圓
一四〇〇以上 一四〇〇未満	一四〇圓	五五圓	二八〇圓	一三〇圓	二八〇圓	二六〇圓	二五、〇〇〇噸以上 二六、〇〇〇噸未満	五五圓
一四五〇以上 一四五〇未満	一四五圓	五七圓	二九〇圓	一三五圓	二九〇圓	二七〇圓	二六、〇〇〇噸以上 二七、〇〇〇噸未満	五七圓
一五〇〇以上 一五〇〇未満	一五〇圓	五九圓	三〇〇圓	一四〇圓	三〇〇圓	二八〇圓	二七、〇〇〇噸以上 二八、〇〇〇噸未満	五九圓
一五五〇以上 一五五〇未満	一五五圓	六一圓	三一〇圓	一四五圓	三一〇圓	二九〇圓	二八、〇〇〇噸以上 二九、〇〇〇噸未満	六一圓
一六〇〇以上 一六〇〇未満	一六〇圓	六三圓	三二〇圓	一五〇圓	三二〇圓	三〇〇圓	二九、〇〇〇噸以上 三〇、〇〇〇噸未満	六三圓
一六五〇以上 一六五〇未満	一六五圓	六五圓	三三〇圓	一五五圓	三三〇圓	三一〇圓	三〇、〇〇〇噸以上 三一、〇〇〇噸未満	六五圓
一七〇〇以上 一七〇〇未満	一七〇圓	六七圓	三四〇圓	一六〇圓	三四〇圓	三二〇圓	三一、〇〇〇噸以上 三二、〇〇〇噸未満	六七圓
一七五〇以上 一七五〇未満	一七五圓	六九圓	三五〇圓	一六五圓	三五〇圓	三三〇圓	三二、〇〇〇噸以上 三三、〇〇〇噸未満	六九圓
一八〇〇以上 一八〇〇未満	一八〇圓	七一圓	三六〇圓	一七〇圓	三六〇圓	三三〇圓	三三、〇〇〇噸以上 三四、〇〇〇噸未満	七一圓
一八五〇以上 一八五〇未満	一八五圓	七三圓	三七〇圓	一七五圓	三七〇圓	三四〇圓	三四、〇〇〇噸以上 三五、〇〇〇噸未満	七三圓
一九〇〇以上 一九〇〇未満	一九〇圓	七五圓	三八〇圓	一八〇圓	三八〇圓	三四〇圓	三五、〇〇〇噸以上 三六、〇〇〇噸未満	七五圓
一九五〇以上 一九五〇未満	一九五圓	七七圓	三九〇圓	一八五圓	三九〇圓	三五〇圓	三六、〇〇〇噸以上 三七、〇〇〇噸未満	七七圓
二〇〇〇以上 二〇〇〇未満	二〇〇圓	七九圓	四〇〇圓	一九〇圓	四〇〇圓	三五〇圓	三七、〇〇〇噸以上 三八、〇〇〇噸未満	七九圓
二〇五〇以上 二〇五〇未満	二〇五圓	八一圓	四一〇圓	一九五圓	四一〇圓	三五〇圓	三八、〇〇〇噸以上 三九、〇〇〇噸未満	八一圓
二一〇〇以上 二一〇〇未満	二一〇圓	八三圓	四二〇圓	二〇〇圓	四二〇圓	三五〇圓	三九、〇〇〇噸以上 四〇、〇〇〇噸未満	八三圓
二一五〇以上 二一五〇未満	二一五圓	八五圓	四三〇圓	二〇五圓	四三〇圓	三五〇圓	四〇、〇〇〇噸以上 四一、〇〇〇噸未満	八五圓
二二〇〇以上 二二〇〇未満	二二〇圓	八七圓	四四〇圓	二一〇圓	四四〇圓	三五〇圓	四一、〇〇〇噸以上 四二、〇〇〇噸未満	八七圓
二二五〇以上 二二五〇未満	二二五圓	八九圓	四五〇圓	二一五圓	四五〇圓	三五〇圓	四二、〇〇〇噸以上 四三、〇〇〇噸未満	八九圓
二三〇〇以上 二三〇〇未満	二三〇圓	九一圓	四六〇圓	二二〇圓	四六〇圓	三五〇圓	四三、〇〇〇噸以上 四四、〇〇〇噸未満	九一圓
二三五〇以上 二三五〇未満	二三五圓	九三圓	四七〇圓	二二五圓	四七〇圓	三五〇圓	四四、〇〇〇噸以上 四五、〇〇〇噸未満	九三圓
二四〇〇以上 二四〇〇未満	二四〇圓	九五圓	四八〇圓	二三〇圓	四八〇圓	三五〇圓	四五、〇〇〇噸以上 四六、〇〇〇噸未満	九五圓
二四五〇以上 二四五〇未満	二四五圓	九七圓	四九〇圓	二三五圓	四九〇圓	三五〇圓	四六、〇〇〇噸以上 四七、〇〇〇噸未満	九七圓
二五〇〇以上 二五〇〇未満	二五〇圓	九九圓	五〇〇圓	二四〇圓	五〇〇圓	三五〇圓	四七、〇〇〇噸以上 四八、〇〇〇噸未満	九九圓
二五五〇以上 二五五〇未満	二五五圓	一〇一圓	五一〇圓	二四五圓	五一〇圓	三五〇圓	四八、〇〇〇噸以上 四九、〇〇〇噸未満	一〇一圓
二六〇〇以上 二六〇〇未満	二六〇圓	一〇三圓	五二〇圓	二五〇圓	五二〇圓	三五〇圓	四九、〇〇〇噸以上 五〇、〇〇〇噸未満	一〇三圓
二六五〇以上 二六五〇未満	二六五圓	一〇五圓	五三〇圓	二五五圓	五三〇圓	三五〇圓	五〇、〇〇〇噸以上 五一、〇〇〇噸未満	一〇五圓
二七〇〇以上 二七〇〇未満	二七〇圓	一〇七圓	五四〇圓	二六〇圓	五四〇圓	三五〇圓	五一、〇〇〇噸以上 五二、〇〇〇噸未満	一〇七圓
二七五〇以上 二七五〇未満	二七五圓	一〇九圓	五五〇圓	二六五圓	五五〇圓	三五〇圓	五二、〇〇〇噸以上 五三、〇〇〇噸未満	一〇九圓
二八〇〇以上 二八〇〇未満	二八〇圓	一一一圓	五六〇圓	二七〇圓	五六〇圓	三五〇圓	五三、〇〇〇噸以上 五四、〇〇〇噸未満	一一一圓
二八五〇以上 二八五〇未満	二八五圓	一一三圓	五七〇圓	二七五圓	五七〇圓	三五〇圓	五四、〇〇〇噸以上 五五、〇〇〇噸未満	一一三圓
二九〇〇以上 二九〇〇未満	二九〇圓	一一五圓	五八〇圓	二八〇圓	五八〇圓	三五〇圓	五五、〇〇〇噸以上 五六、〇〇〇噸未満	一一五圓
二九五〇以上 二九五〇未満	二九五圓	一一七圓	五九〇圓	二八五圓	五九〇圓	三五〇圓	五六、〇〇〇噸以上 五七、〇〇〇噸未満	一一七圓
三〇〇〇以上 三〇〇〇未満	三〇〇圓	一一九圓	六〇〇圓	二九〇圓	六〇〇圓	三五〇圓	五七、〇〇〇噸以上 五八、〇〇〇噸未満	一一九圓
三〇五〇以上 三〇五〇未満	三〇五圓	一二一圓	六一〇圓	二九五圓	六一〇圓	三五〇圓	五八、〇〇〇噸以上 五九、〇〇〇噸未満	一二一圓
三一〇〇以上 三一〇〇未満	三一〇圓	一二三圓	六二〇圓	三〇〇圓	六二〇圓	三五〇圓	五九、〇〇〇噸以上 六〇、〇〇〇噸未満	一二三圓
三一五〇以上 三一五〇未満	三一五圓	一二五圓	六三〇圓	三〇五圓	六三〇圓	三五〇圓	六〇、〇〇〇噸以上 六一、〇〇〇噸未満	一二五圓
三二〇〇以上 三二〇〇未満	三二〇圓	一二七圓	六四〇圓	三一〇圓	六四〇圓	三五〇圓	六一、〇〇〇噸以上 六二、〇〇〇噸未満	一二七圓
三二五〇以上 三二五〇未満	三二五圓	一二九圓	六五〇圓	三一五圓	六五〇圓	三五〇圓	六二、〇〇〇噸以上 六三、〇〇〇噸未満	一二九圓
三三〇〇以上 三三〇〇未満	三三〇圓	一二九圓	六六〇圓	三二〇圓	六六〇圓	三五〇圓	六三、〇〇〇噸以上 六四、〇〇〇噸未満	一二九圓
三三五〇以上 三三五〇未満	三三五圓	一三一圓	六七〇圓	三二五圓	六七〇圓	三五〇圓	六四、〇〇〇噸以上 六五、〇〇〇噸未満	一三一圓
三四〇〇以上 三四〇〇未満	三四〇圓	一三三圓	六八〇圓	三三〇圓	六八〇圓	三五〇圓	六五、〇〇〇噸以上 六六、〇〇〇噸未満	一三三圓
三四五〇以上 三四五〇未満	三四五圓	一三五圓	六九〇圓	三三五圓	六九〇圓	三五〇圓	六六、〇〇〇噸以上 六七、〇〇〇噸未満	一三五圓
三五〇〇以上 三五〇〇未満	三五〇圓	一三五圓	七〇〇圓	三四〇圓	七〇〇圓	三五〇圓	六七、〇〇〇噸以上 六八、〇〇〇噸未満	一三五圓
三五五〇以上 三五五〇未満	三五五圓	一三九圓	七一〇圓	三四五圓	七一〇圓	三五〇圓	六八、〇〇〇噸以上 六九、〇〇〇噸未満	一三九圓
三六〇〇以上 三六〇〇未満	三六〇圓	一四一圓	七二〇圓	三五〇圓	七二〇圓	三五〇圓	六九、〇〇〇噸以上 七〇、〇〇〇噸未満	一四一圓
三六五〇以上 三六五〇未満	三六五圓	一四三圓	七三〇圓	三五五圓	七三〇圓	三五〇圓	七〇、〇〇〇噸以上 七一、〇〇〇噸未満	一四三圓
三七〇〇以上 三七〇〇未満	三七〇圓	一四五圓	七四〇圓	三六〇圓	七四〇圓	三五〇圓	七一、〇〇〇噸以上 七二、〇〇〇噸未満	一四五圓
三七五〇以上 三七五〇未満	三七五圓	一四七圓	七五〇圓	三六五圓	七五〇圓	三五〇圓	七二、〇〇〇噸以上 七三、〇〇〇噸未満	一四七圓
三八〇〇以上 三八〇〇未満	三八〇圓	一四九圓	七六〇圓	三七〇圓	七六〇圓	三五〇圓	七三、〇〇〇噸以上 七四、〇〇〇噸未満	一四九圓
三八五〇以上 三八五〇未満	三八五圓	一五一圓	七七〇圓	三七五圓	七七〇圓	三五〇圓	七四、〇〇〇噸以上 七五、〇〇〇噸未満	一五一圓
三九〇〇以上 三九〇〇未満	三九〇圓	一五三圓	七八〇圓	三八〇圓	七八〇圓	三五〇圓	七五、〇〇〇噸以上 七六、〇〇〇噸未満	一五三圓
三九五〇以上 三九五〇未満	三九五圓	一五五圓	七九〇圓	三八五圓	七九〇圓	三五〇圓	七六、〇〇〇噸以上 七七、〇〇〇噸未満	一五五圓
四〇〇〇以上 四〇〇〇未満	四〇〇圓	一五七圓	八〇〇圓	三九〇圓	八〇〇圓	三五〇圓	七七、〇〇〇噸以上 七八、〇〇〇噸未満	一五七圓
四〇五〇以上 四〇五〇未満	四〇五圓	一五九圓	八一〇圓	三九五圓	八一〇圓	三五〇圓	七八、〇〇〇噸以上 七九、〇〇〇噸未満	一五九圓
四一〇〇以上 四一〇〇未満	四一〇圓	一六一圓	八二〇圓	四〇〇圓	八二〇圓	三五〇圓	七九、〇〇〇噸以上 八〇、〇〇〇噸未満	一六一圓
四一五〇以上 四一五〇未満	四一五圓	一六三圓	八三〇圓	四〇五圓	八三〇圓	三五〇圓	八〇、〇〇〇噸以上 八一、〇〇〇噸未満	一六三圓
四二〇〇以上 四二〇〇未満	四二〇圓	一六五圓	八四〇圓	四一〇圓	八四〇圓	三五〇圓	八一、〇〇〇噸以上 八二、〇〇〇噸未満	一六五圓
四二五〇以上 四二五〇未満	四二五圓	一六七圓	八五〇圓	四一五圓	八五〇圓	三五〇圓	八二、〇〇〇噸以上 八三、〇〇〇噸未満	一六七圓
四三〇〇以上 四三〇〇未満	四三〇圓	一六九圓	八六〇圓	四二〇圓	八六〇圓	三五〇圓	八三、〇〇〇噸以上 八四、〇〇〇噸未満	一六九圓
四三五〇以上 四三五〇未満	四三五圓	一七一圓	八七〇圓	四二五圓	八七〇圓	三五〇圓	八四、〇〇〇噸以上 八五、〇〇〇噸未満	一七一圓
四四〇〇以上 四四〇〇未満	四四〇圓	一七三圓	八八〇圓	四三〇圓	八八〇圓	三五〇圓	八五、〇〇〇噸以上 八六、〇〇〇噸未満	一七三圓
四四五〇以上 四四五〇未満	四四五圓	一七五圓	八九〇圓	四三五圓	八九〇圓	三五〇圓	八六、〇〇〇噸以上 八七、〇〇〇噸未満	一七五圓
四五〇〇以上 四五〇〇未満	四五〇圓	一七五圓	九〇〇圓	四四〇圓	九〇〇圓	三五〇圓	八七、〇〇〇噸以上 八八、〇〇〇噸未満	一七五圓
四五五〇以上 四五五〇未満	四五五圓	一七九圓	九一〇圓	四四五圓	九一〇圓	三五〇圓	八八、〇〇〇噸以上 八九、〇〇〇噸未満	一七九圓
四六〇〇以上 四六〇〇未満	四六〇圓	一八一圓	九二〇圓	四五〇圓	九二〇圓	三五〇圓	八九、〇〇〇噸以上 九〇、〇〇〇噸未満	一八一圓
四六五〇以上 四六五〇未満	四六五圓	一八三圓	九三〇圓	四五五圓	九三〇圓	三五〇圓	九〇、〇〇〇噸以上 九一、〇〇〇噸未満	一八三圓
四七〇〇以上 四七〇〇未満	四七〇圓	一八五圓	九四〇圓	四六〇圓	九四〇圓	三五〇圓	九一、〇〇〇噸以上 九二、〇〇〇噸未満	一八五圓
四七五〇以上 四七五〇未満	四七五圓	一八七圓	九五〇圓	四六五圓	九五〇圓	三五〇圓	九二、〇〇〇噸以上 九三、〇〇〇噸未満	一八七圓
四八〇〇以上 四八〇〇未満	四八〇圓							



海事法令集

五 船舶検査手帳

總噸數百噸以上ノ推進機關ヲ有スル船舶  
總噸數百噸未滿ノ推進機關ヲ有スル船舶  
推進機關ヲ有セザル船舶

十圓  
七圓  
五圓

二六四

備考

第一號乃至第四號ノ手数料ハ第四百十條ノ規定ニ依リ休暇日ニ於テ證書ノ交付再交付又ハ書換ヲ受ケントスルトキハ各號ニ定ムル金額ノ倍額トス

第一號書式ノ一

船舶検査申請書

- 一 船舶ノ番號、種類、名稱及總噸數
- 二 所有者ノ住所及氏名又ハ名稱
- 三 船籍港
- 四 船舶ノ用途
- 五 航行セントスル航路(漁船ニ在リテハ從事セ  
ントスル業務ノ種類)
- 六 無線電信施設ノ有無
- 七 検査ヲ受ケントスル期日及場所
- 八 検査ノ種類及其ノ申請ノ事由

年月日

申請者 氏

名 印

管海官廳宛

備考

一 船舶ガ長國際航海若ハ短國際航海ニ從事スルモノナルトキ又ハ第二十二條第一號乃至第三號ニ該當スルトキハ其ノ旨ヲ第五號ニ附記スベシ

第一號書式ノ二(移民船ニ付特殊検査ヲ受  
ケントスルトキ用ウルモノ)

船舶検査申請書 (移民船)

- 一 船舶ノ番號、種類、名稱及總噸數
- 二 所有者ノ住所及氏名又ハ名稱
- 三 航行區域
- 四 検査ヲ受ケントスル期日及場所
- 五 移民又ハ三等旅客ノ員數及之ヲ搭載スル港
- 六 發航港、寄航港、到達港及移民又ハ三等旅客ノ下船港
- 七 出港ノ日時及豫定航海期間
- 八 航行里程
- 九 平均速力
- 十 移民又ハ三等旅客ノ船内ニ於ケル搭載場所

年月日

申請者 氏

名 印

管海官廳宛

備考

第八號ニハ船舶安全法施行地ニ於ケル最後ノ發航港ヨリ初メテ到達スベキ外國ノ港迄ノ里程ヲ記載スベシ  
第一號書式ノ三(第五十七條第一項第二號第三號又ハ第二項ノ規定  
ニ依リ特殊検査ヲ受ケントスルトキ用ウルモノ)

船舶検査申請書

- 一 船舶ノ番號、種類、名稱及總噸數

船舶安全法施行規則

二六五



- 二 所有者ノ住所及氏名又ハ名稱
- 三 航行區域(漁船ニ在リテハ操業場所)
- 四 臨時ニ搭載スル者ノ種類及員數竝ニ之ヲ搭載スル港
- 五 検査ヲ受ケントスル期日及場所
- 六 航行里程
- 七 平均速力
- 八 發航港、寄航港及到達港
- 九 豫定航海期間(漁船ニ在リテハ豫定ノ漁期)
- 十 第四號ニ掲グル者ノ船内ニ於ケル搭載場所

申請者 氏

名 印

管海官廳宛

備 考

第六號ニハ第五十七號第一項第二號又ハ第三號ノ規定ニ依リ特殊船舶検査ヲ受クル船舶ニ在リテハ其ノ運送航路ノ里程ヲ、同條第二項ノ規定ニ依リ特殊船舶検査ヲ受クル船舶ニ在リテハ其ノ仕立港ヨリ操業場所迄ノ里程ヲ記載スベシ

第二號書式

製造検査申請書

- 一 船舶ノ種類及資格
- 二 鋼船又ハ木船ノ區別
- 三 船舶ノ長さ及總噸數
- 四 機關ノ種類及數
- 五 實馬力
- 六 制限汽壓
- 七 推進器ノ種類及數

八 使用ノ目的

九 航行セントスル航路(漁船ニ在リテハ從事セントスル業務ノ種類)

十 申請者ニ於テ滿載吃水ノ限度ヲ豫定スルトキハ龍骨ノ上面ヨリ測リタル其ノ限度

十一 船體及機關ノ製造所ノ名稱竝ニ其ノ所在地

十二 起工ノ年月日

申請者 氏

名 印

管海官廳宛

備 考

機關ニ付船體ト同時ニ製造検査ヲ受ケザルトキハ其ノ事由ヲ附記スベシ

第三號書式

機關検査申請書

- 一 検査ヲ受クベキ機關又ハ其ノ部分ノ名稱及數
- 二 製造番號及製造年月
- 三 主要件名
- 四 検査ヲ受ケントスル期日及場所
- 五 出來上リ検査又ハ製造中検査ノ別

申請者 氏

名 印

管海官廳宛

備 考

第三號ニハ往復動汽機ニ在リテハ制限汽壓竝ニ各汽筒ノ徑及行長ヲ、「タービン」汽機ニ在リテハ制限汽壓、軸馬力及「タービン」筒ノ數ヲ、發動機ニ在リテハ型式竝ニ汽筒ノ數、徑及行長ヲ、汽罐ニ在リテハ型式、制限汽壓、徑、長さ(又ハ高さ)及受熱面積ヲ記載スベシ

船舶安全法施行規則



















甲種特殊船舶検査證書

割印

船種船名 船丸	總噸數	噸	航路	證書有效 自 年 月 日 至 年 月 日	期 間
	總噸數	噸			
所有者	搭員	載員	內	船舶安全法第九條ニ依リ本證書ヲ交付ス	
				總員	人

年 月 日

管海官廳印

第八號書式(第七種三欄)號

乙種特殊船舶検査證書

割印

船種船名 船丸	總噸數	噸	航路	證書有效 自 年 月 日 至 年 月 日	期 間
	總噸數	噸			
所有者	搭員	載員	內	船舶安全法第九條ニ依リ本證書ヲ交付ス	
				總員	人

年 月 日

管海官廳印

第九號書式(第七種三欄)號



丙 種 特 殊 船 檢 查 證 書

二七八

割印

船種船名 船 丸	總噸數 噸	航 路	證書有效 自 年 月 日	期 間 至 年 月 日
			船舶安全法第九條ニ依リ本證書ヲ交付ス	
所有者 丸	總 員	甲 板 內	客 旅	
			譯	
管 海 官 廳 印				

第十號書式(陸三七類) 第三種 號

船 特 殊 檢 查 證 書

割印

船種船名 船 丸	總噸數 噸	業 務ノ 種 類	操業場所	證書有效 自 年 月 日	期 間 至 年 月 日
				船舶安全法第九條ニ依リ本證書ヲ交付ス	
所有者 丸	仕立港	豫 定 歸 著 港	搭 載 人	員 內 譯	
				總 員 人	
管 海 官 廳 印					

第十一號書式(陸三七類) 第三種 號



第十二號書式ノ一(船舶ニ用  
ウルモノ)(整二七種)  
第 號

合格證明書

割印

- 一 船舶ノ種類及鋼船又ハ木船ノ區別
- 一 製造番號
- 一 總噸數
- 一 船體ノ主要寸法
- 一 船舶ノ用途
- 一 機關ノ種類及數
- 一 製造者ノ住所及氏名又ハ名稱
- 一 検査ノ成績

別紙ノ通

右ハ船舶安全法第六條ニ依ル船舶ノ製造検査ニ合格シタルモノナルコトヲ證明ス

年 月 日

管海官廳印

割印

第十二號書式ノ二(船舶用機關ニ  
用ウルモノ)(整二七種)  
第 號

合格證明書

- 一 檢印及検査番號
- 一 検査品名及數
- 一 製造中検査又ハ出來上リ検査ノ區別
- 一 製造者ノ住所及氏名又ハ名稱
- 一 検査ノ成績

別紙ノ通

右ハ船舶安全法第六條ニ依ル船舶用機關ノ検査ニ合格シタルモノナルコトヲ證明ス

年 月 日

管海官廳印



第十三號書式(竪二七種)  
第 號

割印

回航認可證書

船舶所有者住所

氏名又ハ名稱

右所有(汽)船 丸ハ船舶安全法施行規則第 條第 號ニ該當スルニ因リ(旅客

若ハ貨物ノ搭載ヲ許サレタルトキ又ハ之ヲ禁ゼラレタルトキハ其ノ旨ヲ記入ス)

ヨリ ヲ經テ 迄航行スルコトヲ認可シ本證書ヲ交付ス

本證書ハ 年 月 日限り其ノ效力ヲ失フ

年 月 日

管海官廳印

第十四號書式(竪六・五種)  
(横六・六種)

第 號

官 氏 名

船 舶 檢 査 官 吏 之 證

印 查

遞 信 省







海上ニ於ケル人命ノ安全  
ノ爲ノ國際條約及國際滿  
載吃水線條約ニ依ル證書  
ニ關スル件 (昭和十年八月  
遞信省令第二十二號)

第一條 國際航海ニ從事スル船舶ハ内地各港間ヲ航行スル  
場合ヲ除クノ外本令ノ定ムル所ニ依リ安全證書、安全無  
線電信證書、免除證書又ハ國際滿載吃水線證書ヲ受有ス  
ルコトヲ要ス

第二條 第四條各號ニ掲グル船舶ヲ除クノ外海上ニ於ケル  
人命ノ安全ノ爲ノ國際條約ニ加盟シタル一國ト他ノ國ト  
ノ間ノ航海(以下甲種國際航海ト稱ス)ニ從事スル旅客船  
ハ最寄管海官廳ニ於テ安全證書(第一號書式)ノ交付ヲ受  
クベシ

第三條 第四條第三號ニ掲グル船舶ヲ除クノ外甲種國際航  
海ニ從事スル總噸數千六百噸以上ノ船舶ニシテ旅客船ニ  
非ザルモノハ最寄管海官廳ニ於テ安全無線電信證書(第  
二號書式)ノ交付ヲ受クベシ

第四條 左ノ各號ニ掲グル船舶ハ最寄管海官廳ニ於テ免除

證書(第三號書式)ノ交付ヲ受クベシ

一 甲種國際航海ニ從事スル旅客船ニシテ沿海ノ航行區  
域ヲ有スルモノ

二 甲種國際航海ニ從事スル旅客船ニシテ臨時旅客又ハ  
甲板旅客ヲ搭載スル爲其ノ構造又ハ設備ニ付船舶區畫  
規程又ハ船舶設備規程ノ定ムル所ニ依リ其ノ一般規定  
ノ適用ヲ緩和セラレタルモノ

三 甲種國際航海ニ從事スル總噸數千六百噸以上ノ船舶  
又ハ總噸數千六百噸未滿ノ旅客船ニシテ船舶安全法施  
行規則第二十二條又ハ第二十三條ノ規定ニ依リ無線電  
信ヲ施設スルコトヲ免除セラレタルモノ

第五條 安全證書又ハ安全無線電信證書ヲ受有スル船舶臨  
時ニ第四條第二號ニ掲グル船舶ニ該當スルトキハ免除證  
書ヲ併セ受有スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ免除證書ヲ受有スル場合ニ於テハ當該  
船舶ガ第四條第二號ニ掲グル船舶ニ該當スル期間内安全  
證書又ハ安全無線電信證書ノ效力ヲ停止ス

第六條 國際滿載吃水線條約ニ加盟シタル一國ト他ノ國ト  
ノ間ノ航海(以下乙種國際航海ト稱ス)ニ從事スル總噸數  
百五十噸以上ノ船舶ニシテ船舶安全法第三條ノ規定ニ依

リ滿載吃水線ヲ標示スルコトヲ要スルモノハ最寄管海官  
廳ニ於テ國際滿載吃水線證書(第四號書式)ノ交付ヲ受ク  
ベシ

第七條 第二條乃至第四條又ハ第六條ノ證書ハ船舶検査證  
書ヲ受有スル船舶ニ非ザレバ其ノ交付ヲ受クルコトヲ得  
ズ

第八條 第二條乃至第四條ノ證書ノ有効期間ハ一年以内ニ  
於テ管海官廳之ヲ定ム

第九條 安全證書、安全無線電信證書又ハ免除證書ノ有效  
期間滿了ノ際當該船舶ガ外國ニ在ルトキハ最寄管海官領事  
官ニ當該證書ノ有効期間ヲ延長ヲ申請スルコトヲ得  
前項ノ申請アリタルトキハ帝國領事官ハ當該船舶ニ付其  
ノ航海ノ適否ヲ調査シ差支ナシト認ムルトキハ當該船舶  
ガ内地ニ歸航スル爲必要ナル場合ニ限り五月ヲ超エザル  
期間内ニ於テ有効期間ヲ延長スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ證書ノ有効期間ヲ延長シタル場合ニ於  
テ當該船舶ガ内地ニ到達シタルトキハ其ノ有効期間ハ滿  
了シタルモノト看做ス

第十條 第六條ノ證書ノ有効期間ハ四年五月以内ニ於テ管  
海官廳之ヲ定ム

海上ニ於ケル人命ノ安全ノ爲ノ國際條約及國際滿載吃水線條約ニ依ル證書ニ關スル件 二八七

第十一條 管海官廳ハ國際滿載吃水線證書ヲ受有スル船舶  
ニシテ當該證書ノ有効期間滿了ノ際滿載吃水線ヲ變更ス  
ルノ必要ナシト認ムルモノニ付テハ申請ニ依リ其ノ有效  
期間ヲ更新スルコトヲ得

第十二條 海上ニ於ケル人命ノ安全ノ爲ノ國際條約ニ加盟  
シタル外國ニ於テ同條約ニ依ル當該國ノ安全證書又ハ安  
全無線電信證書ノ交付ヲ受ケントスルトキハ船長ハ最寄  
管海官領事官ニ事由ヲ具シタル申請書ヲ提出スベシ  
國際滿載吃水線條約ニ加盟シタル外國ニ於テ同條約ニ依  
ル當該國ノ國際滿載吃水線證書ノ交付ヲ受ケントスルト  
キ亦前項ニ同ジ第二條、第三條又ハ第六條ノ規定ハ前二  
項ノ規定ニ依リ當該證書ヲ受有スル船舶ニハ之ヲ適用セ  
ズ

第十三條 左ニ掲グル場合ニ於テハ遲滞ナク安全證書、安  
全無線電信證書、免除證書又ハ國際滿載吃水線證書ヲ最  
寄管海官廳ニ返還スベシ

一 當該證書ノ有効期間滿了シタルトキ  
二 安全證書、安全無線電信證書、免除證書又ハ國際滿  
載吃水線證書ヲ受有スル船舶ガ當該證書ヲ受有スルコ  
トヲ要セザルニ至リタルトキ但シ第五條ノ規定ニ依リ  
安全證書又ハ安全無線電信證書ト免除證書トヲ併セ受有  
スル場合ヲ除ク







第四號書式

海上ニ於ケル人命ノ安全ノ爲ノ國際條約及國際滿載吃水線條約ニ依ル證



國際滿載吃水線證書

千九百三十年ノ國際滿載吃水線條約ノ規定ニ依リ日本帝國政府ノ權限ノ下ニ發行ス

船舶名 船舶籍 船舶噸數 船舶番號

甲板線ヨリノ乾舷 滿載吃水線

熱帶期 (T) (S)ノ上方

夏期 (S) 圓標ノ中心ヲ通過スル線ノ上縁

冬期 (W) (S)ノ下方

冬期北大西洋 (WNA) (S)ノ下方

上記乾舷ニ付テノ淡水ニ對スル餘裕

木材滿載吃水線

甲板線ヨリノ乾舷 滿載吃水線

熱帶木材 (LT) (S)ノ上方

夏期木材 (LS) (S)ノ上方

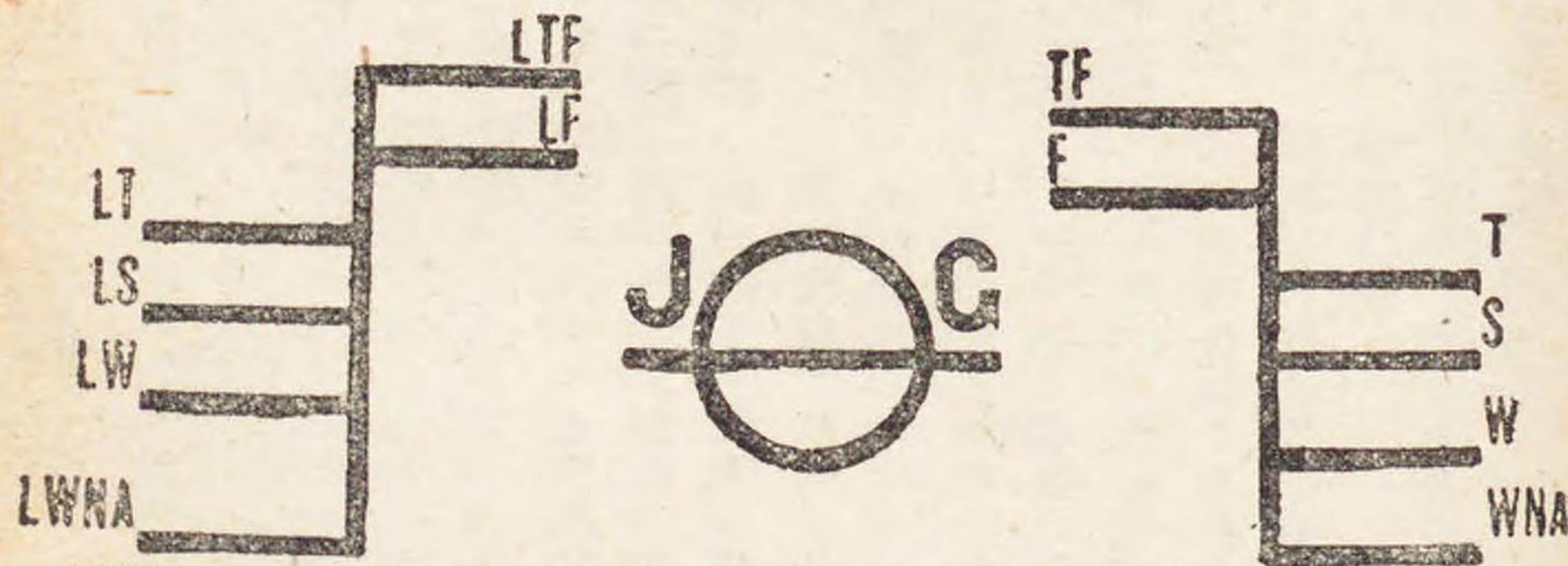
冬期木材 (LW) (S)ノ上方

冬期北大西洋木材 (LWNA) (S)ノ下方

上記乾舷ニ付テノ淡水ニ對スル餘裕

上記乾舷ヲ測ル基準タル甲板線ノ上縁ハ舷ニ於テ 甲板ノ

上面ノ上方 ミリメートルトス



本證書ハ前記條約ニ從ヒ本船ガ検査セラレ且前記ノ乾舷及滿載吃水線ガ指定セラレタルコトヲ證明ス

本證書ハ 年 月 日 迄效力ヲ有ス

年 月 日 於テ發行ス

管海官廳印

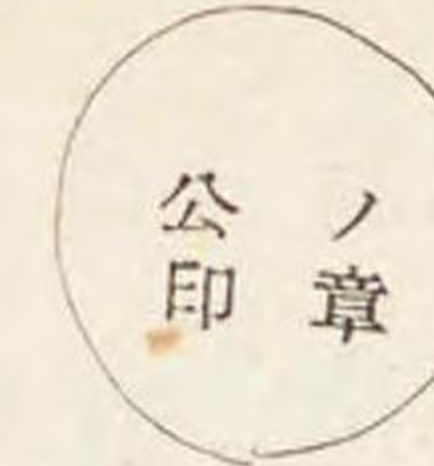
(國際滿載吃水線ニ書裏面)

條約ノ規定ガ本船ニ依リ完全ニ遵守セラレタルヲ以テ本證書ハ 年 月 日迄之ヲ更新ス

年 月 日 場 所

管官海廳印

第二號書式



安全無線電信證書

日本帝國

千九百二十九年海上ニ於ケル人命ノ安全ノ爲ノ國際條約ノ規定ニ依リ發行ス

船名	船舶番號	船舶籍港	總噸數

日本帝國政府ハ本船ガ無線電信ニ關シ前記國際條約ノ規定ニ適合セルコトヲ證明ス

	前記條約第 條ノ規定	實際ノ施設
聽守時間		
承認自働警急機備附ノ有無		
別箇ノ補助設備ノ有無		
通信員ノ最小數		
追加通信員又ハ聽守員		

本證書ハ日本帝國政府ノ權限ノ下ニ之ヲ發行ス

本證書ハ 年 月 日 迄效力ヲ有ス

年 月 日 於テ發行ス

管海官廳印

第三號書式



免除證書

日本帝國

千九百二十九年海上ニ於ケル人命ノ安全ノ爲ノ國際條約ノ規定ニ依リ發行ス

船名	船舶番號	船舶籍港	總噸數

日本帝國政府ハ前記國際條約第 條ニ依リ付與セラレタル權限ニ基キ本船ニ對シ 規定ノ適用ヲ免除シタルコトヲ證明ス

本證書ハ日本帝國政府ノ權限ノ下ニ之ヲ發行ス

本證書ハ 年 月 日 迄效力ヲ有ス

年 月 日 於テ發行ス

管海官廳印



### 船舶設備規程

(昭和九年二月)  
逕信省令第六號  
昭和十五年四月  
逕信省令第二十三號  
改正

#### 目次

- 第一編 救命設備
  - 第一章 總則
  - 第二章 端艇
  - 第三章 船舶ニ備フベキ端艇其ノ他ノ救命器具ノ數量
    - 第一節 第一種船ノ端艇、救命筏及救命浮器
    - 第二節 第二種船ノ端艇、救命筏及救命浮器
    - 第三節 第三種船ノ端艇、救命筏、救命浮器、救命浮環又ハ救命胴衣
    - 第四節 第四種船ノ端艇、救命筏及救命浮器
    - 第五節 第五種船ノ端艇、救命筏及救命浮器
    - 第六節 救命胴衣、救命浮環及救命索發射器
  - 第四章 端艇及救命筏ノ附屬品
  - 第五章 端艇其ノ他ノ救命器具ノ積附及標示
  - 第六章 乘艇裝置
- 第二編 消防設備
  - 第一章 總則

### 第五號書式 救命設備輕減認可書

船名	船舶番號	船籍港	總噸數

本船ハヨリ  
 航海ニ於テ其ノ搭  
 載スル船員及旅客ノ總數ガ  
 フ次表ニ掲グル數量迄輕減スルコトヲ認可ス  
 人ヲ超エザル限リ救命設備

端艇	救命	浮筒	艇筏	筒筒筒筒	人分
救命	救命	救命	救命	救命	救命
證明書	有	有	有	有	有

本船ハ上記ノ輕減ニ依リ千九百二十九年海上ニ於ケル人命ノ安全ノ爲ノ  
 國際條約ノ規定ニ違反スルモノニ非ズ  
 本認可書ハ救命設備ニ關スル限リ船舶検査證書及安全證書ニ代リテ效力  
 ヲ有ス

本認可書ハ日本帝國政府ノ權限ノ下ニ之ヲ發行ス  
 本認可書ハ年月日ヨリ年月日迄效力ヲ有ス  
 管海官廳印

第二章 近海以上ノ航行區域ヲ有スル旅客船ノ消防設備  
 第三章 旅客船ニ非ザル船舶及沿海區域以下ノ航行區域  
 ヲ有スル旅客船ノ消防設備

#### 第三編 居住及衛生設備

第一章 旅客室  
 第二章 旅客定員  
 第三章 旅客ニ關スル設備  
 第四章 船員室等  
 第五章 衛生設備

#### 第四編 航海用具等

第一章 錨、錨鎖及索  
 第二章 操舵設備  
 第三章 航海用具其ノ他ノ屬具  
 第五編 特殊貨物ノ積附設備

#### 第一章 火藥庫

第二章 甲板積木材貨物ノ積附  
 第三章 穀類貨物ノ積附

#### 第六編 電氣設備

第一章 總則  
 第一節 通則

#### 船舶設備規程

第二節 機械及器具  
 第三節 電線、電路及附屬設備

#### 第二章 配線工事

第三章 特殊場所ニ於ケル設備  
 附則

#### 船舶設備規程

##### 第一編 救命設備

###### 第一章 總則

第一條 本編ノ規定ノ適用ニ付テハ船舶ヲ分チテ左ノ六種  
 トス

- 第一種船 近海以上ノ航行區域ヲ有スル旅客船
- 第二種船 沿海ノ航行區域ヲ有スル旅客船又ハ沿海ノ區  
 域ニ於テ臨時旅客ヲ運送スル旅客船
- 第三種船 平水ノ航行區域ヲ有スル旅客船又ハ平水ノ區  
 域ニ於テ臨時旅客ヲ運送スル旅客船
- 第四種船 近海以上ノ區域ニ於テ臨時旅客又ハ甲板旅客  
 ヲ運送スル旅客船
- 第五種船 旅客船ニ非ザル船舶ニシテ沿海以上ノ航行區  
 域ヲ有スルモノ
- 第六種船 旅客船ニ非ザル船舶ニシテ平水ノ航行區域ヲ



有スルモノ

第二條 救命艇ヲ分チテ左ノ五種トス

- 一 第一級甲型救命艇 内部浮體ノミヲ有シ固定舷側ヲ有スル無甲板救命艇
- 二 第一級乙型救命艇 内部浮體及外部浮體ヲ有シ固定舷側ヲ有スル無甲板救命艇
- 三 第二級甲型救命艇 内部浮體及外部浮體ヲ有シ舷側ノ上部ヲ疊込ミ得ル無甲板救命艇
- 四 第二級乙型救命艇 固定水密舷壁又ハ疊込ミ得ル水密舷壁ヲ有スル有甲板救命艇
- 五 發動機附救命艇 第一級救命艇ニシテ發動機ヲ備フルモノ

第三條 端艇ト稱スルハ救命艇及容積一・四立方メートル以上ノ普通艇、傳馬船其ノ他ノ舢舨ヲ謂フ

第四條 救命設備トシテ船舶ニ備フベキ救命艇、救命筏、救命浮器、救呼浮環、救命胴衣、救命索發射器、救命焰及信號紅焰ハ試験規程ニ適合スルモノナルコトヲ要ス

第二章 端艇

第五條 救命艇ノ容積又ハ面積ノ算定竝ニ救命艇、救命筏及救命浮器ノ定員ハ算定ニ付テハ試験規程ニ依ル

ルニ必要ナル端艇ノ數ヨリ多キコトヲ要セズ

管海官廳ニ於テ已ムコトヲ得ズト認ムル場合ニ於テハ端艇鈎ノ組數ヲ第一號表(ロ)欄ニ掲グルモノ迄減ズルコトヲ得

第十二條 前條ノ端艇鈎ノ各組ニハ第一級救命艇一隻ヲ取附クルコトヲ要ス

前項ノ救命艇ノ合計定員ガ船舶ノ最大搭載人員ニ達セザルトキハ之ニ達スル迄救命艇ヲ増備スベシ

前項ノ増備救命艇ハ第一項ノ救命艇ノ下ニ一隻宛配置シ尙殘餘アルトキハ其ノ内側ニ配置スベシ

第十三條 長國際航海ニ従事スル第一種船ニ在リテハ管海官廳ニ於テ救命筏ガ前條第一項ノ救命艇ノ内側ニ配置セラルル増備艇ヨリモ一層迅速且有效ニ利用セラルト認ムルトキハ該増備艇ニ代ヘ救命筏ヲ備フルコトヲ得但シ救命艇ノ總容積ヲ第一號表(ニ)欄ニ掲グル最小容積未滿ト爲スコトヲ得ズ

第十四條 長國際航海ニ従事スル第一種船ニ於テ救命艇ノ數十三隻ヲ超ユルトキハ中一隻、十九隻ヲ超ユルトキハ中二隻ヲ發動機附救命艇ト爲スベシ

第十五條 長國際航海ニ従事セザル第一種船ニ在リテハ第

第六條 發動機附救命艇ハ燃料ヲ十分ニ備ヘ何時ニテモ直ニ使用シ得ル状態ニ置キ且之ヲ迅速ニ水上ニ卸ス爲ノ適當ナル裝置ヲ備フベシ

第七條 普通艇、傳馬船其ノ他ノ舢舨ノ構造ハ管海官廳ニ於テ適當ト認ムルモノナルコトヲ要ス

第八條 普通艇ノ容積ハ其ノ外部ニ於テ長さ及幅ヲ測リ長さノ中央ニ於テ内部ノ深サヲ測リ之ヲ相乘シタルモノノ十分ノ六トス

第九條 普通艇、傳馬船其ノ他ノ舢舨ノ定員ハ其ノ容積乘シタルモノノ十分ノ七トス

第十條 普通艇、傳馬船其ノ他ノ舢舨ノ定員ハ其ノ容積乘シタルモノノ十分ノ七トス

第十一條 第一種船ニハ其ノ長さニ應ジ第一號表(イ)欄ニ掲グル組數ノ端艇鈎ヲ備フベシ但シ最大搭載人員ヲ收容スル

第十二條 第二項ノ規定ニ依ル増備艇ニ代ヘ救命筏又ハ救命浮器ヲ備フルコトヲ得但シ救命艇ノ總容積ヲ第一號表(ホ)欄ニ掲グル最小容積未滿ト爲スコトヲ得ズ

第十六條 長國際航海ニ従事スル第一種船ニ在リテハ最大搭載人員ノ百分ノ二十五ヲ收容シ得ベキ救命浮器ヲ備ヘ短國際航海ニ従事スル第一種船ニ在リテハ前條ノ規定ニ依ルモノノ外最大搭載人員ノ百分ノ十ヲ收容シ得ベキ救命浮器ヲ備フベシ

第十七條 第二種船ニハ其ノ長さニ應ジ第一號表(イ)欄ニ掲グル組數ノ端艇鈎ヲ備フベシ但シ管海官廳ニ於テ已ムコトヲ得ズト認ムル場合ニ於テハ其ノ組數ヲ同表(ロ)欄ニ掲グルモノ迄減ズルコトヲ得

第十八條 前條ノ端艇鈎ノ各組ニハ第一級救命艇一隻ヲ取附クルコトヲ要ス

第十九條 前項ノ救命艇ノ總容積ガ第一號表(チ)欄ニ掲グル最小容積ニ達セザルトキハ之ニ達スル迄救命艇ヲ増備スベシ

第二十條 前項ノ救命艇ノ總容積ガ第一號表(チ)欄ニ掲グル最小容積ニ達セザルトキハ之ニ達スル迄救命艇ヲ増備スベシ



前二項ノ救命艇ハ臨時旅客ヲ運送スル船舶ニ在リテハ救

命艇ニ非ザル端艇ヲ以テ之ニ代用スルコトヲ得

**第十九條** 端艇ノ總容積及端艇鈎ノ組數ハ前二條ノ規定ニ拘ラズ船舶ノ最大搭載人員ヲ收容スルニ必要ナル程度ヲ超ユルコトヲ要セズ

**第二十條** 第十八條ノ規定ニ依ル端艇ノ總容積ガ第一號表(チ)欄ノ容積ニ達スルモ船舶ノ最大搭載人員ノ百分ノ五十ヲ收容スルニ必要ナル容積ニ達セザルトキハ之ニ達スル迄端艇救命筏又ハ救命浮器ヲ増備スベシ

**第二十一條** 長サ三〇メートル未満ノ第二種船ニ在リテハ管海官廳ノ見込ニ依リ救命艇ニ代ヘ端艇鈎ヲ備ヘザル端艇、救命筏又ハ救命浮器ヲ備フルコトヲ得

第三節 第三種船ノ端艇、救命筏、救命浮器  
救命浮環又ハ救命胴衣

**第二十二條** 湖川港内ノミヲ航行スル船舶ヲ除クノ外第三種船ニハ最大搭載人員ノ百分ノ三十ヲ收容スルニ必要ナル端艇、救命筏、救命浮器、救命浮環又ハ救命胴衣ヲ備フルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ船舶ニ備フベキ救命浮環又ハ救命胴衣ノ數ハ其ノ一箇ヲ以テ一人ヲ收容スルモノトシテ之ヲ算

減ズルコトヲ得

**第二十六條** 特ニ限定セラレタル區域ヲ航行スル第四種船ニ付管海官廳前三條ノ規定ヲ適用スルコト實際上不可能ナリト認メタルトキハ當該航路及旅客ノ性質ヲ考慮シ適當ト認ムル程度迄其ノ適用ヲ斟酌スルコトヲ得

第五節 第五種船ノ端艇、救命筏及救命浮器  
**第二十七條** 近海以上ノ航行區域ヲ有スル第五種汽船ニハ各舷ニ最大搭載人員ヲ收容シ得ルニ足ル總容積ノ第一級救命艇及之ニ對スル端艇鈎ヲ備フベシ但シ救命艇ノ總數三隻ナルトキハ中一隻ヲ、三隻ヲ超ユルトキハ中二隻ヲ第一級救命艇ニ非ザル端艇ト爲スコトヲ得

前項但書ノ規定ニ依リ第一級救命艇ニ非ザル端艇ヲ備フル場合ニ於テハ最大搭載人員ヲ收容スルニ必要ナル容積ノ二分ノ一以上ノ總容積ヲ有スル第一級救命艇ヲ各舷ニ備フベシ

前二項ノ規定ハ海難救助船其ノ他特殊ノ用途ニ使用スル汽船ニシテ多數ノ人員ヲ搭載スルモノ又ハ長サ三〇メートル未満ノ汽船ニ付テハ管海官廳ニ於テ已ムコトヲ得ズト認ムル程度迄其ノ適用ヲ斟酌スルコトヲ得

**第二十八條** 近海以上ノ航行區域ヲ有スル第五種帆船及沿

船舶設備規程

定ス

第四節 第四種船ノ端艇、救命筏及救命浮器  
**第二十三條** 第四種船ニハ其ノ長サニ應ジ第一號表(イ)欄ニ掲グル組數ノ端艇鈎ヲ備フベシ但シ最大搭載人員ヲ收容スルニ必要ナル端艇ノ數ヨリ多キコトヲ要セズ  
管海官廳ニ於テ已ムコトヲ得ズト認ムル場合ニ於テハ端艇鈎ノ組數ヲ第一號表(ハ)欄ニ掲グルモノ迄減ズルコトヲ得

**第二十四條** 前條ノ端艇鈎ノ各組ニハ第一級救命艇一隻ヲ取附クルコトヲ要ス

前項ノ救命艇ノ合計定員ガ船舶ノ最大搭載人員ニ達セザルトキハ之ニ達スル迄救命艇ヲ増備スベシ

前項ノ増備救命艇ハ端艇、救命筏又ハ救命浮器ヲ以テ之ニ代用スルコトヲ得但シ救命艇ノ總容積ヲ第一號表(ハ)欄ニ掲グル最小容積未満ト爲スコトヲ得ズ

**第二十五條** 長國際航海ニ從事セザル第四種船ニ付テハ第二十三條ノ規定ニ依リ備フベキ端艇鈎ノ組數及前條第二項ノ規定ニ依リ増備スベキ救命艇ハ最大搭載人員ノ百分ノ八十ヲ收容スルニ必要ナルモノ迄、前條第三項但書ノ規定ニ依ル最小容積ハ第一號表(ト)欄ニ掲グルモノ迄之ヲ

海ノ航行區域ヲ有スル第五種船ニハ最大搭載人員ヲ收容スルニ必要ナル端艇及之ニ對スル端艇鈎ヲ備フベシ但シ長サ三〇メートル未満ノ船舶ニ在リテハ管海官廳ノ見込ニ依リ端艇鈎ヲ備フル端艇ニ代ヘ之ヲ備ヘザル端艇、救命筏、救命浮器又ハ救命浮環ヲ備フルコトヲ得  
前項ノ但書ノ場合ニ於テ船舶ニ備フベキ救命浮環ノ數ハ一箇ヲ以テ一人ヲ收容スルモノトシテ之ヲ算定ス

第六節 救命胴衣、救命浮環及救命索發射器  
**第二十九條** 左ノ各號ノ船舶ニハ最大搭載人員ト同數ノ救命胴衣ヲ備フベシ

一 第一種船、第二種船又ハ第四種船  
二 遠洋ノ航行區域ヲ有スル第五種船又ハ近海ノ航行區域ヲ有スル第五種汽船

前項第一號ニ掲グル船舶ニ於テハ小兒ヲ搭載スル爲實際ノ搭載人員ガ船舶ノ最大搭載人員ヲ超ユル場合ニ對シ超過人員ニ相當スル數ノ救命胴衣ヲ増備シ置クベシ

**第三十條** 旅客船ニハ左表ニ依リ救命浮環及救命索發射器ヲ備フベシ



船ノ長さ(米)	第一種船		第二種船		第三種船		第四種船	
	救命浮環	救命浮環	救命浮環	救命浮環	救命浮環	救命浮環	救命浮環	救命浮環
六一未滿	八	六	四	二	一	六	二	
六一以上	二	六	二	二	四	一	八	四
九一未滿	二	六	二	二	四	一	一〇	六
九一以上	二	六	二	二	四	一	一〇	六
一二二未滿	二	六	二	二	四	一	一〇	六
一二二以上	二	六	二	二	四	一	一〇	六
一八三未滿	二	六	二	二	四	一	一〇	六
一八三以上	二	六	二	二	四	一	一〇	六
二四四未滿	二	六	二	二	四	一	一〇	六
二四四以上	三〇	一五	六	二	四	一	一三	六

第三十一條 旅客船ニ非ザル船舶ニハ左表ニ依リ救命浮環及救命焰ヲ備フベシ

船舶ノ種類	航行區域	汽船		帆船	
		救命浮環	救命焰	救命浮環	救命焰
第五種船	遠洋區域	六	四	四	四
	近海區域	四	二	二	二
	沿海區域	二	一	一	二

有シ且海錨ニ取附ケ得ル様装置シタルモノナルコトヲ要ス

十一 定員一人ニ付一リットルノ割合ノ飲料水ヲ容レ且紐附ノ杓ヲ備ヘタル水密容器一箇

十二 水密容器ニ容レタル信號紅焰一二箇及水密容器ニ容レタル燐寸一箱

十三 小型附屬品ヲ格納スルニ適當ナル箱一箇  
第二級乙型救命艇ニハ前項各號ニ掲グル附屬品ノ外塗水「ポンプ」二箇ヲ備フベシ

第三十四條 長國際航海ニ從事スル第一種船ノ救命艇ニハ前條ノ規定ニ依ル附屬品ノ外左ノ各號ニ掲グル附屬品ヲ備フベシ

一 定員一人ニ付一キログラムノ割合ノ糧食ヲ容レタル氣密容器一箇

二 定員一人ニ付半キログラムノ割合ノ煉乳

第三十五條 發動機附救命艇ニハ第三十三條ノ規定ニ依ル附屬品ヲ備ヘ且鈎竿一本ヲ増備スベシ但シ權ノ數ハ腰掛ノ數ノ二分ノ一ニ止メ橋及帆ハ之ヲ備ヘザルモ妨ナシ

長國際航海ニ從事スル第一種船ノ發動機附救命艇ニハ前項ノ規定ニ依ル附屬品ノ外前條各號ニ掲グル附屬品ヲ備

船舶設備規程

第六種船	平水區域	三	一	一	一
------	------	---	---	---	---

第三十二條 國際航海ニ從事スル第一種船ニハ救命索發射器一組ヲ備フベシ

第四章 端艇及救命筏ノ附屬品

第三十三條 救命艇ニハ左ノ各號ニ掲グル附屬品ヲ備フベシ

- 一 權(各腰掛ニ付一挺)、豫備權二挺、操舵權一挺、權栓又ハ權架一組半及鈎竿一本
- 二 各栓孔ニ對シ栓二箇(適當ナル自働弁ヲ取附クルトキハ栓ヲ要セズ)、塗波一箇及亞鉛鍍鐵製バケツ一箇
- 三 舵一箇及舵柄又ハ索附橫舵柄一箇
- 四 手斧二箇
- 五 油ヲ滿タシ芯ヲ整ヘタル燈一箇
- 六 有效ナル羅針儀一箇
- 七 一枚以上ノ良好ナル帆及附屬裝置ヲ備フル橋一本
- 八 海錨一箇
- 九 繫索一筋
- 十 植物性又ハ動物性ノ油四・五リットルヲ容レタル容器一箇(該容器ハ水面ニ容易ニ油ヲ撒布シ得ル構造ヲ要ス)

フベシ

第三十六條 長國際航海ニ從事スル第一種船ノ發動機附救命艇ニハ無線電信設備ヲ爲シ且探照燈ヲ備フベシ探照燈ハ八〇ワット以上ノ燈、有效ナル反射鏡及動源ヲ備ヘ明キ色ノ物體ヲ一八〇メートルノ距離ニテ約一八メートルノ幅ニ互リ合計六時間有效ニ照明シ得ルコトヲ要シ且連續三時間使用シ得ルモノナルコトヲ要ス

無線電信及探照燈ニ要スル動力ガ同一動源ヨリ供給セラルトキハ該動源ハ兩設備ノ同時ノ操作ニ對シ十分ナルコトヲ要ス

第三十七條 近海以上ノ航行區域ヲ有スル船舶ノ普通艇ノ附屬具ニ付テハ第三十三條ノ規定ヲ準用ス

沿海以下ノ航行區域ヲ有スル船舶ノ普通艇ニハ左ノ各號ニ掲グル附屬品ヲ備フベシ

- 一 權(各腰掛ニ付一挺)、豫備權二挺、操舵權一挺、權栓又ハ權架一組半及鈎竿一本
- 二 各栓孔ニ對シ栓二箇(適當ナル自働弁ヲ取附クルトキハ栓ヲ要セズ)、塗波一箇及桶一箇
- 三 舵一箇及舵柄又ハ索附橫舵柄一箇
- 四 繫索一筋



**第三十八條** 傳馬船其ノ他ノ舢舨ニハ櫓、舵及其ノ附屬品ニ代ヘ櫓二挺、櫓一挺ヲ備フルノ外前條第二項各號ニ掲グル附屬品ヲ備フベシ

**第三十九條** 救命筏ニハ左ノ各號ニ掲グル附屬品ヲ備フベシ

- 一 櫓四挺
  - 二 櫓架五箇
  - 三 繫索一筋
  - 四 救命焰一箇
  - 五 海錨一箇
  - 六 植物性又ハ動物性ノ油四・五リットルヲ容レタル容器(該容器ハ水面ニ容易ニ油ヲ撒布シ得ル構造ヲ有シ且海錨ニ取附ケ得ル様装置シタルモノナルコトヲ要ス)
  - 七 定員一人ニ付一リットルノ割合ノ飲料水ヲ容レ且紐附ノ杓ヲ備ヘタル水密容器一個
  - 八 水密容器ニ容レタル信號紅焰一二箇及水密容器ニ容レタル燐寸一箱
- 第四十條** 長國際航海ニ従事スル第一種船ノ救命筏ニハ前條各號ニ掲グル附屬品ノ外定員一人ニ付一キログラムノ

**第四十四條** 端艇ハ進水ニ際シ推進器ニ接近シ危險ヲ生ズル虞アル位置又ハ船舶ノ前端部ニ之ヲ積附クルコトヲ得ズ

**第四十五條** 端艇鈎ハ管海官廳ノ適當ト認ムル形式ノモノニシテ端艇ノ揚卸操作ガ他ノ端艇ノ揚卸操作ニ依リ妨害セラレザル様之ヲ配置スベシ

**第四十六條** 端艇鈎ニ配置セラレタル端艇ニハ何時ニテモ使用シ得ル吊索ヲ備附ケ且端艇ヲ吊索ヨリ迅速ニ取外ス爲ノ装置ヲ設クベシ

**第四十七條** 國際航海ニ従事スル第一種船及甲板旅客ヲ搭載スル第四種船ノ端艇揚卸装置ハ左ノ各號ノ規定ニ適合スルモノナルコトヲ要ス但シ短國際航海ニ従事スル船舶ニシテ最低航海吃水線ヨリ端艇甲板迄ノ高サガ四・五メートル以下ノモノニ付テハ管海官廳ニ於テ適當ニ之ヲ斟酌スルコトヲ得

- 一 端艇鈎、滑車、吊索其ノ他ノ一切ノ器具ハ船舶ガ何レカノ側ニ一五度傾キタル場合ニ於テモ滿載状態ノ端艇ヲ安全ニ卸シ得ル程度ノ強力ヲ有スルモノナルコトヲ要ス
- 二 吊索ハ船舶ガ最小航海吃水ニ於テ反對ニ一五度傾キ

船舶設備規程

割合ノ糧食ヲ容レタル氣密容器一箇ヲ備フベシ  
沿海以下ノ航行區域ヲ有スル船舶ノ救命筏ニハ前條第四號乃至第八號ノ附屬品ヲ備フルコトヲ要セズ

第五章 端艇其ノ他ノ救命器具ノ積附及標示

**第四十一條** 已ムコトヲ得ザル場合ニ於テハ端艇ハ上下ニ重ネテ積附ケ又他ノ端艇内ニ重ネテ積附クルコトヲ得但シ之ヲ進水セシムルニ當リ吊リ上グルコトヲ要スル積附ハ動力ニ依ル吊上装置ヲ備ヘザル場合ニ於テハ之ヲ爲スコトヲ得ズ

**第四十二條** 端艇鈎下ニ重ネテ配置シタル端艇ノ外其ノ内側ニ端艇又ハ救命筏ノ積附ヲ必要トスルトキハ之ヲ甲板上ニ横ニ積附クルコトヲ得但シ其ノ積附ハ端艇又ハ救命筏ガ之ヲ進水セシムル暇ナキ場合ニ於テハ船舶ヨリ離レテ容易ニ浮ビ得ル様之ヲ爲スベシ

端艇ヲ内側ニ配置スル場合ニ於テハ其ノ成ルベク多數ヲ甲板ノ一側ヨリ他側ニ移動シ進水セシムル爲管海官廳ノ適當ト認ムル移動装置ヲ設クベシ

**第四十三條** 端艇ハ其ノ揚卸ニ當リ相互ニ妨害セザル様特殊ノ方法ヲ講ズル場合ニ限り之ヲ二層以上ノ甲板ニ積附クルコトヲ得

タル場合ニ水面ニ達スル長サノモノナルコトヲ要ス

- 三 端艇鈎ニハ旅客ヲ除クノ外艙裝品及艇手ノ全部ヲ搭載シタル端艇ヲ吊卸可能ナル最大傾斜ニ逆ヒ振出スニ十分ナル力ヲ有スル装置ヲ備フベシ
- 四 二隻以上ノ端艇ガ同一組ノ端艇鈎ニ依リ取扱ハルル場合ニ於テハ各端艇ニ付各別ニ吊索ヲ備フベシ但シ捲返ス爲ノ機械装置ヲ備ヘ且吊索ニ鋼索ヲ使用スルトキハ此ノ限ニ在ラズ
- 五 前號ノ場合ニ於テハ端艇ノ揚卸装置ハ各端艇ヲ順次迅速ニ卸シ得ルモノナルコトヲ要シ且鋼索ヲ捲返ス爲ノ機械装置ヲ備フルトキハ尙手動捲返装置ヲ備フベシ

**第四十八條** 鋼製普通型端艇鈎ノ徑ハ船舶ノ種類ニ應ジ左ノ各號ノ規定ニ依リ算定シタルモノヨリ小ナルコトヲ得ズ但シ傳馬船其ノ他ノ舢舨ニ用ウル端艇鈎ノ徑ハ管海官廳ニ於テ適當ト認ムルモノト爲スコトヲ得

- 一 前條ノ規定ノ適用ヲ受クル船舶ニ用ウル鋼製普通型端艇鈎ノ徑ハ左ノ算式ニ依リ之ヲ定ム

$$10.2 \sqrt{\frac{8(WCH+4S)}{12.5}} \text{ ミリメートル}$$

Wハ人(端艇ノ定員一人ニ付七五キログラムノ割



合トス) 及艙裝品ヲ滿載シタルトキノ端艇ノ重量キログラム

H ハ上部支點ヨリ測リタル端艇鈎ノ高サニメートル

S ハ端艇鈎上部突出ノ徑ニメートル

右算式ヲ適用スルニ當リテハ尙左ノ規定ニ依ル  
(一) 端艇鈎ガ二箇以上ノ端艇ノ揚卸ニ使用セラルル場合ニ於テハWハ各端艇ノ重量中最大ナルモノトス

(二) Wヲ當該端艇ノ定員ニテ除シタル數ガ一〇〇未滿ナル場合ニ於テWハ端艇ノ定員ニ一〇〇ヲ乘ジタルモノト看做ス

二 前條ノ規定ノ適用ヲ受ケザル船舶ニ用ウル鋼製普通型端艇鈎ノ徑ハ左ノ算式ニ依リ之ヲ定ム

$$124 \sqrt[3]{L \times B \times D(H+4S)} \text{ シリメートル}$$

L ハ外板ノ外面ト船首材トノ交點ヨリ船尾ニ於ケル之ニ相當スル點迄測リタル端艇ノ長サニメートル  
B ハ外板ノ外面ヨリ外面迄測リタル端艇ノ最大幅ニメートル  
D ハ長サノ中央ニ於テ龍骨ノ上面ヨリ舷端迄測リ

ナル標示ヲ爲スベシ

第五十五條 救命胴衣ヲ備附ケタル箇所ニハ明瞭ナル標示ヲ爲シ且旅客室毎ニ救命胴衣ノ著用法説明書ヲ掲ゲ置クベシ

第六章 乗艇裝置

第五十六條 本章ノ規定ハ國際航海ニ從事スル旅客船ニ之ヲ適用ス但シ臨時旅客又ハ甲板旅客ヲ運送スル船舶ニ付テハ管海官廳本章ノ規定ヲ適用スルコト實際上不可能ナリト認メタルトキハ船舶ノ大小、航路等ヲ考慮シ適當ト認ムル程度迄其ノ適用ヲ斟酌スルコトヲ得

第五十七條 乗艇甲板ニハ旅客ノ乗艇ニ對スル適當ナル設備ヲ爲スベシ

各組ノ端艇鈎ニハ適當ナル梯子ヲ備置クベシ  
第五十八條 各區畫室及各甲板ニハ管海官廳ノ適當ト認ムル出入設備ヲ設クベシ

第五十九條 船舶ノ各部分殊ニ端艇ノ備附アル甲板ニハ安全上十分ナル電燈其ノ他ノ照明設備ヲ爲スベシ  
最低航海吃水線ヨリ端艇甲板迄ノ高サガ九・一五メートルヲ超ユル船舶ニ在リテハ端艇ノ吊出若ハ吊卸作業中又ハ吊卸直後ニ於テ必要ニ應ジ船舶ヨリ端艇ヲ照明スル爲

船舶設備規程

タル端艇ノ深サニメートル

H 及Sハ前號ノ規定ニ依ル

第四十九條 救命筏及救命浮器ハ何時ニテモ近寄り得ル場所ニ容易且迅速ニ之ヲ進水セシメ得ル様備置クベシ

第五十條 救命浮環ハ何時ニテモ近寄り得ル場所ニ容易且迅速ニ取外シテ投ゲ得ル様之ヲ備置クベシ

船舶ノ各舷ニ備フル救命浮環中少クとも一箇ニハ長サ二七・五メートル以上ノ救命索ヲ取附ケ置クベシ

第五十一條 救命焰ハ必要ナル取附具ヲ附シ其ノ屬スル救命浮環ノ附近ニ之ヲ備置クベシ

第五十二條 救命胴衣ハ容易ニ使用シ得ル様旅客室、船員室其ノ他適當ノ場所ニ配置スベシ

一船ニ備フル救命胴衣ノ種類ハ二種ヲ超ユルコトヲ得ズ

第五十三條 端艇、救命筏及救命浮器ニハ其ノ定員並ニ之ヲ搭載スル船舶ノ名稱及船籍港ヲ標示シ且端艇ニハ其ノ寸法ヲ標示スベシ

前項ノ標示ハ見易キ場所ニ明瞭且耐久的ナル文字ヲ以テ之ヲ爲シ管海官廳ノ適當ト認メタルモノナルコトヲ要ス

第五十四條 救命浮環ニハ船名ヲ標示スベシ  
第一種船ニ在リテハ救命浮環ノ備置場所ヲ示スベキ適當

適當ナル設備ヲ設クベシ

前二項ノ安全照明設備ハ照明用主機械ニ故障ヲ生ジタル場合ニ於テ隔壁甲板以上ノ箇所ニ備ヘタル獨立ノ動源ニ依リ照明シ得ベキモノナルコトヲ要ス

第六十條 旅客又ハ船員ニ供用スル各主要區畫室ノ出口ハ常ニ非常燈ヲ以テ照シ置クベシ

前項ノ非常燈ハ照明用主機械ニ故障ヲ生ジタル場合ニ於テ前條第三項ノ動源ニ依リ照明シ得ベキ裝置ノモノナルコトヲ要ス

第六十一條 長國際航海ニ從事スル旅客船ニ在リテハ汽笛又ハ汽角ニ依ル信號裝置ノ外旅客ヲ集合所ニ召集スル爲船舶ヨリ電氣裝置ニ依リ操作セラルル危急信號裝置ヲ適當ノ場所ニ備フベシ

第二編 消防設備

第一章 總則

第六十二條 本編第二章ノ規定ハ近海以上ノ航行區域ヲ有スル旅客船ニ之ヲ適用ス但シ臨時旅客又ハ甲板旅客ヲ運送スル船舶及國際航海ニ從事セザル船舶ニ付管海官廳該規定ヲ適用スルコト實際上不可能ナリト認メタルトキハ船舶ノ大小、航路等ヲ考慮シ適當ト認ムル程度迄其ノ適



用ヲ斟酌スルコトヲ得

本編第三章ノ規定ハ旅客船ニ非ザル船舶及沿海以下ノ航行區域ヲ有スル旅客船ニ之ヲ適用ス

**第六十三條** 船舶ニ備フベキ火災警報装置、防毒面、安全燈、移動式泡消火器、携帯用泡消火器及携帯用液體消火器ハ試験規程ニ適合スルモノナルコトヲ要ス

**第六十四條** 前條ニ掲グルモノ以外ノ消防裝置ニ付テハ本令ニ適合セザルモノト雖モ管海官廳ニ於テ本令ニ定ムルモノト同一ノ效力ヲ有スト認ムルモノニ限り之ヲ本令ニ適合スルモノト看做ス

**第六十五條** 消防裝置ハ航海中何時ニテモ使用シ得ル状態ニ整備シ置クコトヲ要ス

第二章 近海以上ノ航行區域ヲ有スル

旅客船ノ消防設備

**第六十六條** 船舶ニハ巡視員ガ近寄り得ザル場所ニ於ケル火災ノ發生又ハ徵候ヲ乗組員ノ注意ヲ引キ易キ一箇所又ハ數箇所ニテ自動的ニ表示シ又ハ記録スル火災警報裝置ヲ設クベシ

**第六十七條** 船舶ニハ十分ナル數ノ携帯用液體消火器ヲ備ヘ各機關室ニハ少クトモ二箇ノ携帯用液體消火器ヲ配置

送水管ノ支管ハ各甲板上ニ於テ之ニ消防布管ヲ容易ニ連絡シ得ル様配置スベシ

送水管及布管ハ十分ナル大サヲ有シ且適當ナル材料ヲ以テ製造シタルモノナルコトヲ要ス

**第七十二條** 貨物積載場所ニハ何レノ部分ニモ消防「ポンプ」ニ依リ迅速且同時ニ二箇ノ強力ナル射水ヲ爲シ得ル様設備スベシ

總噸數千噸以上ノ船舶ニ在リテハ遊離状態ニテ最大艙ノ全容積ノ百分ノ三十以上ヲ占有シ得ル量ノ鎮火性瓦斯ヲ常設ノ管系ニ依リ貨物ヲ搭載スル各區畫室ニ迅速ニ送込ミ得ル様設備スベシ但シ蒸氣機關ヲ備フル船舶ニ在リテハ鎮火性瓦斯ニ代ヘ蒸氣ヲ用ウルコトヲ得

**第七十三條** 主汽罐ニ油ヲ焚ク汽船ノ機關室ノ消防設備ハ左ノ各號ノ規定ニ依ル

- 一 消防「ポンプ」ニ依リ機關室ノ何レノ部分ニモ迅速且同時ニ二箇ノ強力ナル射水ヲ爲シ得ル様設備スベシ
- 二 各汽罐室及燃料油槽、澄油槽其ノ他燃料油設備ヲ設置シタル各機關室ニハ泡ヲ急速ニ放出撒布シ得ベキ裝置ヲ備フベシ

船舶設備規程

スベシ

**第六十八條** 船舶ニハ防毒面一箇及安全燈一箇ヨリ成ル器具二組ヲ隔リタル箇所ニ一組宛備フベシ

**第六十九條** 總噸數四千噸未満ノ船舶ニハ二箇、總噸數四千噸以上ノ船舶ニハ三箇ノ消防用蒸氣「ポンプ」其ノ他ノ動力「ポンプ」ヲ備フベシ

前項ノ各「ポンプ」ハ船内何レノ部分ニモ十分ナル水量ヲ二箇ノ強力ナル噴射ヲ以テ同時ニ放出シ得ベキモノナルコトヲ要シ且船舶ノ發港前何時ニテモ使用シ得ル状態ト爲シ置クコトヲ要ス

**第七十條** 前條ノ規定ニ依リ三箇以上ノ消防「ポンプ」ヲ備フル船舶ニ在リテハ該「ポンプ」ノ全部ヲ同一室内ニ備フルコトヲ得ズ

汽罐ニ油ヲ焚ク汽船ニ在リテ汽機室ト汽罐室トノ仕切ガ完全ナル鋼製隔壁ニ非ズシテ燃料油ガ汽罐室途水道ヨリ汽機室ニ流ルル虞アル構造ノモノナルトキハ消防「ポンプ」中一箇ヲ軸路又ハ機關室外ノ場所ニ置クベシ

**第七十一條** 消防「ポンプ」ノ送水管ハ水密戸及防火戸ヲ閉ヂタル場合ニ於テ居住設備ヲ設ケタル甲板ノ何レノ部分ニモ同時ニ二箇ノ強力ナル射水ヲ爲シ得ル様配置スベシ

本號ノ裝置ハ之ヲ備ヘタル室ノ外側ヨリ操作シ且調節シ得ルモノナルコトヲ要ス

本號ノ裝置ハ各區畫室底面（二重底ヲ有スル船舶ニ在リテハ二重底内底板ノ上面、二重底ヲ有セザル船舶ニ在リテハ底部外板ノ内面）ノ全面積ヲ一五・二四センチメートルノ深サ迄蔽フニ十分ナル泡ヲ放出シ得ルモノナルコトヲ要ス若シ汽機室ト汽罐室トノ仕切ガ完全ナル鋼製隔壁ニ非ズシテ燃料油ガ汽罐室途水道ヨリ汽機室ニ流ルル虞アル構造ナルトキハ汽罐室ト汽機室トヲ併セタルモノヲ一區畫トシ泡ノ量ヲ定ムベシ

三 容量一三六リットル以上ノ泡消火器ヲ汽罐室ガ一室ナル汽船ニ在リテハ一箇、汽罐室ガ二室以上ナル汽船ニ在リテハ二箇備フベシ

本號ノ消火器ニハ汽罐室又ハ燃料油設備ヲ設置シタル場所ノ何レノ部分ニモ達シ得ル布管ヲ備ヘ之ヲ卷車ニ卷附ケ置クベシ

四 油ノ表面ハ甚シク攪亂セズシテ油上ニ撒水スル爲適當ナル送水管ヲ備フベシ

五 各焚火場ニハ砂曹達ヲ飽和シタル鋸屑又ハ管海官廳ノ適當ト認ムル乾燥物質二八三立方デシメートルヲ容



レタル容器一箇及撒布用具ヲ備フベシ  
六 各汽罐室及燃料油設備ヲ設置シタル各機關室ニハ携  
帶用泡消火器二箇ヲ備フベシ

七 各容器及之ヲ操作スル弁ハ近寄り易ク且火災ノ發生  
ニ依リ容易ニ遮ラレザル場所ニ之ヲ備置クベシ

**第七十四條** 發動機ニ依リ推進スル船舶ノ機關室ノ消防設  
備ハ左ノ各號ノ規定ニ依ル

- 一 消防「ポンプ」ニ依リ機關室ノ何レノ部分ニモ迅速  
且同時ニ二箇ノ強力ナル射水ヲ爲シ得ル様設備スベシ
- 二 油ノ表面ヲ甚シク攪亂セズシテ油上ニ撒水スル爲適  
當ナル送水管ヲ備フベシ
- 三 機關室内ニ補汽罐ヲ有スル場合ニ於テハ適當ナル布  
管ヲ備フル容量一三六リットルノ泡消火器一箇ヲ備フ  
ベシ
- 四 機關室内ニ補汽罐ヲ有セザル場合ニ於テハ容量四五  
リットルノ移動式泡消火器一箇ヲ備フベシ
- 五 容量九リットルノ携帯用泡消火器ヲ機關ノ軸馬力一  
千毎ニ一箇ノ割合ヲ以テ備フベシ但シ其ノ總數ハ二箇  
ヨリ少カラザルコトヲ要シ六箇ヨリ多キコトヲ要ス

テハ二箇、其ノ他ノ船舶ニ在リテハ一箇ノ砂三〇立方  
デシメートル以上ヲ容レタル箱ヲ備フベシ

四 近海以上ノ航行區域ヲ有スル船舶ニ在リテハ二箇、  
其ノ他ノ船舶ニ在リテハ一箇ノ携帯用液體消火器ヲ備  
フベシ

**第七十八條** 發動機ニ依リ推進スル船舶ノ機關室ノ消防設  
備ハ左ノ各號ノ規定ニ依ル

- 一 近海以上ノ航行區域ヲ有スル船舶ニハ二箇、其ノ他  
ノ船舶ニハ一箇ノ携帯用液體消火器ヲ備フベシ但シ瓦  
斯發動機ヲ備フル船舶又ハ旅客船ニ非ザル沿海以下ノ  
航行區域ヲ有スル船舶ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ
- 二 近海以上ノ航行區域ヲ有スル船舶ニ在リテハ二箇、  
其ノ他ノ船舶ニ在リテハ一箇ノ砂三〇立方デシメー  
トル以上ヲ容レタル箱ヲ備フベシ

第三編 居住及衛生設備

第一章 旅客室

**第七十九條** 左ニ掲グル旅客以外ノ旅客ニ對シテハ本章ノ  
規定ニ依リ旅客室ヲ設備スベシ

- 一 甲板旅客
- 二 航行豫定時間三時間未滿ノ航路ニ於テ搭載スル臨時  
船舶設備規程

第三章 旅客船ニ非ザル船舶及沿海以下ノ航  
行區域ヲ有スル旅客船ノ消防設備

**第七十五條** 沿海ノ航行區域ヲ有スル旅客船ニハ四箇、平  
水ノ航行區域ヲ有スル旅客船ニハ二箇ノ消防手桶ヲ備フ  
ベシ

消防手桶ハ常時水ヲ滿タシ消火ニ便利ナル場所ニ之ヲ備  
置クベシ

**第七十六條** 總噸數百噸以上ノ旅客船ニ在リテハ蒸汽「ボ  
ンプ」其ノ他ノ動力「ポンプ」ヲ備ヘ船内各部ニ射水シ  
得ル様送水管及消防布管ヲ備フベシ

總噸數三百五十噸以上ノ旅客船ニ在リテハ第七十七條又  
ハ第七十八條ノ規定ニ依リ機關室ニ備フルモノノ外十分  
ナル數ノ携帯用液體消火器ヲ備フベシ

**第七十七條** 主汽罐ニ油ヲ焚ク汽船ノ機關室ノ消防設備ハ  
左ノ各號ノ規定ニ依ル

- 一 汽罐室ニハ動力「ポンプ」ノ送水管ヲ適當ノ位置ニ  
導キ布管ヲ容易ニ取附ケ得ル様裝置スベシ
- 二 蒸汽ヲ汽罐室ノ下部ニ噴出セシメ得ベキ多孔管ヲ備  
フベシ
- 三 汽罐室ニハ近海以上ノ航行區域ヲ有スル船舶ニ在リ

旅客

三 沿海以下ノ航行區域ニシテ航行豫定時間三時間未滿  
ノ航路ニ於テ搭載スル旅客

管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムルトキハ七月一日ヨリ八  
月末日ニ至ル期間ニ限り前項第二號及第三號ノ規定ニ依  
ル航行豫定時間ヲ五時間迄延長スルコトヲ得

**第八十條** 旅客室ハ滿載吃水線ノ直下ノ甲板以上ニ之ヲ設  
クベシ

**第八十一條** 甲板間ニハ其ノ高サ遠洋ノ航行區域ヲ有スル  
船舶ニ在リテハ二・一メートル以上、近海ノ航行區域ヲ  
有スル船舶ニ在リテハ一・八メートル以上、沿海以下ノ  
航行區域ヲ有スル船舶ニ在リテハ一・四メートル以上ノ  
場所ニ非ザレバ旅客室ヲ設クルコトヲ得ズ但シ船尾ノ如  
キ斜曲ノ場所ニ設ケタル腰掛様ノ平棚ニシテ其ノ上面ヨ  
リ甲板ノ裏面迄ノ高サ一・二メートルナルトキハ之ヲ客  
席ト爲スコトヲ得

**第八十二條** 上甲板以上ニ於ケル旅客室ノ高サハ遠洋ノ航  
行區域ヲ有スル船舶ニ在リテハ二・一メートル以上、近  
海ノ航行區域ヲ有スル船舶ニ在リテハ一・八メートル以  
上、沿海ノ航行區域ヲ有スル船舶ニ在リテハ一・四メー



トル以上ナルコトヲ要ス

第八十三條 客席ヲ二層以上ト爲ス場合ニ於テハ客席ノ上面ヨリ甲板ノ下面又ハ上層客席ノ下面迄ノ高サハ移民ヲ搭載スル移民船ノ雜居客席ニ在リテハ一メートル以上、其ノ他ノ船舶ノ三等客席ニ在リテハ〇・七六メートル以上ト爲スベシ

前項ノ場合ニ於テハ甲板ノ上面ヨリ下層客席迄ノ高サヲ一五センチメートル以上ト爲スベシ

第八十四條 旅客室ハ燃料油槽ノ隔壁又ハ頂板ニ隣接シテ之ヲ設クルコトヲ得ズ但シ油槽隔壁ト旅客室トヲ隔離スル爲通風十分ニシテ且通行シ得ル間隙ヲ以テ氣密ナル鋼製隔壁ヲ設ケタル場合又ハ人孔其ノ他ノ開口ナキ油槽頂板ノ上面ヲ厚サ三八ミリメートル以上不燃性塗料ヲ以テ塗装シ且該場所ノ通風ヲ特ニ十分ト爲シタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第八十五條 旅客室ハ假設ノ梁上ニ之ヲ設クルコトヲ得ズ旅客甲板ハ梁ニ固著シ隙隙シタルモノナルコトヲ要ス旅客室直上ノ暴露鋼甲板及旅客ヲ搭載スル暴露鋼甲板ニハ木甲板ヲ張ルコトヲ要ス

第八十六條 臨時旅客ヲ搭載スル船舶又ハ沿海以下ノ航行

四 汽罐室ノ周圍ニ防熱裝置ヲ施サザル場合ニ於テハ其ノ周圍六〇センチメートル迄ノ場所  
五 其ノ他管海官廳ニ於テ旅客ノ起臥動作ニ不適當ト認ムル場所

第八十九條 左ニ掲グル場所ハ客室ノ面積ニ算入セズ但シ湖川港内ノミヲ航行スル船舶又ハ發航港ヨリ到達港迄直航スル船舶ニ在リテハ船口ノ上面、周圍及載貨門ノ内側ヲ客席ニ算入スルモ妨ナシ

一 通路  
二 船口ノ上面  
三 船口ノ周圍六〇センチメートル迄ノ場所  
四 載貨門ノ前後各三五センチメートルノ箇所ヨリ其ノ幅ニテ船口ノ周圍六〇センチメートル迄ノ場所

第九十條 上甲板其ノ他閉塞セザル場所ニ旅客ヲ搭載スル場合ト雖モ左ニ掲グル場所ハ之ヲ旅客搭載場所ニ充ツルコトヲ得ズ  
一 船口、天窓、舷側水道其ノ他障害物ノ占ムル部分  
二 甲板室、船口、天窓及舷側水道ノ間ニ於ケル幅六〇センチメートル未滿ノ場所  
三 短船首樓甲板上ノ場所

船舶設備規程

區域ヲ有スル船舶ハ管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムルトキハ前條ノ規定ニ依ラザルコトヲ得  
甲板旅客ヲ搭載スル船舶ハ管海官廳ニ於テ航路ノ狀況等ニ依リ差支ナシト認ムルトキハ前條第三項ノ規定ニ依ラザルコトヲ得

第八十七條 雜居客室ニハ出入口ニ通ズル通路ヲ適當ニ設クベシ但シ客席ヲ一層ト爲ス場合ニ於テ客席ノ面積ノ六分ノ一ヲ通路ニ充ツルトキ又ハ長サ及幅三・七メートル以下ノ客席ニシテ他室ノ通路ニ當ラザルトキハ別ニ通路ヲ設ケザルモ妨ナシ

前項ノ通路ノ幅ハ遠洋ノ航行區域ヲ有スル船舶ニ在リテハ九〇センチメートル以上、其ノ他ノ船舶ニ在リテハ六〇センチメートル以上ト爲スベシ

第八十八條 左ニ掲グル場所ハ客室ニ充ツルコトヲ得ズ  
一 外車汽船ノ車覆  
二 船首隔壁アル船舶ニ在リテハ其ノ前部、船首隔壁ナキ船舶ニ在リテハ上甲板上面ニ於テ船首材ノ内面ヨリ船ノ最六幅ノ二分ノ一ニ當ル箇所ヨリ前部  
三 幅又ハ長サ六〇センチメートル未滿ノ場所

四 船首材ノ前面ヨリ船ノ長サノ八分ノ一間ニアル上甲板及長船首樓甲板上ノ場所  
五 其ノ他管海官廳ニ於テ旅客ノ搭載ニ適セズト認ムル場所

第九十一條 旅客室ノ容積ノ算定ニ付テハ左ノ各號ノ規定ニ依ル  
一 形狀整正ナル場所ニ在リテハ平均ノ幅ニ長サ及高サヲ乗ズ  
二 形狀整正ナラザル場所ニ在リテハ各室毎ニ其ノ前中後ノ三箇所ニ於テ上中下ノ幅ヲ測リ前後ニ於ケル上下ノ幅ノ和ニ前後ノ中幅ノ四倍及中央ニ於ケル上下ノ幅ノ各四倍ヲ加ヘ且中央ノ中幅ノ十六倍トヲ加ヘタルモノヲ三十六ニテ除シ之ニ長サ及平均ノ高サヲ乗ズ

三 船尾斜曲ナル場所〔長サ(矢)ガ幅(弦)ノ二分ノ一ノ箇所ヨリ後部〕ニ在リテハ長サノ三分ノ二ニ其ノ場所ノ前端ノ幅ト高サトヲ乗ズ  
四 前各號ノ規定ニ依リ定メタル容積ヨリ該容積内ニ於テ客室ニ充ツルコトヲ得ザル場所ノ容積ヲ減ズ

第九十二條 客席ノ面積又ハ第七十九條第一項各號ニ掲グル旅客ヲ搭載スル場所ノ面積ノ算定ニ付テハ左ノ各號ノ



規定ニ依ル

- 一 形状整正ナル場所ニ在リテハ平均ノ幅ニ長サヲ乗ズ
- 二 形状整正ナラザル場所ニ在リテハ前中後ノ三箇所ノ幅ヲ測リ前後ノ幅ノ和ニ中央ノ幅ノ四倍ヲ加ヘ六ニテ除シ之ニ長サヲ乗ズ
- 三 船尾斜曲ナル場所〔長サ(矢)ガ幅(弦)ノ二分ノ一ニ等シキ箇所ヨリ後部〕ニ在リテハ長サノ三分ノ二ニ其ノ場所ノ前部ノ幅ヲ乗ズ
- 四 前各號ノ規定ニ依リ定メタル面積ヨリ第八十九條ノ規定ニ依リ客室ノ面積ニ算入セザル場所及第九十條各號ニ掲グル場所ノ面積ヲ減ズ

第二章 旅客定員

第九十三條

旅客室ノ定員ハ左ノ各號ノ計算法ニ依リ算出シタル員數ノ中小ナルモノトス

- 一 第九十一條ノ規定ニ依リ定メタル旅客室ノ容積<sup>立方メートル</sup>ヲ左表ニ掲グル單位容積ニテ除シタル數
- 二 遠洋ノ航行區域ヲ有スル船舶ノ旅客室及近海ノ航行區域ヲ有スル船舶ノ一等室ニ付テハ寢臺ノ數其ノ他ノ旅客室ニ付テハ寢臺ヲ備フルトキハ寢臺ノ數ト前條ノ規定ニ依リ定メタル寢臺外ノ客席ノ面積<sup>平方メートル</sup>ヲ左

平	一等室	0.85	1.10
	二等室	0.55	0.85
水	三等室	0.45	0.55

備考

- 一 沿海ノ航行區域ヲ有スル船舶ニ於テ雜居客室ノ客棚ヲ二段以上ト爲ストキハ該室ノ定員ノ算定ニ用ウル單位面積ハ表ニ掲グルモノノ一・五倍トス
- 二 近海ノ航行區域ヲ有スル船舶ニ於テ雜居客室ノ客棚ヲ二段以上ト爲ストキハ該室ノ定員ノ算定ニ用ウル單位面積及單位容積ハ表ニ掲グルモノノ一・三倍トス
- 三 平水ノ航行區域ヲ有シ最遠里程ヲ一時間以内ニ航行シ得ベキ船舶ノ旅客室ノ定員ヲ算定スルニ當リテハ其ノ航路ノ狀況ニ依リ三等室單位面積ヲ上甲板以上ノ場所又ハ其ノ直下ノ場所ニ於テハ〇・三平方メートル迄、第二甲板ヨリ下方ノ場所ニ於テハ〇・壹メートル迄減ズルコトヲ得

第九十四條

臨時旅客ヲ搭載スル室ノ定員ハ左表ニ掲グル單位面積及單位容積ニ依リ前條ニ準ジ之ヲ定ム但シ臨時旅客ヲ運送スル區域ニ應ジ前條ノ規定ニ依リ算出シタル

船舶設備規程

表ニ掲グル單位面積ニテ除シタル數ノ和、寢臺ヲ備ヘザルトキハ前條ノ規定ニ依リ定メタル客席ノ面積<sup>平方メートル</sup>ヲ左表ニ掲グル單位面積ニテ除シタル數

航行區域	等級			單位面積(平方米)	單位容積(立方米)	單位面積(平方米)	單位容積(立方米)
	一等室	二等室	三等室				
遠洋	一人ニ付一平方米以上ノ寢臺ヲ備フベシ	一人ニ付一平方米以上ノ寢臺ヲ備フベシ	一人ニ付一平方米以上ノ寢臺ヲ備フベシ	3.50	3.50	3.50	3.50
	一人ニ付一平方米以上ノ寢臺ヲ備フベシ	一人ニ付一平方米以上ノ寢臺ヲ備フベシ	一人ニ付一平方米以上ノ寢臺ヲ備フベシ	3.50	3.50	3.50	3.50
	一人ニ付一平方米以上ノ寢臺ヲ備フベシ	一人ニ付一平方米以上ノ寢臺ヲ備フベシ	一人ニ付一平方米以上ノ寢臺ヲ備フベシ	3.50	3.50	3.50	3.50
近海	一人ニ付一平方米以上ノ寢臺ヲ備フベシ	一人ニ付一平方米以上ノ寢臺ヲ備フベシ	一人ニ付一平方米以上ノ寢臺ヲ備フベシ	2.50	2.50	2.50	2.50
	一人ニ付一平方米以上ノ寢臺ヲ備フベシ	一人ニ付一平方米以上ノ寢臺ヲ備フベシ	一人ニ付一平方米以上ノ寢臺ヲ備フベシ	2.50	2.50	2.50	2.50
	一人ニ付一平方米以上ノ寢臺ヲ備フベシ	一人ニ付一平方米以上ノ寢臺ヲ備フベシ	一人ニ付一平方米以上ノ寢臺ヲ備フベシ	2.50	2.50	2.50	2.50
沿海	一人ニ付一平方米以上ノ寢臺ヲ備フベシ	一人ニ付一平方米以上ノ寢臺ヲ備フベシ	一人ニ付一平方米以上ノ寢臺ヲ備フベシ	1.55	1.55	1.55	1.55
	一人ニ付一平方米以上ノ寢臺ヲ備フベシ	一人ニ付一平方米以上ノ寢臺ヲ備フベシ	一人ニ付一平方米以上ノ寢臺ヲ備フベシ	1.55	1.55	1.55	1.55
	一人ニ付一平方米以上ノ寢臺ヲ備フベシ	一人ニ付一平方米以上ノ寢臺ヲ備フベシ	一人ニ付一平方米以上ノ寢臺ヲ備フベシ	1.55	1.55	1.55	1.55

三等室定員大ナルトキハ之ニ依ルコトヲ得

航行豫定時間	單位面積(平方米)			單位容積(立方米)		
	上甲板以上ノ場所及上甲板直下ノ場所	第二甲板ヨリ下方ノ場所	單位面積(平方米)	單位容積(立方米)	單位面積(平方米)	單位容積(立方米)
一時間未満	0.30	0.45	0.30	0.45	0.30	0.45
六時間未満	0.45	0.55	0.45	0.55	0.45	0.55
六時間以上十二時間未満	0.50	0.60	0.50	0.60	0.50	0.60
十二時間以上二十四時間未満	0.65	0.75	0.65	0.75	0.65	0.75
二十四時間以上	0.85	1.00	0.85	1.00	0.85	1.00

第九十五條

第七十九條第一項第二號又ハ第三號ニ掲グル旅客ヲ搭載スベキ上甲板其上ノ他閉塞セザル場所ノ定員ハ第九十二條ノ規定ニ依リ算定シタル甲板面積<sup>平方メートル</sup>ヲ第九十三條又ハ前條ノ表ニ掲グル單位面積ニテ除シタル員數トス

第九十六條

甲板旅客ノ定員ハ其ノ運送區域ニ應ジ第九十二條ノ規定ニ依リ算定シタル面積<sup>平方メートル</sup>ヲ左表ニ掲グル單位面積ニテ除シタル員數トス



區 域	單 位 面 積 (平方米)	
	暴露上甲板	其ノ他ノ暴露甲板
甲 區 域	〇・八五	〇・八五
乙 區 域	〇・八五	
丙 區 域	〇・八五	〇・八五
丁 區 域	一・一〇	

前項ニ於テ甲區域トハ大小「スンダ」列島ノ西方ニ在ル南緯一度以北、北緯八度以南ノ印度洋ヲ謂ヒ乙區域トハ北緯八度以北ニ於ケル印度洋、「ベンガル」灣、「アラビヤ」海、「ペルシヤ」灣及紅海ヲ謂ヒ丙區域トハ南緯一度ノ線ニ依リ北ハ東經一三〇度以西ニ在リテハ北緯八度、東經一三〇度以東ニ在リテハ北緯二一度ノ線ニ依リ東ハ東經一八〇度ノ線ニ依リ西ハ大小「スンダ」列島及馬來半島ニ依リ限ラレタル區域ヲ謂ヒ丁區域トハ南ハ東經一三〇度以西ニ依リテハ北緯八度、東經一三〇度以東ニ在リテハ北緯二一度ノ線ニ依リ北ハ北緯三五度（黃海及渤海ヲ含ム）ノ線ニ依リ東ハ東經一八〇度ノ線ニ依リ西ハ亞細亞ノ沿岸ニ依リ限ラレタル船舶安全施設

キ裝置ト爲シ又其ノ梯子ハ旅客定員五十人未滿ナルトキハ幅六〇センチメートル以上ノモノ一箇以上、五十人以上百人未滿ナルトキハ幅一〇〇センチメートル以上ノモノ一箇以上若ハ幅六〇センチメートル以上ノモノ二箇以上百人以上ナルトキハ一人ニ付一センチメートルノ割合ニテ定メタル總幅ニ達スル迄幅六〇センチメートル以上ノモノヲ備フベシ

回リ梯子又ハ勾配急ニシテ段面狭ク柵欄ニ依ラザレバ昇降シ難キ梯子ハ其ノ幅ノ三分ノ二ヲ以テ、出入口ニ近ク梯子ヲ架ケタル場合ニ於テ出入口ノ幅ガ梯子ノ幅ヨリ狭キトキハ該出入口ノ幅ヲ以テ又梯子ノ下部ニ於テ之ニ面スル壁又ハ他ノ梯子迄ノ距離不十分ニシテ昇降ニ不便ナルトキハ管海官廳ノ適當ト認ムル實際ヨリ狭キ幅ヲ以テ梯子ノ幅ト看做ス

臨時旅客ヲ搭載スル場所ニ對スル梯子ノ幅ハ管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムルトキハ前二項ノ規定ニ適合セザルモ妨ナシ

梯子ハ成ルベク前後ノ方向ニ置キ且甲板ト六〇度以内ノ角度ニ据エ柵欄ヲ附シ其ノ後面ニ板ヲ張ルベシ

第一百一條 近海以上ノ航行區域ヲ有スル船舶ノ上甲板下ニ

船舶設備規程

行地外ノ區域ヲ謂フ

乙區域及丁區域ニ於テハ上甲板以外ノ暴露甲板ニ甲板旅客ヲ搭載スルコトヲ得ズ但シ特ニ限定セラレタル區域内ニ於テ甲板旅客ヲ運送スル場合ニ於テ管海官廳ニ於テ差支ナシト認メタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

前項但書ノ場合ニ於テハ單位面積ヲ暴露上甲板其ノ他ノ暴露甲板ニ對シ何レモ〇・八五平方メートルトシ甲板旅客ノ定員ヲ算定ス

第九十七條

管海官廳ハ航路、季節、船舶ノ大小、乾舷、復原力、救命設備又ハ旅客ニ關スル設備等ヲ考慮シ旅客定員ヲ第九十三條乃至前條ニ依リ算定シタルモノヨリ適當ニ減ズルコトヲ得

第三章 旅客ニ關スル設備

第九十八條

旅客室ニハ少クトモ莖、疊其ノ他旅客ノ坐臥ニ適スベキ敷物ヲ備フベシ

第九十九條

旅客室ニハ採光通風ノ爲相當ノ窓ヲ設クベシ

第一百條

甲板間ニ旅客室ノ設アルトキハ甲板上ニ出入シ得ベキ出入口ヲ設ケ之ニ梯子ヲ備フベシ

於ケル雜居客室ニハ通風管ヲ旅客甲板毎ニ各別ニ設ケ其ノ截面積ハ旅客定員一人ニ付出入口トモ各一六平方センチメートルノ割合ヲ以テ之ヲ定ムベシ但シ機關室ノ兩側ニ於ケル雜居客室ニ於テハ通風管ノ截面積ハ二一平方センチメートルノ割合ト爲スベシ

屈曲セル通風管ヲ用ウルトキハ其ノ截面ヲ屈曲ノ度ニ應ジ各屈曲ニ對シ前項ノ截面ノ百分ノ五乃至十ヲ増スベシ又屈折セル通風管ヲ用ウルトキハ其ノ截面ヲ各屈折ニ對シ屈折ノ度ニ應ジ百分ノ十六乃至三十六ヲ増スベシ

船樓内又ハ甲板室内ニ在ル上甲板口ヲ通ジ雜居客室ニ通風シ得ル場合、機械的通風ノ裝置アル場合、雜居客室内ノ容積ニ餘剩アル場合又ハ雜居客室ト他室トノ空氣ノ流通シ得ル場合ニ於テハ管海官廳ノ見込ニ依リ通風管ノ截面ヲ適當ニ減スルコトヲ得

臨時旅客ヲ搭載スル場所ニ對スル通風管ハ管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムルトキハ第一項及第二項ノ規定ニ適合セザルモ妨ナシ

第一百二條

移民ヲ搭載スル移民船ノ上甲板下ニ於ケル雜居客室ニ對シテハ適當ナル機械的通風裝置ヲ設クベシ

第一百三條

第九十六條第二項ニ掲グル甲、乙又ハ丁區域ニ



付左ニ掲グル荒天季節ニ於テ甲板旅客ヲ搭載スルトキハ  
 甲板旅客逃避ノ爲甲板旅客一人ニ對シ甲板面積一・一平  
 方メートル容積二・〇五立方メートルノ割合ノ遮蔽場所  
 ヲ甲板室内、船樓内又ハ甲板間ニ備フベシ但シ甲板旅客  
 ヲ搭載スル部分ノ天幕ヲ二重ト爲ストキハ管海官廳ノ見  
 込ニ依リ之ヲ備ヘザルモ妨ナシ

- 一 甲區域 四月十六日ヨリ十月三十一日迄
- 二 乙區域 五月一日ヨリ八月三十一日迄
- 三 丁區域 六月一日ヨリ十月十四日迄

**第四百四條** 旅客船ニ於テハ高サ一メートル以上ノ舷牆又ハ  
 柵欄ヲ堅牢ニ取附クベシ但シ沿海以下ノ航行區域ヲ有ス  
 ル船舶ニ在リテハ管海官廳ノ見込ニ依リ舷牆若ハ柵欄ノ  
 高サヲ減ズルカ又ハ他ノ方法ヲ以テ之ニ代用スルコトヲ  
 得

柵欄ノ横棒ハ其ノ間隔二三センチメートルヲ超ユルコト  
 ヲ得ズ但シ之ニ帆布若ハ網ヲ取附クルカ又ハ管海官廳ニ  
 於テ安全ト認ムル他ノ装置ヲ爲ストキハ此ノ限ニ在ラズ  
**第四百五條** 旅客船ニハ適當ノ舷梯ヲ設ケ且堅牢ナル舷梯鈎  
 ヲ備フベシ但シ沿海以下ノ航行區域ヲ有スル船舶ニ付テ  
 ハ管海官廳ニ於テ必要ナシト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラ

ズ

前項ノ舷梯ニハ柵欄ヲ附シ且其ノ裏面ニ板又ハ帆布ヲ張  
 ルベシ

**第六六條** 熱帶地方ヲ航行スル船舶ニハ旅客及船員ニ對ス  
 ル適當ノ防熱設備ヲ爲スベシ

**第六七條** 第七十九條第一項各號ニ掲グル旅客ヲ搭載スル  
 場所ニハ天幕ヲ設備スベシ

**第六八條** 移民ヲ搭載スル移民船ニ於テハ雜居室内ニ旅客  
 ノ手廻品ヲ格納スル物入ヲ設備スベシ但シ甲板ノ上面ヨ  
 リ下層客席迄ノ高サ四〇センチメートル以上ニシテ其ノ  
 間ノ場所ヲ物入ニ利用スルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第四章 船員室等

**第六九條** 船員室ノ定員ハ左ノ各號ノ計算法ニ依リ算出シ  
 タル員數ノ中小ナルモノトス

- 一 船員室ノ容積ニ<sup>立方メートル</sup>テ左表ニ掲グル單位容積ニテ  
 除シタル數
- 二 遠洋ノ航行區域ヲ有スル船舶ノ船員室ニ付テハ寢室  
 ノ數其ノ他ノ船舶ノ船員室ニ付テハ寢臺ヲ備フルトキ  
 ハ寢臺ノ數ト寢臺外ノ座席ノ面積<sup>平方メートル</sup>ニテ左表ニ掲  
 グル單位面積ニテ除シタル數トノ和、寢臺ヲ備ヘザル

トキハ其ノ座席ノ面積ヲ左表ニ掲グル單位面積ニテ除  
 シタル數

船舶ノ航行區域	單位面積(平方米)	單位容積(立方米)
遠洋區域	一人ニ付一・二〇平方米 以上ノ寢臺ヲ備スベシ	二・七五
近海區域	一・一〇	二・〇五
沿海區域	〇・五五	一・二五
平水區域	〇・四五	

**備考**  
 沿海ノ航行區域ヲ有シ最遠里程ヲ航行スル時間十  
 二時間以上ヲ要スル船舶ノ船員室ノ定員ハ近海區  
 域ニ對スル單位面積及單位容積ニ依リ算定スルモ  
 ノトス

管海官廳ハ平水ノ航行區域ヲ有スル船舶ニ前項ノ規定  
 ヲ適用スルニ當リテハ適當ニ斟酌スルコトヲ得

**第一百十條** 第八十條乃至第八十九條、第九十一條及第九十  
 二條ノ規定ハ船員室ニ之ヲ準用ス但シ第八十八條第二號  
 ニ掲グル場所ハ之ヲ船員室ニ充ツルコトヲ得

**第一百十一條** 船員室其ノ他船員ニ供用スル室ニハ鎖鎖管ノ

船舶設備規程

開口又ハ揚錨機、捲揚機其ノ他ノ機具ヲ設置スルコトヲ  
 得ズ

**第一百十二條** 船員室ニハ其ノ定員ニ相當スル押入又ハ戸柵  
 ヲ設クベシ但シ平水ノ航行區域ヲ有スル船舶ニ付テハ管  
 海官廳ノ見込ニ依リ適當ニ之ヲ斟酌スルコトヲ得

**第一百十三條** 船員室ニハ釣床、寢臺又ハ船員ノ坐臥ニ適ス  
 ル敷物ヲ備フベシ

**第一百十四條** 船員室ニハ舷窓、甲板明取り又ハ天窓ヲ設ク  
 ベシ

上甲板下ノ雜居船員室ニハ適當ノ通風管ヲ設クベシ  
 前項ノ通風管ノ截面積ハ近海以上ノ航行區域ヲ有スル船  
 舶ニ付テハ船員室定員一人ニ付出口入口トモ各一六平方  
 センチメートルノ割合ヲ以テ之ヲ定ム

**第一百十五條** 船員又ハ旅客ノ何レニモ非ザル者ノ居室ニ付  
 テハ旅客室ニ關スル規定ヲ準用ス

第五章 衛生設備

**第一百十六條** 近海以上ノ航行區域ヲ有スル旅客船ニハ船舶  
 検査證書ニ掲グル旅客定員一人ニ付〇・四五平方メー  
 ルノ割合ヲ以テ上甲板以上ノ閉塞セラレザル場所ニ適當  
 且安全ナル運動場ヲ設クベシ



**第一百七十七條** 旅客船ニハ最大搭載人員五十人ニ對シ一箇ノ割合ヲ以テ大便所ヲ設クベシ但シ最大搭載人員三百人以上ノ船舶、沿海以下ノ航行區域ヲ有スル船舶又ハ臨時旅客ヲ搭載シテ其ノ航行豫定時間十二時間未滿ノ航海ヲ爲ス船舶ニ付テハ管海官廳ノ見込ニ依リ其ノ割合ヲ斟酌スルコトヲ得

**第一百八十八條** 移民船ニハ上甲板以上ノ場所又ハ上甲板直下ノ甲板間ノ場所ニ於テ成ルベク旅客室及船員室ヨリ隔離シタル箇所ニ病室ヲ設ケ最大搭載人員二百人迄ハ四十人毎ニ一箇、二百人ヲ超ユル人員ニ付テハ超過人員六十人毎ニ一箇ノ割合ヲ以テ寢臺ヲ備フベシ病室ハ一・八三メートル以上ノ高サヲ有シ且收容人員一人ニ付四立方メートル以上ノ容積ヲ有スルコトヲ要ス

**第一百九十九條** 前條ノ病室及寢臺ニ付テハ左ノ各號ノ規定ニ依ル

- 一 病室ノ一部ハ之ヲ隔離室ト爲シ病室用寢臺ノ四分ノ一以上ヲ設備シ得ル構造ト爲スベシ
- 二 病室ニハ規定ノ數ノ二分ノ一以上ノ寢臺ヲ常置スベシ
- 三 寢臺ハ金屬製ニシテ長サ一・八三メートル以上幅六

- 一 低船首樓又ハ低船尾樓ヲ有スル船舶ニ在リテハ該樓ノ長サト高サト相乗シタル數
- 二 船首樓、船橋樓又ハ船尾樓等ヲ有スル船舶ニ在リテハ船橋ノ長サト高サト相乗シタル積ノ四分ノ三
- 三 船ノ幅ノ二分ノ一ヲ超ユル長サ又ハ幅ヲ有スル甲板室其ノ他類似ノ構造物ヲ備フル船舶ニ在リテハ其ノ長サト高サト相乗シタル積ノ二分ノ一

鋼製帆船ニ於テ艤裝數トハ船橋ヲ有セザル場合ニ於テハ鋼船構造規程ニ依ル船ノ深サト幅トノ和ニ長サヲ乗シタル數ヲ謂ヒ船橋ヲ有スル場合ニ於テハ該數ニ其ノ十五分ノ一ヲ加算シタルモノヲ謂フ

前二項ノ長サ、幅、深サ及高サハ單位ヲメートルトシ單位以下第二位ニ止ム

**第二百二十四條** 木船ニ於テ艤裝數トハ船橋ヲ有セザル船舶ニ在リテハ上甲板下ノ積量ニテラ謂ヒ船橋ヲ有スル船舶ニ在リテハ該積量ニテラ謂ヒ船橋ノ積量ニテラ謂フ

**第二百五十五條** 船舶ニハ其ノ艤裝數ニ應ジ第四號表又ハ第五號表ニ定ムル錨、錨鎖及索ヲ備フベシ

**第二百二十六條** 大錨ノ合量ガ表ニ掲グルモノヨリ減少セザ

船舶設備規程

○センチメートル以上ノモノトシ之ヲ上下ニ重ヌルコトナク其ノ一側ニ幅一メートル以上ノ通路ヲ存シ据附クベシ但シ管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムルトキハ寢臺ヲ上下ニ重ネテ配置スルコトヲ得

**第二百二十條** 移民船ニハ病室附屬ノ浴室、便所、診療室並ニ藥局ヲ設クベシ但シ藥局ハ之ヲ診療室ニ兼用スルモ妨ナシ

**第二百二十一條** 移民船ハ船舶安全法施行地ニ於ケル最後ノ港ヲ發航セントスル際該港ヨリ初メテ到達スベキ外國ノ港迄ノ航行豫定時間ニ應ジ特殊船舶検査證書ニ掲グル旅客ニ對シ支給スベキ第二號表ニ定ムル食料及飲用水ヲ備フベシ

**第二百二十二條** 移民船ニハ第三號表ニ定ムル醫藥其ノ他ノ衛生用品ヲ備フベシ

第四章 航海用具等

第一章 錨、錨鎖及索

**第二百二十三條** 鋼製汽船ニ於テ艤裝數トハ鋼船構造規程ニ依ル船ノ深サ(遮浪甲板船ニ在リテハ遮浪甲板迄ノ深サ)ト幅トノ和ニ其ノ長サヲ乗シタル數ニ船橋又ハ甲板室ノ種類ニ應ジ左ノ各號ニ掲グル數ヲ加算シタルモノヲ謂フ

ル限り大錨二箇ヲ備フベキ船舶ニハ中一箇ハ百分ノ七・五以内又ハ三箇ヲ備フベキ船舶ニハ中一箇ハ百分ノ十五以内、一箇ハ百分ノ七・五以内表ニ掲グル單量ヨリ少量ナルモノト爲スモ妨ナク又各大錨ノ單量ヲ相等シキモノト爲スモ妨ナシ

沿海以下ノ航行區域ヲ有スル汽船ニ付テハ管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムルトキハ大錨三箇ヲ備フベキ場合ト雖モ其ノ數ヲ二箇ト爲スコトヲ得但シ中一箇ノ大錨ノ錨量ハ表ニ掲グル單量以上、他ノ一箇ハ該單量ノ百分ノ八十五以上ト爲スベシ

**第二百二十七條** 有錨錨ノ重量ハ錨錨ヲ除キタル錨ノ重量ノ四分ノ一以上ナルコトヲ要ス

**第二百二十八條** 遠洋ノ航行區域ヲ有スル船舶、近海ノ航行區域ヲ有スル汽船ニ備フル錨(錨錨ヲ含ミタル重量七六・二キログラム以下ノモノヲ除ク)、錨鎖及鋼索ハ試驗規程ニ適合シタルモノナルコトヲ要ス

**第二百二十九條** 近海以下ノ航行區域ヲ有スル帆船及總噸數五十噸未滿ノ汽船ニ在リテハ日本形錨ヲ代用スルモ妨ナ



前項ノ規定ニ依リ代用シタル日本形錨ニ對シテハ相當ノ錨索ヲ以テ錨鎖ニ代用スルモ妨ナシ

日本形錨ノミヲ備フル帆船ノ錨、錨索及索ハ第五號表ニ代ヘ艤裝數ニ應ジ第六號表ニ定ムルモノヲ備フベシ

前項ノ船舶ニ備フル大錨索以外ノ錨索ノ長サハ第六號表ニ定ムル大錨索ノ長サニ等シクシ其ノ徑ハ其ノ錨量ニ應ジ第七號表ノ定ムル所ニ依ル

**第三百三十條** 第四號表及第五號表ニ定ムル中錨ノ鎖又ハ鋼索ハ相當ノ大サノ麻索又ハ棕桐索ヲ以テ之ニ代用シ又同表中挽索ノ麻索ハ相當ノ大サノ棕桐索ヲ以テ之ニ代用スルモ妨ナシ

**第三百三十一條** 錨鎖ハ衰耗ノ最モ甚キ場所ニ於ケル平均ノ徑ガ其ノ原徑ニ應ジ第八號表ニ定ムルモノ以下トナリタルトキハ之ヲ使用スベカラズ

**第三百三十二條** 總噸數三十噸未満ノ帆船、浚渫船、總噸數二十噸以上ノ旅客船ヲ除キタル平水ノ航行區域ヲ有スル船舶及湖川港内ノミヲ航行スル船舶ニ付テハ錨數、錨量並ニ錨鎖、大索等ノ徑及長サハ管海官廳ニ於テ適當ト認ムル程度迄之ヲ減ズルコトヲ得

ラズ

總噸數五百噸以上ノ船舶ニ備付クル操舵鎖又ハ操舵鋼索ハ試驗規程ニ適合シタルモノナルコトヲ要ス

第三章 航海用具其ノ他ノ屬具

**第三百三十八條** 船舶ニ備フベキ航海用具其ノ他ノ屬具ハ第九號表ノ定ムル所ニ依ル

本章ニ於テ船燈トハ檣燈、舷燈、船尾燈、碇泊燈紅燈其ノ他海上衝突豫防法ニ規定スル燈ヲ謂フ

**第三百三十九條** 電氣船燈ヲ常用スル船舶ニ在リテハ第九號表ノ規定ニ依リ豫備燈ヲ要セザル場合ト雖モ各電氣船燈ニ對シ豫備ノ油船燈ヲ備フベシ

**第四百十條** 船燈、油信號燈、霧中號角、火箭、榴彈及信號青焰ハ試驗規程ニ適合スルモノナルコトヲ要ス

船燈ニ付テハ其ノ船名及備附年月日ヲ記載シタル合格證明書又ハ檢定證明書ヲ船内ニ保管シ置クベシ

**第四百十一條** 船燈ノ備付ニ付テハ左ノ規定ニ依ル  
一 油船燈ヲ備フル船舶ニ於テハ船燈一種ニ付沿海ノ航行區域ヲ有スル船舶ニ在リテハ三箇以上、近海以上ノ航行區域ヲ有スル船舶ニ在リテハ五箇以上ノ豫備燈筒ヲ備フベシ

船舶設備規程

**第三百三十三條** 錨ハ當時使用セザルモノト雖モ取出シ易キ場所ニ裝置クベシ  
重量一五〇キログラム以上ノ錨ヲ備フル船舶ニハ適當ナル揚錨ノ設備ヲ爲スベシ

第二章 操舵設備

**第三百三十四條** 長サ六〇メートルヲ超ユル汽船ニハ動力ニ依ル操舵裝置ヲ備フベシ

**第三百三十五條** 手用操舵具ヲ常用スル船舶ニハ豫備操舵索一揃ヲ備フベシ但シ平水ノ航行區域ヲ有スル船舶及總噸數五十噸未満ノ船舶ニ付テハ管海官廳ノ見込ニ依リ之ヲ備ヘザルモ妨ナシ

**第三百三十六條** 動力ニ依ル操舵機ヲ常用スル船舶ニハ舵柄ノ制動裝置又ハ制動索ヲ備ヘ且豫備トシテ手用操舵具又ハ動力ニ依ル操舵機ヲ用ウベシ  
小形船ニ付テハ管海官廳ノ見込ニ依リ前項ノ舵柄制動索ヲ以テ豫備手用操舵具ニ兼用セシムルコトヲ得

**第三百三十七條** 動力ニ依ル操舵機ヲ有スル船舶ニハ其ノ操舵裝置ニ發條其ノ他ノ緩衝裝置ヲ備ヘ且舵柄ニ連絡スル部分ノ操舵鎖ノ豫備ヲ備フベシ但シ平水ノ航行區域ヲ有スル船舶及總噸數五百噸未満ノ船舶ニ付テハ此ノ限ニ在

二 船燈ハ其ノ射光ニ妨ナキ適當ノ場所ニ於テ其ノ燈光ヲ甲板以上ニ發射セザル裝置ヲ爲スベシ

三 近海以上ノ航行區域ヲ有スル船舶ニ在リテハ綠紅ノ挿入硝子ヲ使用スル舷燈ヲ備フルトキハ綠紅各二箇ノ豫備挿入硝子ヲ備フベシ

四 舷燈ヲ常平架ニ裝置スルトキハ其ノ支點ハ透鏡ノ中心ト同一水平面内ニ在ルコトヲ要ス

五 油舷燈ニ對テ備フル場合ニ於テハ該燈ハ何レモ同一ノ隔板ニ適合スルモノナルコトヲ要ス

六 電氣舷燈及油舷燈ニ對シテハ各別ノ隔板ヲ備フベシ  
**第四百十二條** 舷燈隔板ノ形狀及寸法ハ船燈試驗規程ニ適合スルモノナルコトヲ要ス

隔板ハ其ノ側板ガ垂直ニシテ且船ノ首尾線ニ平行ナル様之ヲ船舷又ハ其ノ他ノ固定物（橋ノ靜索ノ如キハ固定物ト看做サズ）ニ取付クルコトヲ要ス

**第四百十三條** 汽船及機關ヲ有スル帆船ニハ適當ナル場所ニ汽笛若ハ汽角又ハ適當ノ音響信號器ヲ裝置スベシ

**第四百十四條** 沿海以上ノ航行區域ヲ有スル船舶ニハ其ノ航行スベキ區域及港灣ノ海圖ヲ備フベシ  
海圖ハ水路部ノ最近刊行ニ係ルモノヲ使用スベシ但シ最



近ノ刊行ニ非ザルモ改正ノ廉ヲ記入シタルモノ又ハ外國出版ノ海圖ニシテ最近ノ刊行ニ係ルモノヲ使用スルモ妨ナシ

第百四十五條 帆船ニハ樺ニ相當スル帆一揃ヲ備フベシ  
近海以上ノ航行區域ヲ有スル帆船ニ於テハ前項ノ帆ノ外左表ニ依リ豫備帆ヲ備フベシ

區別	豫備帆ノ種類	數
横帆ヲ備ヘザル船	「フォースル・ステースル」	一
横帆ヲ備フル船	「フォースル」又ハ「メインスル」 「フォースル・ステースル」	二

第百四十六條 總噸數五千噸以上ノ旅客船ニハ爲線方位測定機ヲ備フベシ但シ臨時旅客ヲ搭載スル爲旅客船ト爲リタルモノニ在テハ管海官廳ノ承認ヲ受ケ其ノ備附ヲ省略スルコトヲ得

第五編 特殊貨物ノ積附設備

第一章 火藥庫

第百四十七條 火藥庫ハ成ルベク熱氣ナク且旅客室又ハ船員室ニ接近セザル甲板間ノ場所ニ設置シ其ノ扉ハ艙口ヨ

掃除ノ爲取外シ且持出シ得ベキ構造ト爲スベシ

第百五十二條 火藥庫ガ船側迄達スル場合ニ於テハ船側ニ二三センチメートルヲ超エザル間隔ニ内張板ヲ取附クルコトヲ要ス

第百五十三條 船ノ横ノ方向ニ於ケル幅一二・二メートルヲ超ユル火藥庫ニハ縦通隔壁ヲ設クルコトヲ要ス  
前項ノ隔壁ハ九〇センチメートル以下ノ間隔ニ配置セラレ上下兩端ヲ甲板ニ固著セラレタル七五ミリメートル角以上ノ支柱ノ兩側ニ厚サ二五ミリメートル以上ノ木板ヲ一五センチメートル以内ノ間隔ヲ以テ交互ニ取附ケタル構造ノモノト爲スベシ但シ船舶ノ常設支柱ガ適當ノ位置ニ在リテ其ノ間隔一八〇センチメートルヲ超エザルトキハ之ヲ縦通隔壁ノ支柱ニ代用スルコトヲ得

第百五十四條 火藥庫ノ扉ハ堅牢ナル構造トシ之ニ強固ナル錠ヲ備フベシ

第百五十五條 火藥庫ニハ適當ナル通風裝置ヲ備フベシ  
火藥庫ニ通ズル通風管ノ管口ニハ二枚ノ細目金網ヲ附スルカ又ハ他ノ適當ナル防火蓋ヲ備フベシ  
通風管ヲ備ヘザル鋼製火藥庫ニ於テハ側壁ノ成ルベク上部ニ十分ナル數ノ徑五〇ミリメートル以上ノ換氣孔ヲ穿

船舶設備規程

リ容易ニ接近シ得ル箇所ニ設クヘシ

管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムルトキハ火藥庫ヲ甲板間以外ノ場所ニ設ケシムルコトヲ得

第百四十八條 鋼製火藥庫ノ内面ハ亜鉛鍍ニスルカ又ハ之ニ塗料ヲ施スベシ

第百四十九條 木製火藥庫ノ構造ハ左ノ各號ノ規定ニ依ル  
一 庫壁ハ六一センチメートルヲ超エザル間隔ニ配置セラレ上下兩端ヲ甲板ニ固著セラレタル七五ミリメートル角以上ノ支柱ノ内面ニ厚サ三〇ミリメートル以上ノ板ヲ取附ケタル構造ト爲スベシ  
二 各支柱ノ連結ヲ完全ナラシムル爲其ノ上部及下部ニ幅二三〇ミリメートル以上厚サ三〇ミリメートル以上ノ板ヲ固ク取附クベシ

第百五十條 鋼製又ハ木製火藥庫ノ内面ニハ鐵釘其ノ他ノ鐵材ヲ露出セザル様木板、革又ハ毛布ノ類ヲ以テ内張スベシ

第百五十一條 火藥庫ノ床ハ三〇センチメートル以下ノ間隔ニ配置セラレタル幅七五ミリメートル以上厚サ二五ミリメートル以上ノ横木ノ上ニ之ト同一寸法ノ内張板ヲ七五ミリメートル以下ノ間隔ニ取附ケタル網目格子ニシテ

ツツシ

第百五十六條 持運式火藥庫ハ容積二・二六立方メートル以下ニシテ其ノ床及側壁ハ厚サ七五ミリメートル以上幅五〇ミリメートル以上ノ支柱及厚サ三〇ミリメートル以上ノ木板ヲ用キテ構造シ其ノ蓋ハ之ヲ取附ケタルトキ移動セザル様嵌込構造ト爲シ且堅牢ナル錠ヲ備フベシ

第二章 甲板積木材貨物ノ積附

第百五十七條 甲板積木材貨物トハ上甲板又ハ船樓甲板ノ暴露部ニ積載スル木材貨物ヲ謂フ

前項ノ木材貨物ニハ木質「バルブ」又ハ之ニ類似ノ貨物ヲ包含セズ

第百五十八條 上甲板下ノ場所ニ通ズル甲板口ニシテ甲板積木材貨物ニ依リ蔽ハルルモノハ其ノ積附前ニ艙口梁、縱材、蓋板等ノ閉鎖裝置ヲ所定ノ位置ニ配置シ之ヲ完全ニ閉鎖スベシ  
甲板積木材貨物ヲ積載スル場所ニ在ル通風管ハ十分ノヲ保護スベシ

第百五十九條 船員ノ通路ニ當ル開口ノ附近ニ於テハ各開口ヨリ浸水スルコトヲ妨グル爲隨時之ヲ閉ヂ且留メ得ル様木材貨物ヲ積附クベシ



船員室へノ通路ニ當ル甲板積木材貨物ノ上面ハ步行ニ適  
スル様十分平坦ナラシメ且其ノ各側ニハ貨物上少クトモ  
一・二メートルノ高サヲ有シ且三〇センチメートル以内  
ノ間隔ニ配置セラレタル横棒ヲ備ヘタル保護欄干又ハ之  
ニ相當スル保護索ヲ設クルコトヲ要ス

**第六十條** 操舵装置ハ木材貨物ニ依リ損傷セラレザル様  
十分ニ之ヲ保護シ且成ルベク之ニ近寄り易キ様木材貨物  
ヲ積附クベシ

**第六十一條** 甲板積木材貨物ノ性質ニ依リ支杆ヲ要スル  
場合ニ於テハ適當ナル強力ヲ有スル木製又ハ金屬性ノ支  
杆ヲ心距三・〇五メートル以内ニ於テ木材ノ長サ及性質  
ニ應ジ適當ニ配置シ且之ヲ定著スル爲有効ナル裝置ヲ備  
フベシ

**第六十二條** 甲板積木材貨物ヲ其ノ全長ニ互リ十分締附  
クル爲貨物ノ兩側ニ跨ル十分ナル強力ヲ有スル縛索及其  
ノ締附裝置ヲ備フベシ  
前項ノ縛索ニハ何時ニテモ近寄り得ル箇所ニ於テ解放裝  
置ヲ備フベシ

**第六十三條** 甲板積木材貨物ハ之ヲ密ニ積附ケ縛リ且動  
カザル様爲スベシ又其ノ積附ハ船舶ノ航行及必要ナル操

ベシ

**第六十八條** 穀類貨物ヲ艙内ニ滿載スル場合ニ於テハ其  
ノ全高ニ互リ縦通隔壁又ハ適當ニ定著セラレタル荷止板  
ヲ設ケ適當ニ之ヲ區畫シ其ノ上部ニ於ケル梁ノ間ノ間隙  
ニハ填材ヲ施スベシ

穀類貨物ヲ艙内ニ滿載セザル場合ニ於テハ前項ニ準ジ適  
當ナル荷止板ヲ設クベシ

**第六十九條** 穀類貨物ヲ艙内ニ滿載セザル場合ニ於テハ  
其ノ積載スル穀類貨物ノ約四分ノ一ヲ袋入ト爲シ之ヲ散  
積貨物ノ上ニ設ケタル適當ナル踏板上ニ搭載スベシ但  
シ當該貨物ノ性質又ハ他ノ貨物ト積合せニ依リ穀類貨物  
ノ移動ノ虞ナキトキハ此ノ限ニ在ラズ  
前項ノ規定ハ穀類貨物ヲ滿載スル場合ト雖モ艙内ノ空積  
ヲ填充スル爲ノ適當ナル補給裝置ノ備ナキ場合ニ之ヲ適  
用ス

第六編 電氣設備

第一章 總則

第一節 通則

**第七十條** 本編ノ規定ハ推進以外ノ用途ニ供スル電氣設  
備ニ之ヲ適用ス

船舶設備規程

作ニ支障ナク且水分ノ吸收ニ依ル木材ノ重量ノ増加並ニ  
燃料及倉庫品ノ消費ニ依ル其ノ重量ノ減少其ノ他艙内ニ  
於ケル重量ノ變更ヲ考量ノ上航海ノ全道程ヲ通ジ復原性  
ノ十分ナル餘裕ヲ保持シ得ルモノナルコトヲ要ス

第三章 穀類貨物ノ積附

**第六十四條** 木材滿載吃水線ヲ標示シタル船舶ガ普通ノ  
滿載吃水線ヲ超エ甲板積木材貨物ヲ搭載セントスルトキ  
ハ其ノ積附ニ付キ本章ノ規定ニ依ルノ外船舶滿載吃水線  
規程ノ定ムル所ニ依ルベシ

**第六十五條** 穀類貨物トハ米、麥、豆、堅果、果核、種  
子其ノ他之ニ類似ノ散粒狀貨物ヲ謂フ

**第六十六條** 近海以上ノ航行區域ヲ有スル船舶ニ其ノ純  
噸數ノ三分ノ一ニ相當スル容積以上ノ容積ノ穀類貨物ヲ  
散積スル場合ニ於テハ其ノ積附ハ本章ノ規定ニ依ル

穀類貨物ノ容積分明ナラザルトキハ其ノ重量ニ應ジ以テ  
船舶ノ純噸數一噸ニ相當スルモノト看做ス

**第六十七條** 穀類貨物ハ上甲板ト第二甲板トノ間ノ場所  
ニ散積スルコトヲ得ズ但シ艙内ノ空積ヲ填充スル爲適當  
ナル構造ノ補給裝置ニ積載スルトキハ此ノ限ニ在ラズ  
穀類貨物ヲ積載シタルトキハ十分ニ之ヲ荷均シ且填込ム

第七十一條

供給電壓ハ直流ニ在リテハ五〇〇ヴォルト、交流ニ在リテハ二五〇ヴォルト以下ナルコトヲ要ス  
電氣扇、電熱器、小形電動機其ノ他之ニ類スル小形ノ電  
氣器具（以下單ニ小形電氣器具ト稱ス）及白熱電燈ニ供  
給スル電路ノ電壓ハ直流ニ在リテハ二五〇ヴォルト、交  
流ニ在リテハ一五〇ヴォルト以下ナルコトヲ要ス

第七十二條

供給電壓ハ供給點ニ於テ保持スベキ一定電  
壓ニ成ルベク百分ノ四ヲ超ユル變動ヲ生ゼシメザルモノ  
ト爲スベシ

第七十三條

電氣方式ハ左ノ各號ノ一ニ依ルコトヲ要ス  
一 直流又ハ交流單相ノ二線式  
二 直流又ハ交流單相ノ三線式  
三 交流三相三線式  
四 交流三相四線式

第七十四條

電氣設備ニ關シ本編ニ規定セザル事項ニ付  
テハ管海官廳ノ適當ト認ムル所ニ依ル船舶ノ種類、用途  
等ニ依リ本編ノ規定ニ依リ難キモノニ付亦同ジ

第二節 機械及器具

**第七十五條** 發電機、電動機等ハ其ノ捲線ト大地トノ間  
ノ絕緣ガ其ノ最大使用電壓ノ一・五倍ノ電壓ニ依ル絶緣



耐力試験ニ十分間以上耐フルコトヲ要ス

第七十六條 計器用變成器以外ノ變壓器ハ適當ノ絶緣耐力試験ニ耐フルモノナルコトヲ要ス

前項ノ變壓器ハ其ノ最大使用電壓ガ第七十一條ノ電壓ヲ超ユルモノナルトキハ兩捲線ノ混觸ヨリ生ズル危險ヲ防止スル爲之ニ適當ナル安全裝置ヲ備フベシ

第七十七條 發電機、電動機、變壓器等ハ特殊ノ場合ヲ除クノ外易燃性瓦斯、酸性瓦斯又ハ油蒸氣ノ鬱積セザル通風良好ナル區畫内ノ水、蒸氣、油若ハ熱ニ因ル障害又ハ他動的損傷ヲ受クル虞ナキ場所ニ之ヲ設置スベシ

第七十八條 發電機、電動機等ノ鐵製ノ臺及變壓器ノ外函ハ接地スルコトヲ要ス但シ乾燥シタル木製ノ床其ノ他之ニ類スル絶緣性物ノ上ヨリ之ヲ取扱フ様設置シタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第七十九條 配電盤ハ不燃性物ヲ以テ製作シタルモノナルコトヲ要ス

第八十條 配電盤ノ各帶電部ハ之ヲ適當ニ隔離スルカ又ハ不燃性絶緣物ヲ以テ保護シ其ノ間ニ弧光ノ持續セザル様設置スベシ配電盤ニ取付クル器具及電線(電纜及管ニ藏メタル電線ヲ除ク)ハ容易ニ點檢シ得ル様之ヲ設置ス

ハシ

第八十一條 主配電盤ニハ適當ナル計器ヲ備フベシ

第八十二條 開閉器、自動遮斷器其ノ他充電スル導體ニ接スル器具ハ不易燃性物ヲ以テ絶緣シタルモノナルコトヲ要ス

第八十三條 開閉器、自動遮斷器其ノ他之ニ類スル器具ハ其ノ使用電流及電壓ヲ表示シタルモノナルコトヲ要ス

第八十四條 機械及器具ハ船舶ノ動搖ニ依リ支障ヲ生ゼザルモノナルコトヲ要ス

第三節 電線、電路及附屬設備

第八十五條 絶緣電線ハ使用電流ニ因ル温度上昇ノ爲絶緣物ヲ損傷セザルモノナルコトヲ要ス

第八十六條 電纜及鉛被電線ハ電氣工作物規程ニ定ムル第四種絶緣電線(以下單ニ第四種電線ト稱ス)ト同等以上ノ效力ヲ有スルモノナルコトヲ要ス

第八十七條 電路中必要ナル箇所ニハ特ニ定ムル場合ヲ除クノ外其ノ各極ニ適當ナル開閉器ヲ裝置スベシ

第八十八條 機械、器具及電線ヲ保護スル爲電路中必要ナル箇所ニ適當ナル自動遮斷器ヲ裝置スベシ

地線工事ノ接地線及多線式電路ノ中性線ニハ自動遮斷器

ヲ裝置スルコトヲ得ズ

第八十九條 電路中必要ナル箇所ニハ常ニ漏電ノ有無ヲ自働的ニ表示スル適當ナル裝置ヲ備フベシ

第九十條 電路ハ管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムル場合ヲ除クノ外其ノ全部ヲ十分大地ヨリ絶緣スベシ

第九十一條 電線ニ接續點ヲ設クルトキハ左ノ各號ニ依

- 一 電線ノ電氣抵抗ヲ增加セシメザルコト
- 二 電線ノ強サヲ二割以上減少セシメザルコト
- 三 接續管又ハ特殊ノ方法ニ依リ接續スル場合ヲ除クノ外接續部分ハ之ヲ鐵附スルコト

第二章 配線工事

第九十二條 配線ハ電纜、鉛被電線又ハ金屬製管、金屬製線種若ハ木綿線種ニ藏メタル絶緣電線ナルコトヲ要ス

第九十三條 配線ハ徑一・六ミリメートル以上ノ軟銅線ナルコトヲ要ス但シ使用場所又ハ工事ノ方法ニ依リ適當ニ之ヲ斟酌スルコトヲ得

第九十四條 電纜ノ金屬被覆及鉛被電線ノ鉛被ハ接地スルコトヲ要ス

第九十五條 他動的損傷ヲ受クル虞アル場所ニハ體裝電

船舶設備規程

纜又ハ適當ナル保護裝置ヲ有スル鉛被電線ヲ使用スルコトヲ要ス

第九十六條 木製線種ヲ用ウル配線工事ハ乾燥セル場所ニ限り之ヲ爲スコトヲ得

- 一 電線ハ第四種電線ナルコト
- 二 線種内ニ於テハ電線ニ接續點ヲ設ケザルコト
- 三 線種ハ乾燥シタル堅緻ナル木材ヲ以テ製作シ其ノ内外面ニ耐水性ノ塗料ヲ施スコト

第九十七條 金屬製管又ハ金屬製線種ヲ用ウル配線工事ハ左ノ各號ニ依ル

- 一 電線ハ第四種電線ナルコト
- 二 電線ハ燃線ナルコト但シ短小ナル管若ハ種内ニ藏ムルモノ又ハ徑二ミリメートル以下ノモノハ此ノ限ニ在ラズ
- 三 管又ハ種ノ接續ハ電氣的ニ完全ニシテ且振動ニ依リ破損セザルモノナルコト
- 四 管又ハ種ハ接地スルコト但シ短小ナル管又ハ種ニシテ乾燥シタル場所ニ設置スルモノハ此ノ限ニ在ラズ
- 五 管又ハ種ノ内部ニ於テハ電線ニ接續點ヲ設ケザルコト



六 鐵製ノ管又ハ極ハ酸化作用ヲ防止スル爲ニ亜鉛鍍ヲ施スカ又ハ「エナメル」等ヲ以テ被覆スルコト

七 濕氣アル場所又ハ壁内ニ設置スル管又ハ桶ハ其ノ内部分ニ濕氣ノ浸入スル事ヲ防グ爲ニ接手其ノ他ノ附屬品ニ適當ナル防濕裝置ヲ施スコト

**第九十八條** 電纜又ハ鉛被電線ガ甲板又ハ水密隔壁ヲ貫通スル部分ニハ甲板管又ハ水密「グラウンド」ヲ備ヘ梁又ハ水密ナラザル隔壁ヲ貫通スル部分ニハ鉛其ノ他ノ軟質非鐵物質ノ嵌輪ヲ備フベシ

第四種電線ガ甲板、梁又ハ隔壁ヲ貫通スル部分ニハ絶緣性物ヲ備ヘ適當ニ之ヲ保護スベシ

**第九十九條** 電氣使用場所ニ於ケル電線ハ適當ニ分岐シ且分岐點ニ近キ箇所ニ於テ各分岐回路ノ各極ニ開閉器及自働遮斷器ヲ裝置スヘシ

前項ノ各分岐回路ヨリ更ニ分岐スル二線式電路ニ備フル開閉器及自働遮斷器ハ單極ニ之ヲ裝置スルコトヲ得

**第二百條** 汽機室及汽罐室内ノ配線ハ各獨立ノ分岐回路ト爲スベシ

**第二百一條** 檣燈、舷燈、兩色燈、三色燈及船尾燈ニ對シ

テハ燈毎ニ獨立ノ配線ト爲シ別箇ノ開閉器及自働遮斷器ニ依リ制御シ得ル裝置ト爲スベシ

前項ノ開閉器及自働遮斷器ハ航海船橋上ニ之ヲ集合設置スベシ又船燈ガ電球ノ纖維ノ切斷其ノ他ノ原因ニ因リ滅シタル場合ニハ之ヲ自働的ニ表示スル設備ヲ爲スベシ

管海官廳ハ差支ナシト認ムル場合ニ於テハ前二項ノ規定ノ適用ヲ斟酌スルコトヲ得

**第二百二條** 應急送電裝置ヲ要スル船舶ニ在リテハ應急送電路ハ主電源ヨリ應急電源ニ急速ニ切换ヘ得ル裝置ト爲スベシ

第三章 特殊場所ニ於ケル設備

**第二百三條** 濕氣アル場所又ハ雨露ニ暴露スル場所ニ設置スル電氣設備ニハ適當ナル防濕又ハ防水裝置ヲ施スベシ

**第二百四條** 石炭庫其ノ他塵埃アル場所ニ於ケル電氣設備ハ左ノ各號ニ依ル

- 一 配線ハ鍍裝電纜又ハ金屬製管ニ藏メタル第四種電線ナルコト
- 二 開閉器自働遮斷器其ノ他ノ器具ハ適當ナル防塵裝置ヲ有スルモノナルコト
- 三 電球承口ハ無鍵承口ナルコト

第二百五條

腐蝕性ノ瓦斯又ハ溶液ノ發散スル場所ニ於ケル電氣設備ニハ瓦斯若ハ溶液ノ爲侵サレザル様適當ナル塗裝其ノ他ノ豫防方法ヲ施スコトヲ要ス

第二百六條

爆發又ハ燃燒シ易キ危險ナル物質ヲ發生又ハ貯藏スル場所ニ於ケル電氣設備ハ左ノ各號ニ依ル

- 一 配線ハ鍍裝電纜又ハ金屬製線種若ハ金屬製管ニ藏メタル第四種電線ナルコト
- 二 自働遮斷器、開閉器、點滅器、抵抗器其ノ他火花ヲ發シ又ハ溫度過昇ノ虞アル器具ハ該場所内ニ設置セザルコト但シ堅牢ナル氣密函若ハ油中ニ藏ムルカ又ハ其ノ他ノ適當ナル保安裝置ヲ施シタルモノハ此ノ限ニ在ラズ

三 電球承口ハ無鍵承口ナルコト

四 電球ニハ氣密ナル外球ヲ裝置シ且堅固ナル外裝ヲ施スコト

五 電動機ハ火花ヲ發スル部分ヲ有セザルモノ又ハ火花ヲ發スル部分ニ適當ナル保安裝置ヲ特ニ施シタルモノニ限リ之ヲ使用スルコト

六 電線ト機械又ハ器具トノ接續ハ電氣的ニ安全ニシテ且振動ニ因リ弛緩セザル様堅固ニ取附ケタルモノナル

船舶設備規程

コト

**第二百七條** 磁氣羅針儀ニ接近スル電氣設備ハ羅針儀ニ有害ナル影響ヲ及ボサザル様設置スルコトヲ要ス

附則

**第二百八條** 本令ハ昭和九年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

**第二百九條** 本令施行ノ際現ニ船舶ニ備フル端艇及端艇鉤ハ本令ノ規定ニ適合セザルモノト雖モ管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムルトキハ之ヲ引續キ當該船舶ニ備フル場合ニ限リ本令ノ規定ニ適合スルモノト看做ス

前項ノ端艇ニ付テハ其ノ容積ハ船舶検査規程ニ依リ算定シタル容積ヲ立方メートルニ換算シタルモノヲ以テ、其ノ定員ハ同規程ニ依リ算定シタルモノヲ以テ第五條又ハ第八條及第九條ノ規定ニ依リ算定シタル容積及定員ト看做ス

前二項ノ規定ハ昭和六年七月一日以後ニ龍骨ヲ据附ケタル國際航海ニ從事スル旅客船ニシテ近海以上ノ航行區域ヲ有スルモノニ付テハ之ヲ適用セズ

**第二百十條** 國際航海ニ從事スル旅客船ニシテ昭和六年六月三十日以前ニ龍骨ヲ据附ケタルモノニ付テハ發動機附救命艇及救命索發射器ノ備附、端艇及救命筏ノ附屬品ノ



備附、端艇ノ積附及揚卸装置、乗艇装置並ニ消防設備ニ關シ本令ヲ適用スルコト實際上困難ナリト認ムルトキハ管海官廳ニ於テ之ヲ適當ニ斟酌スルコトヲ得

**第二百一十一條** 本令施行ノ際沿海以下ノ航海定限ヲ有スル旅客船ニ現ニ備フル救命艇ニ非ザル端艇ハ管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムルトキハ之ヲ引續キ當該船舶ニ備フル場合ニ限り救命艇ニ代用セシムルコトヲ得

**第二百一十二條** 國際航海ニ從事スル旅客船ニシテ近海以上ノ航行區域ヲ有スルモノヲ除キ本令施行前製造シタル船舶ニ付管海官廳本令ニ依リ救命設備ヲ備フルコト實際上困難ナリト認メタルトキハ近海以上ノ航行區域ヲ有スル船舶ニ在リテハ本令施行後二年、其ノ他ノ船舶ニ在リテハ四年以内ニ於テ行フ最後ノ中間検査又ハ定期検査ノ時期迄其ノ設備ニ付仍從前ノ例ニ依ラシムルコトヲ得

**第二百一十三條** 本令施行ノ際現ニ存スル旅客室ニ付テハ左ニ掲グル事項ニ關シ仍從前ノ例ニ依ラシムルコトヲ得  
一 室ノ高サ、通路及梯子ノ幅並ニ客席ト甲板又ハ上層客席トノ間ノ高サ  
二 移民搭載場所トシテ使用スル旅客室ニ付テハ雜居客室ノ通風装置及病室ノ設備

ザルモノト雖モ管海官廳ニ於テ適當ト認ムルモノニ限り之ヲ本令ノ規定ニ適合スルモノト看做ス

**第二百一十八條** 本令施行ノ際現ニ船舶ニ備ヘ又ハ前條ノ規定ニ依リ船舶ニ備ヘタル救命筏、救命浮器、救命索發射器、信號紅焰、火災警報装置、防毒面、安全燈、移動式泡消火器、携帶用泡消火器、携帶用液體消火器及油信號燈ハ管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムルトキハ之ヲ引續キ當該船舶ニ備フル場合ニ限り本令ノ規定ニ適合スルモノト看做ス

**第二百一十九條** 第四百四十六條ノ規定ニ依ル無線方位測定機ハ昭和十二年九月十日ヲ限リ管海官廳ニ於テ其ノ備付ヲ猶豫スルコトヲ得

**第二百二十條** 本令施行ノ際現ニ船舶ニ備フル電氣設備ニ付テハ管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムルモノニ限り仍從前ノ例ニ依ラシムルコトヲ得

附則 (昭和十一年二月二十八日)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附則 (昭和十五年四月二十四日)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

船舶設備規程

三 旅客定員ノ算定ニ用ウル單位容積及單位面積但シ旅客室ノ現狀其ノ他旅客定員ノ算定ニ關スル條件ニ變更ナキ場合ニ限ル

**第二百一十四條** 前條第一號ノ規定ハ船員室及船員又ハ旅客ニ非ザル者ノ居室ニ之ヲ準用ス

**第二百一十五條** 本令施行前製造シタル旅客船ノ舷牆又ハ柵欄ノ高サニ付テハ仍從前ノ例ニ依ラシムルコトヲ得

**第二百一十六條** 本令施行ノ際現ニ船舶ニ備フル錨、錨鎖及索ノ數、重量、徑又ハ長サニ付テハ仍從前ノ例ニ依ラシムルコトヲ得

本令施行ノ際現ニ船舶ニ備フル錨、錨鎖、錨鎖、操舵鎖又ハ操舵鋼索ニ付テハ之ヲ引續キ當該船舶ニ備フル場合ニ限り第二百一十八條又ハ第三百三十七條第二項ノ規定ニ依ラザルコトヲ得

**第二百一十七條** 本令施行後一年以内ニ新ニ船舶ニ備付クル救命筏、救命浮器、救命索發射器、信號紅焰、火災警報装置、防毒面、安全燈、移動式泡消火器、携帶用泡消火器、携帶用液體消火器及油信號燈ハ本令ノ規定ニ適合セ

第一號表 端艇表

船ノ長サ(米)	端艇鉤ノ最小組數			救命艇ノ最小容積(立方米)		
	(イ)	(ロ)	(ハ)	(ニ)	(ホ)	(ヘ)
三一 未滿	二	二	一	一	一	一
三一以上三七未滿	二	二	二	二	二	二
三七 四三	二	二	二	三	二	二
四三 四九	二	二	二	四	三	二
四九 五三	三	三	二	五	四	三
五三 五八	三	三	二	六	五	四
五八 六三	四	四	三	七	六	五
六三 六七	四	四	四	八	七	六
六七 七〇	五	四	四	九	八	七
七〇 七五	五	四	四	一〇	九	八
七五 七八	六	五	四	一一	一〇	九
七八 八二	六	五	四	一二	一一	一〇



モノヲ用ウベシ

第二號表 移民船ニ對スル食料飲用水表

一七七	一八六	一八	一三	一三	六二〇	四九六		
一六八	一七七	一六	一三	一三	五七六	四六一		
一五九	一六八	一六	一三	一〇	五三〇	四二四	二二七	一五二
一四九	一五九	一四	一〇	一〇	四九〇	三九二	二〇一	一四一
一四〇	一四九	一四	一〇	一〇	四五二	三六一	一八五	一三〇
一三三	一四〇	一三	九	九	四〇八	一七〇	三二七	一七〇
一二五	一三三	一二	九	八	三七〇	一五六	二九六	一〇九
一一九	一二五	一〇	七	七	三三一	一四四	二六五	一〇一
一一三	一一九	一〇	七	六	三〇一	一三三	二四一	一三三
一〇七	一一三	九	七	六	二七三	一二五	二一八	一二五
九六	一〇一	八	六	六	二五五	一一六	二〇四	一一六
九一	九六	八	六	六	二二四	九四	一七一	九四
八七	九一	七	五	五	一九六	八五	一五七	八〇
八二	八七	七	五	四	一七五	七六	一四〇	六九
								五三

救命艇ノ容積ヲ求ムルニ當リ第二級救命艇ノ容積ニ方メートルハ該救命艇ノ定員ニ〇・二八三ヲ乗ジタル

備考

三〇三	三二四	三〇	二〇	一、三六〇				
二九三	三〇三	三〇	二〇	一、三二二				
二八二	二九三	二八	一九	一、二四二				
二七一	二八二	二八	一九	一、一六〇				
二六一	二七一	二六	一八	一、〇九七				
二五〇	二六一	二六	一八	一、〇三二				
二四一	二五〇	二四	一七	九七二				
二三二	二四一	二四	一七	九〇八				
二二二	二三二	二二	一五	八五四				
二一三	二二二	二二	一五	八〇八				
二〇四	二一三	二〇	一四	七六六	六一三			
一九五	二〇四	二〇	一四	七二七	五七四			
一八六	一九五	一八	一三	六七一	五三七			

第二號表 移民船ニ對スル食料飲用水表

品名	量額
米	七四〇グラム
獸肉	一八八〇
野類	適宜
漬物	適宜
梅干類	適宜
調味料(味噌、醬油、鹽、砂糖、酢ノ類)	適宜
飲用水	三・六リットル

備考

- 一 本表ノ量額ハ一人一日ニ對シ支給スベキ最小額トス
- 二 主食物中米ハ七分搗米又ハ胚芽米トシ成ルベク新鮮良質ナルモノヲ支給スベシ
- 三 無砂搗白米七五〇グラム、麵粉八六三グラム又ハ麥粉若ハ乾麵粉六九四グラムヲ以テ七分搗米七四〇グラムニ代用スルコトヲ得
- 四 無砂搗白米ヲ用ウルトキハ其ノ量額ノ十分ノ一迄麥ヲ混用スルコトヲ得
- 五 鳥肉魚肉ヲ以テ獸肉ニ代用スルコトヲ得但シ魚肉ヲ以テ代用スルトキハ鳥獸肉ノ用量ノ倍量以上ヲ用ウベシ
- 六 蒸溜機ヲ備フル船舶ニハ水量ヲ半減スルコトヲ得

船舶設備規程

第三號表 移民船ニ對スル醫藥及衛生用品表

(一) 内用藥

藥名	數	量
アスチリン		二五〇グラム
サルチル酸		一〇〇〇
サルチル酸ソーダ		五〇〇〇
鹽酸キネーネ		二五〇
重曹		一、〇〇〇
マダガネシヤ		一〇〇〇
次硝酸蒼鉛(ピスマット)		二五〇
ビオフルミン		二〇〇
タンナルビン		二五〇
ヂン		二五〇
稀鹽酸		二〇〇
苦味チン		五〇〇
薄荷		五〇〇
水		五〇〇

三三一







石炭酸	五〇〇グラム
クレンゾール石鹼液	五〇〇〃
葡萄酒	五〇〇〃
ビツク・硬膏	一本

(四) 血清類	
名	數
ヂフテリヤ血清 (一、〇〇〇國際免疫單位)	二本
破傷風血清 (六、〇〇〇國際免疫單位)	一本

(五) 醫療器械類	
品名	數
外科器械	一函
外科剪刀	三箇
直刀	一
反鏡	一

有鉤	一
兩頭鉤	一
ベアン氏鉗	一
持計	一
消滅子	一
有溝子	一
縫合子	一
縫合子	一
消滅子	一
膿毒盆	一
注射器 (針二本附)	一
グリセリン洗滌器	一
カテテル	一
尿道注射器	一
スリット	一
洗眼用	一
反鏡	一

卷綿棒 (咽頭用)	一箇
同 (耳鼻用)	五
消毒ガゼ貯槽	一
食鹽注射用ゴム及針	一
器械消毒器	一
天秤 (上皿)	一
天秤 (一瓦用)	一
液量器	二〇〇立方糎
硝子製乳鉢 (乳棒共)	二〇〇〃
藥匙	一組
金屬製匙	一箇
水牛屬製各	一
漏斗製 (合匙)	一
膏藥板	一
膏藥	一
木栓	一

投藥瓶	一
投藥便箋	一
投藥包	一
點眼瓶	一
カテテル	一
膏藥器	一
オブラ	一
精製脂	一
ヨドホルム	一
止血綿	一
卷綿	一
投藥瓶	一
投藥便箋	一
投藥包	一
點眼瓶	一
カテテル	一
膏藥器	一
オブラ	一
精製脂	一
ヨドホルム	一
止血綿	一
卷綿	一
投藥瓶	一
投藥便箋	一
投藥包	一
點眼瓶	一
カテテル	一
膏藥器	一
オブラ	一
精製脂	一
ヨドホルム	一
止血綿	一
卷綿	一







150	29	34	185	—	32	165	2	60	20	2	50	18
150	29	34	185	—	32	165	2	60	20	2	50	18
175	30	36	220	—	32	165	2	60	20	2	55	20
175	30	36	220	—	36	165	2	60	20	2	55	20
175	30	36	220	—	36	195	2	60	20	2	55	20
175	32	38	220	—	38	165	2	65	22	2	60	20
175	32	38	220	—	40	165	2	65	22	2	60	20
175	34	40	220	—	38	165	2	65	22	2	60	20
225	34	40	240	—	40	185	2	65	22	2	65	22
225	34	40	240	—	42	185	2	65	22	2	65	22
225	36	38	240	—	44	185	2	65	22	2	65	22
225	36	38	240	—	44	185	2	65	22	2	65	22
225	36	38	240	—	44	185	2	65	22	2	65	22
225	38	44	240	—	52	185	2	65	22	2	65	22
225	38	44	240	—	52	220	2	65	22	2	65	22
225	40	44	240	—	52	220	2	65	22	2	65	22
225	42	44	240	—	52	220	2	65	22	2	65	22
275	42	48	255	—	55	220	3	65	22	2	65	22
275	44	48	255	—	55	220	3	65	22	2	65	22
275	46	48	255	—	55	220	3	65	22	2	65	22
275	46	48	255	—	58	220	3	65	22	3	65	22
275	48	52	255	—	58	220	3	65	22	3	65	22
275	48	52	255	—	58	220	3	65	22	3	65	22
275	48	52	275	—	65	220	3	65	22	3	65	22
275	50	52	275	—	65	220	3	65	22	3	65	22
275	52	58	275	—	65	220	3	65	22	3	65	22
275	52	58	275	—	65	220	3	65	22	3	65	22

表 索 大 及 鎖 錨

船	鋼	船	木	大	中	量 錨 (ク除ヲ量錐ノ其ハ錨錐有)						鎖錨大	
						錨 大		錨大錐無		錨中		サ長	徑
						量單	量合	量單	量合	量單	量合		
80-90	40-55	2	—	50	100	65	130	—	100	12			
90-105	55-70	2	—	65	130	80	160	—	125	13			
105-140	70-100	2	—	75	150	95	190	—	150	14			
140-175	100-140	2	1	100	200	125	250	25	175	16			
175-220	140-225	2	1	140	280	175	350	40	200	17			
220-280	225-325	2	1	180	355	230	445	40	225	18			
280-335	325-425	2	1	215	430	265	530	65	225	19			
335-390	425-525	2	1	255	510	320	635	90	250	21			
390-445	525-650	2	1	290	580	370	725	115	300	22			
445-500	650-780	2	1	330	660	420	825	140	300	24			
500-555	780-920	2	1	370	735	460	915	150	300	25			
555-620	920-1075	3	1	420	1195	520	1485	180	300	27			
620-685	1075-1230	3	1	510	1450	635	1805	205	350	29			
685-750	1230-1415	3	1	595	1700	735	2120	215	350	30			
750-825	1415-1645	3	1	685	1955	850	2440	240	375	32			
825-900	1645-1925	3	1	775	2210	965	2755	265	375	34			
900-985	1925-2240	3	1	865	2465	1080	3075	290	400	34			
*985-1075	2240-2580	3	1	950	2720	1180	3390	305	400	36			
1075-1180	2580-2945	3	1	1040	2970	1295	3710	330	400	38			
1180-1290	2945-3400	3	1	1145	3250	1425	4065	355	450	40			
1290-1410	3400-3910	3	1	1245	3530	1550	4420	395	450	42			
1410-1550	3910-4475	3	1	1345	3810	1575	4775	430	450	42			
1550-1720	4475-5155	3	1	1450	4115	1805	5130	470	450	44			
1720-1915	—	3	1	1575	4470	1970	5590	510	450	46			

備考  
 表中ノ※印欄鋼索ハ十二本線六ツ撚柔軟鋼索ヲ、  
 ◎印欄鋼索ハ二十四本線六ツ撚特別柔軟鋼索ヲ、  
 又⊠印欄鋼索ハ三十



船舶設備規程

鎖 用 錨 中			索 稅			索 大						
鋼 ハ 又			(索 鋼 ハ 又 索 麻)			(索 鋼 ハ 又 索 麻)						
サ長	鎖 徑	索 鋼 徑※	サ長	索 麻 徑	索 鋼 徑※	サ長	大			小		
							數	索 麻 徑	索 鋼 徑※	數	索 麻 徑	索 鋼 徑※
米	耗	耗	米	耗	耗	米	耗	耗	耗	耗	耗	耗
—	—	—	110	28	—	—	—	—	—	—	—	—
75	9	—	110	32	—	165	1	20	—	—	—	—
75	10	—	110	35	—	165	1	20	—	—	—	—
75	11	—	135	40	—	165	1	22	—	—	—	—
75	11	—	135	40	14	165	1	24	—	—	—	—
75	13	—	135	45	16	165	1	24	—	—	—	—
75	13	—	135	45	16	165	1	24	—	—	—	—
100	13	—	135	50	18	165	1	28	—	—	—	—
100	14	16	135	55	18	165	1	32	—	—	—	—
100	15	18	135	55	18	165	1	32	—	—	—	—
100	16	18	135	60	20	165	1	32	—	—	—	—
100	16	18	135	60	20	165	1	40	14	—	—	—
100	17	20	135	65	22	165	1	45	16	—	—	—
100	18	22	135	65	22	165	1	45	16	—	—	—
100	19	22	135	70	22	165	1	50	18	—	—	—
100	19	22	135	75	24	165	1	55	18	—	—	—
100	20	24	135	—	26	165	1	60	20	—	—	—
125	21	24	165	—	26	165	1	60	20	1	32	—
125	22	26	165	—	26	165	1	65	22	1	40	14
125	22	26	165	—	26	165	1	65	22	1	40	14
125	23	28	165	—	26	165	1	75	24	1	45	16
125	24	28	165	—	26	165	1	75	24	1	45	16
150	25	30	165	—	28	165	1	—	26	1	50	18
150	25	30	165	—	28	165	1	—	26	1	50	18
150	27	32	165	—	28	165	1	—	26	1	55	18
150	27	32	165	—	32	165	1	—	28	1	60	20
175	28	34	165	—	32	165	1	—	28	1	60	20
225	29	34	165	—	36	165	1	—	32	1	65	22
225	30	36	165	—	36	165	1	—	32	1	65	22
225	32	38	220	—	38	165	1	—	36	1	75	24

本線六ツ捻特別柔軟鋼索ヲ使用シタル場合ノ寸法トス

1915-2110	—	3	1	1700	4850	2135	6070	560	450	48
2110-2320	—	3	1	1830	5235	2285	6500	610	500	48
2320-2535	—	3	1	1980	5640	2475	7060	660	500	50
2535-2760	—	3	1	2135	6070	2665	7595	710	500	52
2760-2990	—	3	1	2255	6500	2860	8130	760	500	54
2990-3235	—	3	1	2440	6935	3050	8660	825	500	56
3235-3495	—	3	1	2590	7390	3240	9245	890	500	58
3495-3755	—	3	1	2770	7900	3455	9880	965	500	58
3755-4015	—	3	1	2945	8410	3685	10515	1040	550	60
4015-4275	—	3	1	3125	8915	3910	11150	1120	550	62
4275-4535	—	3	1	3300	9425	4130	11785	1195	550	64
4535-4795	—	3	1	3480	9930	4345	12420	1270	550	66
4795-5070	—	3	1	3655	10460	4570	13080	1345	550	66
5070-5350	—	3	1	3860	11020	4825	13770	1425	600	68
5350-5630	—	3	1	4065	11580	5080	14480	1500	600	70
5630-5925	—	3	1	4240	12090	5310	15140	1575	600	70
5925-6225	—	3	1	4420	12600	5535	15800	1650	600	72
6225-6520	—	3	1	4620	13150	5765	16460	1730	600	74
6520-6820	—	3	1	4800	13660	5995	17070	1805	600	76
6820-7135	—	3	1	4980	14170	6225	17730	1895	600	78
7135-7450	—	3	1	5155	14730	6450	18390	1980	600	80
7450-7785	—	3	1	5360	15290	6705	19100	2070	600	82
7785-8140	—	3	1	5560	15850	6960	19810	2160	600	82
8140-8510	—	3	1	5765	16460	7215	20530	2250	600	85
8510-8900	—	3	1	5995	17070	7495	21340	2335	600	85
8900-9310	—	3	1	6225	17730	7775	22150	2425	600	88
9310-9755	—	3	1	6450	18390	8075	22960	2515	600	91

海 事 法 令 集



表索大及索錨、錨船帆ルヲ備フ錨形本日 表 號 六 第

數裝艦	數 錨			量 錨		索 錨 大 (ハ又索麻)			索 挽 (又索麻)			索 大	
	大 錨	其 他	合 計	錨大	量合	索麻 徑	棕 索 徑	大ニス 各錨附ル 索ノサ長	索麻 徑	索鋼 徑	索麻 徑	索麻 徑	索麻 徑
40-55	2	1	3	75	205	24	32	55	110	28	—	—	—
55-70	2	2	4	95	320	28	40	65	110	32	—	165	20
70-100	2	2	4	115	395	32	45	75	110	35	—	165	20
100-140	2	3	5	130	565	35	45	80	135	35	—	165	22
140-210	2	3	5	170	750	45	60	90	135	40	14	165	24
210-285	2	4	6	205	1010	50	65	90	135	45	16	165	24
285-355	2	4	6	255	1240	55	75	110	135	45	16	165	24
355-425	2	4	6	300	1430	60	80	110	135	50	18	165	28
425-495	2	4	6	330	1610	65	—	125	135	55	18	165	32
495-565	2	4	6	360	1800	70	—	125	135	55	18	165	32

備考  
※印欄鋼索ハ十二本線六ツ撚鋼索ヲ使用シタル場合ノ寸法トス

表 索 大 及 錨

數 裝 艦		數 錨			(ク除ヲ量錨) 量 錨				鎖錨大	
船 鋼	船 木	大	中	小	錨 大		錨 中	錨 小	サ長	徑
					量單	量合	量單	量單		
65-80	40-55	2	—	—	75	150	—	—	125	12
80-95	55-70	2	1	—	90	180	25	—	150	14
95-115	70-100	2	1	—	115	230	25	—	175	16
115-150	100-140	2	1	—	140	280	40	—	200	17
150-195	140-210	2	1	1	180	355	40	25	225	18
195-230	210-285	2	1	1	215	430	65	25	225	19
230-280	285-355	2	1	1	255	510	75	40	250	21
280-315	355-425	2	1	1	290	580	75	40	300	22
315-360	425-495	2	1	1	330	660	100	50	300	24
360-400	495-565	2	1	1	370	735	115	50	300	25
400-445	565-710	3	1	1	420	1195	125	65	300	27
445-490	710-850	3	1	1	510	1450	190	90	350	29
490-550	850-990	3	1	1	610	1740	205	100	350	30
550-605	990-1135	3	1	1	685	1955	240	125	375	32
605-660	1135-1275	3	1	1	775	2210	265	125	400	34
660-715	1275-1415	3	1	1	865	2465	280	140	425	36
715-780	1415-1700	3	1	1	935	2745	330	165	450	36
780-855	1700-1985	3	1	1	1065	3050	370	180	450	38
855-940	1985-2265	3	1	1	1175	3405	405	205	500	40
940-1030	2265-2550	3	1	1	1295	3695	430	215	500	42
1030-1145	2550-2835	3	1	1	1410	4015	445	230	500	42
1145-1265	2235-3400	3	1	1	1525	4345	485	240	500	44
1265-1400	3400-3965	3	1	1	1625	4635	535	265	500	46
1400-1560	3965-4535	3	1	1	1730	4930	545	280	500	48
1560-1730	—	3	1	1	1855	5285	570	280	500	50
1730-1905	—	3	1	1	1930	5500	585	290	500	50
1905-2110	—	3	1	1	2030	5790	610	305	500	52
2110-2340	—	3	1	1	2135	6085	685	345	550	56
2340-2590	—	3	1	1	2285	6515	775	385	550	58
2590-2860	—	3	1	1	2440	6960	865	430	550	60

備考  
表中※印欄鋼索ハ十二本線六ツ撚鋼索ヲ使用シタル場合ノ寸法トス







時辰儀	六分儀	航海曆	羅針儀	檣燈		舷燈		船尾燈	碇泊燈
				常用	豫備	常用	豫備		
一	一	一	三	二	二	一對	一對	一	二
一	一	一	三	一	一	一對	一對	一	二
一	一	一	三	一	一	一對	一對	一	一
一	一	一	二	一	一	一對	一對	一	一
一	一	一	二	一	一	一對	一對	一	一
一	一	一	二	一	一	一對	一對	一	一
一	一	一	一	一	一	一對	一對	一	一
一	一	一	一	一	一	一對	一對	一	一

近海區域以上ヲ航行區域トスル船舶ニ在リテハ一箇ハ天象岬角ヲ測  
 リ得ベキ器具ヲ備フルコトヲ要ス  
 沿海ノ航行區域ヲ有スル船舶ニ在リテハ一箇ハ日本形磁石ヲ用ウル  
 モ妨ナシ  
 湖川港内ヲ限リ航行スル船舶ニシテ管海官廳ニ於テ必要ナシト認ム  
 ルトキハ羅針儀ヲ備ヘザルモ妨ナシ  
 總噸數四十噸以上ノ汽船ニハ甲種檣燈ヲ備ヘ總噸數四十噸未滿ノ汽  
 船ニハ甲種又ハ乙種檣燈ヲ備フベシ  
 近海以下ノ航行區域ヲ有スル船舶ト雖モ長サ四五・七二メートル以  
 上ナルトキハ常用汽船汽船ハ常用燈トシテ檣燈二箇以上ヲ増備スベシ  
 曳船ニ從スル帆船ニハ汽船ニ準ジ檣燈ヲ備フベシ  
 機關ヲ有スル帆船ニハ汽船ニ準ジ檣燈ヲ備フベシ  
 湖川港内ヲ限リ航行ノミニ使用スル船舶ニハ檣燈ヲ備ヘザル  
 モ妨ナシ  
 豫備燈ハ油船燈ト爲スコトヲ要ス  
 帆船及總噸數四十噸以上ノ汽船ニハ甲種舷燈ヲ備フベシ總噸數四十  
 噸未滿ノ汽船ニハ甲種又ハ乙種舷燈ヲ備フベシ但シ甲種兩色燈一箇  
 ヲ以テ代用スルコトヲ得  
 湖川港内ヲ限リ航行ノミニ使用スル船舶ニハ舷燈ヲ備ヘザル  
 モ妨ナシ  
 豫備燈ハ油船燈ト爲スコトヲ要ス  
 小形船舶ニ於テハ甲種、乙種又ハ丙種白燈ヲ以テ代用スルコトヲ得  
 湖川港内ヲ限リ航行ノミニ使用スル船舶ニハ船尾燈ヲ備ヘザ  
 ルモ妨ナシ  
 碇泊燈ハ甲種、乙種又ハ丙種白燈ナルコトヲ要ス  
 近海以下ノ航行區域ヲ有スル船舶ト雖モ長サ四五・七二メートル以  
 上ナルトキハ碇泊燈二箇ヲ備フベシ

備考  
 一 夜間營業所ニ在リテ要招ニ應ズル水先船ニハ甲種又ハ乙種白燈一箇ヲ備フベシ但シ碇泊燈トシテ甲種又ハ乙種  
 白燈ヲ備フルトキハ之ヲ以テ兼用スルコトヲ得  
 二 夜間營業所ニ在リテ要招ニ應ズル水先汽船ニハ總噸數四十噸未滿ノモノ又ハ平水ノ航行區域ヲ有スルモノト雖  
 モ紅燈一箇ヲ備フベシ

船舶設備規程

紅燈	黑球	霧中號角	榴火箭又ハ彈	信號青焰	國旗	國際信號旗	國際通信書	船名錄	信號燈
二	二	一	二	三	二	一組	一	一	一
二	二	一	二	六	二	一組	一	一	一
二	二	一	六	一	二	一組	一	一	一
二	二	一	一	一	一	一組	一	一	一
二	二	一	一	一	一	一組	一	一	一
二	二	一	一	一	一	二N 組O	一	一	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一

總噸數四十噸未滿ノ汽船ニハ紅燈ノ備アルコトヲ要セズ  
 黒球ハ直徑六一〇ミリメートルニシテ布其ノ他保存ニ耐フベキ材料  
 ヲ用キタルモノナルコトヲ要ス但シ總噸數四十噸未滿ノ汽船ニ在リ  
 テハ適當ナル黒色ノ形象ヲ以テ之ニ代用スルコトヲ得  
 榴火箭ヲ備フルトキハ打上臺ハ遠洋ノ航行區域ヲ有スル船舶ニ在リテ  
 ハ二箇ヲ備ヘ船首及船尾ニ於テ一ハ右舷ニ他ハ左舷ニ据附クベシ又  
 近海以下ノ航行區域ヲ有スル船舶ニ在リテハ一箇ヲ備ヘ適當ノ場所  
 ニ据附クベシ口徑八九ミリメートル以上ノ信號砲又ハ口徑一四〇ミ  
 リメートル以上ノ榴彈ヲ備ヘザルモ妨ナシ  
 船ニハ火箭又ハ榴彈ヲ備ヘザルモ妨ナシ  
 總噸數百噸未滿ノ船舶ニハN O 二旗ノミヲ備フルモ妨ナシ但シN O  
 旗ノミヲ備ヘ若ハ之ヲ備ヘザル船舶ト雖モ信號符字ノ點符アルモノ  
 ハ其ノ符字ニ對スル信號旗ヲ備フベシ  
 總噸數百噸未滿ノ船舶ニハ之ヲ備ヘザルモ妨ナシ又無線電信裝置ノ  
 ナキ船舶ニハ國際通信書中電信簿ヲ備ヘザルモ妨ナシ  
 總噸數百噸未滿ノ船舶ニハ之ヲ備ヘザルモ妨ナシ  
 成ルベク最近刊行ノモノヲ備フベシ  
 國際航海ニ從事スル總噸數百五十噸以上ノ船舶ニ限リ之ヲ備フベシ



船舶滿載吃水線規程

(昭和九年二月) 遞信省令第七號

改正 昭和十四年六月 遞信省令第二十四號

目次

- 第一編 總則
- 第一章 定義
- 第二章 乾舷ノ種類
- 第三章 滿載吃水線ノ標示
- 第四章 乾舷ノ決定
- 第二編 汽船ノ形狀ニ依ル夏期乾舷
- 第一章 表定乾舷
- 第二章 船樓ニ關スル修正
- 第三章 深サ及梁矢ニ關スル修正
- 第四章 舷弧ニ關スル修正
- 第三編 鋼船ノ強力
- 第一章 縱抵抗率及肋骨抵抗率
- 第二章 標準強力
- 第三章 強力ニ依ル吃水ノ算定
- 第四編 甲板積木材貨物ヲ運送スル汽船、槽船及木汽船

- ノ乾舷ニ關スル特別規定
- 第一章 甲板積木材貨物ヲ運送スル汽船
- 第二章 槽船
- 第三章 木汽船
- 第五編 帆船ノ乾舷ニ關スル特別規定
- 第一章 鋼帆船
- 第二章 木帆船
- 第六編 船舶ノ構造及設備
- 第一章 通則
- 第二章 乾舷甲板又ハ船樓甲板ニ於ケル艙口其ノ他ノ甲板口
- 第三章 乾舷甲板又ハ船樓甲板ニ於ケル機關室口、通風筒及空氣管
- 第四章 乾舷甲板下ノ船側ニ於ケル開口
- 第五章 船樓端ノ隔壁、船員ノ保護裝置及放水口
- 第六章 木材滿載吃水線ノ指定ヲ受クル汽船
- 第七章 槽船
- 附則
- 第一編 總則
- 第一章 定義

**第一條** 本令ニ於テ乾舷甲板トハ最上層ノ全通甲板ヲ謂フ但シ最上層ノ全通甲板ノ暴露部ニ常設閉鎖裝置ヲ備ヘザル開口ヲ有スル船舶ニ在リテハ該甲板ノ直下ノ全通甲板ヲ謂フ

船首ト船尾トノ間ニ於テ一部分ノ甲板ト他ノ部分ノ甲板トガ連續セザル船舶ニ付乾舷甲板ヲ定ムル場合ニ於テハ上方ノ甲板ノ部分ニ於テ之ト平行シテ下方ノ甲板ノ延長面ヲ假定シ該下方ノ甲板及其ノ延長面ヲ全通甲板ト看做ス

**第二條** 本令ニ於テ船樓トハ船側ヨリ船側ニ達シ上部ニ甲板ヲ有スル乾舷甲板上ノ構造物ヲ謂フ

本令ニ於テ船樓ノ長サトハ船橋樓ニ在リテハ其ノ平均ノ長サ、其ノ他ノ船樓ニ在リテハ船ノ長サヲ測ル兩端點ニ於ケル垂線ノ間ニ在ル部分ノ平均ノ長サヲ謂フ

**第三條** 本令ニ於テ平甲板船トハ船樓ヲ有セザル船舶ヲ謂フ

**第四條** 本令ニ於テ船ノ長サトハ計畫夏期滿載吃水線又ハ計畫海水滿載吃水線上ニ於テ船首材ノ前面ヨリ舵柱ヲ有スル船舶ニ在リテハ其ノ後面迄舵柱ヲ有セザル船舶ニ在リテハ舵頭ノ中心迄測リタル距離ヲ謂フ

船舶滿載吃水線規程

巡洋艦形船尾ヲ有スル船舶ニ在リテハ船ノ長キハ前項ノ規定ニ依ル長サト計畫夏期滿載吃水線又ハ計畫海水滿載吃水線上ニ於ケル船ノ全長ノ百分ノ九十六トノ中大ナルモノトス

船ノ長サハLヲ以テ之ヲ示シ其ノ單位ハメートルトス

**第五條** 本令ニ於テ船ノ幅トハLノ中央ニ於テ鋼船ニ在リテハ肋骨ノ外面ヨリ外面迄、木船ニ在リテハ外板ノ外面ヨリ外面迄ノ最大幅ヲ謂フ

船ノ幅ハBヲ以テ之ヲ示シ其ノ單位ハメートルトス

**第六條** 本令ニ於テ船ノ深サトハLノ中央ニ於テ鋼船ニ在リテハ龍骨ノ上面ヨリ、木船ニ在リテハ龍骨ノ溝ノ下縁ヨリ乾舷甲板梁ノ船側ニ於ケル上面迄測リタル垂直距離ヲ謂フ但シ船體中央橫截面ノ下部ガ凹形ヲ成ス船舶又ハ厚キ龍骨翼板ヲ有スル木船ニ在リテハ船底外板ノ外面ノ扁平部ノ延長ト龍骨ノ側面トノ交點ヨリ乾舷甲板梁ノ船側ニ於ケル上面迄測リタル垂直距離ヲ謂フ

Lノ中央ニ於ケル船底勾配ガ八分ノ一ヨリ大ナル鋼帆船ノ深サハ第八條ノ規定ニ依ル

**第七條** 本令ニ於テ乾舷用深サトハDニ乾舷甲板ノ梁上側



板ノ厚サト左ノ算式ニ依リ算定シタル厚サトノ中大ナルモノヲ加ヘタルモノヲ謂フ

(T(L-S))

L

Tハ船樓内及甲板口ノ部分ヲ除キタル乾舷甲板ノ平均ノ厚サニトシテ  
Sハ船樓ノ長サノ和ニトシテ

乾舷用深サハD<sub>0</sub>ヲ以テ之ヲ示シ其ノ單位ハメートルトス

第八條 本令ニ於テ乾舷トハLノ中央ニ於ケル乾舷甲板ノ上面ノ延長ト外板ノ外面トノ交點ヨリ滿載吃水線迄測リタル垂直距離ヲ謂フ但シ乾舷甲板ニ舷側水道又ハ梁壓材ヲ設ケタル場合ニ於テハ其ノ内側ニ於ケル甲板ノ上面ノ延長ト外板ノ外面トノ交點ヨリ滿載吃水線迄測リタル垂直距離ヲ謂フ

第九條 本令ニ於テ吃水トハLノ中央ニ於テDノ下端ヨリ滿載吃水線迄測リタル垂直距離ヲ謂フ

第十條 本令ニ於テ甲板積木材貨物トハ乾舷甲板又ハ船樓甲板ノ暴露部ニ積載スル木材貨物ヲ謂フ

前項ノ木材貨物ニハ木質「バルブ」及之ニ類似ノ貨物ヲ包含セズ

第十一條 本令ニ於テ槽船トハ包裝セザル液體貨物ノ運送ノ爲特殊ノ構造ヲ爲シタル汽船ヲ謂フ

第十二條 本令ニ於テ北部季節冬期帶トハ左ノ各號ニ掲グル海面ヲ謂フ(別紙附圖參照)

- 一 北亞米利加ノ東岸ヨリ北緯三十六度ノ線ニ沿ヒ西班牙國「タリファ」迄、朝鮮ノ東岸ヨリ北緯三十五度ノ線ニ沿ヒ本州ノ西岸迄、本州ノ東岸ヨリ北緯三十五度ノ線ニ沿ヒ西經百五十度迄及其ノ地點ヨリ羅盤方位線ニ沿ヒ北緯五十度ニ於ケル「ヴァンクレーヴァー」島ノ西岸迄引キタル線ヨリ北方ノ海面
- 二 地中海及黑海

釜山及權濱ハ本帶域ト夏期帶域トノ限界線上ニ在ルモノト看做ス

第十三條 本令ニ於テ北部季節冬期帶ニ於ケル冬期季節又ハ夏期季節トハ其ノ區域ニ應ジ左表ニ掲グル期間ヲ謂フ(別紙附圖參照)

欄	區	域	冬期季節	夏期季節
一	西經五十度ニ於ケル「グリーンランド」ノ海岸ヨリ南ヘ北緯四十五度迄其ノ地點ヨリ北緯四十五度			

欄	區	域	冬期季節	夏期季節
二	前欄ニ掲グル區域ヲ除キタル北緯三十六度以北ノ大西洋及其ノ接續海(「バルティック」海ヲ含ム)		十一月一日ヨリ三月三十一日迄	四月一日ヨリ十月三十一日迄
三	地中海及黑海		十二月十日ヨリ三月三十一日迄	三月十六日ヨリ六月十五日迄
四	北緯三十五度ト北緯五十五度トノ間ノ日本海		十二月一日ヨリ二月二日迄	三月十一日ヨリ三月三十一日迄
五	前欄ニ掲グル日本海ヲ除キ北緯三十五度以北ニ於ケル亞細亞ト亞米利加トノ間ノ區域		十月十六日ヨリ十月三十一日迄	四月十六日ヨリ四月三十一日迄

備考 「ベルゲン」ハ第一欄ニ掲グル區域ト第二欄ニ掲グル區域トノ限界線上ニ在ルモノト看做ス

第十四條 本令ニ於テ南部季節冬期帶トハ南亞米利加ノ東岸ヨリ南緯四十度ノ線ニ沿ヒ西經五十六度迄、其ノ地點

船舶滿載吃水線規程

ヨリ羅盤方位線ニ沿ヒ南緯三十四度西經五十度ノ點迄、其ノ地點ヨリ南緯三十四度ノ線ニ沿ヒ南阿弗利加ノ西岸迄、南緯三十度ニ於ケル南阿弗利加ノ東岸ヨリ羅盤方位線ニ沿ヒ南緯三十五度ニ於ケル「オーストラリア」ノ西岸迄、其ノ地點ヨリ「オーストラリア」ノ南岸ニ沿ヒ「エーリッド」岬迄、其ノ地點ヨリ羅盤方位線ニ沿ヒ「タスマニア」ノ「グリム」岬迄、其ノ地點ヨリ「タスマニア」ノ北岸ニ沿ヒ「エッヂストーン・ポイント」迄、其ノ地點ヨリ羅盤方位線ニ沿ヒ東經百七十度ニ於ケル「ニュージールランド」ノ「サウス」島ノ西岸迄、其ノ地點ヨリ「サウス」島ノ西岸、南岸及東岸ニ沿ヒ「ソーンダス」岬迄、其ノ地點ヨリ羅盤方位線ニ沿ヒ南緯三十三度西經百七十度ノ點迄及其ノ地點ヨリ南緯三十三度ノ線ニ沿ヒ南亞米利加ノ西岸迄引キタル線ヨリ南方ノ海面ヲ謂フ(別紙附圖參照)

第十五條 本令ニ於テ南部季節冬期帶ニ於ケル冬期季節トハ四月十六日ヨリ十月十五日迄ノ期間ヲ謂ヒ、夏期季節トハ十月十六日ヨリ四月十五日迄ノ期間ヲ謂フ

第十六條 本令ニ於テ季節熱帶トハ左表ニ掲グル各區域内







海軍法令集

沿ヒ「ヨーク」岬ノ西側迄、南緯十一度ニ於ケル「ヨー  
ク」岬ノ東側ヨリ南緯十一度ノ線ニ沿ヒ西經百五十度  
迄、其ノ地點ヨリ羅盤方位線ニ沿ヒ南緯二十六度西經  
七十五度ノ點迄及其ノ地點ヨリ羅盤方位線ニ沿ヒ南緯  
三十度ニ於ケル南亞米利加ノ西岸迄引キタル線ニ依リ  
限ラレタル海面

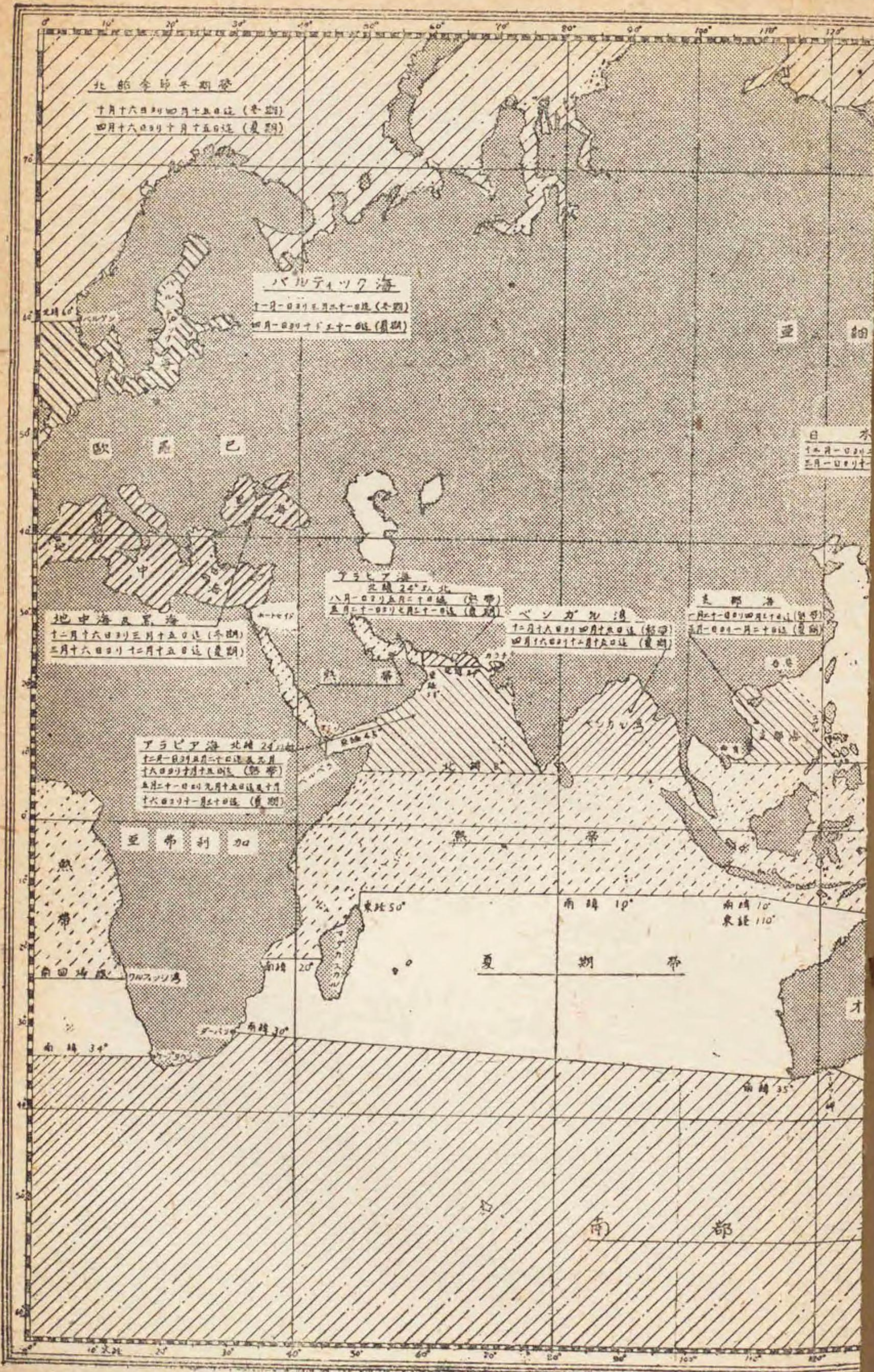
二 「ポートセイド」ヨリ東經四十五度ノ線迄「スエズ」  
運河、紅海及「アデン」灣

三 東經五十九度ノ線迄「ペルシア」灣  
「コクインボ」、「リオ・デ・ジャネイロ」及「ポート・ダー  
ウイン」ハ前項第一號ノ區域ト夏期帶域トノ限界線上  
ニ在ルモノト看做ス

第十八條 本令ニ以テ夏期帶トハ第十二條、第十四條、第  
十六條及第十七條ニ掲グル帶域又ハ區域ニ屬セザル總テ  
ノ海面ヲ謂フ

第十九條 前七條ニ掲グ帶域又ハ區域ノ限界線上ニ在ル港  
ハ各場合ニ應ジ船舶ガ該港ニ到著スル迄ニ航行シタル帶  
域若ハ區域又ハ該港ヲ發航シタル後航行スベキ帶域若ハ  
區域ノ内ニ在ルモノト看做ス

第二章 乾舷ノ種類



第二十條 汽船ニ標示スベキ滿載吃水線及之ニ對スル乾舷  
ハ左表ニ掲グル六種トス

滿載吃水線	乾舷	摘要
夏期滿載吃水線	夏期乾舷	冬期北大西洋滿載吃水線ハ槽船ニ非
冬期滿載吃水線	冬期乾舷	ザルモノトシテ五
載吃水線	冬期北大西洋乾舷	ハメイトルヲ超
熱帶滿載吃水線	熱帶乾舷	ル汽船、近海ノ航
夏期淡水滿載吃水線	夏期淡水乾舷	行區域ヲ有スル汽
熱帶淡水滿載吃水線	熱帶淡水乾舷	船及北緯三十六度
		以ノ北緯三十六度
		ハ之ヲ標示スルコ
		トヲ要セズ

帆船ニ標示スベキ滿載吃水線及之ニ對スル乾舷ハ左表ニ  
掲グル三種トス

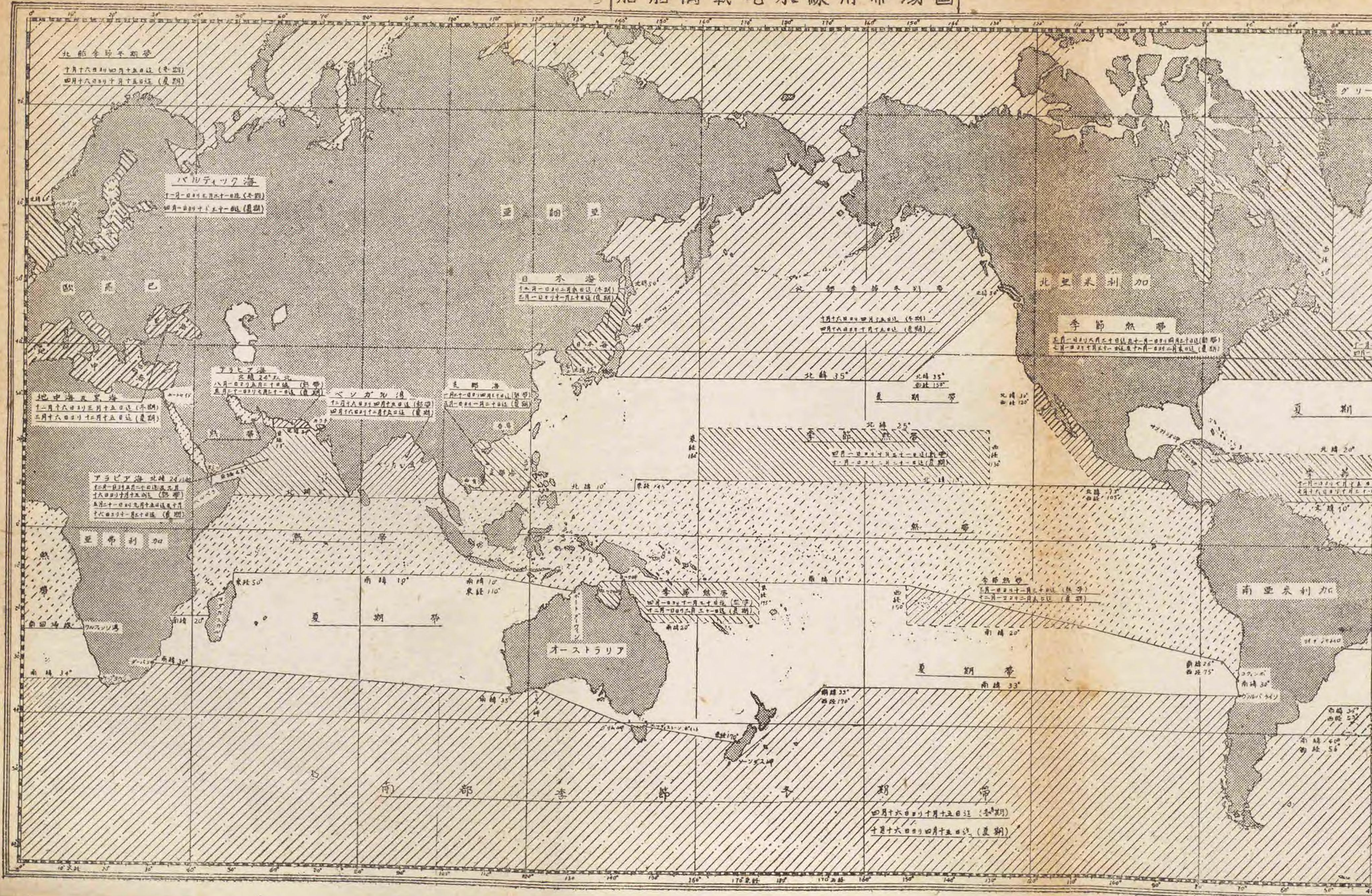
滿載吃水線	乾舷	摘要
海水滿載吃水線	海水乾舷	冬期北大西洋滿載
冬期北大西洋滿載吃水線	冬期北大西洋乾舷	域ヲ有スル帆船及
載吃水線	乾舷	緯三十六度以北
淡水滿載吃水線	淡水乾舷	大西
		洋ヲ
		航
		行
		セ
		ザ
		ル
		コ
		ト
		ヲ
		要
		セ
		ズ
		示
		ス



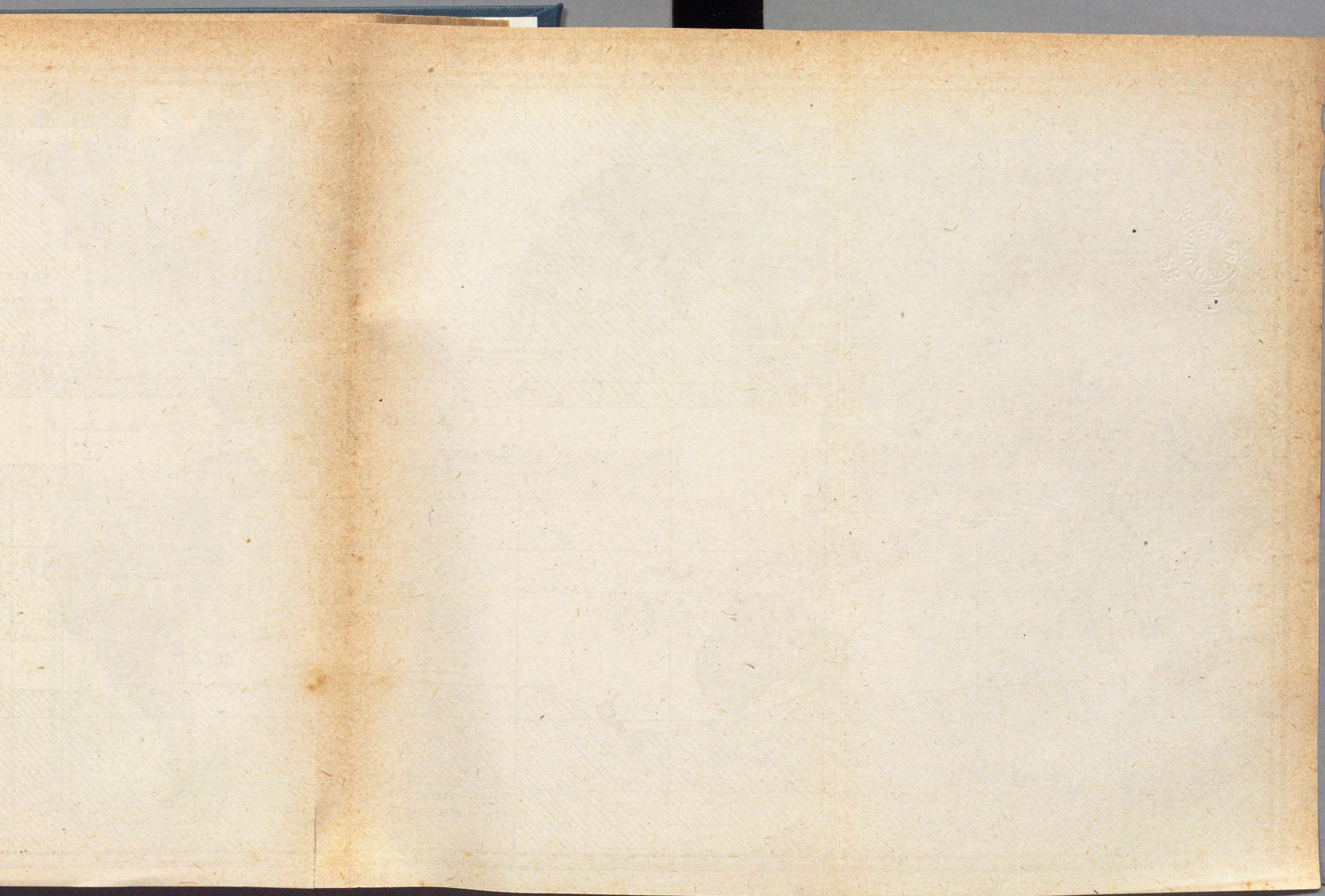




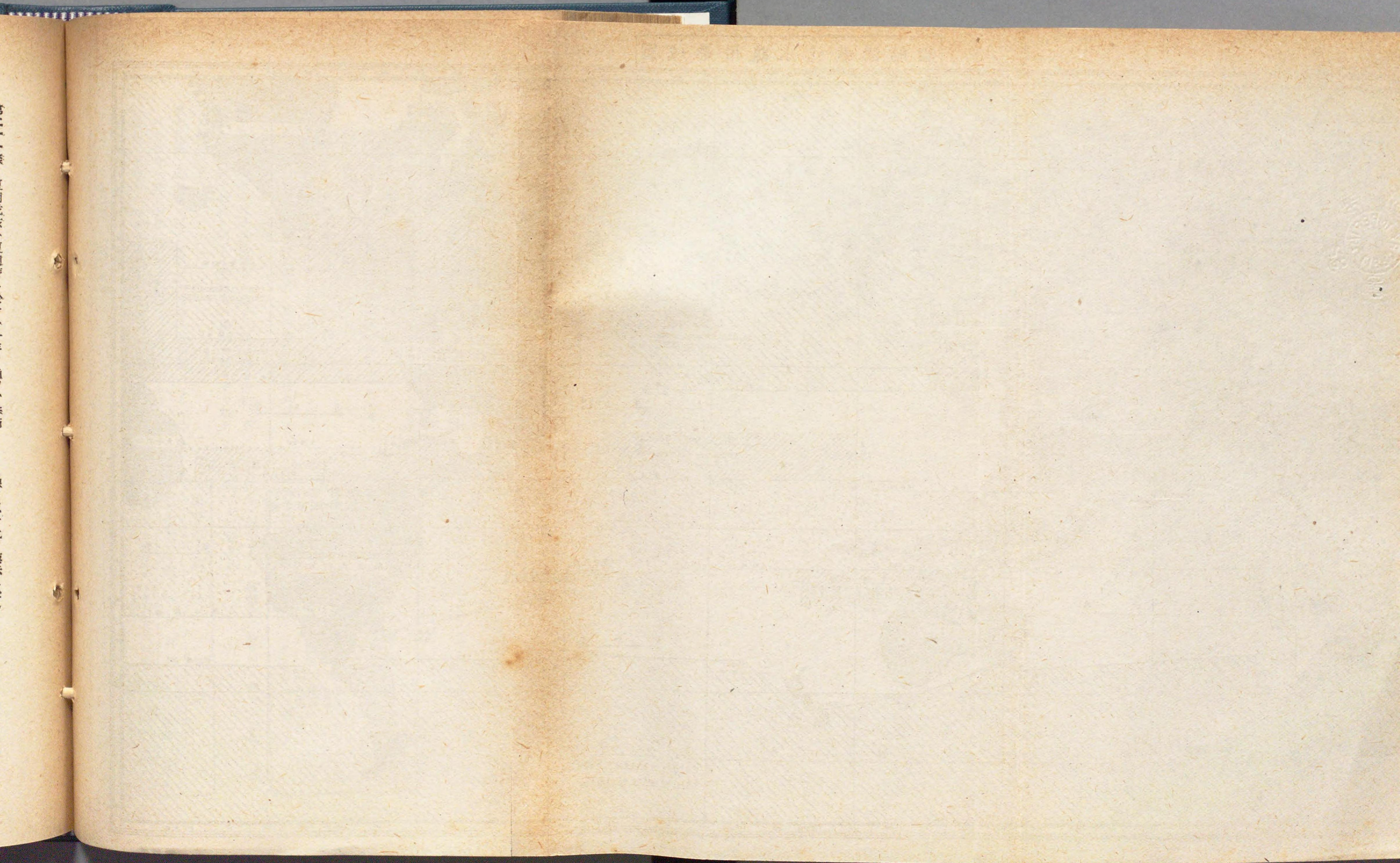
船舶滿載吃水線用帶域圖













**第二十一條** 夏期乾舷ハ夏期帯ニ於テハ一年ヲ通ジ、季節熱帶及季節冬期帯ニ於テハ各其ノ夏期季節間海水ニ於テ保持スベキ最小乾舷トス

**第二十二條** 冬期乾舷ハ季節冬期帯ニ於テ其ノ冬期季節間海水ニ於テ保持スベキ最小乾舷トス

**第二十三條** 冬期北大西洋乾舷ハ北緯三十六度以北ノ北大西洋ヲ其ノ冬期季節間ニ於テ横斷スル航海ノ場合ニ海水ニ於テ保持スベキ最小乾舷トス

**第二十四條** 熱帶乾舷ハ熱帯ニ於テハ一年ヲ通ジ、季節熱帯ニ於テハ其ノ熱帶季節間海水ニ於テ保持スベキ最小乾舷トス

**第二十五條** 海水乾舷ハ第二十三條ニ掲グル場合ヲ除クノ外海水ニ於テ保持スベキ最小乾舷トス

**第二十六條** 夏季淡水乾舷ハ第二十一條ニ掲グル區域及季節ニ、熱帶淡水乾舷ハ第二十四條ニ掲グル區域及季節ニ淡水ニ於テ保持スベキ最小乾舷トス

淡水乾舷ハ第二十三條ニ掲グル場合ヲ除クノ外淡水ニ於テ保持スベキ最小乾舷トス

第三章 滿載吃水線ノ標示

**第二十七條** 滿載吃水線ハ兩舷側ニ幅二五ミリメートルノ

船舶滿載吃水線規程

線ヲ以テ之ヲ標示スベシ

**第二十八條** 乾舷甲板ノ位置ハLノ中央ニ於テ長サ三〇〇ミリメートルノ水平線ヲ以テ之ヲ標示シ其ノ上縁ノ中央點ヲ第八條ノ交點ニ一致セシムベシ

**第二十九條** 前條ノ水平線ノ下方ニ於テLノ中央ニ外徑三〇〇ミリメートルノ圓標ヲ畫キ其ノ中心ヨリ該水平線ノ上縁迄ノ垂直距離ヲ夏期乾舷又ハ海水乾舷ニ等シクスベシ

圓標ヲ貫通シ長サ四六〇ミリメートルノ水平線ヲ畫キ其ノ上縁ノ中央點ヲ圓標ノ中心ニ一致セシメ夏期滿載吃水線又ハ海水滿載吃水線ノ標示ト爲スベシ

前項ノ水平線ノ上方ニ於テ圓標ノ外側ニ高サ一一五ミリメートル幅七五ミリメートルノ記號J及Gヲ標示スベシ  
第七十一條但書ニ依リ舷弧ノ高サヲ測リタル船舶ニ在リテハLノ中央ヨリ前方Lノ四分ノ一ノ箇所ニモ前三項ノ標示ヲ爲スベシ

**第三十條** 前條第一項ノ圓標ノ中心ヨリ前方五四〇ミリメートルノ箇所ニ後縁ヲ有スル垂直線ヲ畫キ其ノ前縁ヨリ前方ニ向フ長サ二五ミリメートルノ水平線ノ上縁ヲ以テ第二十九條第一項又ハ第二項ニ掲グル海水ニ於ケル各滿載



吃水線（海水滿載吃水線ヲ除ク）ヲ標示シ又其ノ後線ヨリ後方ニ向フ長サ二五〇ミリメートルノ水平線ノ上線ヲ以テ淡水ニ於ケル各滿載吃水線ヲ標示スベシ  
前項ノ滿載吃水線ノ標示ニハ左表ニ掲グル記號ヲ附スベシ

滿載吃水線ノ種類	記號
夏期滿載吃水線	S
冬期滿載吃水線	W
冬期北大西洋滿載吃水線	WNA
熱帶滿載吃水線	T
夏期淡水滿載吃水線及淡水滿載吃水線	F
熱帶吃水滿載吃水線	F

木材滿載吃水線ノ標示ニ付テハ第九十六條ノ規定ニ依ル  
第三十一條 滿載吃水線ノ標示ハ鋼船ニ在リテハ外板ニ切込ムカ又ハ之ニ點刻シ木船ニ在リテハ外板ニ三ミリメートル以上ノ深サニ切込ミ且暗色ノ船側ニ於テハ白色又ハ黄色ニ塗リ白色ノ船側ニ於テハ黑色ニ塗リ之ヲ見易キモ

之ヲ適用セズ

第三十六條 槽船又ハ木汽船ノ夏期乾舷ハ夫々第四編第二章又ハ第四編第三章ノ規定ニ依リ之ヲ定ム

第三十七條 帆船ノ海水乾舷ハ第五編ノ規定ニ依リ之ヲ定ム

第三十八條 冬期乾舷ハ夏期乾舷ニ之ニ相當スル吃水ノ四十八分ノ一ヲ加ヘタルモノトス

第三十九條 冬期北大西洋乾舷ハL一〇〇・五八メートル以下ノ汽船ニ在リテ冬期乾舷ニ五ミリメートルヲ加ヘタルモノ、L一〇〇・五八メートルヲ超ユル汽船ニ在リテハ冬期乾舷ニ等シキモノ、帆船ニ在リテハ海水乾舷ニ七六ミリメートルヲ加ヘタルモノトス但シ槽船ニ在リテハ第百五條ノ規定ニ依ル

第四十條 熱帶乾舷ハ夏期乾舷ヨリ之ニ相當スル吃水ノ四十八分ノ一ヲ減ジタルモノトス

第四十一條 甲板積木材貨物ヲ運送スル汽船ノ海水ニ於ケル各種木材乾舷ハ第四編第一章ノ規定ニ依リ之ヲ定ム

第四十二條 船舶所有者ニ於テ吃水ノ限度ヲ豫定シタル場合ニ於テハ前七條ノ規定ニ依ル各種乾舷ニシテ該限度ニ對スル乾舷ヨリ小ナルモノハ之ヲ該限度ニ對スル乾舷ニ

船舶滿載吃水線規程

ノト爲スベシ

第三十二條 滿載吃水線ノ標示ヲ見易キモノト爲ス爲必要アル場合ニ於テハ其ノ位置ヲ第二十八條及第二十九條ニ規定シタル位置ヨリ後方ニ變更スル等適當ノ手段ヲ取ルベシ

第四章 乾舷ノ決定

第三十三條 本章ノ規定ハ貨物及脚荷ノ性質及積附ガ船舶ノ復原性ヲ保持スルニ適當スル場合ニ付之ヲ定メタルモノトス

第三十四條 第三十五條乃至第四十二條ノ規定ハ船舶ノ構造及設備ガ第六編ノ規定ニ適合スル場合ニ付之ヲ定メタルモノトス

第三十五條 鋼汽船ノ夏期乾舷ハ第二編第一章ノ規定ニ依ル表定乾舷ヲ必要ニ應ジ第二編第二章乃至第四章ノ規定ニ依リ修正シタルモノトス

強力ガ第三編ニ掲グル標準強力ニ達セザル鋼汽船ノ夏期乾舷ハ前項ノ規定ニ拘ラズ第三編第三章ノ規定ニ依リ算定シタル各吃水ノ中最小ナルモノニ相當スルモノトス  
前項ノ規定ハ鋼船ノ構造ニ關スル規程又ハ船級協會ノ鋼船ノ構造ニ關スル規則ノ最高標準ニ適合シタル船舶ニハ

等シカラムルコトヲ得

第四十三條 海水ニ於ケル滿載吃水線ハ本章前各條ノ規定ニ拘ラズ乾舷甲板ノ上面ノ延長ト外板ノ外面トノ交線ノ最低點ノ下方五ミリメートルヨリ小ナル距離ニ在ルコトヲ得ズ

第四十四條 夏期淡水乾舷 熱帶淡水乾舷又ハ淡水乾舷ハ夫々本章前各條ノ規定ニ依リ定メタル夏期乾舷、熱帶乾舷又ハ海水乾舷ヨリ左ノ算式ニ依リ算定シタル修正高ヲ減ジタルモノトス

$$\Delta \text{修正高} = \frac{T}{100} \times \text{修正高}$$

△ハ夏期乾舷又ハ海水乾舷ニ相當スル吃水ニ於テ鋼船ニ在リテハ肋骨ノ外面、木船ニ在リテハ外板ノ外面ニ對スル海水排水量

Tハ夏期乾舷又ハ海水乾舷ニ相當スル吃水ニ於テ鋼船ニ在リテハ肋骨ノ外面、木船ニ在リテハ外板ノ外面ニ對スル吃水毎一センチメートル海水排水量

前項ノ△及Tヲ確認シ得ザル場合ニ於テハ前項ノ修正高ハ夏期乾舷又ハ海水乾舷ニ相當スル吃水ノ四十八分ノ一



ト爲スベシ

甲板積木材貨物ヲ運送スル汽船ノ夏期淡水木材乾舷及熱帶淡水木材乾舷ノ算定ニ付テハ第九十九條第一項ノ規定ニ依ル前三項ノ規定ハ海水ノ一立方メートルノ重量ガ一・〇二五トン、淡水ノ一立方メートルノ重量ガ一トンナル場合ニ相當スルモノトス

**第四十五條** 汽船ニ在リテハ第二十二條又ハ第二十三條ニ掲グル區域及季節又帆船ニ在リテハ第二十三條ニ掲グル區域及季節ニ於テハ當該乾舷ヨリ前條ノ規定ニ依ル修正高ヲ減ジタルモノヲ淡水ニ於テ保持スベキ最小乾舷トス

**第四十六條** L九一・四四メートルヲ超ユル汽船ニシテ構造上槽船ト類似ノ特徴ヲ有スルモノニ付テハ管海官廳ハ當該船舶ガ第六編ニ規定スル槽船ニ對スル條件ニ適合スル程度及當該船舶ニ於ケル區畫ノ程度ヲ考慮シ槽船ニ對スル乾舷ノ振合ニ依リ其ノ乾舷ヲ定ムルコトヲ得但シ該乾舷ハ該船舶ヲ槽船ト看做シ指定スベキモノヨリ小ナルコトヲ得ズ

**第四十七條** 管海官廳必要アリト認ムルトキハ船體ノ現狀局部ノ構造、工事ノ良否又ハ船舶若ハ船員ノ安全ニ關スル設備ヲ考慮シ本令ニ定ムル乾舷ヲ增加スルコトヲ得

逕信大臣ハ船舶ノ構造、用途又ハ航路ノ難易ニ應ジ本令ニ該當セザル乾舷ヲ指定セシムルコトアルベシ

**第四十八條** 特殊ノ船形ヲ有スル船舶ノ乾舷ノ算定ニ付テハ管海官廳ノ適當ト認ムル所ニ依ル

第二章 汽船ノ形狀ニ依ル夏期乾舷  
第一編 表定乾舷

**第四十九條** 肥瘠係數ハ左ノ算式ニ依リ算定ス

$$L \times B \times d_1$$

$d_1$  ハ Dノ百分ノ八十五  
V ハ Dノ下端ヨリ  $d_1$ ノ距離ニ於ケル龍骨ニ平行ナル吃水線迄測リ鋼船ニ在リテハ肋骨ノ外面、木船ニ在リテハ甲板ノ外面ニ對スル排水量(船尾管膨出部ノ排水量ヲ含マズ)ニ立方メートル

前項ノVヲ確認シ難キ場合ニ於テハ管海官廳ノ適當ト認ムル方法ニ依リ肥瘠係數ヲ算定ス

**第五十條** 汽船ノ表定乾舷ハ肥瘠係數ガ〇・六八以下ナルトキLニ應ジ左表ニ依リ求メタル乾舷トシ肥瘠係數ガ〇・六八ヲ超ユルトキハ該乾舷ニ左ノ算式ニ依リ算定シタル係數ヲ乗ジタルモノトス

$$L \times 0.68$$

〇ハ肥瘠係數

乾舷 (米)	L	乾舷 (米)	L
1870	124.0	200	24.0
1936	126.5	221	26.5
2001	129.0	242	29.0
2066	131.5	262	31.5
2131	134.0	283	34.0
2196	136.5	304	36.5
2260	139.0	325	39.0
2324	141.5	349	41.5
2388	144.0	375	44.0
2451	146.5	403	46.5
2514	149.0	432	49.0
2576	151.5	462	51.5
2637	154.0	493	54.0
2698	156.5	525	56.5
2758	159.0	559	59.0
2816	161.5	594	61.5
2874	164.0	630	64.0
2931	166.5	668	66.5
2988	169.0	716	69.0
3044	171.5	745	71.5
3100	174.0	784	74.0
3154	176.5	825	76.5
3208	179.0	869	79.0
3261	181.5	913	81.5
3313	184.0	958	84.0
3364	186.5	1005	86.5
3415	189.0	1053	89.0
3465	191.5	1103	91.5
3514	194.0	1155	94.0
3562	196.5	1208	96.5
3609	199.0	1261	99.0
3656	201.5	1316	101.5
3702	204.0	1373	104.0
3748	206.5	1432	106.5
3792	209.0	1491	109.0
3836	211.5	1553	111.5
3879	214.0	1615	114.0
3922	216.5	1678	116.5
3965	219.0	1741	119.0
4008	221.5	1805	121.5

備考

- 一 Lガ表ニ掲グルモノノ中間ニ在ルトキハ挿間法ニ依リ乾舷ヲ算定ス
- 二 平甲板船ニ在リテハ表ニ依リ求メタル乾舷ニLノ一メートルニ付一・二五ミリメートルノ割合ノ修正高ヲ加ヘタルモノトス

第二章 船樓ニ關スル修正

**第五十一條** 船樓ノ高サハ船樓甲板ノ上面ヨリ乾舷甲板梁ノ上面迄ノ最小垂直距離ヨリD<sub>0</sub>トDトノ差ヲ減ジタルモノトス

**第五十二條** 船樓ノ標準ノ高サハ船樓ノ種類及Lニ應ジ左表ニ掲グル高サトス

船樓ノ種類	L		船樓ノ標準ノ高サ(米)
	以上	以下	
前端隔壁ニ閉口ヲ有セザル低船尾樓	122.0	76.2	30.5
其ノ他ノ船樓	122.0	76.2	0.91
	以上	以下	1.83
	以上	以下	1.83
	以上	以下	2.29

船舶滿載吃水線規程



備考

「トランク」ノ標準ノ高サハ前項ノ表ニ掲グル「其ノ他ノ船樓」ノ標準ノ高サニ等シキモノトス

第五十三條 船樓端ノ隔壁ノ出入口ニ於ケル第一級閉鎖装置ハ左ノ各號ノ條件ニ適合スル閉鎖装置トス但シ出入口ノ縁材ノ甲板ノ高サガ三八〇ミリメートル未満ナルトキハ該出入口ニ設クル閉鎖装置ハ左ノ各號ノ條件ニ適合スル場合ト雖モ之ヲ第一級閉鎖装置ト認メズ

- 一 鋼製又ハ鐵製ニシテ隔壁ニ常設的ニ且強固ニ取附ケタルモノナルコト
- 二 構造堅牢ニシテ開口ナキ隔壁ト同等ノ強力ヲ有シ之ヲ閉ヅルトキハ風雨密トナルコト
- 三 隔壁又ハ閉鎖装置ニ常設的ニ取附ケタル定著設備ヲ備ヘ隔壁ノ兩側又ハ上方ノ甲板ヨリ閉鎖定著シ得ルコト

第五十四條 船樓端ノ隔壁ノ出入口ニ於ケル第二級閉鎖装置ハ左ノ各號ニ掲グル閉鎖装置トス  
一 幅七六センチメートル以下厚サ五十五ミリメートル以

關室、燃料庫其ノ他ノ作業場所アルトキハ隔壁ニ於ケル出入口トハ別ニ何時ニテモ此等ノ場所ニ出入シ得ル設備ヲ備フルコト

第五十六條 船樓ノ有效ノ長サノ算定ニ付テハ左ノ各號ニ依ル

- 一 船樓ノ端ニ於ケル暴露シタル隔壁ガ第四百一條及第四百二條ノ規定ニ適合セザルトキハ隔壁ハ之ヲ無キモノト看做シ又船樓ノ側外板ニ常設閉鎖装置ヲ備ヘザル開口アルトキハ開口ノ前ヨリ後端迄ノ船樓ノ部分ハ之ヲ無キモノト看做ス
- 二 船樓ノ標準ノ高サヨリ小ナラザル高サノ船樓ニ在リテハ其ノ全部ガ蔽圍シタルモノナルカ又ハ全部ガ蔽圍セザルモノナルトキハ船樓ノ種類及閉鎖狀態等ニ應ジ第五十七條乃至第六十一條ノ規定ニ依ル
- 三 前號ノ船樓ガ其ノ末端ヨリ内方ニ隔壁ヲ設ケタル爲蔽圍シタル部分ト蔽圍セザル部分トヨリ成ルモノナルトキハ各部分ニ付前號ノ規定ヲ準用シテ求メタル有效ノ長サヲ相加フ

船舶滿載吃水線規程

上ノ堅實木製蝶番戸

二 隔壁ニ鉸釘ヲ以テ固著シタル堅溝形材ヲ出入口ノ兩側ニ設ケ之ニ該口ノ全高ニ互リ左ノ算式ニ依リ算定シタル厚サヨリ小ナラザル厚サノ挿板ヲ爲シタル装置

$$50 + \frac{25}{38} (D - 76) \text{ (メートル)}$$

テ取外シ得ルモノ  
b ハ出入口ノ幅ニセンチメートル但シ該幅ガ七六センチメートル未満ナルトキハ七六・〇  
三 前二號ニ掲グルモノト同一ノ效力ヲ有スル板戸ニシテ取外シ得ルモノ

第五十五條

分立船樓ハ左ノ各號ノ條件ニ適合スルモノニ限リ之ヲ蔽圍シタルモノトシテ取扱フベシ

- 一 船樓ヲ蔽圍シタル隔壁ガ有效ナル構造ノモノナルコト
- 二 前號ノ隔壁ニ出入口ヲ設ケタルトキハ之ニ第一級又ハ第二級ノ閉鎖装置ヲ備フルコト
- 三 船樓ノ側外板ニ開口ヲ設ケタルトキ又ハ其ノ端ノ隔壁ニ出入口以外ノ開口ヲ設ケタルトキハ之ニ風雨密ノ閉鎖装置ヲ備フルコト
- 四 船橋樓又ハ船尾樓ニ在リテハ其ノ内部ニ船員室、機

四 船樓ノ高サガ其ノ標準ノ高サヨリ小ナルトキハ前各號ニ依リ算定シタル長サニ船樓ノ高サト其ノ標準ノ高サトノ比ヲ乗ズ

第五十七條 蔽圍シタル船首樓ニ在リテハ其ノ長サヲ有效ノ長サトス

蔽圍セザル船首樓ニ在リテハ其ノ位置及舷弧ノ前半部ノ平均高ト其ノ標準平均高(第七十四條及第七十五條參照)トノ比ニ應ジ左表ニ掲グル係數ヲ船樓ノ長サニ乗ジタルモノヲ有效ノ長サトス

船首樓ノ位置	舷弧ノ前半部ノ平均高ト其ノ標準平均高トノ比(s)	係數
前部垂線ヨリ後方Lノ十分ノ一ニ相當スル箇所迄	0.50 以下	0.50
	0.50 ヲ超エ 1.00 未満	s
	1.00 以上	1.00
前欄ニ掲グル場所ノ後方		0.50

第五十八條 蔽圍シタル船橋樓ニ在リテハ隔壁ニ於ケル閉鎖狀態ニ應ジ左表ニ掲グル係數ヲ船樓ノ長サニ乗ジタルモノヲ有效ノ長サトス



隔壁ニ於ケル閉鎖状態	係數	摘 要
前端隔壁	後端隔壁	
出入口ナキカ又ハ出入口ニ第一級閉鎖装置ヲ有ス	出入口ナキカ又ハ出入口ニ第一級閉鎖装置ヲ有ス	後端隔壁ニ接続スル「トランク」アリテ第六十四條ノ規定ニ依リ其ノ有效ノ長サヲ船樓ノ有效ノ長サノ和ニ加算シタルトキハ「〇・九〇」ヲ用ウ
出入口ニ第二級閉鎖装置ヲ有ス	出入口ニ第二級閉鎖装置ヲ有ス	
0.90	1.00	

蔽圍セザル船橋樓ニ在リテハ前端ガ閉鎖セラレザルトキハ其ノ長サノ百分ノ五十、前端ガ閉鎖セラレ後端ガ閉鎖セラレザルトキハ百分ノ七十五ヲ有效ノ長サトス

**第五十九條** 蔽圍シタル船尾樓ニ在リテハ隔壁ニ於ケル閉鎖状態及船樓ノ長サトLトノ比ニ應ジ左表ニ掲グル係數ヲ船樓ノ長サニ乗ジタルモノヲ有效ノ長サトス

隔壁ニ於ケル閉鎖状態	蔽圍シタル船尾樓ノ長サトLトノ比	係數	摘 要
出入口ニ第二級閉鎖装置ヲ有ス	0.60	0.50 以下	*船尾樓ニ接続スル「トランク」アリテ第六十四條ノ規定ニ依リ其ノ有效ノ長サトス
		0.90	

ニ於ケル船樓甲板ノ幅ノ百分ノ八十以上ナルトキハ甲板口ノ前端ヨリ後端迄ノ間ハ船樓ナキモノト看做シ其ノ他ノ部分ニ付テハ其ノ位置ニ應ジ之ヲ船首樓、船橋樓又ハ船尾樓ト看做シ第五十七條乃至第五十九條ノ規定ニ依リ求メタル有效ノ長サヲ相加フ

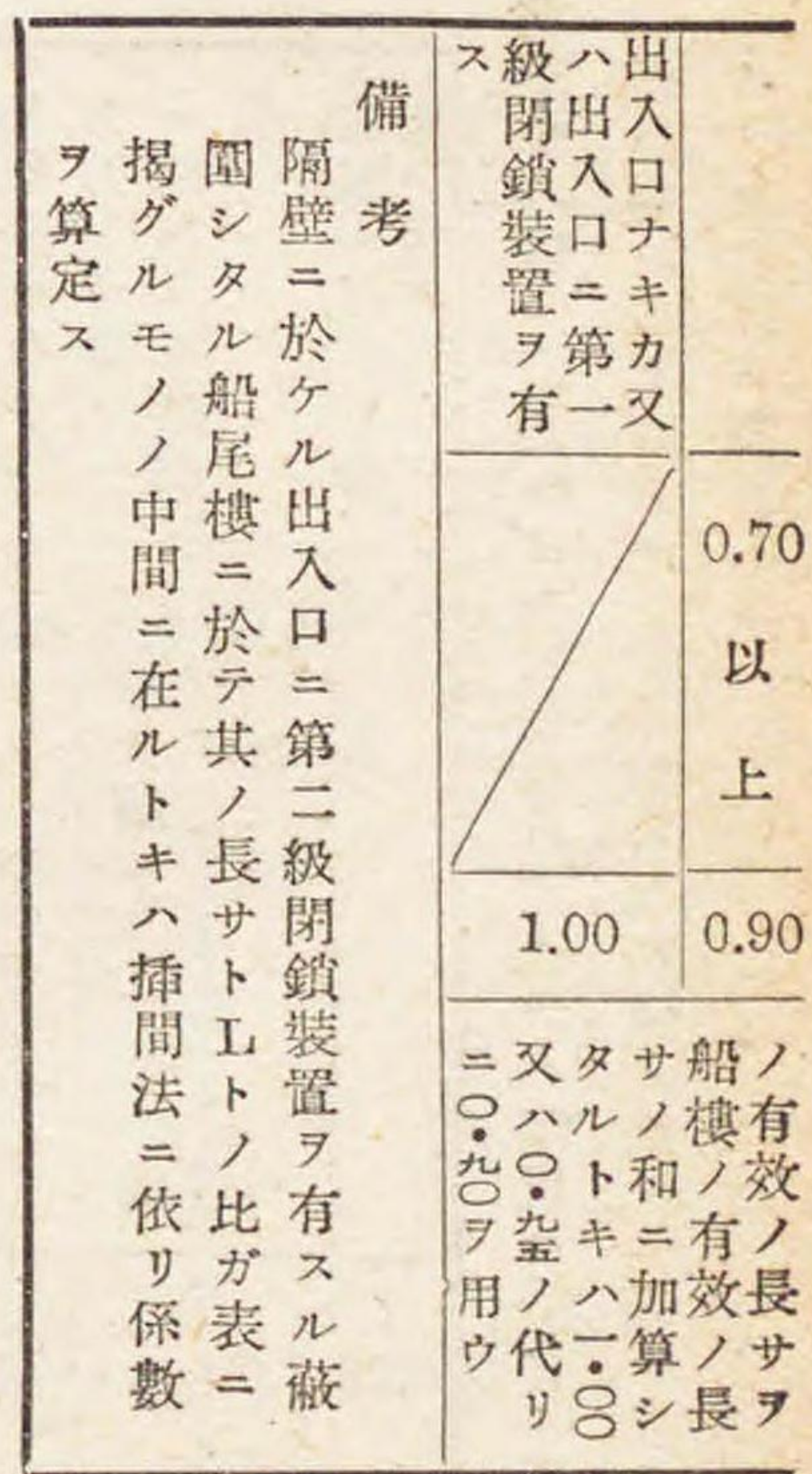
二 常設閉鎖装置ヲ備ヘザル甲板口ニ第六十二條ノ規定ニ適合スル一時的閉鎖装置ヲ備ヘ且該甲板口ノ幅ガ甲板口ノ長サノ中央ニ於ケル船樓甲板ノ幅ノ百分ノ八十ヨリ小ナルトキハ左ノ算式ニ依リ算定シタル長サヲ有效ノ長サトス

$$L + (1-p) \times (L-d)$$

一 ハ船樓甲板ト乾舷甲板トノ間ノ隔壁ニ於ケル第二級閉鎖装置ヲ備フル出入口ハ之ニ第一級閉鎖装置ヲ備フルモノト看做スノ外前號ノ規定ヲ適用シテ算定シタル船樓ノ有效ノ長サノ和ニテ

ク ハ常設閉鎖装置ヲ備ヘザル甲板口ノ幅ト該甲板口ノ長サノ中央ニ於ケル船樓甲板ノ幅トノ比但シ其ノ比ガ〇・五未滿ナルトキハ〇・五

**第六十二條** 前條ノ甲板口ノ一時的閉鎖装置ハ左ノ各號ノ條件ニ適合スルモノ又ハ之ト同一效力ノモノナルコトヲ



蔽圍セザル船尾樓ニ在リテハ其ノ長サノ百分ノ五十ヲ有效ノ長サトス

**第六十條** 低船尾樓ニ付テハ船樓端ニ開口ヲ有セザル隔壁アルトキハ該隔壁迄ノ船樓ノ長サヲ有效ノ長サトシ船樓端ノ隔壁ニ開口アルトキハ該船樓ヲ船尾樓ト看做シ前條ノ規定ニ依リ有效ノ長サヲ算定ス

**第六十一條** 常設閉鎖装置ヲ備ヘザル中心線甲板口ヲ有スル船樓ニ在リテハ左ノ各號ニ依リ有效ノ長サヲ算定ス

一 常設閉鎖装置ヲ備ヘザル甲板口ニ第六十二條ノ規定ニ適合スル一時的閉鎖装置ヲ備ヘザルトキ又ハ常設閉鎖装置ヲ備ヘザル甲板口ノ幅ガ該甲板口ノ長サノ中央

要ス

- 一 甲板口ニ堅固ニ鉸著シタル高さ二二九ミリメートル以上ノ鋼製縁材ヲ備フルコト
- 二 第二百十條ニ規定スル艙口蓋板ト同様ノ蓋板ヲ備ヘ且之ヲ麻索ニ依リ締附クル装置ヲ備フルコト
- 三 第六編第二章ノ規定ニ依リ船樓甲板ノ艙口ニ要スル艙口梁、縦材及其ノ承金又ハ壺金ト同様ノ蓋板支持装置ヲ備フルコト

**第六十三條**

「トランク」ハ左ノ各號ノ條件ニ適合スル場合ニ於テハ之ヲ有效ナル「トランク」トス船側ヨリ船側迄達セザル類似ノ構造物ニ付亦同ジ

一 「トランク」ハ船樓ト同等以上ノ強力ヲ有スル構造ノモノナルコト

二 「トランク」ノ部分ニ於テハ艙口ハ「トランク」甲板ニ之ヲ設ケ其ノ構造及閉鎖装置ハ暴露セル船樓甲板ノ艙口ニ對スル第六編第二章ノ規定ニ適合シ又「トランク」甲板ノ梁上側板ハ通路トシテ十分ナル幅ヲ有シ且「トランク」ニ十分ナル橫抗力ヲ與フルモノナルコト

三 船樓及之ニ接続スル「トランク」ニ依リ又ハ船樓、分立「トランク」及之ヲ連結シタル有效ナル常設通路



ニ依リ常設縦通作業臺ヲ形成シ且該作業臺ニハ保護欄干ヲ備フルコト

四 「トランク」ノ箇所ニ於ケル乾舷甲板ノ暴露部ニハ少クトモ該部分ノ長サノ二分ノ一間ニ開放欄干ノ設ケアルコト

五 通風筒ハ「トランク」、水密蓋又ハ同一效力ノ装置ニ依リ之ヲ保護スルコト

六 機關室圍壁ハ「トランク」、標準ノ高さ以上ノ高さヲ有スル船樓又ハ之ト同一ノ高さ及同等ノ強力ヲ有スル甲板室ニ依リ之ヲ保護スルコト

第六十四條 有效ナル「トランク」ヲ有スル船舶ニ於テ船尾樓及船橋樓ノ隔壁ニ出入口ナキカ又ハ該隔壁ニ於ケル出入口ニ第一級閉鎖裝置ヲ備フルトキハ第六十五條ノ規定ニ依リ算定シタル「トランク」ノ有效ノ長サ又該隔壁ニ於ケル出入口ニ第一級閉鎖裝置ヲ備ヘザルトキハ該有效ノ長サノ百分ノ九十ト各船樓ノ有效ノ長サトノ和ヲ船樓ノ有效ノ長サノ和トス

第六十五條 「トランク」ノ有效ノ長サノ算定ニ付テハ左ノ各號ニ依ル  
一 「トランク」ノ實際ノ長サニ「トランク」ノ平均ノ幅

船 型	船 係 樓 船				
	汽船	汽船	汽船	汽船	汽船
船首樓、船橋樓及船尾樓ヲ有スル汽船	0	0	0	0	0
船首樓及船尾樓ノミヲ有スル汽船	0.007	0.013	0.050	0.063	0.10
船首樓ノミヲ有スル汽船	0.050	0.077	0.100	0.127	0.20
船橋樓ノミヲ有スル汽船	0.100	0.140	0.150	0.190	0.30
船橋樓及船尾樓ノミヲ有スル汽船	0.185	0.225	0.235	0.275	0.40
船首樓及船尾樓ノミヲ有スル汽船	0.270	0.310	0.320	0.360	0.50
船首樓ノミヲ有スル汽船	0.410	0.410	0.460	0.460	0.60
船橋樓ノミヲ有スル汽船	0.580	0.580	0.630	0.630	0.70
船橋樓及船尾樓ノミヲ有スル汽船	0.705	0.705	0.753	0.753	0.80
船首樓及船尾樓ノミヲ有スル汽船	0.827	0.827	0.877	0.877	0.90
船首樓ノミヲ有スル汽船	0.950	0.950	1.000	1.000	1.00

船舶滿載吃水線規程

備考  
一 低船首樓及低船尾樓ハ夫々船首樓及船尾樓トシテ取扱フベシ  
二 第一條第一項但書ノ船舶ハ常設閉鎖裝置ヲ備ヘザル甲板口ノ前部ヨリ後部迄ノ間ハ船樓ナキ

ト船ノ幅トノ比ヲ乘ズ  
二 「トランク」ノ實際ノ高さガ其ノ標準ノ高さヨリ小ナルトキハ前號ニ依リ求メタル長サニ「トランク」ノ實際ノ高さト標準ノ高さトノ比ヲ乘ズ但シ「トランク」甲板ノ開口縁材ノ高さガ規定ノ高さヨリ小ナルトキハ「トランク」ノ實際ノ高さヨリ縁材ノ規定ノ高さト其ノ實際ノ高さトノ差ヲ減ジタルモノト「トランク」ノ標準ノ高さトノ比ヲ乘ズ

第六十六條 船樓ヲ有スル船舶ニ在リテハLニ應ジ左ノ各號ニ掲グル高さニ船樓ノ有效ノ長サノ和トLトノ比及船型ニ應ジ左表ニ掲グル船樓係數ヲ乘ジテ得タル修正高ヲ表定乾舷ヨリ減ズベシ

- 一 Lガ二四・四メートル以上八五・三メートル未満ナルトキハ左ノ算式ニ依リ算定シタル高さ  
$$\frac{356 + 508}{609} (L - 24.4) \approx \text{メートル}$$
- 二 Lガ八五・三メートル以上一二二メートル未満ナルトキハ左ノ算式ニ依リ算定シタル高さ  
$$\frac{864 + 203}{367} (L - 85.3) \approx \text{メートル}$$
- 三 Lガ一二二メートル以上ナルトキハ一〇六七ミリメートル

モノト看做ス  
三 船樓ノ有效ノ長サノ和トLトノ比ガ表ニ掲グルモノノ中間ニ在ルトキハ挿間法ニ依リ船樓係數ヲ算定ス  
四 船橋樓ト他ノ船樓トヲ有スル汽船ニ在リテハ船橋樓ノ有效ノ長サガLノ十分ノ二未満ナルトキハ相當欄ニ掲グル係數ト船橋樓ナキモノト看做シタル場合ノ係數トノ間ニ挿間法ニ依リ船樓係數ヲ算定ス

第三章 深サ及梁矢ニ關スル修正

第六十七條 D<sub>0</sub>ガLノ十五分ノ一ヲ超ユル船舶ニ在リテハ左ノ算式ニ依リ算定シタル修正高ヲ表定乾舷ニ加フベシ  
一 Lガ一一・八・九メートル未満ナルトキ  
$$2.101 \left( D_0 - \frac{L}{15} \right) L \approx \text{メートル}$$

二 Lガ一一・八・九メートル以上ナルトキ  
$$2.499 \left( D_0 - \frac{L}{15} \right) \approx \text{メートル}$$

第六十八條 中央部ノ十分ノ六ニ亘ル蔽圍シタル船樓ヲ有スル船舶、全通「トランク」ヲ有スル船舶又ハ開口ナキ隔壁ヲ有スル船樓ト「トランク」トガ連續シテ船首尾ニ全通スル船舶ニ於テD<sub>0</sub>ガLノ十五分ノ一ヨリ小ナルトキ



ハ前條ノ算式ニ依リ算定シタル修正高ノ絕對値ヲ表乾定  
 舷ヨリ減ズベシ但シ船樓又ハ「トランク」ノ高サガ其ノ  
 標準ノ高サヨリ小ナルトキハ修正高ハ前條ノ算式ニ依リ  
 算定シタルモノニ船樓又ハ「トランク」ノ實際ノ高サト  
 其ノ標準ノ高サトノ比ヲ乗ジタルモノト爲スベシ

**第六十九條** Lノ中央ニ於テDノ下端ヨリ乾舷甲板ノ船側  
 ニ於ケル上面迄ノ實際ノ深サガD<sub>0</sub>ニ等シカラザル船舶ニ  
 在リテハ左ノ算式ニ依リ算定シタル修正高ヲ正負ノ符號  
 ヲ附シタル儘表定乾舷ニ加フベシ

$$1000(D_1 - D_0) \div D \times 100$$

D<sub>1</sub>ハLノ中央ニ於テDノ下端ヨリ乾舷甲板ノ船側ニ  
 於ケル上面迄ノ實際深サニトシ

**第七十條** Lノ中央ニ於ケル乾舷甲板ノ梁矢ガBノ五十分  
 ノ一ニ等シカラザル船舶ニ在リテハ梁矢ノ高サニ應ジ左  
 ノ各號ノ算式ニ依リ算定シタル修正高ヲ正負ノ符號ヲ附  
 シタル儘表定乾舷ニ加フベシ

- 一 梁矢ガBノ二十五分ノ一以下ナルトキ
- 二 梁矢ガBノ二十五分ノ一ヲ超ユルトキ

$$\frac{1}{4}(C - F)(30B - B) \div D \times 100$$

$$- B(C - F)B \div D \times 100$$

ノ標準ノ高サニ相當スル箇所ヲ通ル直線ヲ基準トシテ舷  
 弧ノ高サヲ測ルコトヲ得

**第七十三條** 標準舷弧ハLノ兩端點及其ノ六等分點ニ於テ  
 夫々左表ニ掲グル高サヲ有スルモノトス

分長點ノ位置	舷弧ノ高サ(種)
Lノ後端點	0.833L + 25.4
Lノ後端ヨリLノ六分ノ一ニ相當 スル點	0.37L + 11.3
Lノ後端ヨリLノ三分ノ一ニ相當 スル點	0.0925L + 2.825
Lノ中央點	0
Lヲ前端ヨリLノ三分ノ一ニ相當 スル點	0.185L + 5.65
Lノ前端ヨリLノ六分ノ一ニ相當 スル點	0.74L + 22.6
Lノ前端點	1.666L + 50.8

**第七十四條** 舷弧ノ標準平均高又ハ其ノ前半部若ハ後半部  
 ノ標準平均高ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノトス

$$C(0.833L + 25.4) \div D \times 100$$

Cハ係數ニシテ左表ニ依ル

船舶滿載吃水線規程

rハ蔽圍シタル船樓ノ長サノ和トLトノ比  
 RハLノ中央ニ於ケル乾舷甲板ノ梁矢ニリメトス

第四章 乾舷ニ關スル修正

**第七十一條** 舷弧ノ高サハLノ中央ニ於ケル舷弧上ノ點ヲ  
 通過スル龍骨ニ平行ナル直線ヨリ垂直ニ之ヲ測ルモノト  
 ス但シ船尾吃水ガ船首吃水ヨリ大ナル状態ヲ以テ航行ス  
 ル様計畫セラレタル船舶ニ在リテハ龍骨ニ平行ナル直線  
 ノ代リニ計畫滿載吃水線ニ平行ナル直線ヨリ之ヲ測ルコ  
 トヲ得(第二十九條第四項參照)

**第七十二條**

平甲板船及分立船樓ヲ有スル船舶ニ在リテハ  
 舷弧ノ高サハ乾舷甲板ニ於テ之ヲ測ルベシ  
 船樓ヲ蔽圍シタル隔壁ニ開口ナキ場合又ハ隔壁ニ於ケル  
 出入口ニ第一級閉鎖裝置ヲ備フル場合ニ於テハ該船樓ノ  
 蔽圍シタル部分ニ於ケル乾舷甲板ノ舷弧ノ高サハ乾舷甲  
 板ノ暴露部ニ於ケル舷弧ノ延長線迄測ルコトヲ得但シ船  
 樓甲板ガ乾舷甲板ノ暴露部ト同等以上ノ舷弧ヲ有セザル  
 トキハ此ノ限ニ在ラズ  
 第一條第一項但書ノ船舶ニ在リテハ舷弧ノ高サハ船樓甲  
 板ニ於テ之ヲ測ルベシ此ノ場合船樓ノ高サガ標準ノ高サ  
 ヲ超ユルトキハLノ中央ニ於テ乾舷甲板ノ上面ヨリ船首

算定スベキ事項	係數
舷弧ノ標準平均高	0
舷弧ノ前半部ノ標準平均高	1/2
舷弧ノ後半部ノ標準平均高	1/3

**第七十五條** 舷弧ノ平均高ハ第七十六條ニ規定スル場合ヲ  
 除クノ外第七十三條ニ掲グル各分長點ニ於テ測リタル舷  
 弧ノ高サニ分長點ノ位置ニ應ジ左表ニ掲グル係數ヲ乘ジ  
 タル積ノ和ヲ十八ニテ除シタルモノトシ舷弧ノ前半部又  
 ハ後半部ノ平均高ハLノ前半部又ハ後半部ニ於ケル第七  
 十三條ニ掲グル各分長點ニ於テ測リタル舷弧ノ高サニ分  
 長點ノ位置ニ應ジ左表ニ掲グル係數ヲ乘ジタル積ノ和ヲ  
 三十六ニテ除シタルモノトス

分長點ノ位置	舷弧ノ平均高ヲ定ムル係數	舷弧ノ前半部ノ平均高ヲ定ムル係數	舷弧ノ後半部ノ平均高ヲ定ムル係數
Lノ後端點	1	1	4
Lノ後端ヨリLノ六分ノ一ニ相當スル點	4	1	15



Lノ後端ヨリLノ三分ノ一ニ相當スル點	2	1	12
Lノ中央點	4	5	5
Lノ前端ヨリLノ三分ノ一ニ相當スル點	2	12	1
Lノ前端ヨリLノ六分ノ一ニ相當スル點	4	15	1
Lノ前端點	1	4	1

第七十六條

舷弧ノ後半部ノ平均高ガ其ノ標準平均高ヨリ大ニシテ後半部ノ平均高ガ其ノ標準平均高ヨリ小ナルトキハ後半部ノ舷弧ハ標準舷弧ニ等シキモノト看做シ舷弧ノ平均高ヲ算定ス

舷弧ノ前半部ノ平均高ガ其ノ標準平均高ヨリ大ニシテ後半部ノ平均高ガ其ノ標準平均高ヨリ小ナルトキハ前半部ノ舷弧ハ標準舷弧ニ等シキモノト看做シ又後半部ノ平均高ガ其ノ標準平均高ノ百分ノ五十ヲ超エ百分ノ七十五未滿ナルトキハ前半部ノ舷弧ハ各分長點ニ於テ左ノ算式ニ依リ算定シタル高サヲ有スルモノト看做シ舷弧ノ平均高ヲ算定ス

$$S_0 + \left( \frac{1 - S_0}{25} \right) (S_f - S_0)$$

$$(S - S_0)(7.5 - 5r) \times \frac{5E}{L} \quad \text{ニ ヲ ヲ トル}$$

S<sub>0</sub>ハ舷弧ノ標準平均高ニシテメートルニテ  
Sハ舷弧ノ平均高ニシテメートルニテ  
r<sub>1</sub>ハ船樓ノ長サノ和トLトノ比  
Eハ蔽圍シタル船樓又ハ其ノ一部ニシテ中央部Lノ十分ノ二ノ間ニ在ルモノノ長サニメートルニテ

L	修正高ノ限度耗
三〇・五メートル以下ナルトキ	38
三〇・五メートルヲ超ユルトキ	1.25 × L

第三編 鋼船ノ強力

第一章 縦抵抗率及肋骨抵抗率

第七十九條

本編ニ於テ強力甲板トハ中央部ノ二分ノ一ニ於テ船體ノ主要部ヲ構造スル最上層ノ甲板ヲ謂フ

第八十條

本編ニ於テ縦抵抗率トハ中央部Lノ二分ノ一ニ於ケル船體ノ各横截面ノ抵抗率中最小ナルモノヲ謂フ

第八十一條

船體横截面ノ抵抗率ノ算定ニ付テハ左ノ各號ニ依ル

- 一 船體横截面ノ水平中性軸ニ對スル惰率ヲ該軸ヨリ強

船舶滿載吃水線規程

第七十七條 舷弧ノ平均高ガ其ノ標準平均高ヨリ小ナル船ニ在リテハ左ノ算式ニ依リ算定シタル修正高ヲ表定乾舷ニ加フベシ

$$(S_0 - S)(7.5 - 5r) \quad \text{ニ ヲ ヲ トル}$$

S<sub>0</sub>ハ舷弧ノ標準平均高ニシテメートルニテ  
Sハ舷弧ノ平均高ニシテメートルニテ

r<sub>1</sub>ハ甲板船ニ在リテハ零、船樓ヲ有スル船舶ニ在リテハ船樓ノ長サノ和トLトノ比

第七十八條

舷弧ノ平均高ガ其ノ標準平均高ヨリ大ナル船舶ニ在リテハ船樓ノ有無ニ應ジ左ノ各號ノ算式ニ依リ算定シタル修正高ヲ表定乾舷ヨリ減ズベシ但シ該修正高ガ左表ニ掲グル限度ヲ超ユルトキハ之ヲ其ノ限度ニ止ム

- 一 平甲板船ノ場合

$$7.5(S - S_0) \quad \text{ニ ヲ ヲ トル}$$

- 二 船樓ヲ有スル船舶ノ場合

力甲板ノ甲板梁ノ船側ニ於ケル上面迄ノ垂直距離ニテ除ス

- 二 強力甲板以下ニ在リテハ甲板梁ノ支持ヲ目的トスル梁下縦通材ヲ除クノ外中央部Lノ二分ノ一以上ニ達スルカ又ハ同一ノ效力ヲ有スル總テノ縦通鋼材ヲ算入シ強力甲板ノ上方ニ在リテハ梁上側板ニ附スル縦通山形材及舷側厚板ノ延長部ヲ算入ス

- 三 鉸釘孔及螺釘孔ハ之ヲ無キモノト看做ス

- 四 面積ノ單位ハ平方ミリメートルトシ距離ノ單位ハメートルトス

第八十二條

本編ニ於テ肋骨抵抗率トハLノ中央部ニ於ケル各種船内肋骨ノ截面ノ抵抗率ヲ謂フ

第八十三條

船内肋骨ノ截面ノ抵抗率ノ算定ニ付テハ左ノ各號ニ依ル

- 一 船内肋骨ガ正肋材及之ト同一寸法ノ幅肋材ヲ以テ構造シタルモノナルトキハ其ノ截面ノ中性軸ニ對スル惰率ヲ該軸ヨリ截面ノ端ニ至ル距離ニテ除ス

- 二 船内肋骨ガ前號ニ掲グルモノニ該當セザル場合ニ於テハ船内肋骨ト同一ノ效力ヲ有シ正肋材及之ト同一寸法ノ副肋材ヲ以テ構造シタル肋骨ニ付前號ヲ適用ス